2020年度
ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目
200・300番台
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2020/5/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【F9102】Natural Science A［宇野　真介］ 1
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6001】第三外国語としての朝鮮語A［神谷　丹路］春学期授業/Spring 2
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6002】第三外国語としての朝鮮語B［神谷　丹路］秋学期授業/Fall 3
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6003】第三外国語としての朝鮮語中級［梁　禮先］春学期授業/Spring 4
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6051】日本語コミュニケーションA［江村　裕文］春学期授業/Spring 5
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6052】日本語コミュニケーションB［江村　裕文］秋学期授業/Fall 6
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6101】漢字･漢文学A［加納　留美子］春学期授業/Spring 7
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6102】漢字･漢文学B［加納　留美子］秋学期授業/Fall 8
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6105】文芸創作講座A［岩川　ありさ］春学期授業/Spring 9
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6106】文芸創作講座B［岩川　ありさ］秋学期授業/Fall 12
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6107】日本芸能論A［阿部　真弓］春学期授業/Spring 13
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6108】日本芸能論B［阿部　真弓］秋学期授業/Fall 14
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6109】身体表現論A［深谷　公宣］春学期授業/Spring 15
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6110】身体表現論B［深谷　公宣］秋学期授業/Fall 16
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6111】美術論A［稲垣　立男］春学期授業/Spring 17
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6112】美術論B［稲垣　立男］秋学期授業/Fall . 19
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6113】芸術と人間A［岡村　民夫］春学期授業/Spring 20
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6114】芸術と人間B［岡村　民夫］秋学期授業/Fall 21
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6115】仏教思想論A［計良　隆世］春学期授業/Spring 22
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6116】仏教思想論B［計良　隆世］秋学期授業/Fall 23
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6117】行為の理論A［山口　誠一］春学期授業/Spring 24
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6118】行為の理論B［山口　誠一］秋学期授業/Fall 25
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6119】教養ゼミⅠ［森村　修］春学期授業/Spring 26
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6120】教養ゼミⅡ［森村　修］秋学期授業/Fall . 27
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6121】中国の民族と文化A［齋藤　勝］春学期授業/Spring 28
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6122】中国の民族と文化B［齋藤　勝］秋学期授業/Fall 29
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6125】古代日本･中国の法と社会A［岡野　浩二］春学期授業/Spring 30
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6126】古代日本･中国の法と社会B［岡野　浩二］秋学期授業/Fall 31
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6127】アジア・太平洋島嶼国際関係史A［新崎　盛吾］春学期授業/Spring 32
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6128】アジア・太平洋島嶼国際関係史B［新崎　盛吾］秋学期授業/Fall 34
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6129】教養ゼミⅠ［神谷　丹路］春学期授業/Spring 35
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6130】教養ゼミⅡ［神谷　丹路］秋学期授業/Fall 36
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6131】クィア・スタディーズA［岩川　ありさ］春学期授業/Spring 37
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6132】クィア・スタディーズB［岩川　ありさ］秋学期授業/Fall 39
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6133】キリスト教思想史A［酒井　健］春学期授業/Spring 40

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6134】キリスト教思想史Ｂ［酒井　健］秋学期授業/Fall 41
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6135】教養ゼミⅠ［江村　裕文］春学期授業/Spring 42
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6136】教養ゼミⅡ［江村　裕文］秋学期授業/Fall 43
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6137】異文化コミュニケーション論Ａ［山本　そのこ］春学期授業/Spring 44
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6138】異文化コミュニケーション論Ｂ［山本　そのこ］秋学期授業/Fall 45
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6139】教養ゼミⅠ［江村　裕文］春学期授業/Spring 46
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6140】教養ゼミⅡ［江村　裕文］秋学期授業/Fall 47
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6141】教養ゼミⅠ［川鍋　義一］春学期授業/Spring 48
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6142】教養ゼミⅡ［川鍋　義一］秋学期授業/Fall 49
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6201】法哲学Ａ［内藤　淳］春学期授業/Spring . 50
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6202】法哲学Ｂ［内藤　淳］秋学期授業/Fall . . . 52
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6203】教養ゼミⅠ［木村　正俊］春学期授業/Spring 53
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6204】教養ゼミⅡ［木村　正俊］秋学期授業/Fall 54
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6205】教養ゼミⅠ［水野　和夫］春学期授業/Spring 55
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6206】教養ゼミⅡ［水野　和夫］秋学期授業/Fall 56
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6208】福祉社会論Ｂ［菅野　摂子］秋学期授業/Fall 57
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6209】人文地理学セミナーＡ［米家　志乃布］春学期授業/Spring 58
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6210】人文地理学セミナーＢ［米家　志乃布］秋学期授業/Fall 59
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6211】文化人類学方法論Ａ［石森　大知］春学期授業/Spring 60
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6212】文化人類学方法論Ｂ［石森　大知］秋学期授業/Fall 61
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6213】教養ゼミⅠ［上村　剛］春学期授業/Spring 62
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6214】教養ゼミⅡ［上村　剛］秋学期授業/Fall . 63
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6215】人間行動学Ａ［海部　紀行］春学期授業/Spring 64
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6216】人間行動学Ｂ［海部　紀行］秋学期授業/Fall 66
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6223】教養ゼミⅠ［金子　匡良］春学期授業/Spring 68
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6224】教養ゼミⅡ［金子　匡良］秋学期授業/Fall 69
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6301】自然環境のしくみとその変貌Ａ［加藤　美雄］春学期授業/Spring 70
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6302】自然環境のしくみとその変貌Ｂ［加藤　美雄］秋学期授業/Fall 71
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6305】計算と言語のしくみ［倉田　俊彦］春学期授業/Spring 73
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6306】コンピュータと数理の活用［倉田　俊彦］秋学期授業/Fall 74
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6307】確率の世界Ａ［池田　宏一郎］春学期授業/Spring 75
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6308】確率の世界Ｂ［池田　宏一郎］秋学期授業/Fall 76
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6309】集合論Ａ［安東　祐希］春学期授業/Spring 77
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6310】集合論Ｂ［安東　祐希］秋学期授業/Fall . 78
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6311】相対性理論と宇宙Ａ［石川　壮一］春学期授業/Spring 79
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6312】相対性理論と宇宙Ｂ［石川　壮一］秋学期授業/Fall 80
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6313】現代の錬金術Ａ［井坂　政裕］春学期授業/Spring 81
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6314】現代の錬金術Ｂ［井坂　政裕］秋学期授業/Fall 82
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6315】原子核と素粒子Ａ［吉田　智］春学期授業/Spring 83
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6316】原子核と素粒子Ｂ［吉田　智］秋学期授業/Fall 84
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6317】教養ゼミⅠ［島野　智之］春学期授業/Spring 85

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6318】教養ゼミⅡ［島野　智之］秋学期授業/Fall 86
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6321】教養ゼミⅠ［木原　章］春学期授業/Spring 87
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6322】教養ゼミⅡ［木原　章］秋学期授業/Fall . 88
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6323】イオンの科学Ａ［向井　知大］春学期授業/Spring 89
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6324】イオンの科学Ｂ［向井　知大］秋学期授業/Fall 90
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6325】光と色の科学Ａ［中島　弘一］春学期授業/Spring 91
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6326】光と色の科学Ｂ［中島　弘一］秋学期授業/Fall 92
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6327】物質の科学Ａ［中田　和秀］春学期授業/Spring 93
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6328】物質の科学Ｂ［中田　和秀］秋学期授業/Fall 94
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6329】ＩＴリテラシー［児玉　靖司］春学期授業/Spring 95
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6330】コンピュータ科学［児玉　靖司］秋学期授業/Fall 96
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6335】人間と地球環境［宇野　真介］春学期授業/Spring 97
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6336】Human Impact on the Global Environment［宇野　真介］秋学期授業/Fall 98
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6337】ボルボックス生物論Ａ［植木　紀子］春学期授業/Spring 100
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6338】ボルボックス生物論Ｂ［植木　紀子］秋学期授業/Fall 101
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6339】教養ゼミⅠ［中田　和秀］春学期授業/Spring102
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6340】教養ゼミⅡ［中田　和秀］秋学期授業/Fall103
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6421】第三外国語としてのドイツ語Ａ［笠原　賢介］春学期授業/Spring 104
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6422】第三外国語としてのドイツ語Ｂ［笠原　賢介］秋学期授業/Fall 105
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6423】ドイツ語コミュニケーション中級Ａ［アネッテ・グルーバー］春学期授業/Spring 106
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6424】ドイツ語コミュニケーション中級Ｂ［アネッテ・グルーバー］秋学期授業/Fall 107
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6425】教養ゼミⅠ［辻　英史、竹本　研史］春学期授業/Spring 108
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6426】教養ゼミⅡ［辻　英史、竹本　研史］秋学期授業/Fall 109
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6427】ドイツの思想Ａ［笠原　賢介］春学期授業/Spring 110
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6428】ドイツの思想Ｂ［笠原　賢介］秋学期授業/Fall111
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6429】ドイツ語圏の文学Ａ［林　志津江 ］春学期授業/Spring 112
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6430】ドイツ語圏の文学Ｂ［林　志津江 ］秋学期授業/Fall 113
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6431】比較文化Ａ［Ｄ．ハイデンライヒ］春学期授業/Spring 115
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6432】比較文化Ｂ［Ｄ．ハイデンライヒ］秋学期授業/Fall 116
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6433】ドイツ語圏の芸術Ａ［辻　英史］春学期授業/Spring 117
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6434】ドイツ語圏の芸術Ｂ［辻　英史］秋学期授業/Fall 118
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6435】留学ドイツ語Ａ［林　志津江 ］春学期授業/Spring 119
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6436】留学ドイツ語Ｂ［林　志津江 ］秋学期授業/Fall 120

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6501】スポーツ科学Ａ［西村　一帆］春学期授業/Spring 122
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6502】スポーツ科学Ｂ［西村　一帆］秋学期授業/Fall123
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6505】スポーツ科学Ａ［落合　久夫］春学期授業/Spring 124
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6506】スポーツ科学Ｂ［落合　久夫］秋学期授業/Fall125
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6507】スポーツ科学Ａ［磯辺　薫］春学期授業/Spring126
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6508】スポーツ科学Ｂ［磯辺　薫］秋学期授業/Fall127
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6509】スポーツ科学Ａ［朝比奈　茂］春学期授業/Spring 128
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6510】スポーツ科学Ｂ［朝比奈　茂］秋学期授業/Fall129
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6511】スポーツ科学Ａ［落合　久夫］春学期授業/Spring 131
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6512】スポーツ科学Ｂ［落合　久夫］秋学期授業/Fall132
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6513】スポーツ科学Ａ［吉田　康伸］春学期授業/Spring 133
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6514】スポーツ科学Ｂ［吉田　康伸］秋学期授業/Fall134
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6515】スポーツ科学Ａ［秋本　成晴］春学期授業/Spring 135
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6516】スポーツ科学Ｂ［秋本　成晴］秋学期授業/Fall136
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6519】スポーツ科学Ａ［笠井　淳］春学期授業/Spring137
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6520】スポーツ科学Ｂ［笠井　淳］秋学期授業/Fall138
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6521】スポーツ科学Ａ［笠井　淳］春学期授業/Spring139
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6522】スポーツ科学Ｂ［笠井　淳］秋学期授業/Fall140
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6523】教養ゼミⅠ［伊藤　マモル］春学期授業/Spring141
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6524】教養ゼミⅡ［伊藤　マモル］秋学期授業/Fall142
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6525】スポーツ科学Ａ［伊藤　マモル］春学期授業/Spring 144
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6526】スポーツ科学Ｂ［伊藤　マモル］秋学期授業/Fall 146
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6527】教養ゼミⅠ［伊藤　マモル］春学期授業/Spring148
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6528】教養ゼミⅡ［伊藤　マモル］秋学期授業/Fall150
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6529】スポーツ科学Ａ［西村　一帆］春学期授業/Spring 151
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6530】スポーツ科学Ｂ［西村　一帆］秋学期授業/Fall152
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6531】教養ゼミⅠ［林　容市］春学期授業/Spring153
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6532】教養ゼミⅡ［林　容市］秋学期授業/Fall . 154
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6601】第三外国語としてのフランス語Ａ［廣松　勲］春学期授業/Spring 155
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6602】第三外国語としてのフランス語Ｂ［廣松　勲］秋学期授業/Fall 156
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6605】教養ゼミⅠ［大中　一彌］春学期授業/Spring157
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6606】教養ゼミⅡ［大中　一彌］秋学期授業/Fall159
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6607】教養ゼミⅠ［ジョルディ・フィリップ］春学期授業/Spring 160
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6608】教養ゼミⅡ［ジョルディ・フィリップ］秋学期授業/Fall 162
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6609】フランス語コミュニケーション (中･上級) Ａ［ジョルディ・フィリップ］春学期授業/Spring 163
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6610】フランス語コミュニケーション (中･上級) Ｂ［ジョルディ・フィリップ］秋学期授業/Fall 164
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6613】フランス語講読Ａ［竹本　研史］春学期授業/Spring 165
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6614】フランス語講読Ｂ［竹本　研史］秋学期授業/Fall 166
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6701】第三外国語としてのロシア語Ａ［木部　敬］春学期授業/Spring 167

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6702】第三外国語としてのロシア語Ｂ［木部　敬］秋学期授業/Fall 168
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6703】第三外国語としてのロシア語中級Ａ［三神　エレーナ］春学期授業/Spring 169
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6704】第三外国語としてのロシア語中級Ｂ［三神　エレーナ］秋学期授業/Fall 170
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6705】実用ロシア語Ａ［三神　エレーナ］春学期授業/Spring 171
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6706】実用ロシア語Ｂ［三神　エレーナ］秋学期授業/Fall 172
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6707】ロシア語講読Ａ［土岐　康子］春学期授業/Spring 173
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6708】ロシア語講読Ｂ［土岐　康子］秋学期授業/Fall174
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6709】時事ロシア語Ａ［佐藤　裕子］春学期授業/Spring 175
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6710】時事ロシア語Ｂ［油本　真理］秋学期授業/Fall176
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6801】第三外国語としての中国語Ａ［廣野　行雄］春学期授業/Spring 177
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6802】第三外国語としての中国語Ｂ［廣野　行雄］秋学期授業/Fall 178
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6809】中国語コミュニケーション中級Ａ［周　重雷］春学期授業/Spring 179
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6810】中国語コミュニケーション中級Ｂ［周　重雷］秋学期授業/Fall 180
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6811】中国語翻訳･通訳Ａ［薬　進］春学期授業/Spring 181
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6812】中国語翻訳･通訳Ｂ［薬　進］秋学期授業/Fall182
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6813】中国語翻訳･通訳Ｃ［髙田　裕子］春学期授業/Spring 183
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6814】中国語翻訳･通訳Ｄ［髙田　裕子］秋学期授業/Fall 184
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6819】資格中国語中級Ａ［渡辺　昭太］春学期授業/Spring 185
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6820】資格中国語中級Ｂ［渡辺　昭太］秋学期授業/Fall 187
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6821】資格中国語上級Ａ［康　鴻音］春学期授業/Spring 188
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6822】資格中国語上級Ｂ［康　鴻音］秋学期授業/Fall189
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6823】教養ゼミⅠ［岩田　和子］春学期授業/Spring190
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6824】教養ゼミⅡ［岩田　和子］秋学期授業/Fall191
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6901】第三外国語としてのスペイン語Ａ［杉下由紀子］春学期授業/Spring 192
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6902】第三外国語としてのスペイン語Ｂ［杉下由紀子］秋学期授業/Fall 193
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6905】スペイン語上級Ａ［大西　亮］春学期授業/Spring 194
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6906】スペイン語上級Ｂ［大西　亮］秋学期授業/Fall195
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6907】スペイン語コミュニケーション中級Ａ［瓜谷　アウロラ］春学期授業/Spring 196
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6908】スペイン語コミュニケーション中級Ｂ［瓜谷　アウロラ］秋学期授業/Fall 197
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6909】教養ゼミⅠ［久木　正雄］春学期授業/Spring198
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6910】教養ゼミⅡ［久木　正雄］秋学期授業/Fall199
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6911】スペイン語講読Ａ［久木　正雄］春学期授業/Spring 200
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6912】スペイン語講読Ｂ［久木　正雄］秋学期授業/Fall 201

BIO200LA

Natural Science A

2017 年度以降入学者

BIO300LA

Human Impact on the Global Environment

2017 年度以降入学者

宇野　真介

開講時期：　｜　曜日・時限：月 3/Mon.3
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

【到達目標】
This course is designed to teach about ecological and social issues . Therefore, the course objectives are 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems, 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course, and 3) to understand interrelated nature of these problems to grasp the big picture of the current state of human society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Although this course deals with various topics from the perspective of "sustainability", the course is divided roughly into two parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem and biodiversity, that is to say, natural world that surrounds us and provides us with various essential resources. The second part will focus on environmental and social problems related to agriculture (food production) and use of other natural resources in order to explore our personal involvement in these issues. The course will be taught entirely in English, and, although the course material will be presented in a series of lectures, videos, group activities, and discussions will also be utilized in combination when appropriate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.
Week 3	Water cycle and the use of water resource	Water will be focused as an essential matter for sustaining life and ecosystem, and the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is resource development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】
None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】
To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】
Student performance will be graded based on quizzes (40 %), in-class participation (30 %), and writing assignments (30 %).

【学生の意見等からの気づき】
It has been a challenge to more actively involve students in the learning process. However, group activities appear to be effective in addressing such an issue, and additional efforts to provide such opportunities will be made.

【Outline and objectives】
The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A

2017 年度以降入学者

神谷　丹路

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です. ハングルの文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます. ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】
・正確に発音できるようになる.
・「〜は〜です, ます」「〜があります、います」などを理解し，簡単な読み書きができるようになる.
・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的な流れは、以下の通りである。
・授業のはじめに前回の復習をおこないます.
・前回学んだことについて毎回小テストをおこないます.
・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第１課：文字と発音（１）	単母音、初声その１。
3	第１課：文字と発音（１）	半母音 Y、終声その１。
4	第２課：文字と発音（２）	初声その２、有声音化
5	第２課：文字と発音（２）	半母音 W、二重母音、連音化
6	第３課：文字と発音（３）	初声その３、初声その４
7	第３課：文字と発音（３）	終声その２、濃音化
8	第４課：〜は韓国人です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第４課：〜は〜と申します	「ですか？」「と申します」
10	第５課：専攻は韓国語ですか？	もう一つの「です」「ですか？」
11	第５課：専攻は韓国語ではありません	「〜ではありません」否定形。激音化。
12	第６課：教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「います」「ありません」「いません」
13	第６課：教室は 204 号室です。	助詞「に」、2 字母パッチム、漢数詞。
14	期末試験	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください.
・疑問点が生じたらすぐに質問してください.
・わからないことを放置しないようにしてください.
・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社,2017 年,2300 円＋税

【参考書】
小学館『朝鮮語辞典／韓日辞典』

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。小テスト、期末試験、課題の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
ＣＤの活用

【Outline and objectives】
This course is an elementary Korean course. In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語Ｂ

2017 年度以降入学者

神谷　丹路

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**
2～4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「第三外国語としての朝鮮語Ａ」を修了したレベルの人対象の講座です. 具体的には、ハングルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」、「あります」「います」、漢数詞の学修を終えていることが必要です。テキストの６課までの内容を習得していることが必要です.

【到達目標】
・正確に発音できるようになる.
・ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになる.
・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・授業のはじめに前回の復習をおこないます.
・前回学んだことについて毎回小テストをおこないます.
・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第７課：何の本を読んでいますか？	ヘヨ体の作り方（１）
3	第７課：午後、時間大丈夫ですか？	助詞「を」「も」
4	第８課：テコンドーを教えています。	ヘヨ体の作り方（２）
5	第８課：スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第９課：電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方（３）
7	第９課：何時におきますか？	助詞「～から～まで」（場所）、固有数詞。
8	第 10 課：野球が好きです	ヘヨ体の作り方（４）
9	第 10 課：野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」（時間）、曜日
10	第 11 課：時間がありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課：どこか具合悪いんですか？	語幹の用言、 +用言（否定形）
12	第 12 課：両親が来られます	尊敬形
13	第 12 課：何をするつもりですか？ 温泉に行きたいです。	～するつもりです。～したいです。
14	期末試験	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください.
・疑問点が生じたらすぐに質問してください.

・わからないことを放置しないようにしてください.
・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、睦宗均、山田恭子著, 朝日出版社,2017 年,2300 円＋税

【参考書】
小学館『朝鮮語辞典／韓日辞典』

【成績評価の方法と基準】
・平常点　30 %
・期末試験　70 %

【学生の意見等からの気づき】
ＣＤの活用

【Outline and objectives】
This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 6 of the text book.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語中級　2017 年度以降入学者

梁　禮先

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
2～4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語初級で学んだ知識を利用し、実践的に書く・読む練習を繰り返すことで朝鮮語の基礎を確実に身に付けることを目標にします。基礎的朝鮮語の会話にも挑戦していきます。

【到達目標】
基本会話ができることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返しながら授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	授業の進め方などについてと簡単な復習	授業の進め方について説明します
第二回	今日も友達に会いますか 1	読む練習と否定形について
第三回	今日も友達に会いますか 2	発音について
第四回	今、何時ですか 1	会話の練習
第五回	今、何時ですか 2	数詞について
第六回	ここはデパートですか 1	発音練習と読む練習について
第七回	ここはデパートですか 2	連体形について
第八回	私の家族です 1	推量について
第九回	私の家族です 2	文章と会話
第十回	景福宮はどこですか 1	変則用言
第十一回	景福宮はどこですか 2	発音と会話
第十二回	日記を読む	発音と読解
第十三回	日記を書く	会話の文章
第十四回	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート、課題を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教室用テキスト『朝鮮語中級』(梁禮先)

【参考書】
「朝鮮語辞書」－朝鮮語の辞書ならどちらのものでも良し。

【成績評価の方法と基準】
平常点・小テスト、課題など 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】
発音をもっとやりたい。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業の内容は少々変わることがあります。

【Outline and objectives】
Our goal is to make sure to establish a strong foundation in Korean skills by harnessing the skills previously acquired in the introductory course and practicing writing and reading repeatedly. We will also try to have conversations in Korean.

LANj300LA

日本語コミュニケーションA

2017 年度以降入学者

江村　裕文

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**
法文営国 2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
来日してからしばらくたち、自分では日本語がだいぶ上達したと思っていても、いざ実際に日本人を目の前にしてみると、自分が話しているのは正しい日本語のはずなのに、自分が期待しているようには日本人に伝わっていない、誤解されている、といった経験はなかったでしょうか。

この講義では、ことばが通じる、通じないというときには、どういう要素が絡んでくるのか、コミュニケーションする上で、誤解を可能な限り少なくするには、どういうことに気をつけなければならないのか、等々について、理論的な枠組みを提示し、実際にあった例を参照しながら、外国人が日本人とつきあっていく方法について見直してみたいと思います。

【到達目標】
文化の異なりについて理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
おもに「文化」と「言語」をテーマにして講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ヒト・グループ・個人といった基本的な発想から、ヒトについて概観します
2	「食べる」について	「文化」の例として「食べる」を取り上げます
3	「装う（着る）」について	「文化」の例として「装う（着る）」を取り上げます
4	「文化」の定義	「文化」とは何かを考える際に考慮すべき諸項目について紹介します
5	「コード・モデル」について	コード・モデルを紹介します
6	「言語」について	コード・モデルのもとになった言語のとらえ方を紹介します
7	文献購読	ことばと文化について、復習を兼ねて文献を読みます
8	「音」の単位（単音）について　i	コードの単位の一つである「音」の単位（単音）について紹介します
9	「音」の単位（音素）について　ii	コードの単位の一つである「音」の単位（音素）について紹介します
10	「意味」の単位（形態素）について	コードの単位の一つである「意味」の単位について紹介します
11	「文の構造」について	「文の構造」について解説します
12	「文法カテゴリー」について　i	数・人称・クラス等の「文法カテゴリー」について紹介します
13	「文法カテゴリー」について　ii	数・人称・クラス等の「文法カテゴリー」について紹介します

14	春学期試験	以上で紹介・解説した内容について、理解度を判定するために試験をします。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「文化」なり「言語」なりの説明に、具体的な実例をあげますが、その個々の例を覚える必要はありませんが、講義をよく聴いて自分なりに真剣に考えてみてください。そのときに深刻に考えないように注意してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介しますが、まずは平凡社『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】
平常点４０点、試験の得点６０点、合計１００点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
基本的な枠組みは設定していますが、具体例等について受講者の個人的な情報をさらに活用していきたいと考えています。

【その他の重要事項】
日本文化の体現者として、また討論への参加者として、外国人留学生と日本人学生を歓迎します。また、「文化人類学」「言語学」「社会学」等の知識があったほうが望ましいですが、必須の条件ではありません。

【Outline and objectives】
In this class, we will treat following issues;
1 What is Culture.
2 What is Language.
3 What is Communication.
There is those who think that mastering Language can lead to the way of communication. But this is not true. There are so many cultural components for communication. It is cultural items that make communication possible.
In this class, You are able to understand what is communication, and can use the needs that are for how to communicate with those who has different cultures.

LANj300LA

日本語コミュニケーションＢ

2017 年度以降入学者

江村　裕文

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**
法文営国 2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
来日してからしばらくたち、自分では日本語がだいぶ上達したと思っていても、いざ実際に日本人を目の前にしてみると、自分が話しているのは正しい日本語のはずなのに、自分が期待しているようには日本人に伝わっていない、誤解されている、といった経験はなかったでしょうか。
この講義では、ことばが通じる、通じないというときには、どういう要素が絡んでくるのか、コミュニケーションする上で、誤解を可能な限り少なくするには、どういうことに気をつけなければならないのか、等々について、理論的な枠組みを提示し、実際の例を参照しながら、外国人が日本人とつきあっていく方法について見直してみたいと思います。

【到達目標】
この授業で培った知識と技能によってより日本人とよりスムーズなコミュニケーションができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
おもに「言語」と「コミュニケーション」をテーマにして講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	試験解説・春学期のまとめ・「ことば」について	春学期の内容と試験について解説し、一般に「ことば」について解説します
2	「音声コミュニケーション」の特徴	ヒトの言語は動物のコトバとどこが異なるのか、について解説します
3	「意味」について	「意味」とは何かについて、総括的に概観します
4	「構造」について	「構造」とは何かについて、総括的に概観します
5	日本語の諸問題　i	外国人にとって問題となる日本語の問題を取り扱います
6	日本語の諸問題　ii	外国人にとって問題となる日本語の問題を取り扱います
7	「宗教」について　i	「言語」のまとめとして「宗教」を取り上げます
8	「宗教」について　ii	「言語」のまとめとして「宗教」を取り上げます
9	「コミュニケーション」の定義	「コミュニケーション」とはなにかについて解説します
10	「言語」と「ことば」について	「言語」と「ことば」の相違について解説します
11	「コミュニケーション」の要素　i	「コミュニケーション」の要素について解説します
12	「コミュニケーション」の要素　ii	「コミュニケーション」の要素について解説します
13	「コミュニケーション」の制約	「コミュニケーション」における制約について解説します

14	期末試験	講義の内容に関して試験を行います。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語という言語によるコミュニケーションについて、について、日本での言語生活を反省して、誤解した、誤解された等の具体例を発表できるように準備してもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介しますが、基本的なものとして平凡社の『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】
平常点３０点、試験の得点３０点、レポートの得点４０点、合計１００点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
コミュニケーションは双方向であり、問題がおこるのは、どちらか一方だけの問題ではないという点を確認しておきたいと思います。

【その他の重要事項】
日本文化の体現者として、また討論への参加者として、外国人留学生と日本人学生を歓迎します。また、「文化人類学」「言語学」「社会学」等の知識があったほうが望ましいですが、必須の条件ではありません。

【Outline and objectives】
In this class, we will treat following issues;
1 What is Culture.
2 What is Language.
3 What is Communication.
There is many students think that mastering Language can lead to the way of communication. But this is not true. There are so many components for commmunication. It is cultural items that make communication possible.
In this class, You are able to understand What is communication, and can use the needs that are for communication with those who has different culture.

LIT300LA

漢字･漢文学 A

2017 年度以降入学者

加納　留美子

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月 4**/Mon.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。
中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。
学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】
１．作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
２．作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
３．特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
４．作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。配布資料をもとに進行する。
授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。
【4 月 20 日追記】
春学期の少なくとも前半は、オンラインで開講します。各回の授業については、学習支援システムでその都度提示するので注意。また時折課題を出すので、指示に従って期限内に提出すること。
4 月 27 日 15 時に第一回の授業として、支援システムにガイダンス資料をあげます。受講を希望する学生は当日中にアクセスしてください。
【4 月 23 日追記】
【授業開始日】4 月 27 日 15 時（4 限）に第 1 回授業として資料を配布します。受講を希望する学生は必ずその時間にアクセスしてください。春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講です。
【進め方】配布した資料を各自で読み進める自学自習形式です。確認のために、毎回課題を出すので指示に従って期限内に提出すること。詳細は第 1 回授業配布資料を見ること。
【教科書など】指定教科書はなし。適宜レジュメや関連資料をＰＤＦで配布します。
【対象学年】2 年生以上。1 年生は受講不可。この授業を履修し単位を取得した学生も不可。
【通信環境】毎週月曜 4 限の時間帯に Hoppii へ安定してアクセスできるよう、インターネット環境を整えてください。資料のダウンロードや課題の提出は、各自で Hoppii にアクセスする必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・中国史の概要紹介
第 2 回	漢字のなりたち	・「六書」の紹介 ・漢字の起源と歴史 ・「字謎」の紹介
第 3 回	権力者と文字による予言	・予言の種類 ・歴史書に見える予言 ・「拆字」の紹介
第 4 回	文字が左右した運命①	・「志怪」と「伝奇」 ・文字が動かした寿命 ・読めない文字
第 5 回	文字が左右した運命②	・三つの予言 ・詩を用いた予言
第 6 回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・近代諸国での流行 ・中国の「扶鸞」信仰
第 7 回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・「扶鸞」の方法と来歴 ・「扶鸞」の流行と評価
第 8 回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・宋代知識人の体験 ・明代のオカルト趣味 ・近代中国と「扶鸞」信仰
第 9 回	恋愛作品と文字	・『詩経』と「楽府」 ・恋のうたと言葉遊び
第 10 回	知識人の頓智と奇想	・外交における機知 ・知識人の応酬
第 11 回	伝統的「姓名」観	・避諱の制 ・姓名が左右した運命
第 12 回	創作活動と文字①	・「推敲」 ・現実と表現の衝突
第 13 回	創作活動と文字②	・詩が招いた幸運と悲運 ・「詩讖」の説
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】
参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価＞
平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）４０％、期末の試験またはレポート６０％。
＜基準＞
・授業における取り組み（態度・意見）
・指示された課題に対応する能力
・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.
From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck ； they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easiliy find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.
Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.

LIT300LA

漢字･漢文学 B

2017 年度以降入学者

加納　留美子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月 4**/Mon.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。
学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】
１．作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
２．作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
３．特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
４．作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。配布資料をもとに進行する。
授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・「ゆめ」の多義性 ・中国の夢分類
第 2 回	古代中国の吉夢	・誕生の予言 ・優れた人材を教示 ・栄達の予言
第 3 回	古代中国の凶夢①	・死期を悟る ・病魔の会話
第 4 回	古代中国の凶夢②	・国家滅亡の暗示 ・不明瞭な悪夢
第 5 回	知識人たちが得たお告げ	・文学的才能の獲得と喪失 ・創作のヒント
第 6 回	夢主に働きかける夢①	・夢と夢主 ・夢と現実の関連性 ・宗教的神秘体験
第 7 回	夢主に働きかける夢②	・死者の訴え ・前世の自分の訴え
第 8 回	復讐する死者	・生者に託した復讐 ・死者による復讐 ・復讐の為の転生
第 9 回	人外との交流	・助命嘆願 ・報恩と復讐 ・逆恨み

第 10 回　夢と恋愛文学	・夢での逢瀬
	・恋愛成就の神
	・夫婦の別離と再会
第 11 回　夢の世界の冒険	・怪異との接触
	・儚い栄達
	・動物への変身
第 12 回　他人と共有された夢	・「二人同夢」
	・危機の通達
	・夢での邂逅
第 13 回　日本における夢	・他人が見る夢
	・日本文学における夢
第 14 回　まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】
参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価＞
平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）４０％、期末の試験またはレポート６０％。
＜基準＞
・授業における取り組み（態度・意見）
・指示された課題に対応する能力
・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin to Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.
Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.
In addition, this class will intends to talk about the stories of Japanese dreams.

LIT300LA

文芸創作講座 A

2017 年度以降入学者

岩川　ありさ

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本年度のテーマは、「フェミニズムと文芸創作」です。
この授業では、自分の書きたい世界を明確にし、他者に向けて文章を書くための基礎的な方法について学びます。春学期と秋学期には連続性があり、春学期には批評的視座について学び、書評を書きます。北村紗衣『お砂糖とスパイスと爆発的な何か: 不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門』（書肆侃侃房、2019 年。kindle 版 1,400 円、単行本 1,681 円）を教科書とします。秋学期には文芸作品を書くことをメインにします。
＊「2020 年 11 月 5 日 (木) から 8 日（日）に行われる市ヶ谷キャンパス祭に出展、参加します」と書きましたが、現状をかんがみ、未定とします。

【到達目標】
(1) フェミニズムという視座から文学を捉えることができるようになる。
(2) 様々な文学ジャンルの作品を的確に分析できるようになる。
(3) 限られた文字数で読書を惹きつけるような書評を書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・春学期には批評的視座について学び、書評を書きます。春学期の成果として、ワードなどで書評集を作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	4/17(木)15:00-4/25(土)23:55 選抜試験【講義はなし】	・受講希望者は、以下の 3 つの「課題」に答えて、学習支援システムの「課題」から 4/17(木)15:00 から 4/25(金)23:55 までに提出してください。4/27(月)23:55 までには合否をお伝えします。 １、この講義を受講したい理由 (800 文字) ２、以下の二つの文章を読んでの感想（800 文字程度） ・「【特別掲載】大疫病の年に　マイク・デイヴィス、コロナウィルスを語る」（重田園江訳、web ちくま、2020 年 4 月 7 日公開）http://www.webchikuma.jp/articles/-/2004 ・闇連科「アジアの作家たちは新型コロナ禍にどう向き合うのか。「文藝」夏季号で緊急特集。ノーベル文学賞有力候補にして現代中国の最重要作家・閻連科による書き下ろし手記を緊急全文公開」（谷川毅訳、『文藝』河出書房新社、2020 年 3 月 30 日）http://web.kawade.co.jp/bungei/3466/ ３、「人が生きるということ」というテーマで、詩、短歌、俳句、800 文字以内の小説、ラップのリリックなどを書いてください。 ＊注意点 ・本科目は、春学期、秋学期連動ですので、秋学期からの登録ができません。その点注意してください。 ・試験結果は掲示板で発表するので、各自確認すること。
第 2 回	5/7 フェミニズムと文芸創作【講義あり】	・春学期の授業計画の説明、受講者の自己紹介。 ・LINE を用います。音声とチャット、両方で参加できるようにしたいと思います。授業連絡用とは別に授業用 LINE を作ろうと思います。 ・書記係、連絡係など役割を決定します。 ・・書記 (少なくとも 10 名) 今年度は LINE を中心に授業をしますが、それを適宜まとめてほしいです。ただし、コピー・アンド・ペーストをすることが中心なので、大きな負担にはならないようにしたと思います。その授業内で、ローテーションでできればと思います。詳しくは相談しましょう。 ・・連絡係 (3 名) こちらは LINE での連絡を行うときにまとめを行う係です。グループを作ったり、音声を用いるときに補佐してもらいます。 ・・書評作成係 (3 名) 書評をとりまとめる係です。ワードファイルなどで完成させます。 ・LINE で連絡しますが、情報が流れてしまうので、必要なことは書記係が記録して、授業支援システムからファイルをアップロードします。 ・今学期に読む、北村紗衣『お砂糖とスパイスと爆発的な何か: 不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門』（書肆侃侃房、2019 年。kindle 版 1,400 円、単行本 1,681 円）について説明します。5/14 に担当者を決定します。 ・フェミニズムと文学について講義。（レジュメの PDF を配布します）

第 3 回	5/14 文芸創作と倫理【講義あり】	ヘイトスピーチとは何か。人権と文学の関係についてなど、文芸創作を行う上での倫理についてまとめます。授業がはじまるまでに、以下の冊子を読んでいてください。授業でも取り扱います。 ・「ヘイトスピーチと人権―京都人権ナビ」（京都府、2017 年発行）https://kyoto-jinken.net/wp-kyoto-jinken/wp-content/uploads/2017/04/hatespeech_and_humanrights.pdf ・「川崎市の公的施設に「ヘイト年賀状」　視察した超党派議員「全力で事態打開を」」（「毎日新聞」2020 年 1 月 22 日）→ 動画を見てください。https://mainichi.jp/articles/20200122/k00/00m/040/332000c ・書評：『わたしもじだいのいちぶですー川崎桜本・ハルモニたちがつづった生活史』（康潤伊・鈴木宏子・丹野清人編著　日本評論社　2019 年 1 月　2000 円＋税）評者：佐々木有美（「レイバーネット」、2020 年 3 月 26 日）http://www.labornetjp.org/news/2020/hon151 ・「世界人権宣言（全文）＊ 1948 年 12 月 10 日、国連総会で採択」（Amnesty International）https://www.amnesty.or.jp/human-rights/what_is_human_rights/udhr.html
第 4 回	5/21『お砂糖とスパイスと爆発的な何か―不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門』（書肆侃侃房、2019 年。kindle 版 1,400 円、単行本 1,681 円）	・「まえがき　不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門」、Chapter1　自分の欲望を知ろう ・各チャプター 2 名、発表時間 10 分。前半後半で分担してもいいです。ワードなどで A4 用紙 1-2 枚で簡潔に内容をまとめる。発表週の月曜日までに word などのファイルで授業用 LINE に提出。
第 5 回	5/28『お砂糖とスパイスと爆発的な何か―不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門』	・Chapter2　男らしさについて考えてみよう、Chapter3　ヒロインたちと出会おう ・各チャプター 2 名、発表時間 10 分。前半後半で分担してもいいです。ワードなどで A4 用紙 1-2 枚で簡潔に内容をまとめる。発表週の月曜日までに word などのファイルで授業用 LINE に提出。
第 6 回	6/4『お砂糖とスパイスと爆発的な何か―不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門』	・Chapter4　わたしたちの歴史を知ろう、Chapter5　ユートピアとディストピアについて考えよう ・各チャプター 2 名、発表時間 10 分。前半後半で分担してもいいです。ワードなどで A4 用紙 1-2 枚で簡潔に内容をまとめる。発表週の月曜日までに word などのファイルで授業用 LINE に提出。
第 7 回	6/11 ボーイズラブ (BL) を読む	・ボーイズラブが成立するまでの歴史的な経緯についてまとめ、文学との繋がりについて考えます。堀あきこ、守如子編著『BL の教科書』(有斐閣、2020) を参照します。
第 8 回	6/18 BL 短歌を読む/詠む	・BL 短歌や BL 読みできる詩歌をとりあげます。BL 短歌を詠みます。
第 9 回	6/25 書評集をつくる (1)	・受講生それぞれが書評を書きてゆきます。書評の分量は、800-1,600 文字。7/16 23:55 締め切り。 ・フェミニズムの視点から様々な作品を読み進めてゆきましょう。 ・「読書サロン」というサイトの書籍リストはぜひとも参考にしてください。 「★書籍リストを見る★」というところから見られます。https://sites.google.com/site/yomuyomuutouto/eventpast?authuser=0
第 10 回	7/2 書評集をつくる (2)	書評を書いてゆきます。個別相談。学習支援システムの「課題」機能を用いてファイルを提出してもらい、添削するという形をとります。
第 11 回	7/9 書評集をつくる (3)	書評を書いてゆきます。個別相談。学習支援システムの「課題」機能を用いてファイルを提出してもらい、添削するという形をとります。
第 12 回	7/16 書評集をつくる (4)	書評完成。書評係がとりまとめ、１冊のファイルにし、みんなが見られるようにします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・文学作品を読んだり、書評を書いたり、グループやクラスのメンバーの書評を読むことが必要です。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
変更あり！
北村紗衣『お砂糖とスパイスと爆発的な何か: 不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門』（書肆侃侃房、2019 年。kindle 版 1,400 円、単行本 1,681 円）

【参考書】
王谷晶『完璧じゃない、あたしたち』(ポプラ文庫、2019)
ルシア・ベルリン『掃除婦のための手引き書 ルシア・ベルリン作品集』(岸本佐知子訳、講談社、2019)
スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチ『戦争は女の顔をしていない』（三浦みどり訳、岩波現代文庫、2016）
堀あきこ、守如子編著『BL の教科書』(有斐閣、2020)

【成績評価の方法と基準】
発表や役割分担など授業への参加 (30 %)、学期末までに完成させた書評 (70 %) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、順序を追って創作の過程を把握できるようになればよいという意見があったため、年間計画を詳細に立てた。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンが必要です。

【その他の重要事項】
・受講希望者が多い場合、選抜試験を行います。
・この講義は、文芸創作講座 A(春学期) と文芸創作講座 B(秋学期)、通年で受講することが必要で、秋学期のみの新規参加は不可とします。
・春学期の時点で登録した人のみ秋学期も受講することができます。
・初回講義に来られない場合は、受講できないので注意してください。

【Outline and objectives】
This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about creative writings. By the end of this course, students will develop skills for writing novels. Coursework will include weekly writing and reading short novels. We will participate in the Hosei university school festival.

LIT300LA

文芸創作講座 B

2017 年度以降入学者

岩川　ありさ

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 4/Thu.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本年度のテーマは、「フェミニズムと文芸創作」です。春学期と秋学期の授業には連続性があり、春学期には批評的視座について学び、書評を書きました。春学期の成果として書評集を作成し、2020 年 11 月 5 日 (木) から 8 日（日）に行われる市ヶ谷キャンパス祭に出展、参加します。秋学期には、詩歌、フィクション、ノンフィクションなど幅広い意味で、文芸創作にかかわる作品を仕上げることを目指します。

【到達目標】
(1) グループワークを行い、書評集を編集することができる。
(2) 自分の作品を客観的に見、改善することができる。
(3) 相互批評を通じて、自分の作品をよいものにすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・秋学期前半では、春学期から夏休みを通じて作成した書評集を校正し、冊子にします。
・2020 年 11 月 5 日 (木) から 8 日（日）に行われる市ヶ谷キャンパス祭に出展、参加します。
・11 月半ばから、作品 (小説、詩歌、ルポルタージュ、脚本、ラップなど) を書きはじめます。その後、相互批評を行い、リライトを行い、作品を洗練させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	(1) 秋学期の計画の説明、(2) 市ヶ谷キャンパス祭に向けて、(3) 校正の仕方について。
第 2 回	冊子の校正（予定）	冊子の校正を完了させます。印刷会社に依頼するので、〆切厳守です。
第 3 回	再校（予定）	校正ゲラ (初稿) が戻ってくるので、再度、誤字脱字がないか確認をし、校正を印刷会社に戻します。
第 4 回	市ヶ谷キャンパス祭の準備 (1)	ブースの配置や備品、役割分担などを決めます。
第 5 回	市ヶ谷キャンパス祭の準備 (2)	ブースの配置や備品、役割分担などを決めます。
第 6 回	市ヶ谷キャンパス祭の準備 (3)	市ヶ谷キャンパス祭のための準備を行います。冊子の完成見本ができあがります。
第 7 回	作品を書く (1)	・市ヶ谷キャンパス祭のフィードバックを行います。 ・今回から書くことにシフトします。自分が大切にしている世界観を言語化します。作品のジャンルは問いません。
第 8 回	作品を書く (2)	時間や場所の設定の仕方について学びます。物語において時間とは何か。プロットの作り方や時系列の作り方について学びます。
第 9 回	グループワーク (1)	グループ間でのアドバイスなどを行います。
第 10 回	グループワーク (2)	グループ間でのアドバイスなどを行います。
第 11 回	個別相談 (1)	個別での相談・アドバイスなどを行います。
第 12 回	個別相談 (2)	個別での相談・アドバイスなどを行います。
第 13 回	個別相談 (3)	個別での相談・アドバイスなどを行います。
第 14 回	まとめ	授業全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・2020 年 11 月 5 日 (木) から 8 日（日）に行われる市ヶ谷キャンパス祭に出展、参加します。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
その都度、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
市ヶ谷祭への参加度 (40%)、学期末までに完成させた小説 (60 %) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、順序を追って創作の過程を把握できるようになればよいという意見があったため、年間計画を詳細に立てた。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンが必要です。大学のパソコンを使用することなども可能です。

【その他の重要事項】
・この講義は、文芸創作講座 A(春学期) と文芸創作講座 B(秋学期)、通年で受講することが必要で、秋学期のみの新規参加は不可とします。
・春学期の時点で登録した人のみ秋学期も受講することができます。
・冊子作成などに必要な実習費用は年間 3,000 円です。

【Outline and objectives】
This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about creative writings. By the end of this course, students will develop skills for writing novels. Coursework will include weekly writing and reading short novels. We will participate in the Hosei university school festival.

ART300LA

日本芸能論 A

2017 年度以降入学者

阿部　真弓

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。
なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。
〈2020 年 4 月 17 日追記〉
オンライン授業実施にともない、以下のいくつかの項目について、追記または変更点があります。それも合わせて、よく確認してください。

【到達目標】
①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
前半は、ビデオ、DVD 等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。
その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループで、関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。
〔参考〕これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。
「能面について」「香道について」「エイサーの歴史と文化」「日本における『第九』の受容と定着について」「日本の馬事芸能〜流鏑馬〜」「吉本新喜劇の歴史」
〈2020 年 4 月 17 日追記〉
教室での授業が始まるまで、学習支援システムを使った、教員によるオンライン授業で進めます。受講生による発表は、教室での授業が可能となり、かつ、発表希望者がいる場合に行います。そのため、【授業計画】は大幅に変更されることが予想されます。
〈2020 年 4 月 20 日追記〉
本授業の開始日は 4 月 28 日とします。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第 2 回	芸能とは何か (1)	日本の芸能に関する概説
第 3 回	芸能とは何か (2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第 4 回	伝統芸能概説 (1)	雅楽について
第 5 回	伝統芸能概説 (2)	伎楽について
第 6 回	伝統芸能概説 (3)	能について
第 7 回	伝統芸能概説 (4)	狂言について
第 8 回	受講生による発表・討論	グループ A の発表
第 9 回	受講生による発表・討論	グループ B の発表
第 10 回	受講生による発表・討論	グループ C の発表
第 11 回	受講生による発表・討論	グループ D の発表
第 12 回	受講生による発表・討論	グループ E の発表
第 13 回	受講生による発表・討論	グループ F の発表
第 14 回	まとめ	春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。
〈2020 年 4 月 17 日追記〉
教室での授業が始まるまでは、学習支援システムに教材をアップロードしますので、それをダウンロードしてください。

【参考書】
授業中に参考文献リストを配布します。
〈2020 年 4 月 17 日追記〉
教室での授業が始まるまでは、学習支援システムにアップロードしますので、それをダウンロードしてください。

【成績評価の方法と基準】
発表内容 70 %（①②③）またはレポート 70 %（①②④）、平常点および討論への参加状況 30 %（③）という配分で総合的に評価します。なお平常点は、毎回配布・回収する出席調査票によります。
その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。
〈2020 年 4 月 17 日追記〉
教室での授業が始まり、発表が行えた場合、発表者については発表内容 70 %（①②③）、平常点および討論への参加状況 30 %（③）という配分で総合的に評価します。発表しなかった受講生はレポート 70 %（①②④）、平常点および討論への参加状況 30 %（③）という配分で総合的に評価します。
なお、オンライン授業実施中においては、学習支援システムを通じて課された課題の提出状況およびその内容を「平常点」として評価します。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や出席調査票等のコメント等を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に出席調査票に記入されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】
〈2020 年 4 月 17 日変更〉
受講希望の人は、4 月 20 日までに学習支援システムに仮登録してください。定員制の授業ですが、2020 年度に限り、受講希望者が定員を超えても抽選・選抜は行わず、全員に受講を許可する予定です。
また例年、秋学期「日本芸能論 B」を受講せず春学期「日本芸能論 A」のみを履修する場合は、必ず発表してもらうことにしていますが、2020 年度に限り、発表でもレポートでもどちらでもかまわないことにします。
〈2020 年 4 月 16 日までの注意事項〉

受講希望の人は必ず第 1 回授業に出席して下さい。やむをえず欠席する場合は、第 1 回授業までに、受講希望の旨をメールで担当教員に連絡してください。なお、メールは必ず件名を「受講希望」とし、maya @ hosei.ac.jp 宛に送ること。無題のメールは受け付けません。

春学期「日本芸能論 A」を履修せず、秋学期「日本芸能論 B」のみ受講する予定の人も、春学期第 1 回授業までに、上記の要領でその旨をメールで連絡してください。

第 1 回授業終了後、受講許可者を掲示します。受講許可者がこの授業の履修登録をしないことは可能ですが、受講許可者以外の人が履修登録することは不可としますので、注意して下さい。

なお、秋学期「日本芸能論 B」を受講せず、春学期「日本芸能論 A」のみを履修する場合は、必ず発表してください。春学期・秋学期連続して履修する場合は、どちらか一方で発表し、もう一方の学期ではレポートを提出するという形でもかまいません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

ART300LA

日本芸能論 B

2017 年度以降入学者

阿部　真弓

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

< 2020 年 4 月 17 日追記>

春学期のオンライン授業実施にともない、【その他の重要事項】について変更点がありますので、よく確認してください。

【到達目標】

①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD 等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、近世に成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループで、関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

〔参考〕これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。
「浄瑠璃・歌舞伎における『伊勢物語』享受」「落語の演技」「演目からみる宝塚歌劇」「書道パフォーマンス　〜芸術から芸能へ〜」「歌舞伎の見得とセーラームーン」「YOSAKOI ソーラン」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第 2 回	芸能とは何か (1)	日本の芸能に関する概説
第 3 回	芸能とは何か (2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第 4 回	伝統芸能概説 (1)	人形浄瑠璃の成立について
第 5 回	伝統芸能概説 (2)	人形浄瑠璃の様相について
第 6 回	伝統芸能概説 (3)	歌舞伎の成立について
第 7 回	伝統芸能概説 (4)	歌舞伎の様相について
第 8 回	受講生による発表・討論	グループ G の発表
第 9 回	受講生による発表・討論	グループ H の発表

第 10 回　受講生による発表・討論　グループ I の発表
第 11 回　受講生による発表・討論　グループ J の発表
第 12 回　受講生による発表・討論　グループ K の発表
第 13 回　受講生による発表・討論　グループ L の発表
第 14 回　まとめ　秋学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容 70 %（①②③）またはレポート 70 %（①②④）、平常点および討論への参加状況 30 %（③）という配分で総合的に評価します。なお平常点は、毎回配布・回収する出席調査票によります。
その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や出席調査票等のコメント等を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に出席調査票に記入されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】
< 2020 年 4 月 17 日変更>
定員制の授業ですが、2020 年度に限り、受講希望者が定員を超えても抽選・選抜は行わず、全員に受講を許可する予定です。
秋学期「日本芸能論 B」のみ履修することもできますが、理解度を高めるために春学期「日本芸能論 A」の受講をおすすめします。
なお例年、「日本芸能論 B」のみを履修する場合は必ず発表してもらうことにしていますが、2020 年度に限り、発表でもレポートでもどちらでもかまわないことにします。
< 2020 年 4 月 16 日までの注意事項>
春学期「日本芸能論 A」を履修せず、秋学期「日本芸能論 B」のみ履修する予定の人は、必ず、春学期第 1 回授業までに、受講希望の旨をメールで担当教員に連絡してください。なお、メールは件名を「受講希望」とし、maya @ hosei.ac.jp 宛に送ること。無題のメールは受け付けません。なお、メールで受講希望の連絡をしなかった人は、秋学期授業に出席しても、履修者数に余裕がない場合、受講を許可しないこともありますので、注意してください。
秋学期「日本芸能論 B」のみ履修することもできますが、理解度を高めるために「日本芸能論 A」の受講をおすすめします。「日本芸能論 B」のみを履修する場合は、必ず発表してください。春学期・秋学期連続して履修する場合は、どちらか一方で発表し、もう一方の学期ではレポートを提出するという形でもかまいません。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

ART300LA

身体表現論 A

2017 年度以降入学者

深谷　公宣

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月 3**/Mon.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、ストレート・プレイとは異なる身体運動の形態としてバレエにも着目する。通常、西洋演劇史とバレエの歴史は分けて記述されるが、本講義では出来るだけ関連付けながら捉えてみたい。

【到達目標】
・西洋演劇とバレエの歴史について考察し、叙述できる。
・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
・演劇・バレエ作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。
（追記）【授業開始日】４月２７日

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	古代ギリシア演劇	原始社会から古代文明における演劇の発生について
3	中世演劇	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の舞踊への影響、「死の舞踊」のモチーフ、等について
4	エリザベス時代演劇	イギリス、エリザベス時代の演劇、特にシェイクスピアについて
5	フランス古典主義演劇とバレエの誕生	フランス古典主義演劇と、バレエ誕生の経緯について
6	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
7	ロマンティック・バレエ	バレエの依拠する物語や伝説、特に『ジゼル』、『コッペリア』について
8	クラシック・バレエの発生	バレエの技術的変容と定型化、特に　『白鳥の湖』について
9	クラシック・バレエの展開	クラシック・バレエからモダン・バレエ、モダン・ダンスへの展開について
10	近代演劇	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンドベリ、チェーホフについて
11	現代演劇	１９世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
12	モダン・ダンス（１）	バランシン、カニンガム、ノイマイヤー等の実践について
13	モダン・ダンス（２）	ベジャール、バウシュ、フォーサイス等の実践について

14	まとめと試験	記述式の期末試験を実施。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に舞台鑑賞するように努める。（映像を含む）
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】
『ギリシア悲劇〈1〉～〈4〉』（ちくま文庫）
シェイクスピア（福田恆存訳）『ハムレット』（新潮文庫）
シェイクスピア（安西徹雄訳）『リア王』（光文社古典新訳文庫）
日本演劇学会『ベスト・プレイズー西洋古典戯曲』（相田書房）
岩瀬孝『フランス演劇史序説』（早稲田大学出版部）
邦正美『舞踊の文化史』（岩波新書）
鈴木晶『バレエの魔力』（講談社現代新書）
長野由紀『バレエの見方』（新書館）
三浦雅士『バレエ入門』（新書館）
舞踊教育研究会『舞踊学講義』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
小課題 30 %：適宜課される小テストや小レポートを通し、それまでの授業の理解度を評価。
期末試験 40 %：演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。
（追記）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。変更内容については、すでに「学習支援システム」にアップロード済のパワーポイント資料（第 0 回：ガイダンス）を参照のこと。
平常点：５０％
期末レポート：５０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body that is embedded in daily life and reveals the possibility for new body movement. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. As well as straight play, we will also focus on ballet , another mode of theatrical performance. Although the histories of these two forms are usually described separately, this course will try to conceive the common elements, too.

ART300LA

身体表現論 B

2017 年度以降入学者

深谷　公宣

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
2～4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１９世紀以降拡大する大衆文化に見られる身体表現のあり方を概観する。このことにより、身体表現が生活のなかで孕む問題点や文化的意義を浮き彫りにする。大衆文化はメディア産業と強く連動するため、受講生のメディア・リテラシーへの意識づけも考慮しながら講義する。

【到達目標】
・大衆文化における各種の身体表現について考察し、記述できる。
・身体運動を、社会生活を営む視点から考える認識枠組を身につける。
・大衆文化の身体性について評価する批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆し、提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考文献等の紹介
2	演芸	イギリスのミュージック・ホール、チャップリン、キートン等コメディアンの身体表現について
3	レビュー	フランスのキャバレー、フレンチ・カンカン、レビュー、日本の「歌劇団」について
4	ミュージカル（１）	ミュージカルとオペラとの差異、ミュージカルにおける身体表現等について
5	ミュージカル（２）	ミュージカルにおける身体表現について（事例紹介）
6	反リアリズム演劇	２０世紀日本のアングラ演劇、代表的な演出家の身体表現について
7	ジャズ・ダンス、タップ・ダンス	ジャズ・ダンス、タップ・ダンス等の各種ダンスの身体表現について
8	映画（１）	男性的な英雄の系譜と英雄像について
9	映画（２）	ポップ・アイコンとしてのヘップバーンとモンローについて
10	事例研究（１）	『マイ・フェア・レディ』、『雨に唄えば』、『ファニー・ガール』
11	事例研究（２）	宝塚版『Me and My Girl』
12	事例研究（３）	『Cabin in the Sky』
13	事例研究（４）	『ムーラン・ルージュ』
14	まとめと試験	記述式の期末試験を実施。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から舞台鑑賞をするように努める。（映像を含む）

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】
井野瀬久美恵『大英帝国はミュージック・ホールから』（朝日選書）
岩崎昶『チャーリー・チャップリン』（講談社現代新書）
ビートたけし『浅草キッド』（新潮文庫）
リサ・アピニャネジ『キャバレー　ヨーロッパ世紀末の飲食文化（上）（下）』（サントリー）
小山内伸『ミュージカル史』（中央公論新社）
本橋哲也『深読みミュージカル』（青土社）
スタニスラフスキー（山田肇訳）『俳優修業』（未来社）
マイケル・チェーホフ（ゼンヒラノ訳）『演技者へ！』（晩成書房）
鈴木忠志『演劇とは何か』（岩波新書）
蜷川幸雄・長谷部浩『演出術』（ちくま文庫）
浅利慶太『劇団四季メソッド「美しい日本語の話し方」』（文春新書）
油井正一『ジャズの歴史物語』（角川ソフィア文庫）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%：当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
小課題 30 %：適宜課される小テスト、小レポートを通して、それまでの講義の理解度を評価。
試験 40 %：大衆文化における身体表現の意義を論じることができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
This course will offer a survey of body movement in popular culture that has been expanding since the nineteenth century, so that students will be aware of specific issues or cultural values seen in contemporary life. The course will also take the media industry into consideration, since it is closely linked to popular culture, which will enhance their level of media literacy.

ART300LA

美術論 A

2017 年度以降入学者

稲垣　立男

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月 4**/Mon.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
美術論 A では、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要と思われる西洋近代美術史がテーマとなります。
特に
* 美術を理解するための基礎となる美術史とその理論
* 各時代のアーティストの実践（アイディアや制作論）
について段階的に幅広く学んでいきます。
これらについて段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】
* 西洋近代美術の思想や基本的な考え方について、具体的な作品例を中心に学ことができます。
* 美術に関するいくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について学ぶことができます。
* ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
導入（20 分）
毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。
講義（40 分）
その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。
レクチャー・パフォーマンス（20 分）
その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。
授業内レポート（20 分）
毎回の授業の最後に、講義やレクチャーパフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くことになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
資料	Google Classroom で授業を進めます。	学習支援システムのインフォメーションをご覧ください。
4/27	オリエンテーション	授業の概要について 美術史の学び方
5/4	古代美術 1	講義 原始美術/先史美術 メソポタミア美術 エジプト美術 ギリシャ美術 ローマ美術 レクチャーパフォーマンス 「ラスコーの壁画」

5/11	古代美術 2	単元の復習
	ワークショップ 1	ワークショップ 「伝える方法・絵から文字へ」
5/18	中世美術	講義 初期キリスト美術 ビザンティン美術 初期中世美術 ロマネスク美術 ゴシック美術 レクチャー・パフォーマンス 「キリスト教と美術」
5/25	近世美術	講義 ルネサンス美術 バロック美術 ロココ美術 レクチャー・パフォーマンス 「レオナルド・ダ・ヴィンチ」
6/1	近代美術 1	新古典主義 ロマン主義 写実主義 レクチャー・パフォーマンス 「ギュスターヴ・クールベ　写実主義の思想」
6/8	中世、近世、近代美術	単元の復習
	ワークショップ 2	ワークショップ 「デッサンの手法」
6/15	近代美術 2	印象主義 野獣派 キュビズム 表現主義 レクチャー・パフォーマンス 「ピカソとブラック」
6/22	近代美術 3	ロシア構成主義 未来派 ダダイズム シュルレアリズム レクチャー・パフォーマンス 「マルセル・デュシャン」
6/29	近代美術 4	単元の復習
	ワークショップ 3	ワークショップ 「シュルレアリスムの実験」
7/6	現代美術 1	デ・スティル バウハウス レクチャーパフォーマンス 「第一次世界大戦前後」
7/13	現代美術 2	抽象表現主義 ネオダダ ポップアート ミニマルアート コンセプチュアルアート レクチャーパフォーマンス 「スクールレボリューションとアート」
補講	現代美術 3	単元の復習
	ワークショップ 4	ワークショップ 「テキストとアート」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。展覧会などを数多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回授業に関連したプリントを配布します。
参考図書、観ておきたい展覧会などについては授業中に紹介します。

【参考書】
高階秀爾『カラー版西洋美術史』美術出版社、2002 年

【成績評価の方法と基準】
平常点と授業毎に行う授業内レポートにより成績を評価します。
1. 平常点（50%）
2. 授業内レポート（50%）

評価の具体的な指針についてはルーブリック を参照してください。

【学生の意見等からの気づき】
楽しく解りやすい授業をしていきたいと思います。

【その他の重要事項】
重要
こんにちは。
美術論 A を担当する国際文化学部の稲垣です。
受講方法について説明します。
学習環境
PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。また、インターネット環境を心配されている方も多くいらっしゃいましたので、当初は Zoom などでのライブ・ストリーミングは任意参加以外では基本的には行わず、ウェブサイトを閲覧してもらう方式にしました。
授業の形式
みなさんの受講環境が一定でないためオンタイムでの授業は行わず、ウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間（一週間程度）公開、それをみながら授業を受講してもらう方式にします。
授業の方法
授業時間になると授業支援システムを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、5-10 分程度のものを 2、３本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。
対面授業とオンライン授業内容の違い
対面授業とオンライン授業では内容は同一です。ただし、今年度の授業はそもそも去年までの授業内容と大きく変更しています。まずはシラバスを確認してください。第一回目の授業で、もう少し詳しい説明をします。
授業内レポート
受講後、Google Form で小テストと授業内レポートを提出してもらいます。提出期限は授業終了後の一週間程度です。
評価
小テストと授業内レポートの提出を持って出席とし、採点を行います。
質問
質問については Google Classroom に投稿してください。また、授業時間内であれば Google hangout Meet（https://meet.google.com/lookup/bsy7htarxc?authuser=1&hs=179）を使い対面で通話できます。
個人的な相談についてはメールを送ってください。
リクエストがありましたら、数回に一回程度 Zoom などを使った任意参加のトークも行いたいと思います。
質問がありましたら、いつでもお応えしていきます。
では、みなさんお元気でお過ごしください。

【Outline and objectives】
In this course, we will learn basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.
* Art history and art theory which is the basis for understanding art
* Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism.
We will learn about these in a step-by-step manner.

ART300LA

美術論 B

2017 年度以降入学者

稲垣　立男

開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 曜日・時限：**月 4/Mon.4**
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
美術 B では日本の美術史および近現代美術の基本的な内容を、俯瞰的、実践的に学びます。
1. 美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
2. より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
これらについて段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】
『日本の美術』
古代から近代までの日本美術の思想や基本的な考え方について、具体的な作品例を中心に学んでいきます。
『現代美術』
現代美術に関するいくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について探ります。
『ワークショップ』
各単元で学んだ内容を基にディスカッション、作品制作や展覧会企画、美術批評にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
カリキュラムの前半は、現代の美術を理解するために重要と思われる日本美術史がテーマとなります。また、後半は現代美術の制作や美術館、美術批評の現場について学びます。
講義の中で、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
9/21	オリエンテーション	授業の概要について 美術理論の学び方
9/28	現代美術史概論 1	アバンギャルドの芸術 未来派・ダダイズム・シュルレアリズム レクチャー・パフォーマンス 「未来派のパフォーマンス」
10/5	現代美術史概論 2	戦後美術 ポップアート・ミニマルアート・コンセプチュアルアート レクチャー・パフォーマンス 「アンディ・ウォーホール」
10/12	現代美術史概論 3	90 年代から現代まで リレーショナル・アート ソーシャリー・エンゲージド・アート レクチャー・パフォーマンス 「パッタイ」
10/19	近現代美術史 4 ワークショップ 1	単元のまとめ ワークショップ「現代美術の方法 1」
10/26	メディアとアート 1	絵画・彫刻・インスタレーション レクチャー・パフォーマンス 「文人画」
11/2	メディアとアート 2	写真・映像 レクチャー・パフォーマンス 「ナム・ジュン・パイクとビデオアート」
11/9	メディアとアート 3	パフォーマンス レクチャー・パフォーマンス 「ハプニング」
11/16	メディアとアート 4 ワークショップ 2	単元のまとめ ワークショップ 「現代美術の方法 2」
11/30	社会と美術 1	環境とアート レクチャー・パフォーマンス 「エコロジーとアート」
12/7	社会と美術 2	教育とアート レクチャー・パフォーマンス 「ABR について」
12/14	社会と美術 3	フェミニズムとアート レクチャー・パフォーマンス 「Cut Piece」
12/21	社会と美術 4 ワークショップ 3	単元のまとめ ワークショップ 「現代美術の方法 3 」
1/18	フィードバックとディスカッション	「美術論 B」のテーマ全体に関するディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。展覧会などを数多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回授業に関連したプリントを配布します。
参考図書、観ておきたい展覧会などについては授業中に紹介します。

【参考書】
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019

【成績評価の方法と基準】
平常点と授業毎に行う授業内レポートにより成績を評価します。
1.　平常点（50%）
2.　授業内レポート（50%）
評価の具体的な指針についてはルーブリック を参照してください。

【学生の意見等からの気づき】
楽しく解りやすい授業をしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出に授業支援システムを使う可能性があります。

【Outline and objectives】
We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.
1.　Art history and art theory which is the basis for understanding art
2.　Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism
I will learn a wide range of them step by step.

ART300LA

芸術と人間A

2017 年度以降入学者

岡村　民夫

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を、長年もっとも具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、各々の映画的表現を学ぶ。

【到達目標】
空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を学ぶ。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を拡げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期初回授業日： 4 月 23 日
毎回、映画（サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、出席カードに感想を書いてもらったりすることになる。
初回に、定員を 50 名以内に絞り込むための選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、必ずこれに出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	ジョン・フォード 宮崎駿
3	地を走る	チャールズ・チャップリン バスター・キートン
4	地で踊る	フレッド・アステア ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	S・エイゼンシュテイン アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	キング・ヴィダー ニコラス・レイ
7	列車に乗る	リュミエール兄弟 エドウィン・S・ポーター アベル・ガンス
8	列車に乗る 2	アルフレッド・ヒッチコック 黒澤明
9	自動車に乗る	フランク・キャプラ ジャン=リュック・ゴダール
10	ドアを開け閉めする	エルンスト・ルビッチ 諏訪敦彦
11	壁の向うを聴く	アルフレッド・ヒッチコック ロベール・ブレッソン
12	窓を見る	アルフレッド・ヒッチコック マルグリット・デュラス
13	鏡を見る	ジョセフ・ロージー オーソン・ウェルズ
14	まとめ	講義のまとめや補足 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布したプリントの再読や、映画館や DVD での作品鑑賞等。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布する。

【参考書】
『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %＋レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。
ただし、春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、平常点の基準を変更する。それに関しては学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
初回に出席すること。５０名以上受講希望者がいる場合、初回に選抜試験を実践し、受講資格を得た学生にも受講できる。
毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline and objectives】
In this class. we study the space structure of classical films.

ART300LA

芸術と人間Ｂ

2017 年度以降入学者

岡村　民夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を、長年もっとも具体的に検討してきた表現領域である。本講義は「芸術と人間 A」の発展形にあたる。主に古典的作品を通し、映画が都市や自然をどのように表象しているのかを学ぶ。

【到達目標】
空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を学ぶ。自分の観る映画のジャンル・年代・地域を拡げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回、映画（サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、出席カードに感想を書いてもらったりすることになる。
初回に、50 名以上の受講希望者がいる場合、50 名以内に絞り込むための選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、必ずこれに出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	高層都市	フリッツ・ラング ポール・グリモー
3	迷宮都市	フェデリコ・フェリーニ ジェック・タチ
4	記憶都市	アルフレッド・ヒッチコック ヴィム・ヴェンダース
5	日本家屋	成瀬巳喜男 小津安二郎
6	廃墟	ロベルト・ロッセリーニ 黒沢清
7	水と船	フリードリヒ・ムルナウ ジャン・ヴィゴ
8	川	ジャン・ルノワール 佐藤真
9	雨	山中貞雄 相米慎二
10	水の宇宙	アンドレイ・タルコフスキー
11	風	ジャン・エプスタン 柳町光男
12	森と動物	宮崎駿 アピチャポン・ウィラセタクン
13	補足	講義で十分扱えなかったテーマや映画
14	まとめ	講義のまとめ 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布したプリントの再読や、映画館や DVD での映画観賞等。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布する。

【参考書】
『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %＋レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

【学生の意見等からの気づき】
レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
初回に出席すること。５０名以上受講希望者がいる場合、初回に選抜試験を実践し、受講資格を得た学生にも受講できる。
毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline and objectives】
In this class. we study the space structure of classical films.

PHL300LA

仏教思想論 A

2017 年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インド初期仏教思想・仏教史
釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。
この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。

【到達目標】
・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。
・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされうるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解を試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業の開始日は５月８日とします。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となりますので、それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示することとします。また、具体的なオンライン授業の方法などについては、授業開始日までに、これも学習支援システムで提示する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	仏教成立の経緯（１）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第 2 回	仏教成立の経緯（２）	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第 3 回	仏教の成立	仏陀の生涯
第 4 回	仏教の教育指導法（説法法）	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第 5 回	仏教の基本思想（１）	五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印） 「諸行無常」（１）
第 6 回	仏教の基本思想（２）	「諸行無常」（２） 西洋の真理観との比較
第 7 回	仏教の基本思想（３）	「諸行無常」（３） 西洋の真理観との比較（続き）
第 8 回	仏教の基本思想（４）	「一切皆苦」（１） 苦と苦の因 十二支縁起
第 9 回	仏教の基本思想（５）	「一切皆苦」（２） 苦の滅と苦の滅に至る方法 八支聖道・中道
第 10 回	仏教の基本思想（６）	「一切皆苦」（３） 苦からの解放と生の充実
第 11 回	仏教の基本思想（７）	「諸法無我」 非我と無我 人無我と法無我 人無我論証
第 12 回	初期仏典講読（１）	『ダンマパダ』
第 13 回	初期仏典講読（２）	『スッタニパータ』
第 14 回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習と復習時間は、各２時間を標準とします。
授業前学習：プリント資料の精読、発表の準備（課題担当者）
授業後学習：参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】
資料はプリントで配布する。

【参考書】
中村元著『原始仏教　その思想と生活』、NHK ブックス、１９７０年
佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK 出版新書、２０１３年
その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
仏教思想を学ぶのが初めての学生がほとんどであるから、出来るだけ丁寧な指導・解説を心掛けたいと思います。

【Outline and objectives】
This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.
The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

PHL300LA

仏教思想論 B

2017 年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 曜日・時限：**金 4/Fri.4**
単位数：**2 単位**
2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インド初期・部派仏教から大乗仏教への展開：世界観・人生観の変遷
インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乗仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化したのか、これらを学びながら、インド大乗仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。

【到達目標】
・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乗仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
・仏教思想はどうして多様化したのか、その理由を理解する。
・初期・部派仏教から大乗仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
・大乗仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、講義と演習の両形態を採ります。演習では、担当者を決め、授業内に発表してもらいます。また、課題を出すこともあります。課題の担当者にも、調べたことを授業内で発表してもらいます。毎回の授業の終わりには、授業内容に対するリアクションペーパーを提出してもらいます。発表内容・リアクションペーパーの内容について、可能な限り、学生間の意見交換や討議も行っていく予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	この授業について なぜ仏教思想は多様化したのか？ 諸部派成立から大乗仏教へ
第 2 回	部派仏教（説一切有部）の思想（1）	有部・経量部・『倶舎論』 ダルマの体系（1）： 五位七十五法
第 3 回	部派仏教（説一切有部）の思想（2）	ダルマの体系（2）： 有為ダルマの二性質
第 4 回	部派仏教（説一切有部）の思想（3）	物質論 原子（極微）論
第 5 回	部派仏教（説一切有部）の思想（4）	仏教がとらえる内的世界（心・心作用） 心作用の区分け（6心所）
第 6 回	仏教の世界観	『倶舎論』が説く世界観 大乗仏教の世界観
第 7 回	大乗仏教（1）	大乗仏教の教理的特徴
第 8 回	大乗仏教（2）	大乗諸経典 『般若経』の空思想
第 9 回	大乗仏教（3）	ナーガールジュナの哲学 二真理説 空・仮・中
第 10 回	大乗仏教（4）	縁起の思想（1） 外縁起・内縁起 『入楞伽経』 『稲芊経』
第 11 回	大乗仏教（5）	縁起の思想（2） 縁起二種観察法 『稲芊経』・『稲芊経註』
第 12 回	大乗仏教（6）	大乗仏教・後期中観思想の人生観
第 13 回	大乗仏教（7）	修道階梯 哲学思想の序列化 一乗思想
第 14 回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前学習：テキスト・プリント資料の精読、発表の準備（演習・課題担当者）
授業後学習：参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】
テキスト・資料はプリントで配布する。

【参考書】
佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか　アビダルマ仏教の科学的世界観』、Dojin 選書、２０１３年
桜部健・上山春平著『仏教の思想２　存在の分析＜アビダルマ＞』、角川ソフィア文庫、１９９６年
その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内筆記試験の成績（７０％）、授業での発表内容・質疑応答（１５％）、平常点（１５％）
学期末筆記試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解をためす問題を出す予定。
試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠でもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによる。

【学生の意見等からの気づき】
インド本来の大乗仏教思想を学び、その人生観等に新鮮な驚きを感じる学生が多いようでした。

【Outline and objectives】
This is a course to learn Indian Hinayana (ZrAvakayAna) Buddhism and Mahayana (BodhisattvayAna) Buddhism.
The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.

PHL300LA

行為の理論 A

2017 年度以降入学者

山口　誠一

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代日本文明の課題は、クリエーティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米的合理主義は、自己創造的なライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで行為の自己創造性の根源への道を考察します。

【到達目標】
学生はインパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組合わせながら、講義を受けることができます。また、高画質のＤＶＤ動画の投射により学習もできます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半は授業時間帯にとらわれないオンラインでの開講となります。それにともなう各回授業計画変更は学習支援システムでその都度お知らせします。この授業の開始日は 5 月 7 日として、4 月 23 日
までに具体的なオンライン授業の方法などのオリエンテーションを学習支援システムでお知らせします。
インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のＤＶＤ動画の投射も実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	スライド形式による授業内容紹介
第 2 回	序論	自己をクリエートする２１世紀精神へ
第 3 回	Ⅰ 行為の構造	合理主義的行為論
第 4 回	Ⅱ 自己表現としての行為	ヘーゲルの自己表現論
第 5 回	Ⅲ 行為の根源	《自己決定と不可避の行為とは両立するか？》
第 6 回	Ⅲ 行為の根源	《善を知っているのに悪を行うとは？》
第 7 回	Ⅲ 行為の根源	《行為は始める前に生ずる》
第 8 回	Ⅲ 行為の根源	《行為には骨（こつ）がある》
第 9 回	Ⅲ 行為の根源	《行為の失敗こそ大切である》
第 10 回	Ⅲ 行為の根源	《体で動かずに心で動く》
第 11 回	Ⅲ 行為の根源	《どうあってもよい行為とは？》
第 12 回	Ⅲ 行為の根源	《意図を超えて因果はめぐる》

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムで受講者に配布します。

【参考書】
毎回の授業で紹介します。山口誠一著『クリエートする哲学―新行為論入門―』（弘文堂）など。

【成績評価の方法と基準】
セメスター末試験を基準 (70%) として、小レポート (15%) と出席回数 (15%) も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】
映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】
ＰＣ接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline and objectives】
The aim of this course is to provide students with an essential understanding of selfcreation of our life style, with texts drawn from English, German and Japanese.

PHL300LA

行為の理論 B

2017 年度以降入学者

山口　誠一

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代日本文明の課題は、クリエーティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米的合理主義は、クリエーティブなライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで科学技術によってますます高度化する現代情報消費社会で追究されるべき行為の創造性を主にニーチェの行為論を手がかりに考察します。

【到達目標】
合理主義的行為を再検討し、＜クリエーティブな行為＞を解明できます。なお、その際、米国のネオプラグマティズム最新動向も検討します。また、現代文明の預言者ニーチェの思想をてがかりにしながら、広い視野から深く考察できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のＤＶＤ動画の投射も実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ニーチェの行為論	スライド形式による授業内容紹介
第 2 回	自己をクリエートする行為とは？	ヘーゲルからニーチェへの展開を通して自己創造を解明する。
第 3 回	動機なき行為とは	フランスの思想家カミュの『異邦人』を映画で鑑賞しながら行為の動機を相対化する。
第 4 回	行為の意図・動機への疑念	ニーチェによる合理主義的行為批判を紹介する。
第 5 回	身体自己と目的意識との関係	権力への意志としての身体自己を解明する。
第 6 回	しくじり行為	フロイトの精神分析を手がかりに行為の身体自己の無意識性を解明する。
第 7 回	「大きな理性」としての身体自己	身体自己が意識に命令して行為が現実化することを解明する。
第 8 回	目的論の相対化	作用原因としての身体自己を解明する。
第 9 回	道徳的責任からの解放	無垢な人間のライフスタイルを解明する。
第 10 回	自己創造としての行為	作用原因としての身体自己による創造的行為を解明する。
第 11 回	自己創造としての弁証法的対話	対話を通して対話者の新たな自己が創造されてゆくメカニズムを解明する。
第 12	幻影・仮象に生きる	幻影・仮象による自己創造がネーミングに到ることを解明する。
第 13 回	自己創造としての変身	ネーミングによる変身が自己創造であることを解明する。
第 14 回	まとめ	行為の理論 B の総括・授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示します。

【参考書】
毎回の授業で紹介します。拙著『ニーチェとヘーゲル』(法政大学出版局)

【成績評価の方法と基準】
セメスター末試験を基準 (70%) として、小レポート (15%) と出席回数 (15%) も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】
映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】
ＰＣ接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline and objectives】
The aim of this course is to provide students with an essential understanding of Nietzsche's selfcreation of our life style, with texts drawn from English, German and Japanese.

PHL300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**愛の労働――「ケアの倫理」の行方 (1)**

森村　修

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、2018 年度から「教養ゼミ」の一つとして、「現代思想 A」という名のもとに新たに始まった科目である。本授業は、秋学期同一科目の「教養ゼミ II」「現代思想 B」と密接な関係にある。半期科目ではあるが、授業内容 としては通年でひとつのテーマに基づいて、テーマに即したテキストをゆっくり精読しながら、思想家・哲学者の思考を学び、さらにそこから自らの哲学的思考に磨きをかけていくことを目指す。
2020 年度は、「愛の労働――「ケアの倫理」の行方」というテーマで、エヴァ・フェダー・キテイの『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』（1999）を精読していく。キテイはニューヨーク州立大学ストーニー・ブルック校哲学科教授であり、フェミニズム倫理学の専門家である。また彼女は、障がいをもつ娘の母親でもあり、自分の経験を「ケアの倫理」にも反映させている。
キテイの哲学を学ぶことによって、私たちが誰かに依存していかなければならないことにどのような意味があるかを考えていく。

【到達目標】
（1）キテイの思想を理解することで、「ケア労働」の哲学的な意味について考えることができる。
（2）21 世紀を生きる私たちにとって、「哲学する」ことがいかに重要であるかを学ぶことができる。
（3）哲学的思考を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
【授業の概要】
本授業では、キテイの『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』を精読する。
【授業の方法】
「教養ゼミ」という名称に基づき、基本的に「演習 (ゼミ) 形式」の授業を行う。毎回、担当者を決めて、テキストの担当箇所の読解とコメントをレジュメにして発表し、それに基づいて、教員ならびに受講者によって議論を行なう。
【授業開始日】
４月２７日（月）２時限（10:40-12:20）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本科目の意図の説明など
2	序章　逃げていく平等	・担当者の発表と議論 ・フェミニストによる平等批判
3	第一部　愛の労働 第 1 章　依存と平等との関係	・担当者の発表と議論 ・「お母さんの子どもである」ということ
4	第 1 章　依存と平等との関係 (2)	・担当者の発表と議論 ・人間の条件としての平等
5	第 2 章　脆弱性と依存関係の道徳 (1)	・担当者の発表と議論 ・依存労働者の透明な自己
6	第 2 章　脆弱性と依存関係の道徳 (2)	・担当者の発表と議論 ・依存労働者の道徳的義務とケアの倫理
7	第二部　政治的リベラリズムと人間の依存 第 3 章　平等の前提 (1)	・担当者の発表と議論 ・秩序だった社会のための正義の環境
8	第 3 章　平等の前提 (2)	・担当者の発表と議論 ・「すべての市民は十分に協働しうる構成員」という理念化
9	第 4 章　社会的協働の恩恵と負担 (1)	・担当者の発表と議論 ・道徳的人格が持つ二つの能力と基本財のリスト
10	第 4 章　社会的協働の恩恵と負担 (2)	・担当者の発表と議論 ・社会的協働という公共的構想
11	第三部　みな誰かお母さんの子どもである 第 5 章　政策とケアの公的倫理 (1)	・担当者の発表と議論 ・福祉改悪
12	第 5 章　制作とケアの公的倫理 (2)	・担当者の発表と議論 ・福祉の正当化
13	第 6 章　「私のやり方じゃなくて、あなたのやり方でやればいい」	・担当者の発表と議論 ・母親業を可能にする条件
14	第 7 章　違いのある子供への母的思考 ・総括	・担当者の発表と議論 ・生命を保護する愛

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・担当者は事前にレジュメを作成し、担当教員にメールに添付して送付しておくこと。
・担当者以外の受講者は事前にテキストを読んでおくこと。
・本授業の準備学修・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
エヴァ・フェダー・キテイ『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』、現代書館、2010 年
Eva Feder Kitty, Love's Labor: Essays on Women, Equality, and Dependency, Routledge, 1999.

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
・レポート（50 %）
・平常点（50 %）
※要注意【変更】
春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
初回授業日に、その時点での成績評価の方針について、「学習支援システム」で受講者に通知する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
・本科目は、哲学的思考の訓練の場であることを銘記すること。自分でいろいろと考えることが哲学の初歩である。
・本科目は、ILAC 科目「倫理学 L Ⅰ・L Ⅱ」と深い関係がある。「倫理学 L」では、「ケアと正義の倫理」を多角的に扱っている。

【受講上の注意】
本授業は、定員 (30 名) が決められている。初回の授業で、受講予定者が多 い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。初回の試験を未 受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline and objectives】
This class aims to examine various aspects of various cultures as philosophical problems from the viewpoint of the "informatics of culture".

In 2020, we will read Eva Feder Kittay's "Love's Labor: Essays on Women, Equality, and Dependency," on the theme of "Love's Labor: The Future of Ethics of Care". Kittay is a professor of philosophy at State University of New York at Stony Brook and a specialist in feminist ethics. She also has a daughter with a disability. She reflects her experience on "ethics of care." By learning Kittay's philosophy, we consider what it means to have to depend on someone.

PHL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**「共依存」の倫理――「ケアの倫理」の行方」(2)**

森村　修

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**
2～4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、2018 年度から「教養ゼミ」の一つとして、「現代思想 A」という名のもとに新たに始まった科目である。本授業は、秋学期同一科目の「教養ゼミ II」「現代思想 B」と密接な関係にある。半期科目ではあるが、授業内容 としては通年でひとつのテーマに基づいて、テーマに即したテキストをゆっくり精読しながら、思想家・哲学者の思考を学び、さらにそこから自らの哲学的思考に磨きをかけていくことを目指す。

2020 年度秋学期は、小西真理子の『共依存の倫理――必要とされることを渇望する人びと』（2017）を精読していく。小西は、「共依存」の関係が否定的に捉えられてきた点を批判し、そこに幸福への可能性を見出そうとする。この点を踏まえて、本授業では「ケア」と「共依存」の関係について検討する。

【到達目標】
（1）「共依存」の心理的側面だけでなく、哲学的・倫理学的側面があることを学ぶことができる。
（2）哲学的思考を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
【授業の概要】
本授業では、キテイの『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』と小西の『共依存の倫理』を精読する。
【授業の方法】
「教養ゼミ」という名称に基づき、基本的に「演習 (ゼミ) 形式」の授業を行う。毎回、担当者を決めて、テキストの担当箇所の読解とコメントをレジュメにして発表し、それに基づいて、教員ならびに受講者によって議論を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本科目の意図の説明など
2	序章　共依存という生き方	・担当者の発表と議論 ・共依存とは？
3	第一部　共依存の概念史 第 1 章　共依存概念の誕生史 (1)	・担当者の発表と議論 1 共依存の前史
4	第 1 章　共依存概念の誕生史 (2)	・担当者の発表と議論 2 共依存の誕生
5	第 2 章　共依存の病理化 (1)	・担当者の発表と議論 1 共依存症
6	第 2 章　共依存の病理化 (1)	・担当者の発表と議論 2　共依存関係
7	第 2 章　共依存の病理化 (2)	・担当者の発表と議論 3 共依存病理の両義性

8	第 3 章　共依存と精神分析 (1)	・担当者の発表と議論 1　共依存概念の誕生に影響を与えた精神分析論
9	第 3 章　共依存と精神分析 (2)	・担当者の発表と議論 2　共依存言説において引用される精神分析理論
10	第二部　共依存の理論とその倫理観 第 4 章　共依存とフェミニズム (1)	・担当者の発表と議論 1 ラディカルフェミニズムからの批判
11	第 4 章　共依存とフェミニズム (2)	・担当者の発表と議論 2 フェミニスト心理学からの批判
12	第 5 章　共依存とトラウマ論 (1)	・担当者の発表と議論 1 共依存とアダルトチルドレン
13	第 5 章　共依存とトラウマ論 (2)	・担当者の発表と議論 ・共依存のトラウマ論
14	第 6 章　共依存の回復論 終章　「異常者」という「忘れられた存在総括	・まとめ ・回復者の統治

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・担当者は事前にレジュメを作成し、担当教員にメールに添付して送付しておくこと。
・担当者以外の受講者は事前にテキストを読んでおくこと。
・本授業の準備学修・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
小西真理子『共依存の倫理――必要とされることを渇望する人びと』、晃洋書房、2017 年

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
・レポート（50 %）
・平常点（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
・本科目は、哲学的思考の訓練の場であることを銘記すること。自分でいろいろと考えることが哲学の初歩である。
・本科目は、ILAC 科目「倫理学 L Ⅰ・L Ⅱ」と深い関係がある。「倫理学 L」では、「ケアと正義の倫理」を多角的に扱っている。

【受講上の注意】
本授業は、定員 (30 名) が決められている。初回の授業で、受講予定者が多 い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。初回の試験を未 受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline and objectives】
This class aims to examine various aspects of various cultures as philosophical problems from the viewpoint of the "informatics of culture".
In the fall semester of 2020, we will read carefully Mariko Konishi's "Ethics of Co-dependence: People who crave for what is needed" (2017). Konishi criticizes the negative relationship of "co-dependence" and seeks to discover the potential for happiness in the "co-dependence" relationship. Based on this point, this class will examine the relationship between "care" and "co-dependence".

HIS300LA

中国の民族と文化Ａ

2017 年度以降入学者

齋藤　勝

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月 2**/Mon.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】
漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を行っていく。なお、秋学期の「中国の民族と文化Ｂ」は春学期の学習を前提に授業を進めていく。
昨今の情勢のため、授業は学習支援システムかメールを用いて行っていきます。学習支援システムと大学の割り当てたアドレス宛てのメールをこまめに確認するようにしてください。授業開始日は 4 月 27 日になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第 2 回	漢文の基礎 (1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第 3 回	漢文の基礎 (2)	否定・可能
第 4 回	漢文の基礎 (3)	使役・受身
第 5 回	漢文の基礎 (4)	疑問・反語
第 6 回	漢文の基礎 (5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第 7 回	漢文史料から見る歴史 (1)	『史記』の描く春秋時代
第 8 回	漢文史料から見る歴史 (2)	『史記』の描く戦国時代
第 9 回	漢文史料から見る歴史 (3)	『史記』の描く前漢時代
第 10 回	漢文史料から見る歴史 (4)	『後漢書』の描く後漢時代
第 11 回	漢文史料から見る歴史 (5)	『三国志』の描く魏
第 12 回	漢文史料から見る歴史 (6)	『三国志』の描く呉
第 13 回	漢文史料から見る歴史 (7)	『三国志』の描く蜀
第 14 回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008 年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000 年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999 年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】
試験 100 %
試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline and objectives】
Outline:Studying ancient Chinese language and reading ancient Chinese texts
Oblectives:Understanding the history and the culture of China

HIS300LA

中国の民族と文化Ｂ

2017 年度以降入学者

齋藤　勝

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月 2**/Mon.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】
漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。なお、秋学期には比較的長い文章の読解を行っていくが、春学期の「中国の民族と文化 A」の履修を前提として授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	漢民族の思想 (1)	『論語』と儒家
第 2 回	漢民族の思想 (2)	『論語』と政治
第 3 回	漢民族の思想 (3)	『孟子』と国家
第 4 回	漢民族の思想 (4)	『孟子』と性善説
第 5 回	漢民族の思想 (5)	『荀子』と性悪説
第 6 回	漢民族の思想 (6)	『荀子』と学問
第 7 回	漢民族の思想 (7)	『韓非子』と法家
第 8 回	漢民族の思想 (8)	『韓非子』と秦
第 9 回	儒家思想と政治の展開 (1)	唐の太宗と『貞観政要』
第 10 回	儒家思想と政治の展開 (2)	王安石と宋学
第 11 回	儒家思想と民族・学問 (1)	朱子学と歴史学
第 12 回	儒家思想と民族・学問 (2)	顧炎武の人生と明清交替
第 13 回	儒家思想と民族・学問 (3)	顧炎武の学問と国家観
第 14 回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008 年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000 年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999 年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】
試験 100 %
試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline and objectives】
Outline:Studying ancient Chinese language and reading ancient Chinese texts
Oblectives:Understanding the history and the culture of China

HIS300LA

古代日本･中国の法と社会Ａ

2017 年度以降入学者

岡野　浩二

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

【到達目標】
日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は５月８日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舎利・塔・仏像を備えた寺院の成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点と相違点の考察
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】
速水侑『日本仏教史　古代』（吉川弘文館、1986 年）
末木文美士編『新アジア仏教史　11 日本 1　日本仏教の礎』（佼成出版社、2010 年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018 年）
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法藏館、2017 年）
藤善眞澄『中国仏教史研究』（法藏館、2013 年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985 年）

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。（2）疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline and objectives】
Comparative study of ancient nations and society between Japan and China using temples

HIS300LA

古代日本･中国の法と社会Ｂ

2017 年度以降入学者

岡野　浩二

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代の日本と唐における仏教者による社会事業について比較研究する。（1）唐の悲田養病坊、（2）唐で学んだ日本の留学僧、唐から来日した僧、唐の影響を受けた日本の為政者、（3）日本の悲田院とそれに類する施設を取り上げて説明する。

【到達目標】
古代の日本・唐において、僧尼や為政者が行った困窮者の救済事業、橋梁・宿泊施設など交通の整備などの社会事業の実情について理解する。また日本と唐でどのような継承関係や相違点があるのかを考える。そしてその内容を自身の文章で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	仏教と社会福祉事業の歴史、古代の日中関係の概観
2	道昭	入唐と玄奘への師事、帰国後の架橋と港の整備
3	行基	布施屋の設置
4	光明皇后	悲田院・施薬院の設置
5	鑑真	悲田と敬田、揚州での無捨大会
6	鑑真の関係者	普照の道路への果樹栽種提言、道忠の関東での布教
7	最澄	東国での布教、美濃での宿泊施設設置
8	空海	讃岐国満濃池の修築
9	則天武后	悲田養病坊の設置
10	武宗	廃仏と悲田養病坊のゆくえ
11	平安京の悲田院	平安時代の悲田院の活動と矛盾
12	地方の医療救済施設	武蔵・相模・筑前等の社会施設
13	日本と唐の社会事業の比較	日本・唐の類似点と相違点
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】
新村拓『日本医療社会史の研究』（法政大学出版局、1985 年）
林陸朗『光明皇后』（吉川弘文館、1961 年）
石田瑞麿『鑑真』（大蔵出版、1974 年）
速水侑編『行基』（吉川弘文館、2004 年）

道端良秀『唐代仏教史の研究』（法蔵館、1957 年）
追塩千尋『国分寺の中世的展開』（吉川弘文館、1996 年）
勝浦令子「七・八世紀の仏教社会救済活動」（『史論』54 集、2003 年）

【成績評価の方法と基準】
①最終回の試験（50 %）、②レポート（授業時に指示する）（50 %）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。（2）疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline and objectives】
A comparative study of social services by Buddhists in Japan and the Tang Dynasty

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 A　2017 年度以降入学者

新崎　盛吾

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今も多くの米軍基地を抱える沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策やアジア・太平洋島嶼との関係、辺野古の新基地建設に反対する民意のあり方などについて学びます。沖縄は太平洋戦争で、県民の４人に１人が犠牲になる日本で最も過酷な被害を受け、１９７２年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれました。戦前は南方の島々などに、多くの移民を送り出した歴史もあります。沖縄について学ぶことは、アジア・太平洋島嶼と日本の関係を理解するためにも役立つでしょう。

【到達目標】
・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、そこに至るまでの歴史的経緯を知る。
・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意が、どのように形成されてきたのかを理解する。
・琉球王国時代のアジア各国との関係や多くの移民を送り出した戦前の暮らし、戦時中の被害の実態などを知る。
・沖縄の現状を通して、米国だけでなく韓国、北朝鮮、中国などアジアの国々、太平洋島嶼と日本との関係を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
【４月１６日追記】
コロナ対応に鑑み、当面の授業は、オンライン会議システムの「Ｚｏｏｍ」を使ったミーティングで実施します。
本来の授業時間である火曜日４時限の時間帯に合わせてミーティングを設定し、学習支援システムのお知らせで招待状を表示しますので、学生は各自で対応願います。
授業開始は４月２８日（火）としますが、練習も兼ねて４月２１日（火）にもミーティングを設定します。できるだけ参加するように心掛けてください。２１日はシステムへの習熟が目的ですので、出欠を含めて成績評価とは無関係です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	沖縄の置かれた現状、日本政府との関係、独自の文化、歴史的背景などの概説【授業全体の流れを説明】
2	沖縄の現状①基地	米軍基地の現状、なぜ辺野古への基地建設反対の民意が生まれるのか
3	沖縄の現状②経済	沖縄経済は米軍基地に依存しているのか。観光業の実態は
4	沖縄の現状③政治	基地反対の強い民意が生まれ、自民党が苦戦する政治情勢はいかにつくられたのか
5	グループディスカッションなど【振り返り】	沖縄の現状への理解度を確認する

6	沖縄の歴史①沖縄戦	県民の４人に１人が命を落とした戦争被害の実態、本土決戦の捨て石とされた背景
7	沖縄の歴史②琉球王国から沖縄県へ	琉球王国時代から、多くの移民を送り出すようになった戦前まで
8	沖縄の歴史③戦後の復興と米施政下の時代	過酷な戦争被害から沖縄はどのように復興したのか。米軍施政下の人々の暮らしは
9	沖縄の歴史④日本復帰への思い	米軍施政下から起きた日本への復帰運動
10	沖縄の歴史⑤復帰後の沖縄	沖縄県民が望んだはずの復帰への期待と失望
11	沖縄の歴史⑥復帰から現代まで	沖縄の基地返還運動と観光を柱とした経済発展
12	沖縄の歴史⑦まとめ	沖縄はどのような道を歩んで現在の状況に至ったか
13	グループディスカッションなど【振り返り】	沖縄の現状や歴史の理解度を確認する
14	沖縄の現状と歴史【総括】	授業内容全体を踏まえた上で、今年前半の沖縄関係のニュースを取り上げて解説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、受講生の関心に応じて授業時に紹介することもある。

【参考書】
・「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Ｑ＆ＡＢｏｏｋ」沖縄県発行
http://dc-office.org/wp-content/uploads/2017/04/QA20170406.pdf
・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、２０１６年
・『私の沖縄現代史』新崎盛暉著、岩波現代文庫、２０１７年

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの提出、アクティブラーニングへの参加度（４０％）
期末レポート（６０％）
指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】
本年度が初めての担当であるため情報なし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
共同通信の社会部系記者として約３０年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、沖縄の現状を通じて見えてくる日本の政治や外交のあり方を提示したいと考えています。
２０１４年から１６年まで「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、そのころからメディア業界に就職を希望する学生への支援活動に取り組んできました。最近では、日本と韓国のジャーナリストを目指す学生が互いの国を訪問して交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に２回）の実行委員や、田中優子総長が編集委員を務める「週刊金曜日」と連携してジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）の事務局長を務めています。大学での授業は初めてですが上記の経験を生かしつつ、記者ならではの視点を皆さんにお伝えしたいと思います。
【その他の注意事項】
①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。
②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホや PC の使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。
③本授業は「アジア・太平洋島嶼国際関係史 B」の前提授業となるため、B を受講予定の学生には本授業の受講を強く推奨する。

【Outline and objectives】
Through the current status and history of Okinawa, which still has many US military bases, we will learn about Japan's security policy, its relations with the Asian and Pacific islands, and the willingness to oppose the construction of a new base in Henoko. Okinawa suffered the worst damage in Japan in the Pacific War, killing one in four residents, and was under US administration until it returned to Japan in 1972. Before the war, there was a history of sending many immigrants to the southern islands. Learning about Okinawa will help you understand the relationship between Asia and the Pacific Islands and Japan.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史Ｂ　2017 年度以降入学者

新崎　盛吾

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「アジア・太平洋島嶼国際関係史Ａ」で学んだ沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策やアジア各国・太平洋島嶼との関係、ジャーナリズムのあり方などについて、さらに学びを深めます。太平洋戦争で県民の４人に１人が犠牲になる過酷な被害を受け、日本に復帰するまで２７年間も米国の施政下に置かれた沖縄の姿からは、日本の安全保障問題、アジア各国・太平洋島嶼との関係性などが垣間見えます。地元の新聞と全国紙の報道の違いなど、メディアの姿勢にも特徴があります。現在の沖縄が置かれた状況を学ぶことで、日本が進むべき道が見えてくると思います。

【到達目標】
・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、そこに至るまでの歴史的経緯を知る。
・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意が、どのように形成されてきたのかを理解する。
・沖縄の現状を通して、米国だけでなく韓国、北朝鮮、中国などアジアの国々、太平洋島嶼と日本との関係を理解する。
・沖縄を報道するメディアの姿勢を通じて、ジャーナリズムのあるべき姿や役割を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義を中心に、グループディスカッションを行う。
各講義ごとにリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「アジア・太平洋島嶼国際関係史Ａ」で学んだ沖縄の現状や歴史を振り返る【授業全体の流れを説明】
2	メディアの役割①沖縄の地元紙	地元紙の沖縄タイムスと琉球新報は、米軍基地の問題をどのように報じているのか。全国紙との違いは何か
3	メディアの役割②戦争とメディア	戦時中に戦争賛美や翼賛報道に加担したメデイアの歴史を学ぶ
4	グループディスカッション【振り返り】	沖縄の現状と報道のメディアの役割
5	沖縄とアジアの国々①韓国	在韓米軍という形で、沖縄と同様に基地を抱える韓国の状況を学ぶ
6	沖縄とアジアの国々②米国	国際情勢の中で、日米韓の関係は、どのような役割を果たしているのか
7	沖縄とアジアの国々③中国	米国と対抗するまでに存在感を増した中国の海洋開発や国際戦略の意図は何か
8	沖縄とアジアの国々④北朝鮮	北朝鮮は近くて遠い国。なぜミサイルを飛ばすのか。人々の暮らしは。ベールに包まれた国の実状を学ぶ
9	グループディスカッション【振り返り】	アジア各国と日本は、どのような関係性を保つべきか
10	未解決の課題①従軍慰安婦	沖縄には戦時中、朝鮮半島から連れてこられた慰安婦がいた。証言を基に、今も議論が続く慰安婦問題を学ぶ
11	未解決の課題②徴用工	沖縄には戦時中、朝鮮半島から労働力として徴用された人々がいた。日韓で未決着の補償問題の本質は何か
12	未解決の課題③在日韓国・朝鮮人とヘイトスピーチ	日本人の差別意識の根底にあるのは何か。在日朝鮮人や沖縄に対するヘイトスピーチの現状と課題を学ぶ
13	グループディスカッション【振り返り】	未解決の課題への取り組みについて議論する
14	アジア・太平洋島嶼の沖縄と日本【総括】	さまざまな課題や外交から見える沖縄と日本の関係を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、受講生の関心に応じて授業時に紹介することもある。

【参考書】
・「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Ｑ＆ＡＢｏｏｋ」沖縄県発行
http://dc-office.org/wp-content/uploads/2017/04/QA20170406.pdf
・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、２０１６年
・『私の沖縄現代史』新崎盛暉著、岩波現代文庫、２０１７年

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの提出、アクティブラーニングへの参加度（４０％）
期末レポート（６０％）
指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】
本年度が初めての担当であるため情報なし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
共同通信の社会部系記者として約３０年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、沖縄の現状を通じて見えてくる日本の政治や外交のあり方を提示したいと考えています。
２０１４年から１６年まで「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、そのころからメディア業界への就職を希望する学生への支援活動に取り組んできました。最近では、日本と韓国のジャーナリストを目指す学生が互いの国を訪問して交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に２回）の実行委員や、田中優子総長が編集委員を務める「週刊金曜日」と連携してジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）の事務局長を務めています。
大学での授業は初めてですが、上記の経験を生かしつつ、記者ならではの視点を皆さんにお伝えしたいと思います。
【その他の注意事項】
①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。
②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホや PC の使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。

【Outline and objectives】
Through the current status and history of Okinawa learned in " International History of Asia and Pacific Islands A", we will further deepen the study of Japan's security policy, relations with Asian countries and Pacific islands, and journalism. Okinawa was severely damaged in the Pacific War, killing one in four residents, and was under US administration for 27 years before returning to Japan. This gives a glimpse into Japan's security issues and its relationship with Asian countries and Pacific islands. There is also a distinctive media attitude, such as the differences between local newspapers and national newspapers. By learning about the current situation of Okinawa, we can think Japan will have a better way to go.

HIS300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**在日朝鮮人の歴史 A**

神谷　丹路

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金 2/Fri.2**
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住み、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】
文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的な流れは、以下の通りである。
ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために, 随時, 映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン
3	第 1 章：在日朝鮮人世界の形成。1〜3（併合前から関東大震災まで）	学生によるテキストの報告、映像
4	第 1 章：在日朝鮮人社会の形成。4〜6（植民地支配と日本への定着化）	学生によるテキストの報告、映像
5	第 2 章：協和会体制と戦争動員。1〜3（世界恐慌期の渡航・移民。協和会）	学生によるテキストの報告、映像
6	第 2 章：協和会体制と戦争動員 4〜5（強制連行、強制労働）	学生によるテキストの報告、映像

7	フィールドワーク	「在日朝鮮人歴史資料館」見学
8	第 3 章：戦後在日朝鮮人社会の形成 1（戦後在日朝鮮人の出発）	学生によるテキストの報告、映像
9	第 3 章：戦後在日朝鮮人社会の形成 2，3（占領政策、朝鮮戦争と在日朝鮮人）	学生によるテキストの報告、映像
10	第 3 章：戦後在日朝鮮人社会の形成 4（帰国運動）	学生によるテキストの報告、映像
11	第 4 章： 2 世たちの模索 1（日韓会談と在日社会）	学生によるテキストの報告、映像
12	第 4 章： 2 世たちの模索 2 ～ 4（在日社会の変容）	学生によるテキストの報告、映像
13	終章：グローバル化の中の在日朝鮮人	学生によるテキストの報告、映像
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
水野直樹・文京洙『在日朝鮮人　歴史と現在』（岩波新書）860 円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】
授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。輪読資料の精読、質問や意見の表明、課題などで、総合評価する方針。

【学生の意見等からの気づき】
共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】
秋学期に開講される教養ゼミ「在日朝鮮人の歴史Ｂ」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に活きてきて、理解が深く広がります。

【Outline and objectives】
This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved. The aim of this course is to learn them and understand their existence deeply.

HIS300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**在日朝鮮人の歴史 B**

神谷　丹路

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**2 単位**
2～4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住み、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。春学期開講の「在日朝鮮人の歴史Ａ」を履修していることが望ましい。

【到達目標】
文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。総合科目なので、受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在、ひいては地球規模で展開するさまざまなコリアンの姿について、春学期に学習した基礎事項をもとに、テキストの内容をレポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。グローバル時代のコリアン活躍と苦悩は、日本を照らす鏡でもある。春学期よりも、さらに掘り下げた内容の報告と討論を行っていく。理解を補う補助資料として、随時、映像資料も視聴しながら進める。参加型授業である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアンと芸能界、スポーツ界のニューヒーローたち	学生によるテキストの報告、映像
3	在日コリアンと焼き肉文化	学生によるテキストの報告、映像
4	在日コリアンの民族教育	学生によるテキストの報告、映像
5	フィールドワーク	二八独立宣言記念碑、韓国 YMCA
6	在日コリアンとパチンコ産業	学生によるテキストの報告、映像
7	在米コリアンの社会史	学生によるテキストの報告、映像
8	ベトナム戦争とコリアン	学生によるテキストの報告、映像
9	まとめ①	映像（1）
10	済州島と在日コリアン	学生によるテキストの報告、映像
11	大震災と在日コリアン	学生によるテキストの報告、映像

12	在日コリアンとスポーツ選手	学生によるテキストの報告、映像
13	まとめ②	映像（2）
14	まとめの討論	在日コリアンの将来と日本社会の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナをよく張ってこくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
野村進『コリアン世界の旅』（講談社文庫）885 円。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】
授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】
討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・期末レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】
共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】
春学期に開講される「在日朝鮮人の歴史A」とともに履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の濁集に生きてきて、理解が深く広がります。

【Outline and objectives】
This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved. The aim of this course is to learn them and understand their existence deeply.

GDR300LA

クィア・スタディーズ A

2017 年度以降入学者

岩川　ありさ

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木 5**/Thu.5
単位数：**2 単位**
2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【4/16 更新】この授業では、性、身体、欲望の規範的なあり方を問うクィア・スタディーズの基礎的な知識について学び、普段の生活の中で「あたりまえ」のようにして触れているジェンダー、セクシュアリティをめぐる様々な事象を批判的に分析するための視座を身につける。各回では、フェミニズムやレズビアン／ゲイ・スタディーズとクィア・スタディーズの繋がりについてまとめ、ヘテロセクシズム、性暴力、オルタナティヴな家族といった重要なトピックを歴史的・社会的な文脈の中で考える力を培う。

【到達目標】
1、クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
2、普段から何気なく触れている社会現象や表象を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
4/23 授業開始です。Youtube の限定公開やパワーポイントなどを用いて講義形式で進めます。学習支援システムから課題やテスト/アンケートの提出が求められます。受講時には、講義を行なっているサイト、レジュメ PDF、学習支援システムにアクセスできるようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	4/23 イントロダクション	【講義あり】ジェンダー、セクシュアリティという概念について説明します。 ・課題 ウィスパーの映像「【Whisper】Rewite the Rules」2014 年 11 月 13 日公開（https://youtu.be/-VlzSuot9h0）を見て、考えたことを 600 文字程度でまとめ、学習支援システムの「課題」から提出してください。5/4(月)23:55 締め切りです。(5 点)
第 2 回	5/7 クィア・スタディーズ (1)	【講義あり】ホモファイル運動、レズビアン・ゲイの解放運動、ゲイ・ライツ・ムーブメント、エイズ危機、2000 年代までの歴史的経緯について整理する。 ・課題 今回の講義を聞いて考えたことを 600 文字程度でまとめ、学習支援システムの「課題」から提出してください。5/11(月)23:55 締め切りです。(5 点)

第 3 回	5/14 クィア・スタディーズ (2)	【講義あり】演説と論文を読む。 ・課題 2011 年 12 月 6 日に、当時のアメリカ合衆国の国務長官ヒラリー・クリントンが国連で国際人権週間に LGBT をめぐる演説（https://youtu.be/UHxjE_lqbEo）を行いました。一方では、批判もあります。動画を見、以下の論文を読み、筆者の川坂の論旨を 400-600 文字程度でまとめてください。その上で、自分の意見を書いてください。400-800 文字程度。学習支援システムから 5/25(月)23:55 までに提出。(20 点) ・川坂和義「アメリカ化される LGBT の人権:「ゲイの権利は人権である」」『Gender and Sexuality : Journal of the Center for Gender Studies,』 ICU (8),pp.5-28, 2013 http://subsite.icu.ac.jp/cgs/docs/CGS_JNL08_01_kawasaka.pdf ＊質問は学習支援システムの掲示板から寄せてください。
第 4 回	5/21 クィア・スタディーズ (3)	【講義はありません。前回の課題をしてください。】
第 5 回	5/28 トランスジェンダーとシスジェンダー	【講義あり】トランスジェンダーとシスジェンダー　トランスジェンダーとシスジェンダーという概念について整理し、性同一性障害との違いについて学びます。また、性別二元論やジェンダー規範について問う視座について紹介する。 ・課題 「トランスジェンダーとして生きること」7 歳の少女と母親の本音トーク。| VOGUE JAPAN（https://youtu.be/e5DqR7fU2rk）を見て、考えたことを書いてください。800 文字程度。学習支援システムから 615/(月)23:55 までに提出。（10 点）
第 6 回	6/4 ジェンダーの表象 (1)	【講義はありません。課題にとりくんでください。】 ・課題 これまで学んだことをもとにして、ジェンダーに関連していると思う作品（映画、アニメーション、マンガ、小説など）やニュースを選び、その作品について自分が考えたことについてレポートを作成してください。1,200-1,800 文字程度。学習支援システムから 6/15(月)23:55 までに提出。(20 点)
第 7 回	6/11	【講義はありません。前回の課題をしてください。】
第 8 回	6/18 生命をめぐる倫理 (1)	【講義あり】優生思想、優生保護法の歴史について学びます。 ・課題 次の藤井克徳さんへのインタビュー動画を見、熊谷晋一郎さんさんへのインタビュー記事（2 本）を読み、優生思想について、それが起こらない社会を作るために何ができるか書いてください。1,200 文字― 2,000 文字程度。7/6(月)23:55 締め切り。（20 点） ・インタビューズ （2016 年 7 月 27 日） 藤井克徳氏（日本障害者協議会代表）「障害者に安楽死を」はナチスの優生思想そのもの・障害者団体の代表が社会の風潮に懸念を表明（https://youtu.be/THdB2n_igOM 2016 年 7 月 28 日） ・「相模原障害者施設殺傷事件 第 2 回 熊谷晋一郎さんインタビュー」（NHK E テレ　ハートネット https://www.nhk.or.jp/hearttv-blog/3400/251180.html ・「自分の中の優生思想に気づいたら、どうすべきか？」安田菜津紀が相模原事件の判決を前に問う」（熊谷晋一郎インタビュー、聞き手・安田菜津紀。Huffpost 2020 年 3 月 14 日） https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_5e6b53ccc5b6dda30fc6ef25
第 9 回	6/25 生命をめぐる倫理 (2)	【講義はありません。前回の課題をしてください。】
第 10 回	7/2 性暴力とトラウマ (1)	【講義あり】性暴力とトラウマについて学びます。 課題 NHK「【特集】性暴力はいま」をすべて読み、考えたことを書いてください。1,200 文字程度。学習支援システムから 7/6(月)23:55 までに提出。（10 点） （1）デジタル性被害　終わりのない苦しみ （2）未成年が陥るデジタル性被害 （3）声を上げはじめた被害者たち （4）みんなに知ってほしいこと （5）みんなに “もっと” 知ってほしいこと ・NHK「【特集】性暴力はいま」（1）（記事の一番下に (1) ― (5) までへのリンクがあります） https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/297/
第 11 回	7/9 性暴力とトラウマ (2)	【講義はありません。前回の課題をしてください。】
第 12 回	7/16 まとめ	【講義はありません】 以下のレポート課題を提出してください。 ・課題 本科目で印象に残ったテーマをとりあげ、自分の考えをまとめてください。1,200 文字程度。学習支援システムから 7/20(月)23:55 までに提出。（10 点）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業中に、授業支援システムの「課題」、「テスト／アンケート」、「クリッカー」などの機能を用いて確認します。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
要点をまとめたレジュメ PDF を学習支援システムの「教材」で配布します。

【参考書】
落ち着いたら、以下の書籍にも触れてみてください。
河口和也『クイア・スタディーズ』岩波書店、2003。
菊地夏野、堀江有里、飯野由里子編著『クィア・スタディーズをひらく 1』晃洋書房、2019。
ベル・フックス『フェミニズムはみんなのもの　情熱の政治学』堀田碧訳、新水社、2003。
竹村和子編『〝ポスト〟フェミニズム』作品社、2003。
高橋準『ジェンダー学への道案内　四訂版』北樹出版、2014〔2006〕。
森山至貴『ＬＧＢＴを読みとく―クィア・スタディーズ入門―』ちくま新書、2017。
河口和也・風間孝編著『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』法律文化社、2018。

【成績評価の方法と基準】
各授業で課題を出します。各回の点数は授業計画に書いてありますので、必ず、確認してください。学期末試験はありませんので、間違えて教室にこないようにくれぐれも注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
私語や授業中の出入りが激しかった。すべての学生の学ぶ権利が保たれるように努力したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業中に、授業支援システムの「課題」、「テスト／アンケート」、「クリッカー」などの機能を用いるため、アクセスできる機器が必要。パソコンを推奨します。

【その他の重要事項】
・受講者は必ず初回授業で授業支援システムの名簿登録をしてください。

【Outline and objectives】
This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about Feminism and Queer studies. By the end of this course, students will develop a deeper understanding of important issues pertaining to gender and sexuality. They will examine social and historical problems of gender and sexuality independently.

GDR300LA

クィア・スタディーズＢ

2017 年度以降入学者

岩川　ありさ

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木 5**/Thu.5
単位数：**2 単位**
2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期のクィア・スタディーズ A で学んだ内容を復習しながら、映画、ドラマ、マンガ、アニメーション、ボーイズラブ (BL)、2.5 次元ミュージカルなど幅広い領域の表象文化作品をジェンダーやセクシュアリティと繋いで読み解くための分析方法や理論を学びます。各回では、ジェンダー、セクシュアリティをめぐる様々なトピックをとりあげ、映像作品を読み解きながら、先行研究や歴史的な展開について概観します。それらと並行して、表象文化を受信したり発信したりするときの倫理について自ら考えることを目指します。

【到達目標】
1、クィア・スタディーズの理論や分析方法について学ぶ。
2、クィア・スタディーズの視座から表象作品を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行いますが、具体的な表象分析を行いますので、積極的な参加が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	クィア・スタディーズの基礎について復習し、映像作品を読み解く視座についてまとめます。
第 2 回	「病」の表象	「病」をめぐる表象や言説の問題について考えます。
第 3 回	連帯とは何か？ (1)	マシュー・ウォーチャス監督「パレードへようこそ」(2014) を通して、広範囲にわたる連帯の可能性について考えます。
第 4 回	連帯とは何か？ (2)	前回に続いて、1980 年代の政治的な保守化と新自由主義的な政治経済体制について考えます。
第 5 回	フェミニズムの視点から映像を読む (1)	「軽い男じゃないのよ」（エレノア・ポートリアット監督、2018）をフェミニズムの視座から読みときます。
第 6 回	フェミニズムの視点から映像を読む (2)	前回の授業に続き、フェミニズムの視座から表象作品について読み解きます。
第 7 回	フェミニズムの視点から映像を読む (3)	ヘテロセクシズム やホモソーシャルといった概念について学びます。
第 8 回	少女マンガ／ BL スタディーズ	少女マンガ研究、BL スタディーズの成果について学びます。
第 9 回	ファンダムの成熟とクィア・リーディング	2.5 次元ミュージカル、二次創作などについて触れ、クィア・リーディングとは何かについて学びます

第 10 回	ともに生きるということ (1)	トラヴィス・ファイン監督「チョコレートドーナツ」(2012) を中心に、被傷性とケアをめぐる問題について考えます。
第 11 回	ともに生きるということ (2)	前回に引き続き、被傷性とケアをめぐる問題について考えます。
第 12 回	生命を支える (1)	生命を支えるセーフティネットが崩れる姿を描いた映画『わたしは、ダニエル・ブレイク』（ケン・ローチ監督、2017）を通して、社会においてケアすることの必要性について考える。
第 13 回	生命を支える (2)	前回に続き、社会においてケアすることの必要性について考える。
第 14 回	まとめ	まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回ではありませんが、宿題として、論文を要約したり、表象分析をする学習を行います。
・内容を正確に把握できたかは、授業中に、授業支援システムの「課題」、「テスト／アンケート」、「クリッカー」などの機能を用いて確認します。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
要点をまとめたプリントを授業支援システムの「教材」で配布する。

【参考書】
河口和也『クイア・スタディーズ』岩波書店、2003。
森山至貴『ＬＧＢＴを読みとくークィア・スタディーズ入門ー』ちくま新書、2017。
竹村和子『彼女は何を視ているのか』作品社、2012。
中央大学人文科学研究所 (編)『愛の技法―クィア・リーディングとは何か』中央大学出版部、2013。
中央大学人文科学研究所 (編)『読むことのクィア―続　愛の技法』中央大学出版部、2019。
黒岩裕市『ゲイの可視化を読むー現代文学に描かれる＜性の多様性？＞』晃洋書房、2016。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 70 点、各授業での課題 30 点で総合的に評価する。各授業での課題は、初回の授業説明のプリントに課題を実施する回を示す。3 点 ×10 回=30 点で換算する。ただし、科目登録が確定していない第 1-2 回の課題はない。

【学生の意見等からの気づき】
私語や授業中の出入りが激しかった。すべての学生の学ぶ権利が保たれるように努力したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業中に、授業支援システムの「課題」、「テスト／アンケート」、「クリッカー」などの機能を用いることがあるので、タブレット端末などを使用できるようにしてください。

【その他の重要事項】
・授業中の私語は他の学生が学ぶ機会を奪うことになる。私語を注意されても改善されない場合、退室を求め、単位は認めない。
・受講者は必ず初回授業で授業支援システムの名簿登録をしてください。

【Outline and objectives】
This course aims at enabling students to acquire an advanced understanding about Feminism and Queer studies. By the end of this course, students will examine social and historical issues of gender and sexuality independently. In this semester we will analyze some stereotypes of the representation of gender and sexuality.

PHL300LA

キリスト教思想史 A

2017 年度以降入学者

酒井　健

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 5**/Tue.5
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キリスト教の思想の変遷をその源であるユダヤ教から順次理解する。時代背景、歴史的背景をしっかりおさえる。

【到達目標】
①キリスト教を学問の対象に据えて、客観的かつ公平な視点からキリスト教思想の重要な点を年代をおって考察する。
②信仰への道を説くのが授業の狙いではない。あくまで一つの宗教として、その特徴を、問題点も含めて冷静に考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。
毎回、授業の終わりの 20 分を使って、その日の授業内容に関してかなりの分量の論述を書かせる。その意味でハードな授業になる。
定員の 25 名を超えた場合は選抜を行うので受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。
なお今年度の開講は 4 月 21 日火曜日からとし、しばらくのあいだオン・ラインで行います。学習支援システムを頻繁にみておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介と選抜	今学期の授業の概要の説明。キリスト教を学ぶことの意義を中心に。定員超過の場合は選抜を行う。
第 2 回	ユダヤ教から	一神教の成り立ち。キリスト教の源流であるユダヤ教に立ち返って考察する。
第 3 回	ユダヤ教の特色	ユダヤ教の独自性（一神教と多神教の違いなど）
第 4 回	イエスとその時代	イエスの時代のユダヤ教（1）（律法主義に対するイエスの批判）
第 5 回	イエスの活動の意義	イエスの時代のユダヤ教（2）（神殿主義に対するイエスの批判）
第 6 回	イエスの死	イエスの処刑（イエスが十字架刑に処された理由）
第 7 回	残された人々	イエスの死と使徒の考え方（1）（使徒とエルサレム初期共同体）
第 8 回	パウロの解釈	イエスの死と使徒の考え方（2）（パウロの「十字架の神学」）
第 9 回	古代ローマ帝国	古代ローマ帝国とキリスト教（1）（ユダヤ教改革派からキリスト教の誕生へ）＿
第 10 回	聖書はなぜ書かれたか	古代ローマ帝国とキリスト教（2）（聖書の誕生）
第 11 回	キリスト教徒はなぜ増えたのか	古代ローマ帝国とキリスト教（3）（信者の増加と迫害）
第 12 回	大帝の決断	古代ローマ帝国とキリスト教（4）（コンスタンティヌス大帝の政策）

第 13 回　国教化へ	古代ローマ帝国とキリスト教（5）（キリスト教の国教化とローマ教会の組織力）
第 14 回　試験、まとめ	今学期の授業内容の復習を兼ねて論述試験を行う。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キリスト教関係の入門書を読んでおくこと。週に各 2 時間の学習を必要にする。
たとえば『キリスト教の真実』（竹下節子著、ちくま新書）など。

【テキスト（教科書）】
毎回配布する担当教員作成のレジュメ。

【参考書】
授業内で詳しく紹介する。
『一神教の誕生　ユダヤ教からキリスト教へ』加藤隆著、講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】
●評価の基準
キリスト教の源からその初期の発展に関して、学問的に本質的な点を捉えられたかどうかを評価の基準にする。
●評価の割合
50 %＝期末の論述試験
50 %＝オンラインでの授業の実施にともなう、学習支援システムに掲載される課題への回答
●《到達目標との関連》＝上記①と②に関して期末の論述試験において習熟度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】
概ね好評である。受講生からの要望には耳を傾けているので、いつでも気軽に語ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】
とくにない。

【その他の重要事項】
1 年生のときに宗教論の授業を取っておくことが望ましいが、必要条件というわけではない。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn fundamental aspects of history and thoughts of chirstianism.Students must write in japanese their reaction after each lesson.

PHL300LA

キリスト教思想史 B

2017 年度以降入学者

酒井　健

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 5**/Tue.5
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キリスト教思想の変遷を中世西欧社会から順次理解する。歴史的背景をしっかりおさえる。

【到達目標】
①キリスト教を学問の対象に据えて、客観的かつ公平な視点からキリスト教思想の重要な点を年代をおって考察する。
②中世西欧社会からイタリア・ルネサンス社会がとくに対象になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。
毎回、授業の終わりの 20 分を使って、その日の授業内容に関してかなりの分量の論述を書かせる。その意味でハードな授業になる。定員の 25 名を超えた場合は選抜を行うので受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介と選抜	今学期の授業の概要の説明。キリスト教思想を学ぶことの意義を中心に。
第 2 回	中世西欧とは何か	中世西欧に対する基本的な考え方。
第 3 回	根源的な変化と表面的な変化	古代ローマ社会から初期の中世社会への移行。
第 4 回	キリスト教と修道院	修道士の活躍（1）（禁欲主義の問題）
第 5 回	新たなキリスト教へ	修道士の活躍（2）（アイルランド系修道院と修道士の特徴）
第 6 回	政治からの変化	カロリング・ルネサンス（シャルルマーニュ大帝のキリスト教政策）
第 7 回	イスラムとの関係	イスラム世界との接触（1）（西ゴート王国の滅亡とイベリア半島のキリスト教）
第 8 回	十字軍とは何か	イスラム世界との接触（2）（十字軍の問題）
第 9 回	開花する中世西欧文化	ロマネスク文化（1）（西欧の地方へのキリスト教の伝播）
第 10 回	修道院の拡大	ロマネスク文化（2）（クリュニー会とシトー会）
第 11 回	ゴシックとは何か	ゴシック文化（1）（新都市住民の感性と新たな大聖堂建築）
第 12 回	中世神学の本質	ゴシック文化（2）（光の神学）
第 13 回	イタリアから	イタリア・ルネサンスの文化（キリスト教と芸術家）
第 14 回	試験、まとめ	今学期の内容の復習をかねて論述試験を行う。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的な入門書を読んでおいてほしい。週に各 2 時間の学習を必要にする。
たとえば
『世界の歴史（9）、ヨーロッパ中世』鯖田豊之著、河出文庫など

【テキスト（教科書）】
毎回配布する担当教員作成のレジュメ。

【参考書】
授業のなかで詳しく紹介する。
『ゴシックとは何か』酒井健著、ちくま学芸文庫など。

【成績評価の方法と基準】
●中世におけるキリスト教の発展を学問的にどれだけ捉えたかを基準にする。
●成績評価の割合
50 %＝学期末の論述試験
50 %＝平素の授業態度（毎回提出の論述の内容が具体的なデータになる）。
●《到達目標との関係》＝上記①と②に関して習熟度を期末の論述試験において判定する。

【学生の意見等からの気づき】
概ね好評である。要望があれば気軽に伝えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
とくにない。

【その他の重要事項】
春学期のこの授業の履修を勧めたい。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to continue to learn fundamental aspects of history and thoughts of chirstianism.Students must write in japanese their reaction after each lesson.

ARSh300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**アラビア語入門**

江村　裕文

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【概要】アラビア語の基礎。具体的には、アラビア文字の習得。簡単な挨拶表現・自己紹介程度のアラビア語を話す。
【目的】アフロアジア世界で１億人以上の話し手により使用されており、また国連の６番目の公用語である「アラビア語」を身近に感じるようになること。

【到達目標】
１年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めていける素地を身に着けてもらいたいと希望します。
文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。文の構造を踏まえて、辞書が引けるようになること、これが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
以下の授業計画に沿って、発音・文字（母音・子音）、綴り方、単語（名詞・形容詞・動詞）、その変化形（つまり曲用と活用）、文を読むまでを、懇切丁寧に解説し、訓練していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 発音と文字　1	テキストの紹介、アラビア語に関する解説の後、発音と文字について学ぶ。 発音にはあまりこだわらないが、音韻の区別は理解すること。
2	発音と文字　2	アルファベットの前半の文字を学ぶ。
3	発音と文字　3	アルファベットの後半の文字を学ぶ。
4	テキストの紹介 第０課	テキストのつくりについて解説する。 文字と発音のおさらい
5	第１課	こちらはムハンマドさんです
6	第２課	これは何ですか
7	第３課	彼は教師ですか、それともエンジニアですか
8	第４課	あなたのお名前は？
9	第５課	天気はどうですか
10	第６課	アラビア語は美しくて、楽しいです
11	第７課	この作家は有名です
12	第８課	その本は机の上にあります
13	第９課	彼はサウジアラビア出身です
14	授業内試験	「あいさつ」「名詞文」「形容詞文」についてアラビア語の作文を課す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
５月の連休終了までに文字を覚えること。授業の予習としては、最低限どういう文法事項を学ぶことになっているのかは確認しておくこと。少なくとも２時間程度の復習は必ず行い、疑問点等のないようにしておくこと。少しでもわからないところがあるとついていくのは不可能になります。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストとしては、竹田敏之『アラビア語とことんトレーニング』白水社　を予定しています。
辞書については、授業中に指示します。

【参考書】
英語・フランス語・ドイツ語で書かれたアラビア語の文法書が多くあるので、各自の興味に応じて適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
春学期は、平常点４０点、試験の得点６０点、合計１００点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
説明の際にできるだけ学習者全員にとっての既習の言語、おもに英語の文法等を例にあげますが、その知識が整理できていないために無用の混乱・困難をきたすことがあります。たとえば英語に名詞の格はいくつあるか、人称とは何か、といった基本的なことがわかっていないがために、説明が通じないことがあります。理解できないことがあったらその都度質問をすることが肝要です。

【Outline and objectives】
You can challenge to master one of the international languages, Arabic. Arabic language is a official language of U.N. It is necessary to understand Arabic to approach to the world of Islam, and Arabic Culture.

ARSh300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**アラビア語入門**

江村　裕文

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【概要】アラビア語の基礎。具体的には、名詞・形容詞・前置詞・動詞の曲用・活用。辞書の使い方。
【目的】アフロアジア世界で１億人以上の話し手により使用されており、また国連の６番目の公用語である「アラビア語」の概要を把握すること。

【到達目標】
１年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めていける素地を身に着けてもらいたいと希望します。
文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。文の構造を踏まえて、辞書が引けるようになること、これが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
以下の授業計画に沿って、単語（名詞・形容詞・動詞）、その変化形（つまり曲用と活用）、文を読むまでを、懇切丁寧に解説し、訓練していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	辞書　1	辞書の引き方を紹介する
2	辞書　2	辞書の引き方を訓練する
3	第１０課・第１１課	私は日本人です 駅はここから遠いですか
4	第１２課・第１３課	このカバンは誰の？ 神戸には美しいモスクがあります
5	第１４課・第１５課	あなたには兄弟か姉妹がいますか ムハンマドがザイドをたたいた
6	第１６課・第１７課	私はあなたを愛しています この２人の通訳はプロです
7	第１８課・第１９課	この町にはたくさんの大学があります 彼らはサウジアラビア出身の先生方です
8	第２０課・第２１課	これらのカバンはユースフのですか ここにモロッコ料理店はありますか
9	第２２課・第２３課	ムハンマドは学生ではありません ムハンマドは学生でした
10	第２４課・第２５課	私はその車の色が好きです ５冊の本を買いました
11	第２７課・第２８課	私たちはカイロ大学で学びました 飛行機は到着しましたか
12	第２９課・第３０課	誰がこの料理を作ったのですか フェズまで列車に乗りました

13	第３２課・第３３課	どちらにお住まいですか お仕事は何をしていますか
14	まとめとレポート提出	アラビア語の動詞のまとめ（ｐ．８８－９７）とレポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
秋学期からは、動詞の変化形に入ります。各授業ごとに２時間以上をあてて完全にマスターしてください。単純な形の間に、基本的な動詞の活用形を覚えておけば、応用の仕方がわかりますが、覚えておかないと、どんどん迷路に迷い込むことになっていきます。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストとしては、竹田敏之『アラビア語とことんトレーニング』白水社　を予定しています。
辞書については、授業中に指示します。

【参考書】
英語・フランス語・ドイツ語で書かれたアラビア語の文法書が多くあるので、各自の興味に応じて適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
秋学期は、平常点４０点、レポートの得点６０点、合計１００点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
説明の際にできるだけ学習者全員にとっての既習の言語、おもに英語の文法等を例にあげますが、その知識が整理できていないために無用の混乱・困難をきたすことがあります。たとえば英語に名詞の格はいくつあるか、人称とは何か、といった基本的なことがわかっていないがために、説明が通じないことがあります。理解できないことがあったらその都度質問をすることが肝要です。

【Outline and objectives】
You can challenge to master one of the international languages, Arabic. Arabic language is a official language of U.N. It is necessary to understand Arabic to approach to the world of Islam, and Arabic Culture.

LIN300LA

異文化コミュニケーション論Ａ　2017 年度以降入学者

山本　そのこ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月 4**/Mon.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速度的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。
この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】
①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
②自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
③異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
④実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
⑤異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・Google Classroom と　ZOOM を使って授業を行う。
　連絡や課題／試験の提示も Google Classroom を使う。
・指定テキストの内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	・オリエンテーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・アンケート
第 2 回	あなたが感じた異文化	アンケート結果をもとに ・春学期プレゼンテーションの割り当て
第 3 回	・日本と日本語の実像を考える ・日本語ってどんな言語 ・日本語の漢字使用について	・外から見た日本・日本語 ・日本語はどんな言語か ・漢字の読みはなぜややこしいのか
第 4 回	・ラジオ型言語とテレビ型言語	文字言語としての日本語と他言語との比較。 音声言語としての日本語と他言語との比較
第 5 回	・文化によって異なる色彩認識について	・虹にはいくつの色があるのか。 太陽は世界のどこでも赤いのか。
第 6 回	・カテゴリー分類の差異	・蛾と蝶が同じである理由

第 7 回	・文化によって異なる羞恥心	・「恥かしさ」の基準
第 8 回	・形容詞のかくれた基準 ・有標性と無標性	・天狗の鼻は「長い」でなく「高い」 ・形容詞の中身はなに？－形容詞のかくれた基準
第 9 回	・新語の話	・江戸時代、「日本酒」はなかった
第 10 回	・日本語の人称代名詞を巡る問題 ・指示語と自己中心語	・身内の呼び方の方程式 ・「人称」の本質は何か
第 11 回	言語政策	日本語に対する考えを改めよう ・日本語に対する認識 ・各国の言語政策 ・外国語教育の必要性
第 12 回	期末試験	・第 1〜11 回のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
・本授業の復習・予習時間は、発表担当時は 5 時間以上（資料集め、その他含む）、平常時は 30 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書　740 円

【参考書】
鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書
鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書
今井むつみ『ことばと思考』岩波新書
G. ドイッチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』
R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】
授業参加度、発表、小クイズ、期末試験の結果によって判断する。

【学生の意見等からの気づき】
・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
・インターネット接続可能な機器：ＰＣ、タブレット端末、スマートフォン。
・ＺＯＯＭ M 授業内の発表にはＰＣが好ましい。（4 ／ 20 現在、他の方法を模索中）
★事前に、グーグルクラスルームへの登録を行うこと。クラスコード： mkqe6u4
★タブレット端末、スマートフォンの場合は、
　授業実施開始前にＺＯＯMのアプリをダウンロードしておくこと。

【その他の重要事項】
★授業は、４月２７日に開始する。
・受講希望者数によっては、第 1 回目の授業時に行うアンケートで選抜を行う。

【Outline and objectives】
In this course, students will read a book on Japanese language and culture, comparing with other cultures. Eventually they are expected to relativize the cultures of their own, and to deepen the understanding of other ones. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. The interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

LIN300LA

異文化コミュニケーション論 B

2017 年度以降入学者

山本　そのこ

開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 曜日・時限：**月 4/Mon.4**
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年「グローバル化」や「国際化」が加速度的に進み、異文化との接触は身近かつ無視できない問題となっている。その一方、異文化接触による摩擦問題が次々と表面化してもいる。特に、外交やビジネスで異文化間の接触が予想される場面では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識は必須となる。
この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。
★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】
①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
②」異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・第 1・2・4 回目は講義と教室内活動中心。
・第 3 回・第 5〜13 回は、指定テキストの内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	・オリエンテーション ・文化と異文化間コミュニケーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・異文化コミュニケーションの背景とその領域
第 2 回	自分を知る	・対立管理スタイルと異文化適応力 ・秋学期プレゼンテーションの割り当て
第 3 回	ステレオタイプ①	・ステレオタイプとは ・ステレオタイプの生成、功罪について （学生発表と質疑応答。）
第 4 回	ステレオタイプ②	・ステレオタイプの真偽 ・ステレオタイプの流布　と強化
第 5 回	コミュニケーション・スタイル①	・コンテキスト （学生発表と質疑応答。以下 13 回まで）

第 6 回	コミュニケーション・スタイル②	・ターンテーキング ・パラ言語
第 7 回	言語コミュニケーション①	・ほめ方 ・しかり方 ・謝り方
第 8 回	言語コミュニケーション②	・自己紹介と自己開示 ・誘い方と断り方
第 9 回	非言語コミュニケーション①	・表情 ・アイコンタクト
第 10 回	非言語コミュニケーション②	・しぐさとジェスチャー ・タッチング
第 11 回	非言語コミュニケーション③	空間と対人距離
第 12 回	非言語コミュニケーション④	時間感覚
第 13 回	価値観	・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観 ・家族関係、道徳観など基本的価値観と異文化接触
第 14 回	期末試験	第 1 回～第 13 回までの内容についての筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
・「自由討論」前は、テーマの設定、およびそのテーマに関する情報収集など。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
八代京子ほか（2001）『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

【参考書】
R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー
池田理知子　E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ
八代京子　他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
吉田暁・石井敏　他『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣
E. ホール　『沈黙のことば－文化・行動・思考』南雲堂
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】
授業参加度 30 %
発　　表　30 %
期末試験　40 %

【学生の意見等からの気づき】
・一昨年に続き、グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。
・グループ活動時にメンバー構成の調整方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
・受講希望者数によっては、第 1 回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。

【Outline and objectives】
This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

ARSh300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**アフロアジア入門　ー映像で見るアフロアジア世界ー**

江村　裕文

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**
2～4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、日本人にとって最も精神的に遠い「アフロアジア世界」について、テレビ番組や映画等の映像を媒介にして、広く浅く、まずは知識を得、親しみを感じてもらうことを目的としている。

【到達目標】
ＩＳ（イスラム国）の影響によるヨーロッパへの移民問題はまだ解決していない。イランとアメリカの問題はきっかけさえあれば「第三次世界大戦」へと導く恐れさえある。エネルギーの８０パーセント以上を中東（アフロアジア世界）に依存しているのに、日本人にはあまりにも関心が低い。国連の公用語であるアラビア語の存在すらも視野に入らず、アメリカにくっ付いて英語ができればすべてうまくいくという根拠のない宗教を信仰するお花畑の住民が知識人と呼ばれる人の大半である。
このアフロアジア世界について少し視野が広くなり、連日の報道の内容が自分なりに理解できるようになること、これがこの授業の目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的にアフロアジア世界の歴史をたどりながら、まず基礎的な内容について講義し、次いで視覚的に情報を得られるような映像資料を用いて、アフロアジア世界への導入としたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	事業の進め方および内容について概略を紹介する。 アフロアジアの定義を紹介する。
第 2 回	メソポタミアの古代史	簡単な年表でシュメール・アッカド・バビロニアなどを紹介する。
第 3 回	古代メソポタミア　－文明の誕生	映像で紹介する。
第 4 回	エジプトの古代史	王朝・ピラミッド・王家の谷・プトレマイオス朝などを紹介する。
第 5 回	古代エジプト	映像で紹介する。
第 6 回	ツタンカーメンの謎	少年王ツタンカーメン、およびその墓の発掘など。
第 7 回	クレオパトラの時代	プトレマイオス朝の女王、クレオパトラ、そのローマ帝国との関係など。
第 8 回	クレオパトラ	映像で紹介する。
第 9 回	聖書について	ユダヤ教・キリスト教・イスラームの経典である「聖書」について解説する。
第 10 回	「天地創造」	映像で紹介する。
第 11 回	ユダヤ教について	ユダヤ教の歴史・教義について解説する。

第 12 回「十戒」	映像で紹介する。
第 13 回「ダビデ王」	映像で紹介する。
第 14 回　試験	春学期での内容についての試験。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
定まったテキスト（教科書）を使用する予定はない。

【参考書】
参考書は、学習者の関心と必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点４０点、試験の点６０点で、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
この授業をこの内容で行うのは今年度が初めてなので、記載すべき内容はない。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to know widely on the Afro-asiatic world, by means of a visual approach.

ARSh300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**アフロアジア入門　ー映像で見るアフロアジア世界ー**

江村　裕文

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、日本人にとって精神的に最も遠い「アフロアジア世界」について、テレビ番組や映画等の映像を媒介にして、広く浅く、まずは知識を得、親しみを感じてもらうことを目的としている。

【到達目標】
ＩＳ（イスラム国）の影響によるヨーロッパの移民問題はまだ解決されていない。イランとアメリカの問題はきっかけさえあれば「第三次世界大戦」へと導く恐れさえある。エネルギーの８０パーセント以上を中東（アフロアジア世界）に依存しているのに、日本人にはあまりにも関心が低い。国連の公用語であるアラビア語の存在すらも視野に入らず、アメリカにくっ付いて英語ができればすべてうまくいくという根拠のない宗教を信仰するお花畑の住人が知識人と呼ばれる人の大半である。
このアフロアジア世界について少しでも視野が広くなり、連日の報道の内容が自分なりに理解できるようになること、これがこの授業の目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的にアフロアジア世界の歴史をたどりながら、まず基礎的な内容について講義し、次いで視覚的に情報を得られるような映像資料を用いて、アフロアジア世界への導入としたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	エルサレム物語	聖地エルサレムがなぜ聖地か、その歴史をたどる。
第 2 回	「アンネの日記」	映像で紹介する。
第 3 回	「シンドラーのリスト」	映像で紹介する。
第 4 回	「栄光への脱出」	映像で紹介する。
第 5 回	キリスト教	イエスの生涯をたどる
第 6 回	「偉大なる生涯の物語」	映像で紹介する。
第 7 回	「ベン・ハー」	映像で紹介する。
第 8 回	「パッシオン」	映像で紹介する。
第 9 回	「ダヴィンチ・コード」	映像で紹介する。
第 10 回	イスラーム	ムハンマドの生涯・イスラームの教義について。
第 11 回	「メッセージ」	映像で紹介する。
第 12 回	「メッカ巡礼」	映像で紹介する。
第 13 回	「アルジェの戦い」	映像で紹介する。
第 14 回	試験、あるいはまとめとレポート提出	授業内試験あるいは、レポートの提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
定まったテキスト（教科書）を使用する予定はない。

【参考書】
参考書は、学習者の関心と必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点４０点、試験あるいはレポートの点６０点で、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
この授業をこの内容で行うのは今年度が初めてなので、記載すべき内容はない。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to know widely on the Afro-asiatic world, by means of a visual approach.

LIT300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**思想と文学**

川鍋　義一

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学と周辺領域の学問を学びます。
現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題を考え、新たな視点を得ます。
春学期のテーマは他者論です。わたしにとって他者とはなにかについて学びます。

【到達目標】
現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題について、新たな視点を得ます。
春学期は他者とはなにかについての新たな視点を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
演習形式。
教員の講義が中心になりますが、各自の問題意識で自由かつ活発な発言を期待します。
ただし、2020 年度は遠隔授業が中心になると予想されます。このため、各自でテキストを読み、教員の提起した問題を考察する、という作業が中心になると思われます。
４／２４に授業を開始します。その日までに学習支援システムの資料、パワーポイントのファイルを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の授業計画の詳細および予備知識	ガイダンス
2	他者と自己	白樺派にとっての他者とはどういうものか
3	他者とはなにか	武者小路実篤『友情』
4	他者とはなにか	志賀直哉「城の崎にて」
5	「大導寺伸介の半生」導入――芥川龍之介の生涯	「大導寺伸介の半生」
6	他者へのまなざし	「大導寺伸介の半生」
7	人工の翼と失墜	「大導寺伸介の半生」
8	芥川龍之介から太宰治へ	『人間失格』
9	他者へのまなざし	『人間失格』
10	自意識と他者	『人間失格』
11	吉本隆明について――導入	『転位のための十篇』
12	他者へのまなざし	『転位のための十篇』
13	近代文学を貫く、他者への恐怖	『転位のための十篇』
14	他者論のアクチュアリー――他者と自己をどうとらえるか	半期の総ざらい・結論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストは事前に熟読しなければなりません。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
武者小路実篤『友情』（新潮文庫　など当該作品の収録されているもの)
志賀直哉「城の崎にて」（『小僧の神様・城の崎にて』新潮文庫　など当該作品の収録されているもの)
芥川龍之介「大導寺伸介の半生」（『大導寺信輔の半生・手巾・湖南の扇 他十二篇』岩波文庫　など当該作品の収録されているもの）
太宰治『人間失格』新潮文庫ほか
吉本隆明『転位のための十篇』（『吉本隆明初期詩集』講談社文芸文庫　など当該作品の収録されているもの)

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点（レジュメなど）５０％、期末のレポート５０％。
ただし、2020 年度は遠隔授業が中心になると予想されます。このため、状況によってはレポート 100 %になるかもしれません。

【学生の意見等からの気づき】
学生の興味に応じて授業計画の変更もあります。

【その他の重要事項】
春学期の他者論と、秋学期のテロリズム論とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。
※ 2020 年度については、白樺派、芥川、太宰、吉本の４分野を学習するのは当初の予定どおりとしますが、全１２回であるため、上記（１４回分）の内容を間引きながら進めていきます。
また、当面は学習支援システムにアップロードされた資料、パワーポイントのファイルを各自学習する形式の遠隔授業とします。掲示板、メールなどで質問、意見を積極的に出してください。

【Outline and objectives】
This course deals with Japanese modern literature and other studies.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**思想と文学**

川鍋　義一

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学と周辺領域の学問を学びます。
現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題を考え、新たな視点を得ます。
秋学期のテーマはテロリズム論です。テロリズムの原型、根底にあるものについて学びます。

【到達目標】
現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題について、新たな視点を得ます。
秋学期はテロリズムの原型、根底にあるものについての新たな視点を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
演習形式。
教員の講義が中心になりますが、各自の問題意識で自由かつ活発な発言を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期の授業計画の詳細および予備知識	ガイダンス
2	導入	『供犠』
3	供犠とはなにか	『供犠』
4	放棄と交換	『供犠』
5	贈与とはなにか	『贈与論』
6	贈与と放棄と交換	『贈与論』
7	供犠とテロリズム	『贈与論』
8	宮澤賢治について――導入１	「グスコーブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
9	宮澤賢治について――導入２	「グスコーブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
10	常不軽菩薩と賢治	「グスコーブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
11	賢治におけるデクノボーの意味	「グスコーブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
12	〈ほんたうのさいはひ〉とはなにか	「グスコーブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
13	他者論とテロリズム論	「グスコーブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
14	『供犠』のアクチュアリー――他者と自己をどうとらえるか	年間の総ざらい・結論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストは事前に熟読しなければなりません。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
モース／ユベール『供犠』法政大学出版局
モース『贈与論　他二篇』岩波文庫
宮澤賢治
「グスコーブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
『童話集 風の又三郎 他十八篇』岩波文庫　ほか

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点（レジュメなど）５０％、期末のレポート５０％。

【学生の意見等からの気づき】
学生の興味に応じて授業計画の変更もあります。

【その他の重要事項】
春学期の他者論と、秋学期のテロリズム論とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】
This course deals with Japanese modern literature and other studies.

LAW300LA

法哲学 A

2017 年度以降入学者

内藤　淳

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当面の間、学習支援システムを通じた課題設定による代替措置を実施する。瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016 年、2500 円＋税）をテキストとし、内容上のポイントごとに学習支援システムを通じて課題を出していく（例えば 1000 字程度の小論文課題など）。テキストを各自で入手しておくこと。
授業の進め方、成績評価の方法など、具体的な内容は学習支援システムに適宜掲載する。
授業開始日は 4/22（水）とし、その後、一定の準備期間を設ける。詳細は学習支援システムの「お知らせ」で案内する。
本授業はもともと受講人数に 25 人の制限を設けているところ、受講希望者は、4/21（火）（この授業の開始日の前日）までに、必ず学習支援システムにて仮登録をすること。仮登録の状況に応じて受講者選抜を行う。その日までに仮登録をしていない学生の受講は認めないので十分に注意すること。
【注意】以下のすべての項目のシラバス内容は、代替措置以前の通常時のものであるが、授業のコンセプトを示すためにそのまま掲載しておく。通常授業が可能になった場合は適宜こちらの計画内容を反映させる。
法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどういう社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。
具体的事例・課題の検討や主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、（単に知識を覚えるだけでなく）受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。
秋学期開講の「法哲学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学 B」も続けて履修すること。履修人数は 25 人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス後出「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】
①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
②法哲学的な視点と考え方を身につけ、現代社会の具体的課題・問題に対して（表層にとどまらない）根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関する自説を合理的根拠を通じて論じられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
＊授業開始日は 4/22（水）とし、その後、一定の準備期間を設ける。詳細は学習支援システムの「お知らせ」で案内する。
法哲学の基礎知識・主要理論の解説をしながら、格差社会や死刑制度の是非といった現代社会の具体的問題・課題を対象に、法哲学的観点から論点の検討と議論を行う。講義と並行して、受講生にコメント提示やレポート・小論文提出を課しながら論点の抽出と検討（討論）を行うので、受講者には、授業内外での十分な学習と討論への積極的な参加、レポート・小論文作成等を求める。
受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。
授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明
第 2 回	法哲学を学ぶにあたって 1	法哲学とはどういう学問か、その特徴は何かの概説
第 3 回	法哲学を学ぶにあたって 2	「もしも法がなかったら？」を考える
第 4 回	法哲学を学ぶにあたって 3	「もしも法がなかったら？」に関する討論
第 5 回	格差・不平等問題 1	基礎知識と論点の解説
第 6 回	格差・不平等問題 2	論点と問題点の検討・討論
第 7 回	格差・不平等問題 3	理論的立場の整理
第 8 回	法と道徳 1	基礎知識と論点の解説
第 9 回	法と道徳 2	具体的事例の検討
第 10 回	復興増税 1	基礎知識と論点の解説
第 11 回	復興増税 2	論点と問題点の検討・討論
第 12 回	人工妊娠中絶 1	基礎知識と論点の解説
第 13 回	人工妊娠中絶 2	論点と問題点の検討・討論
第 14 回	人工妊娠中絶 3	出生前診断に関連する論点と問題点について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の授業内容を踏まえ、紹介された参考書を読むなどして自分の意見や疑問点を整理する。レポート・小論文の作成にあたっては、授業で取り上げた論点やその解説・検討を十分踏まえながら内容を整理して書くこと。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使わない。レジュメや資料を配布する。

【参考書】
深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007 年）
竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010 年）
瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014 年）
宇佐美誠・児玉聡：井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』（法律文化社、2019 年）
森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015 年）
森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016 年刊行予定）
マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010 年）
内藤淳『自然主義の人権論』（勁草書房、2007 年）
内藤淳『進化倫理学入門』（光文社新書、2009 年）
その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業の中で課す小論文（レポート）の点数を中心に（評価割合 80 %程度を予定）、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して（評価割合 20 %程度を予定）、上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】
履修人数は 25 人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。
秋学期開講の「法哲学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学 B」も続けて履修すること。（春学期の「法哲学 A」受講者には、秋学期の「法哲学 B」の履修を優先的に認める。）あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of legal philosophy. The main aim of this course is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, participants are expected to have their own opinions on social and legal issues and explain them rationally.

LAW300LA

法哲学 B

2017 年度以降入学者

内藤　淳

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどういう社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。具体的事例・課題の検討や主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、（単に知識を覚えるだけでなく）受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。
春学期開講の「法哲学 A」と連続した内容で授業を行うので、履修希望者は、春学期初回の授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス後出「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】
①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
②法哲学的な視点と考え方を身につけ、現代社会の具体的課題・問題に対して（表層にとどまらない）根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関する自説を合理的根拠を通じて論じられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の「法哲学 A」からの継続で、法哲学の基礎知識・主要理論の解説をしながら、格差社会や死刑制度の是非といった現代社会の具体的問題・課題を対象に、法哲学的観点から論点の検討と議論を行う。講義と並行して、受講生にコメント提示やレポート・小論文提出を課しながら論点の抽出と検討（討論）を行うので、受講者には、授業内外での十分な学習と討論への積極的な参加、レポート・小論文作成等を求める。
受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。
授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明
第 2 回	死刑制度の是非 1	基礎知識と論点の解説
第 3 回	死刑制度の是非 2	論点と問題点の検討・討論
第 4 回	裁判員制度と死刑 1	基礎知識と論点の解説
第 5 回	裁判員制度と死刑 2	論点と問題点の検討・討論
第 6 回	一夫一婦制と契約婚 1	基礎知識と論点の解説
第 7 回	一夫一婦制と契約婚 2	論点と問題点の検討・討論
第 8 回	一夫一婦制と契約婚 3	婚姻制度の意義の検討
第 9 回	代理出産と親子関係 1	基礎知識と論点の解説
第 10 回	代理出産と親子関係 2	論点と問題点の検討・討論
第 11 回	代理出産規制の是非 1	基礎知識と論点の解説
第 12 回	代理出産規制の是非 2	論点と問題点の検討・討論
第 13 回	代理出産規制の是非 3	議論のまとめ
第 14 回	総括	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の授業内容を踏まえ、紹介された参考書を読むなどして自分の意見や疑問点を整理する。レポート・小論文の作成にあたっては、授業で取り上げた論点やその解説・検討を十分踏まえながら内容を整理して書くこと。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使わない。レジュメや資料を配布する。

【参考書】
深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007 年）
竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010 年）
瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014 年）
宇佐美誠・児玉聡：井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』（法律文化社、2019 年）
森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015 年）
森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016 年刊行予定）
マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010 年）
内藤淳『自然主義の人権論』（勁草書房、2007 年）
内藤淳『進化倫理学入門』（光文社新書、2009 年）
その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業の中で課す小論文（レポート）の点数を中心に（評価割合 80 %程度を予定）、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して（評価割合 20 %程度を予定）上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】
春学期開講の「法哲学 A」と連続した内容で授業を行う。そのため、履修人数は 25 人を上限とし、原則として春学期の「法哲学 A」受講者を履修対象者とする。ただし、受講人数に余裕がある場合には、過去に「法哲学 A」を履修済みの学生に関して個別事情を勘案した上で（4 年生なので次年度以降の履修機会がないなど）、初回授業にて選抜を行い、例外的に履修を認める。（受講人数に余裕があっても、状況により、そうした例外措置をとらない場合がある。）
いずれにしろ、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、春学期の「法哲学 A」受講者を含めて、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと。
人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。
あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of legal philosophy. The main aim of this course is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, participants are expected to have their own opinions on social and legal issues and explain them rationally.

POL300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：USA における抵抗の思想

木村　正俊

開講時期：春学期授業/Spring ｜ 曜日・時限：火 3/Tue.3
単位数：2 単位
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1960 年代の政治について、そして政治と音楽の関係について考察する。
文献やサウンド、映像を通して 1960 年代について知識を獲得するとともに、60 年代の「文化革命」がその後の時代にもたらしたことを考えることを目指す。

【到達目標】
基本的目標は次の通りである：
USA のルーツ・ミュージックについての考察
60 年代の政治を、主として USA を対象にして理解すること
カウンター・カルチャーの思想と運動の特徴について理解すること
USA の広義のフォーク・ミュージックから生み出されたポピュラー・ミュージックの中から、特にサイケデリック・ロックについて考察する
カウンター・カルチャーがもたらした（と思われる）現代への影響について考察する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
オンライン通じて行います。
具体的な方法は授業支援システムを通じてお知らせします。
参加人数によっては、、一対一のチュートリアル方式で行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
＃ 1	イントロダクション	ゼミの概要の確認と参加者の決定
＃ 2	文献講読（ブルース）	ブルースに関する文献の内容確認と議論
#3	音楽聴取（ブルース）	ブルースの特徴の確認
#4	映像視聴（ブルース）	ブルースに関する映像の内容確認と議論
#5	文献講読（フォーク）	フォークに関する文献の内容確認と議論
#6	音楽聴取（フォーク）	フォークの特徴の確認
#7	映像視聴（フォーク）	フォークに関する映像の内容確認と議論
#8	文献講読（ロック）	ロックに関する文献の内容確認と議論
＃ 9	音楽聴取（ロック）	ロックの特徴の確認
#10	映像視聴（ロック）	ロックに関する映像の内容確認と議論
#11	文献講読（対抗文化）	対抗文化に関する文献の内容確認と議論
#12	音楽聴取（サイケデリック・ロック）	サイケデリック・ロックの特徴の確認
#13	映像視聴（対抗文化）	対抗文化に関する映像の内容確認と議論
＃ 14	総括	ゼミのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に与えられた課題に対応すること、演習で扱う文献に必ず目を通すこと, 新聞などメディアを通じて情報を得ることなど、そしてゼミ終了後にゼミにおける議論を振り返ることなどを 2 時間程度行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指定する

【参考書】
必要に応じてゼミのときに紹介する

【成績評価の方法と基準】
毎回のゼミの内容の確認と復習を兼ねたペーパーの提出（50 %）；テーマに関する自己の考えを示す期末レポートの提出（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
アンケートなし

【その他の重要事項】
ロック、特にサイケデリック・ロックの知識は必要ではありません。ただし、なじみのない学生は気分が悪くなる等のことがあるかもしれません。
出席者の数によっては、チュートリアル方式を採用することがあります。
ゼミの内容に関しては、出席者の要望を最大限に尊重するつもりです。
シラバスに関して興味・疑問がある場合には以下の著作を参照してください。佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019 年）第 1 章 Syllabus とシラバスのあいだ

【Outline and objectives】
Theme:Politics and Popular Music in the 1960's
The fundamental aim of this seminar is to acquire a basic knowledge of politics in the 1960's and consider the interaction between politics and music of 60's.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**宗教、ナショナリズム、国家**

木村　正俊

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
宗教、ナショナリズムと国家との関係について考察すること。

【到達目標】
基本的目標は次の通りである：
宗教、ナショナリズムに関する基本的知識を習得し、これを踏まえて国家と宗教、ナショナリズムの関係について考察できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
オンライン通じて行います。
具体的な方法は授業支援システムを通じてお知らせします。
参加人数によっては、、一対一のチュートリアル方式で行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
#1	イントロダクション	ゼミの概要の確認
＃ 2	文献講読（ナショナリズム１）	ナショナリズムの理論に関する文献を読む
#3	映像鑑賞（ナショナリズム１）	ナショナリズムと関連する映像について議論する
＃ 4	報告（１）	ナショナリズムに関する個人報告
＃ 5	文献講読（ナショナリズム２）	ナショナリズムの展開に関する文献を読む
＃ 6	文献購読（ナショナリズム３）	ナショナリズムの現状に関する文献を読む
＃ 7	報告（２）	ナショナリズムに関する個人報告
#8	文献講読（宗教１）	キリスト教における宗教と国家の関係に関する文献を読む
＃ 9	文献講読（宗教２）	イスラーム教における宗教と国家の関係に関する文献を読む
#10	報告（３）	宗教と国家の関係に関する個人報告
#11	文献講読（日本１）	前近代日本における宗教と国家に関する文献を読む
＃ 12	文献講読（日本２）	天皇制国家における宗教とナショナリズムに関する文献を読む
＃ 13	文献講読（日本３）	20 世紀後半以降の日本のナショナリズムに関する文献を読む
＃ 14	総括	ゼミのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に与えられた課題に対応すること、演習で扱う文献に必ず目を通すこと, 新聞などメディアを通じて情報を得ることなど、そしてゼミ終了後にゼミにおける議論を振り返ることなどを 2 時間程度行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指定する

【参考書】
必要に応じてゼミのときに紹介する

【成績評価の方法と基準】
ゼミの課題にたいする対応度（50 %）
個人報告を文書化しての提出（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
出席者の数によっては、チュートリアル方式を採用することがあります。
ゼミの内容に関しては、出席者の要望を最大限に尊重するつもりです。
シラバスに関して興味・疑問がある場合には以下の著作を参照してください。佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019 年）第 1 章 Syllabus とシラバスのあいだ

【Outline and objectives】
Theme:Relations between religion, nationalism and state
The fundamental aim of this seminar is to consider the relations between religion, nationalism and state.

ECN300LA

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**ゼロ金利と米中新冷戦**

水野　和夫

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
２０世紀末以降、日本をはじめ世界はこれまでにない事態に直面している。日本はデフレ、ゼロインフレの定着、ゼロ金利の長期化で、近代＝成長という常識が通用しなくなっている。米国でもトランプ大統領が２０１８年９月に反グローバリズム宣言をし、米中貿易摩擦が激化し、「米中新冷戦」に突入し、世界経済の大きな不安定要因となっている。
いわば、これまでの「常態」が隠れ、「例外状況」が顕在化するようになった。「正常は何物をも証明せず、例外がいっさいを証明する」背景を理解することができる。

【到達目標】
春学期の具体的な到達目標は、次の二つのテーマを通じて、現代社会が抱える問題点を探る。
テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」
テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義、ディスカッション、プレゼンを組み合わせることで、質疑応答を通じて自らの考えを深め、プレゼンテーション能力を高めていく。各個人（ないし各グループ）で 1 ないし 2 回程度のプレゼンを行う予定。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの授業となるため、各回の授業計画の変更については「学習支援システム」でその都度提示する。本授業のオンラインでの開始「学習支援システム」の「お知らせ」欄で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業（演習）の概要と進め方の説明
第 2 回	基礎的概念の説明Ⅰ	経常収支と貯蓄・投資バランス、家計、企業、政府、海外の貯蓄投資バランスの関係
第 3 回	基礎概念の説明Ⅱ	資本収支と資金過不足、家計、企業、政府、海外の資金過不足の関係
第 4 回	基礎概念の説明Ⅲ	「例外」と「常態」、「例外がいっさいを証明する」（『政治神学』シュミット）
第 5 回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」①	「利子とはなにか」（利子説の紹介）、１３世紀、利子誕生の経緯
第 6 回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」②	「利子生活者の安楽死」とは、2030 年「わが孫たちの経済的可能性」（ケインズ、1930）
第 7 回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」③	異次元金融緩和（2013 年 4 月）の目的は
第 8 回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」④	テーマⅠのまとめと質疑応答
第 9 回	テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」①	支配と被支配の正当性基準は何か、その変遷
第 10 回	テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」②	国際収支の発展段階説-中国は債権国か債務国か
第 11 回	テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」③	帝国とは何か―マイケル・ドイルの「帝国」論、カフカ「皇帝の綸旨」
第 12 回	テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」④	テーマⅡのまとめと質疑応答
第 13 回	プレゼンテーションⅠ	テーマⅠについて発表
第 14 回	プレゼンテーションⅡ	テーマⅡについて発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が理想であるが、講義で使用したレジメ（授業支援システムに掲載）を教科書と照らし合わせながら、復習をしっかりすること。

【テキスト（教科書）】
なし。毎回、レジメを授業支援システムに掲載。

【参考書】
『新版 グローバリゼーション』（マンフレッド・B. スティーガー、櫻井純理訳、岩波書店、2010 年）
https://www.iwanami.co.jp/book/b256795.html
『政治神学』（C・シュミット、原著 1934、未來社、田中浩・原田武雄訳、1971）
http://www.miraisha.co.jp/np/isbn/9784624300135
『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989
https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html

【成績評価の方法と基準】
受講態度 50 %＋プレゼン内容 50 %

【学生の意見等からの気づき】
演習形式なので、毎回学生の意見を聞いて、次回の授業に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】
事前に PC などで授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【Outline and objectives】
This course introduces a cause of zero interest rate and US-China New Cold War to students taking this course.Students can uenderstand that exceptions prove anything.

ECN300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**グローバリゼーションと資本主義の課題**

水野　和夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバリゼーションは近代的現象か、ポスト近代を招来させるのか、いわゆるグローバリゼーション論争を学ぶことで、グローバリゼーションの本質、およびグローバル資本主義が抱える課題を理解することができる。

【到達目標】
秋学期の具体的な到達目標は、次の 2 つのテーマを学び、グローバリゼーションが何をもたらすかを理解できるようになることである。テーマⅠ「インターナショナリゼーションとグローバリゼーション」テーマⅡ「資本主義の課題」

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義、ディスカッション、プレゼンを組み合わせることで、質疑応答を通じて自らの考えを深め、プレゼンテーション能力を高めていく。各個人（ないし各グループ）で 1 ないし 2 回程度のプレゼンを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期、この演習の目的と進め方を説明
第 2 回	テーマⅠ「インターナショナリゼーションとグローバリゼーション」①	インターナショナリゼーションとグローバリゼーションの定義と歴史－どちらが先か
第 3 回	テーマⅠ「インターナショナリゼーションとグローバリゼーション」②	国民国家 VS. 帝国－マイケル・ドイルの『帝国論』
第 4 回	テーマⅠ「インターナショナリゼーションとグローバリゼーション」③	グローバリゼーションのイデオロギー性
第 5 回	テーマⅠ「インターナショナリゼーションとグローバリゼーション」④	グローバリゼーションの論争、グロリゼーションは近代的現象か、ポスト近代か
第 6 回	テーマⅠ「インターナショナリゼーションとグローバリゼーション」⑤	主権国家システムと資本主義を超えて―新中世主義
第 7 回	テーマⅡ「資本主義の課題」①	資本とは、富の集中と貧困問題（オックスファムレポート）、エレファントカーブ
第 8 回	テーマⅡ「資本主義の課題」②	帝国の「過剰性」、「過剰・飽満・過多」
第 9 回	テーマⅡ「資本主義の課題」③	「蒐集」の歴史と「歴史の危機」（ブルクハルト）
第 10 回	テーマⅡ「資本主義の課題」④	資本主義と国民国家の関係
第 11 回	テーマⅡ「資本主義の課題」⑤	主権国家システムと資本主義を超えて（一つの選択肢としての新中世主義）
第 12 回	テーマⅡ「資本主義の課題」⑥	テーマⅡのまとめと質疑応答
第 13 回	プレゼンテーション①	テーマⅠの発表
第 14 回	プレゼンテーション②	テーマⅡの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が理想であるが、講義で使用したレジメ（授業支援システムに掲載）を教科書と照らし合わせながら、復習をしっかりすること。

【テキスト（教科書）】
教科書はなし。毎回、レジメを授業支援システムに掲載。

【参考書】
『変容する民主主義』（マッグルー，アントニー・G．編、松下冽監訳、日本経済評論社、2003 年）
http://www.nikkeihyo.co.jp/books/view/1562
『陸と海と― 世界史的一考察』（カール・シュミット、生松敬三・前野光弘訳、慈学社出版、2006 年）
http://www.jigaku.jp/mokuroku13.htm
『国際社会論－アナーキカル・ソサイエティ』（ヘドリー・ブル、臼杵英一訳、岩波書店、2000 年）
https://www.iwanami.co.jp/book/b265180.html
『帝国の研究』（山本有造、名古屋大学出版会、2003 年）
http://www.unp.or.jp/ISBN/ISBN4-8158-0473-7.html

【成績評価の方法と基準】
受講態度 50 %＋プレゼン内容 50 %

【学生の意見等からの気づき】
演習形式なので、毎回学生の意見を聞いて、次回の授業に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】
事前に PC などで授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【Outline and objectives】
This course introduces a nature of golobalizaitin and internatinalization to students taking this course.Students can uenderstand the defference between internatinalization and golobalizaitin and a issues of capitalism.

SOC300LA

福祉社会論 B

2017 年度以降入学者

菅野　摂子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教科書および授業時に配布するレジュメや文献などを用いて、社会福祉の基本的な考え方を学ぶとともに福祉の領域とされている社会問題を取り上げつつ、主に講義形式で学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、リアクションペーパーを作成する。提出されたリアクションペーパーは、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】
この授業では、社会福祉の概念を理解し、福祉的な社会とは何かを構想するとともに、社会による福祉とはどういったものなのか、政府以外の福祉の供給源、具体的には家族や企業などに目配りをしながら考察し、最終的には社会福祉をメタ的な視点から捉える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
主として講義形式。毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	福祉とは何か
2	必要の考え方と必要に基づく社会政策	必要と需要、貢献原則と必要原則
3	必要の基準と主体	必要判定、客観的な必要と主観的な必要
4	資源の供給と再分配	資源供給モデル、普遍主義と選別主義
5	官僚制と専門主義	官僚制の機能と逆機能、専門家の理念系
6	社会政策とその体系	公共政策の 3 分類
7	福祉の社会的分業	税制、企業の役割、福祉多元主義
8	福祉国家と社会変動	都市化、家族の失敗、高齢化
9	福祉国家の発展と展開	市民権の発達、福祉国家レジーム
10	ジェンダー主流化と社会政策	ジェンダー視点とジェンダー平等
11	子ども・家庭と社会福祉	児童福祉、児童虐待
12	「障碍観」の転換と社会福祉	優生思想、自立生活運動
13	貧困と社会的排除	絶対的貧困と相対的貧困
14	社会的包摂に向けて	ノーマライゼーション、アクティベーション、福祉国家と福祉社会の連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布するレジュメに書かれている次回の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『福祉社会 包摂の社会政策（新版）』武川正吾 有斐閣アルマ（2011 年）2,300 円+税

【参考書】
『福祉社会学ハンドブック 現代を読み解く 98 の論点』福祉社会学会編集 中央法規（2013 年）、『社会福祉学』平岡紘一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人 有斐閣（2011 年）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 70%、平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】
100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていくことが重要だと感じた。

【Outline and objectives】
We will learn basic ideas of social welfare by using textbooks and resume distributed at the time of class, and pick up the social issue which is regarded as the area of welfare. Learning mainly takes place in lecture form.　Also, for the purpose of aquisition the learning contents and applying it, prepare a reaction paper.　The submitted reaction paper is fed back to the class as appropriate after paying attention to personal information.

HUG300LA

人文地理学セミナーA

2017 年度以降入学者

米家　志乃布

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「江戸東京」の各地域について、地図・写真・記録などの史資料を利用しながら学びます。テキスト『東京の歴史　地帯編』のなかから、主要区部の巻を中心に輪読し、各地域を説明するうえでの重要な史資料についても取り扱っていきます。

【到達目標】
江戸東京を構成する基本的な地理的事象を理解し、江戸東京の地理を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
『東京の歴史』第 4 巻〜5 巻の分担部分を発表してもらい、利用されている史資料や記述内容について議論します。後半の回では、各地域に実際に赴いて、レポートして理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、グループ分け、テキストの分担の決定
第 2 回	江戸東京の地理の基礎	江戸時代から現代までの東京の変遷について講義します。
第 3 回	地帯編を読む①	千代田区
第 4 回	地帯編を読む②	新宿区
第 5 回	地帯編を読む③	文京区
第 6 回	地帯編を読む④	港区
第 7 回	地帯編を読む⑤	中央区
第 8 回	地帯編を読む⑥	台東区
第 9 回	地帯編を読む⑦	墨田区
第 10 回	地帯編を読む⑧	江東区
第 11 回	現地調査	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認する
第 12 回	現地調査の発表①	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認した結果を発表する
第 13 回	現地調査の発表②	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認した結果を発表する
第 14 回	まとめ	江戸東京の各地域についての学習内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業で紹介するテキストの分担部分を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめること、必要に応じて様々な史資料を探すこと、現地調査の結果をレポートにまとめること、など。

【テキスト（教科書）】
『東京の歴史第 4 巻地帯編 1 千代田区・港区・新宿区・文京区』吉川弘文館、2018 年
『東京の歴史第 5 巻地帯編 2 中央区・台東区・墨田区・江東区』吉川弘文館、2019 年
ＢＴ 12 階の地理学科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】
必要に応じて、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ形式の授業なので、出席 50 %、発表やレポート 50 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
履修者が多く発表時間が長くなるため、次の授業への移動に支障がでます。昨年度は全員受講の許可をしましたが、今年度は、もし履修希望者が多いようならば履修者を選抜する予定です。

【その他の重要事項】
ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

【Outline and objectives】
This course examines geographies of Edo-Tokyo areas by historical maps, pictures, documents.

HUG300LA

人文地理学セミナーB

2017 年度以降入学者

米家　志乃布

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「江戸東京」の各地域について、地図・写真・記録などの史資料を利用しながら学びます。テキスト『東京の歴史　地帯編』のなかから、主要区部の巻を中心に輪読し、各地域を説明するうえでの重要な史資料についても取り扱っていきます。

【到達目標】
江戸東京を構成する基本的な地理的事象を理解し、江戸東京の地理を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
『東京の歴史』第 6 巻〜8 巻の分担部分を発表してもらい、利用されている史資料や記述内容について議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	履修者の選抜、確認 担当個所の割り振りなど
第 2 回	地帯編を読む①	品川区
第 3 回	地帯編を読む②	大田区
第 4 回	地帯編を読む③	目黒区
第 5 回	地帯編を読む④	世田谷区
第 6 回	地帯編を読む⑤	渋谷区
第 7 回	地帯編を読む⑥	中野区・杉並区
第 8 回	地帯編を読む⑦	練馬区・板橋区
第 9 回	地帯編を読む⑧	豊島区・北区
第 10 回	地帯編を読む⑨	足立区・葛飾区
第 11 回	地帯編を読む⑩	荒川区・江戸川区
第 12 回	東京 23 区の歴史地理の特徴を議論する①	東京 23 区の歴史地理について、江戸期および江戸以前をおさえ、いままでの学習を振り返る。
第 13 回	京 23 区の歴史地理の特徴を議論する②	東京 23 区の歴史地理について、近代の状況をおさえ、いままでの学習を振り返る。
第 14 回	まとめ	江戸東京の歴史地理についてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で紹介するテキストの分担部分を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめること、必要に応じて様々な史資料を探すこと、現地調査の結果をレポートにまとめること、など。

【テキスト（教科書）】
『東京の歴史第 6 巻地帯編 3 品川区・大田区・目黒区・世田谷区』吉川弘文館、2019 年
『東京の歴史第 7 巻地帯編 4 渋谷区・中野区・杉並区・板橋区・練馬区・豊島区・北区』吉川弘文館、2019 年
『東京の歴史第 8 巻地帯編 5 足立区・葛飾区・荒川区・江戸川区』吉川弘文館、2020 年
ＢＴ 12 階の地理学科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】
必要に応じて、適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ形式の授業なので、出席 50 %、発表やレポート 50 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
履修者が多く発表時間が長くなるため、次の授業への移動に支障がでます。昨年度は全員受講の許可をしましたが、今年度は、もし履修希望者が多いようならば履修者を選抜する予定です。

【その他の重要事項】
ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。なお、その際、春学期人文地理学セミナー A 履修者を優先いたします。

【Outline and objectives】
This course examines geographies of Edo-Tokyo areas by historical maps, pictures, documents.

CUA300LA

文化人類学方法論 A

2017 年度以降入学者

石森　大知

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、開発援助や国際協力に関するテーマを文化人類学的な視点から扱います。文化人類学の基本的な理論や概念の習得を目標とするとともに、開発、貧困、紛争、災害などに関する現代的な諸テーマも取り上げながら、グローバル・イシューにアプローチするための基本的な視座を養います。

【到達目標】
・文化人類学、開発人類学の専門的な概念や理論を習得する。
・世界の諸地域に暮らす人びとの文化や社会の多様性を認識し、グローバルな問題とローカルな問題のかかわり合いを看取する能力を身に付ける。
・文献の内容をただ理解するだけではなく、批判的な読み方をできるようにする。その作業を通して、自らの問題関心と関連付けて考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・本授業の開始日は 4 月 22 日とします。
・本授業は主に文献の輪読形式で行います。当面の間、「学習支援システム」を用いた授業とし、各自が自宅で文献を①「熟読」し、文献の②「要約」を行うとともに、③「ミニ課題」に答えるという形式をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、使用する文献の説明
第 2 回	開発援助の人類学	研究動向と近年の課題
第 3 回	開発援助の歴史的位置づけ	「開発援助」の生成と変容
第 4 回	人類学と開発問題①	（文献の発表・討論）開発人類学の展開
第 5 回	人類学と開発問題②	（文献の発表・討論）文化人類学と開発のつながり／へだたり
第 6 回	開発実践の現場から①	（文献の発表・討論）フィールドワークと現地の視点
第 7 回	開発実践の現場から②	（文献の発表・討論）開発とジェンダー
第 8 回	開発実践の現場から③	（文献の発表・討論）公衆衛生・保健医療
第 9 回	援助と互酬性①	（文献の発表・討論）変貌する NGO・市民活動の現場
第 10 回	援助と互酬性②	（文献の発表・討論）グローバルな互酬を構想する
第 11 回	アクターの多層性①	（文献の発表・討論）学生の海外ボランティア
第 12 回	アクターの多層性②	（文献の発表・討論）宗教者・宗教団体による開発
第 13 回	新たな関係性の構築	（文献の発表・討論）理念と実践の隔たりから考える
第 14 回	総括	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・輪読に使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
・本授業の準備学修・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
信田敏宏・白川千尋・宇田川妙子編『グローバル支援の人類学―変貌する NGO・市民活動の現場から』昭和堂、2017 年。
佐藤寛・藤掛洋子編『開発援助と人類学―冷戦・蜜月・パートナーシップ』明石書店、2011 年。
（以上の文献を使用しますが、必ずしも購入するの必要はありません）

【参考書】
石森大知・丹羽典生編『宗教と開発の人類学―グローバル化するポスト世俗主義と開発言説』春風社、2019 年。
関根久雄編『実践と感情―開発人類学の新展開』春風社、2015 年。
小國和子ほか編『支援のフィールドワーク―開発と福祉の現場から』世界思想社、2011 年。
佐藤寛『開発援助の社会学』世界思想社、2005 年。
（以上のほか、授業時に適宜紹介します）

【成績評価の方法と基準】
授業（オンラインを含む）の取り組みや各種課題を「平常点（70 %）」として重視するとともに、学期末に出す予定の「レポート（30 %）」を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
学期中にシラバスや授業計画を変更していくことが想定され、変更がある場合は学習支援システムで周知する。

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of cultural anthropology. We also try to understand global issues, such as international development, tourism and conflicts, from anthropological perspective. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts and theories of anthropology. We also deepen our understanding on issues related to the global issues.

CUA300LA

文化人類学方法論 B

2017 年度以降入学者

石森　大知

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、観光に関するテーマを文化人類学的な視点から扱います。観光の現場では、ローカルな文化・環境・宗教などが新たな意味や価値をもつものとして資源化され、ナショナルおよびグローバルな文脈に位置づけられる現象が起こっています。観光客を迎える人たち（＝ホスト）はいかに資源化をおこない、観光客（＝ゲスト）はそれをどのように経験するのでしょうか。また、ゲストとホストの双方にとってより良い観光とは何でしょうか。本授業では、これらの問いや疑問について考察します。

【到達目標】
・文化人類学、観光人類学の専門的な概念や理論を習得する。
・観光に関する国内外の事例を学ぶことを通して、グローバル化時代の観光現象を広い視野から理解する能力を身に付ける。
・文献の内容をただ理解するだけではなく、批判的な読み方をできるようにする。その作業を通して、自らの問題関心と関連付けて考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業では、基本的に毎回発表者を立てる（主に履修者による発表・輪読の形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる）。発表者はレジュメに基づいて発表し、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、発表順の決定
第 2 回	観光の形態①	観光＋人類学とは何か
第 3 回	観光の形態②	観光のヴァリエーション
第 4 回	観光と文化	観光の現場で創られる文化
第 5 回	観光と開発	観光と地域開発の結びつき
第 6 回	日本人と海外観光	（文献の発表と討論）マスツーリズムの歴史
第 7 回	楽園と観光	（文献の発表と討論）楽園イメージの創造
第 8 回	ふるさと／都市観光	（文献の発表と討論）日本観光の一断面
第 9 回	環境と観光	（文献の発表と討論）エコツーリズムとは何か
第 10 回	宗教と観光①	（文献の発表と討論）宗教／巡礼ツーリズム
第 11 回	宗教と観光②	（文献の発表と討論）宗教／巡礼ツーリズム
第 12 回	そのほかの観光①	（文献の発表と討論）世界遺産、ロングステイ
第 13 回	そのほかの観光②	（文献の発表と討論）テーマパーク、アニメ
第 14 回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・輪読に使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
・本授業の準備学修・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
山下晋司『観光人類学の挑戦―「新しい地球」の生き方』講談社、2009 年。
橋本和也『観光人類学の戦略―文化の売り方・売られ方』世界思想社、1999 年。
（以上の文献を使用しますが、必ずしも購入する必要はありません）

【参考書】
岡本亮輔『聖地巡礼』中公新書、2015 年。
山中弘編『宗教とツーリズム―聖なるものの変容と持続』世界思想社、2012 年。
鏡味治也ほか編『フィールドワーカーズ・ハンドブック』世界思想社、2011 年。
綾部恒雄編『文化人類学 20 の理論』弘文堂、2006 年。
橋本和也ほか編『観光開発と文化―南からの問いかけ』世界思想社、2003 年。
（以上のほか、授業時に適宜紹介します）

【成績評価の方法と基準】
討論・発表内容、授業への参加態度など平常点（70 %）を重視するとともに、授業内で課す予定のレポートやレジュメの内容（30 %）も評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of cultural anthropology, especially concerning on the tourism. The goals of this course are to obtain basic concepts and theories of the anthropology of tourism, and understand the impacts of tourism on the local culture, environment and society.

POL300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**政治思想史古典精読：アメリカの独立を考える**

上村　剛

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火** 5/Tue.5
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
独立宣言など、アメリカ合衆国第 3 代大統領トマス・ジェファソンが記した古典的テクストをゆっくりと読み、アメリカの建国の理由と意義を考える。それによって、現代の政治的事象を歴史の視座から相対化して思考する能力と、正確な他者理解の能力を身に付ける。

【到達目標】
・政治思想史の古典的なテクストを正確に理解する能力を身につける。
・現代の政治的事象を、歴史的な視角から相対化して推論する能力を身につける。
・アメリカ合衆国の基礎にある政治的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
演習形式で進める。参加者は毎週課題（日本語数頁程度）を読み、300 〜 500 字を目安としたコメントペーパーを事前に送付する。（受講者の人数もよるが、）おおよそ各回 1 人の報告者が報告する。その後、受講者全員でディスカッションを行う。教員は可能な限り発言を控えるため、学生の積極的な議論への参加が望ましい。
【オンライン化に伴う追記： 4/15】この授業はディスッカションを行うゼミ形式のため、なんらかの双方向型の web 会議システム（詳細は仮登録者に対して連絡します）を通じて行われます。従って、受講者の皆さんは、オンラインでディスカッションを行うことのできる環境（パソコン、インターネット環境など）を用意する必要があります（事前購入の必要な書籍はありません）。この授業はもともとの予定通り、火曜日の 5 時間目の時間帯に行われます。授業開始日は 4/21（火）を予定していますので、前日までに仮登録を済ませておいて頂けるとありがたいです。仮登録がお済みの方には遅くとも 4/20 までには、初回の授業についての連絡をします。初回はイントロダクションですので、履修登録を迷っている方も参加可能です。授業の進め方についての要望があれば、初回に可能な限り受け付けますので相談できればと思います。実質的な議論は 4/28 から行う予定です。慣れないうちは皆どたばたするでしょうから、ご協力をお願いします。
【オンライン化に伴う追記その 2 ： 4/21 14 時】本日より授業を開始しますが、教育支援システムへのアクセス集中によってまだ仮登録ができていないが履修したいという方は（本日以降であっても）kamimuratsuyoshi ◎ gmail.com （◎をアットマークに変換すること）までご連絡をください。なんらかのトラブルにより本日の授業の参加がかなわずとも、履修は基本的に認める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	古典を読むとはどういう行為か、どのような意味があるかを考え、ゼミの意義を押さえる。
2	『意見の要約』(1)	アメリカの独立がどのようなきっかけで発生したのか議論する。
3	『意見の要約』(2)	ジェファソンはイギリスのどのような政策に不満を持っていたのか議論する。
4	『意見の要約』(3)	ジェファソンはイギリス側の政治理論についてどのような欠点を見出したかを議論する。
5	『意見の要約』(4)	ジェファソンはイギリス側の政治理論についてどのような反論を目指したのかを議論する。
6	『意見の要約』(5)	ジェファソンはなぜ独立を支持したのか、どのような理由によってかを議論する。
7	『意見の要約』(6)	ジェファソンはどのような論拠によってアメリカの独立を支持したのかを議論する。
8	独立宣言 (1)	独立宣言がどのような歴史的な意味を持つのか、どのような理由で出された政治的文書かを議論する。
9	独立宣言 (2)	ジェファソンが用いた、自然の法、自然の神の法といった言葉が何を意味するか議論する。
10	独立宣言 (3)	ジェファソンが用いた、生命、自由、幸福の追求といった言葉が何を意味するか議論する。
11	『独立宣言に対する短評』(1)	イングランドの政治思想家、ジェレミー・ベンサムは、なぜ独立宣言に反論を加えたかを議論する。
12	『独立宣言に対する短評』(2)	ベンサムは、どのようにして独立宣言に反論を加えたかを議論する。
13	『独立宣言に対する短評』(3)	ベンサムは、どのようなイングランド本国の主張を擁護したかを議論する。
14	『独立宣言に対する短評』(4)、まとめ	ジェファソンとベンサムの議論を合わせ、アメリカの独立がどのような意味を持っているか、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。各回の予習範囲を予め読み、議論につながりそうなコメントペーパーを執筆することが求められる。また、自分が担当する報告の準備は、他の文献にあたることも求められるため、2 時間を大幅に超える予習時間が必要である。

【テキスト（教科書）】
トマス・ジェファソン「イギリス領アメリカの諸権利についての意見の要約」（『世界の名著 33 フランクリン・ジェファソン・ハミルトン・ジェイ・マディソン・トクヴィル』所収）、「13 のアメリカ連合諸邦による全会一致の宣言（独立宣言）」（『史料で読む　アメリカ文化史 2 独立から南北戦争まで　1770 年代-1850 年代』所収）、ジェレミー・ベンサム「独立宣言に対する短評」（D・アーミテイジ『独立宣言の世界史』所収）を用いる。なお、入手が難しいものもあるため、こちらで PDF ないし紙による配布を予定している。

【参考書】
イントロダクションで紹介する。

【成績評価の方法と基準】
報告（20%）と毎回のコメントペーパー、議論への参加状況（80%）によって評価する。期末レポートは課さない。ただし、単位習得には、必ず最低 1 回は報告を行うことが求められる。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につき、アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
配布された PDF の資料をパソコンなどの電子機器で読めるようにすること。

【その他の重要事項】
秋学期に開講される「教養ゼミ II(Q6214)」とこのゼミは関連するため、合わせての履修を強く薦める（もちろん、他講義との都合もあるだろうから、絶対に二つとも受講しなくてはいけないわけではない）。

【Outline and objectives】
We will discuss reasons and meanings of the American founding through reading some classical texts such as the Declaration of Independence written by Thomas Jefferson, the third president of the United States. This serves to be able to think modern political phenomena from historical perspective and understand others correctly.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**政治思想史古典精読：ジェファソンの憲法思想を考える**

上村　剛

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 5**/Tue.5
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ合衆国第 3 代大統領トマス・ジェファソンが記した『ヴァジニア覚え書』は、アメリカ合衆国憲法の制定にも大きな影響を与えた。この古典的な著作の、憲法論、法思想に関する箇所をゆっくりと読み、アメリカの憲法思想の意味を考える。それによって、現代の政治的事象を歴史の視座から相対化して思考する能力と、正確な他者理解の能力を身に付ける。

【到達目標】
・政治思想史の古典的なテクストを正確に理解する能力を身につける。
・現代の政治的事象を、歴史的な視角から相対化して推論する能力を身につける。
・アメリカ合衆国の基礎にある法・政治的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
演習形式で進める。参加者は毎週課題（日本語数頁程度）を読み、300 〜 500 字を目安としたコメントペーパーを事前に送付する。（受講者の人数もよるが、）おおよそ各回 1 人の報告者が報告する。その後、受講者全員でディスカッションを行う。教員は可能な限り発言を控えるため、学生の積極的な議論への参加が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	古典を読むとはどういう行為か、どのような意味があるかを考え、ゼミの意義を押さえる。
2	『ヴァジニア覚え書』(1)	ジェファソンがこのテクストを記した意図について議論する。
3	『ヴァジニア覚え書』(2)	ジェファソンが憲法という語によってどのような理解をしていたかについて議論する。
4	『ヴァジニア覚え書』(3)	ジェファソンは、ヴァージニア州の歴史的起源についてどのように理解していたのか議論する。
5	『ヴァジニア覚え書』(4)	ジェファソンは、なぜヴァージニア州の歴史的起源について記したのかについて議論する。
6	『ヴァジニア覚え書』(5)	ジェファソンが記したヴァージニア州の起源とイングランドとの関係についての叙述は、どのような特徴があるかについて議論する。
7	『ヴァジニア覚え書』(6)	ジェファソンは憲法改正についてどのような論拠がありうると考えていたかについて議論する。
8	『ヴァジニア覚え書』(7)	ジェファソンは憲法と通常の法についてどのような意味の違いを見出したか、議論する。

9	『ヴァジニア覚え書』(8)	ジェファソンが、立法府、立法権という語によって何を意味していたかを議論する。
10	『ヴァジニア覚え書』(9)	ジェファソンは立法府が暴走することを恐れた。なぜそのような考え方を彼が持っていたかを、ヴァージニアの政治の文脈に即して議論する。
11	『ヴァジニア覚え書』(10)	立法府の暴走を食い止めるために、いかなる抑制が考えられるかについて、議論する。
12	『ヴァジニア覚え書』(11)	ジェファソンは選挙についてどのような理解をしていたか議論する。
13	『ヴァジニア覚え書』(12)	ジェファソンの考えた憲法構想が、どのように制度的に反映されていったかについて議論する。
14	まとめ	ジェファソンが考えた憲法論は、アメリカ合衆国憲法にどのような影響を与えたかを議論し、まとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。各回の予習範囲を予め読み、議論につながりそうなコメントペーパーを執筆することが求められる。また、自分が担当する報告の準備は、他の文献にあたることも求められるため、2 時間を大幅に超える予習時間が必要である。

【テキスト（教科書）】
トマス・ジェファソン『ヴァジニア覚え書』（中屋健一訳、岩波文庫、1972 年）を用いる。ただし、このテクストは現在絶版であることから、こちらで用意し、配布する予定である。

【参考書】
イントロダクションで紹介する。

【成績評価の方法と基準】
報告（20%）と毎回のコメントペーパー、議論への参加状況（80%）によって評価する。期末レポートは課さない。ただし、単位習得には、必ず最低 1 回は報告を行うことが求められる。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につき、アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
配布された PDF の資料をパソコンなどの電子機器で読めるようにすること。

【その他の重要事項】
春学期に開講される「教養ゼミ I(Q6213)」とこのゼミは関連するため、合わせての履修を強く薦める（もちろん、他講義との都合もあるだろうから、絶対に二つとも受講しなくてはいけないわけではない）。

【Outline and objectives】
We will discuss meanings of the American constitutional thought through reading *Notes on the State of Virginia* written by Thomas Jefferson, the third president of the United States. This serves to be able to think modern political phenomena from historical perspective and understand others correctly.

PSY300LA

人間行動学 A

2017 年度以降入学者

海部　紀行

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基盤科目の「心理学 I/II」などでアカデミックな心理学の基礎（ベーシック）を学び，リベラルアーツ科目の「心理学 LA/LB」などで，より発展・応用的な心理学を学ぶことを前提とし，総合科目の「人間行動学」では，「行動」として表現される「こころ・いのち」を考えます。

【到達目標】
「臆病な自尊心と尊大な羞恥心」（from『山月記』by 中島敦），『狂気の歴史』『性の歴史』（by M. フーコー），『全体主義の起原』『人間の条件（活動的生）』『精神の生活』（by H. アレント），「私の個人主義」（by 夏目漱石），「この世は舞台（stage），誰もが役者（player）」（from『As You Like It（お気に召すまま）』by シェイクスピア）…その他あれこれと『霊魂論』（by アリストテレス）以来の「心理学」，とりわけ「正常と異常」もしくは「マジョリテイとマイノリティ」との繋がり・絡みを学び合っていきます。
もはや手垢にまみれた（？）「個性」だの「多様性」だの…についても突き詰め追い究めることができるでしょうか。
当然（？），現実的・合理的で正しい（はずの）AI（人工知能）やロボット，サイボーグ，アンドロイド，レプリカント，あるいはクローンと，誤り・間違いだらけで，夢幻・観念・妄想・変態の沼にハマる（ハマらざるを得ない）ヒト（こころ・いのち）との差異をも感じ思います。
「心の性」や「心の病」とは何か。家族や友人その他さまざまな人たちとの交わり・もつれから生じることは何か。社会・文化，歴史・時代，対人関係のもと，状況・相互作用・関係性を通して，絶えず生成・変化・展開する（しかない）自転車操業の実存・ヒトの「こころ」や「いのち」の意味は分かるのか。ヒトは何故（why）・どのように（how）生きているのか。生きているということは，「こころ・いのち」と同じなのか否か。さて，「こころ・いのち」はどこにあるのか。「こころ・いのち」とは何か。改めて考えることが目標です。
その都度の相対的な真理の追究こそが科学的な態度，との立場で，相互に「対話」を積み上げて検討し，参加者各々が感じ思い考え，それぞれが，そのときどきの答えを見出していけるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
参加者自らが設定したテーマについて（単独でも共同でも）調査や研究を進め，順次，報告・発表し，ディスカッションします。
これまでの担当科目では，しばしばマンガやアニメ，ゲーム，ラノベを含む文芸，アート，音楽，映画，SNS や動画サイトその他ソーシャルメディア，メディア情報リテラシーのあり方など，さまざまな側面・角度から「こころ・いのち」を考えてきました。「こころ・いのち」が，「行動」となって顕著に表（現）れているからです。
どうかすると，私（or 貴方）は幾らか狂っていたり，少なくとも狂いたかったりするのかもしれません。この世間・社会の文化だの常識だのが不可思議で疑わしすぎるとしたら，私（or 貴方）の「こころ・いのち」は，何かヘンなのでしょうか。
良くも悪くもサロンのイメージで，それぞれが，それぞれに，言い放ち，切り返し…と連鎖を愉しめる協働を試みます。
【補足・改定】
4 月 23 日（木）を「学習支援システム」での開始日とし，改めて告知します。
当面，集まることが不可能なので，同システムでも伝えましたが，できる手法を一緒に模索していきます。

なお，この科目は「定員制」で，「抽選」ではなく「選抜」の対象です。別途，「授業情報」で示した設問に対し（「課題」ではありませんが），何らかのコメントなりを当方アドレス（kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp）宛てに送信ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
	実質「休講」	同左
	実質「休講」	同左
1	イントロダクション	参加者各々の興味・関心に基づき，討論の素材（教材）について検討
2	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
3	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
4	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
5	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
6	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
7	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
8	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
9	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
10	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
11	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
12	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
分担した報告・発表に向けて準備します。報告・発表の前の回には，参加者全員分の素材や資料が行き渡るようにします。
報告・発表担当でない場合，これらの素材や資料に前もって目を通しておきます。
報告・発表担当であるかないかを問わず，報告・発表時のディスカッションを踏まえ，さらに吟味します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料がテキストとなります。

【参考書】
とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料が参考書となります。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100 %）：報告・発表とともに，（担当であるかないかを問わず）報告・発表時のディスカッションなどを総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】
相互に議論するのは難しかったものの，その都度の発言やリアクションペーパー記述の紹介によって，各々が多種多様に理解を深めていく過程が明瞭でした。報告・発表やディスカッションのあり方など，相談しながら一緒に進めていきます。

【その他の重要事項】
(1) 人間行動学 A（春学期）と人間行動学 B（秋学期）は連動するので，一体としての履修を望みます。
(2) 必須ではありませんが，海部が担当した「心理学 I / II」や「心理学 LA/LB」を履修した方の参加を見込みます。
(3) 上記科目で小論文などに取り組んだ方は，そのとき執筆したものを報告・発表の素材にできます。
(4) 履修希望が多い場合，（秋学期のみ参加予定者も含め）春学期初回（遅くても第 2 回まで）に参加し，報告・発表ないし話題提供その他，論議に臨む確かな意思が示されたなかから選抜します（2019 年度は 100 名超より 30 名ほどを選抜）。
(5)「臨床心理士」として，さまざまな方々と接してきたことの反映が多いかもしれません。
(6) オフィスアワー（Q&A タイム？ なんでもお喋りタイム？）は原則として水曜・木曜の各 6 時限に設ける予定です。同予約その他のリクエストは，口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは，kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。
(7) 2019 年度の報告・発表テーマは，次のとおりでした。
#01 相模原障害者施設殺傷事件に見る現代社会の問題
#02 メンヘラカルチャーと「病みかわいい」
#03 アスペルガー症候群の人には天才が多い!?
#04 日本における制度と行動規範の乖離：労働環境に焦点を当てて
#05 漫画から読み解く行動心理学
#06 川崎登戸事件から見る拡大自殺・間接自殺の背景
#07「男」と「女」は別の生き物なのか
#08 バーナム効果：占いの必要性
#09 ADHD 型主人公の誕生と衰退
#10『愛がなんだ』から見る恋愛依存
#11 あらゆる場面で嫉妬は害なのか？
#12 なぜアイドルの沼にハマるのか
#13 Are You Righteous??
#14 練馬区女子大生の死体遺棄事件から見るストーキング殺人事件に関する分類について
#15 陰キャと陽キャに優劣はあるのか
#16 観光旅行における心理学
#17 社会・文化におけるヒロイン像の変遷
#18「認められたい」，その感情は顔ありきなのか？
#19 何故，人は容姿に拘るのか？
#20 優生学とその心理的要因
#21 暴力のない子どもへの教育をしていくために
#22 映画『パプリカ』に見られる夢表現について
#23 分人主義（dividualism）という生き方：「本当の自分」という幻想
#24 何故，人は映画版ジャイアンに惚れてしまうのか
#25 匿名によるネットバッシング：これからのファンのあり方とはなお，2018 年度の報告・発表テーマは，以下のとおり。
#01 SNS と自己顕示欲：健全な自己顕示欲とは？ また，その付き合い方
#02「炎上」はなぜ起こるのか
#03 フェティシズムと犯罪者予備軍
#04 うつ病への理解
#05 なぜ人は周りからよく見られようとするのか
#06 優生思想について
#07 返報性について
#08 安楽死からみる自己決定権について
#09 自己欺瞞
#10「心の監禁」からの脱出
#11 バーナム効果とは
#12「君の NO は。」：世界の歪みは誰のせい？ 認知バイアスと認知の歪み
#13 犠牲と正義：報復は正義になり得るのか
#14 承認欲求
#15 パーソナルスペース
#16「ネタばれ」は悪くない？
#17「装う」ということ：アイデンティティと自己実現

#18 認知的不協和：自分自身から逃げない勇気
#19 自己成就予言効果
#20 ツァイガルニク効果
#21 ロボットに心はあるか

【Outline and objectives】
This subject is premised on the foundation course "Psychology I/ II " and the advanced applied course "Psychology LA/LB".
In the general course "Human behavior", we make a study of action as the mind is expressed.

PSY300LA

人間行動学 B

2017 年度以降入学者

海部　紀行

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基盤科目の「心理学Ⅰ/Ⅱ」などでアカデミックな心理学の基礎（ベーシック）を学び，リベラルアーツ科目の「心理学 LA/LB」などで，より発展・応用的な心理学を学ぶことを前提とし，総合科目の「人間行動学」では，「行動」として表現される「こころ・いのち」を考えます。

【到達目標】
「臆病な自尊心と尊大な羞恥心」（from『山月記』by 中島敦），『狂気の歴史』『性の歴史』（by M. フーコー），『全体主義の起原』『人間の条件（活動的生）』『精神の生活』（by H. アレント），「私の個人主義」（by 夏目漱石），「この世は舞台（stage），誰もが役者（player）」（from『As You Like It（お気に召すまま）』by シェイクスピア）…その他あれこれと『霊魂論』（by アリストテレス）以来の「心理学」，とりわけ「正常と異常」もしくは「マジョリテイとマイノリティ」との繋がり・絡みを学び合っていきます。
もはや手垢にまみれた（？）「個性」だの「多様性」だの…についても突き詰め追い究めることができるでしょうか。
当然（？），現実的・合理的で正しい（はずの） AI（人工知能）やロボット，サイボーグ，アンドロイド，レプリカント，あるいはクローンと，誤り・間違いだらけで，夢幻・観念・妄想・変態の沼にハマる（ハマらざるを得ない）ヒト（こころ・いのち）との差異をも感じ思います。
「心の性」や「心の病」とは何か。家族や友人その他さまざまな人たちとの交わり・もつれから生じることは何か。社会・文化，歴史・時代，対人関係のもと，状況・相互作用・関係性を通して，絶えず生成・変化・展開する（しかない）自転車操業の実存・ヒトの「こころ」や「いのち」の意味は分かるのか。ヒトは何故（why）・どのように（how）生きているのか。生きているということは，「こころ・いのち」と同じなのか否か。さて，「こころ・いのち」はどこにあるのか。「こころ・いのち」とは何か。改めて考えることが目標です。
その都度の相対的な真理の追究こそが科学的な態度，との立場で，相互に「対話」を積み上げて検討し，参加者各々が感じ思い考え，それぞれが，そのときどきの答えを見出していけるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
参加者自らが設定したテーマについて（単独でも共同でも）調査や研究を進め，順次，報告・発表し，ディスカッションします。
これまでの担当科目では，しばしばマンガやアニメ，ゲーム，ラノベを含む文芸，アート，音楽，映画，SNS や動画サイトその他ソーシャルメディア，メディア情報リテラシーのあり方など，さまざまな側面・角度から「こころ・いのち」を考えてきました。「こころ・いのち」が，「行動」となって顕著に表（現）れているからです。
どうかすると，私（or 貴方）は幾らか狂っていたり，少なくとも狂いたかったりするのかもしれません。この世間・社会の文化だの常識だのが不可思議で疑わしすぎるとしたら，私（or 貴方）の「こころ・いのち」は，何かヘンなのでしょうか。
良くも悪くもサロンのイメージで，それぞれが，それぞれに，言い放ち，切り返し…と連鎖を愉しめる協働を試みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者各々の興味・関心を持ち寄り，討論の素材（教材）について全体で協議
2	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
3	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
4	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
5	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
6	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
7	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
8	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
9	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
10	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
11	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
12	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
13	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション
14	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表，ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
分担した報告・発表に向けて準備します。報告・発表の前の回には，参加者全員分の素材や資料が行き渡るようにします。
報告・発表担当でない場合，これらの素材や資料に前もって目を通しておきます。
報告・発表担当であるかないかを問わず，報告・発表時のディスカッションを踏まえ，さらに吟味します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料がテキストとなります。

【参考書】
とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料が参考書となります。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100 %）：報告・発表とともに，（担当であるかないかを問わず）報告・発表時のディスカッションなどを総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】
相互に議論するのは難しかったものの，その都度の発言やリアクションペーパー記述の紹介によって，各々が多種多様に理解を深めていく過程が明瞭でした。報告・発表やディスカッションのあり方など，相談しながら一緒に進めていきます。

【その他の重要事項】
（1）人間行動学 A（春学期）と人間行動学 B（秋学期）は連動するので，一体としての履修を望みます。
（2）必須ではありませんが，海部が担当した「心理学 I / II」や「心理学 LA/LB」を履修した方の参加を見込みます。
（3）上記科目で小論文などに取り組んだ方は，そのとき執筆したものを報告・発表の素材にできます。
（4）履修希望が多い場合，（秋学期のみ参加予定者も含め）春学期初回（遅くても第 2 回まで）に参加し，報告・発表ないし話題提供その他，論議に臨む確かな意思が示されたなかから選抜します（2019 年度は 100 名超より 30 名ほどを選抜）。
（5）「臨床心理士」として，さまざまな方々と接してきたことの反映が多いかもしれません。
（6）オフィスアワー（Q&A タイム？ なんでもお喋りタイム？）は原則として水曜・木曜の各 6 時限に設ける予定です。同予約その他のリクエストは，口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは，kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。
（7）2019 年度の報告・発表テーマは，次のとおりでした。
#01 相模原障害者施設殺傷事件に見る現代社会の問題
#02 メンヘラカルチャーと「病みかわいい」
#03 アスペルガー症候群の人には天才が多い!?
#04 日本における制度と行動規範の乖離：労働環境に焦点を当てて
#05 漫画から読み解く行動心理学
#06 川崎登戸事件から見る拡大自殺・間接自殺の背景
#07「男」と「女」は別の生き物なのか
#08 バーナム効果：占いの必要性
#09 ADHD 型主人公の誕生と衰退
#10『愛がなんだ』から見る恋愛依存
#11 あらゆる場面で嫉妬は害なのか？
#12 なぜアイドルの沼にハマるのか
#13 Are You Righteous??
#14 練馬区女子大生の死体遺棄事件から見るストーキング殺人事件に関する分類について
#15 陰キャと陽キャに優劣はあるのか
#16 観光旅行における心理学
#17 社会・文化におけるヒロイン像の変遷
#18「認められたい」，その感情は顔ありきなのか？
#19 何故，人は容姿に拘るのか？
#20 優生学とその心理的要因
#21 暴力のない子どもへの教育をしていくために
#22 映画『パプリカ』に見られる夢表現について
#23 分人主義（dividualism）という生き方：「本当の自分」という幻想
#24 何故，人は映画版ジャイアンに惚れてしまうのか
#25 匿名によるネットバッシング：これからのファンのあり方とはなお，2018 年度の報告・発表テーマは，以下のとおり。
#01 SNS と自己顕示欲：健全な自己顕示欲とは？ また，その付き合い方
#02「炎上」はなぜ起こるのか
#03 フェティシズムと犯罪者予備軍
#04 うつ病への理解
#05 なぜ人は周りからよく見られようとするのか
#06 優生思想について
#07 返報性について
#08 安楽死からみる自己決定権について
#09 自己欺瞞
#10「心の監禁」からの脱出
#11 バーナム効果とは
#12「君の NO は。」：世界の歪みは誰のせい？ 認知バイアスと認知の歪み
#13 犠牲と正義：報復は正義になり得るのか
#14 承認欲求
#15 パーソナルスペース
#16「ネタばれ」は悪くない？
#17「装う」ということ：アイデンティティと自己実現
#18 認知的不協和：自分自身から逃げない勇気
#19 自己成就予言効果
#20 ツァイガルニク効果
#21 ロボットに心はあるか

【Outline and objectives】
This subject is premised on the foundation course "Psychology I/ II " and the advanced applied course "Psychology LA/LB".
In the general course "Human behavior", we make a study of action as the mind is expressed.

POL300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**現代社会の人権問題Ａ**

金子　匡良

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
2～4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、現代社会における様々な人権問題を取りあげ、その現状、要因、解決策等について考えていく。ゼミ形式の授業であるため、通常の講義科目とは異なり、参加者が自主的に調べ、報告し、議論することによって授業を進めていく。そのため、この授業では、人権問題に関する知識を学ぶだけではなく、「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につけることも目的とする。

【到達目標】
①現代社会における人権問題の現状を理解する。
②様々な人権問題の要因を分析する力を養う。
③人権問題の解決策を模索する力を養う。
④ゼミナールで必要となる「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
現代社会の人権問題に関する基本文献を輪読することによって、基礎的な知識を身につけた上で、毎回１～２名の報告者を指定して報告を求め、その報告に対する質疑と議論を行うが、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで適宜提示する。本授業の開始日は 5 月 7 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システム上の本授業ページ内の「お知らせ」で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明と取りあげるテーマの設定
第 2 回	女性の人権①	基本文献の輪読
第 3 回	女性の人権②	報告と討論
第 4 回	外国人の人権 (1) －ニューカマー外国人①	基本文献の輪読
第 5 回	外国人の人権 (1) －ニューカマー外国人②	報告と討論
第 6 回	外国人の人権 (2) －オールドカマー外国人①	基本文献の輪読
第 7 回	外国人の人権 (2) －オールドカマー外国人②	報告と討論
第 8 回	障害者の人権①	基本文献の輪読
第 9 回	障害者の人権②	報告と討論
第 10 回	労働者の人権①	基本文献の輪読
第 11 回	労働者の人権②	報告と討論
第 12 回	ハンセン病元患者の人権①	基本文献の輪読

第 13 回　ハンセン病元患者の人権②　報告と討論
第 14 回　全体のまとめ　全体のまとめと補充報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献の輪読に当たっては、受講者全員が事前に指定された文献を読み、問題点や疑問点をまとめておく。報告に当たっては、報告者は報告の準備を行うとともに、他の参加者は報告に対する質問を準備する。毎回の授業の後には、自分なりの気づきや考えを整理しておく。なお、本授業の準備学習・復習時間に要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
報告の内容に対する評価（50 %）と、授業中の発言頻度および発言内容に対する評価（50 %）を合算して評価を行う。ただし、春学期がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も適宜変更せざるを得ない。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミに不慣れな 1・2 年生が受講者の大半を占めることを考慮し、文献の探し方やレジュメの作り方などの指導にも時間を割く予定である。

【Outline and objectives】
In this seminar, we will discuss various human rights issues in modern society and consider the situation, factors and solutions of those issues. Since this class is a seminar-style, you have to research,report and discuss by yourselves. The purpose of this lesson is not only to learn about human rights issues, but also to acquire the skills to participate in seminar.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**現代社会の人権問題Ｂ**

金子　匡良

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、春学期の教養ゼミⅠ（現代社会の人権問題Ａ）に引き続き、現代社会における様々な人権問題を取りあげ、その現状、要因、解決策等について考えていく。ゼミ形式の授業であるため、通常の講義科目とは異なり、参加者が自主的に調べ、報告し、議論することによって授業を進めていく。そのため、この授業では、人権問題に関する知識を学ぶだけではなく、「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につけることも目的とする。なお、春学期の教養ゼミⅠを受講していなくても支障はない。

【到達目標】
①現代社会における人権問題の現状を理解する。
②様々な人権問題の要因を分析する力を養う。
③人権問題の解決策を模索する力を養う。
④ゼミナールで必要となる「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
現代社会の人権問題に関する基本文献を輪読することによって、基礎的な知識を身につけた上で、毎回１〜２名の報告者を指定して報告を求め、その報告に対する質疑と議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明と取りあげるテーマの設定
第 2 回	子どもの人権①	基本文献の輪読
第 3 回	子どもの人権②	報告と討論
第 4 回	消費者の人権①	基本文献の輪読
第 5 回	消費者の人権②	報告と討論
第 6 回	犯罪被害者の人権①	基本文献の輪読
第 7 回	犯罪被害者の人権②	報告と討論
第 8 回	被疑者・被告人の人権①	基本文献の輪読
第 9 回	被疑者・被告人の人権②	報告と討論
第 10 回	難民の人権①	基本文献の輪読
第 11 回	難民の人権②	報告と討論
第 12 回	生活困窮者の人権①	基本文献の輪読
第 13 回	生活困窮者の人権②	報告と討論
第 14 回	全体のまとめ	全体のまとめと補充報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献の輪読に当たっては、受講者全員が事前に指定された文献を読み、問題点や疑問点をまとめておく。報告に当たっては、報告者は報告の準備を行うとともに、他の参加者は報告に対する質問を準備する。毎回の授業の後には、自分なりの気づきや考えを整理しておく。なお、本授業の準備学習・復習時間に要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
報告の内容に対する評価（50 %）と、授業中の発言頻度および発言内容に対する評価（50 %）を合算して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミに不慣れな 1・2 年生が受講者の大半を占めることを考慮し、文献の探し方やレジュメの作り方などの指導にも時間を割く予定である。

【Outline and objectives】
In this seminar, we will discuss various human rights issues in modern society and consider the situation, factors and solutions of those issues. Since this class is a seminar-style, you have to research,report and discuss by yourselves. The purpose of this lesson is not only to learn about human rights issues, but also to acquire the skills to participate in seminar.

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌Ａ　2017 年度以降入学者

加藤　美雄

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活に密着している自然環境のしくみを理解し、オゾン層の破壊、ヒートアイランドなど人為による改変とその対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について論ずることができる。

【到達目標】
・気象学、気候学の知識により自然環境を理解する。
・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
・自然環境の変化による異常気象を把握する。
・自然環境変化の予測を考察する。
・人為によって改変した自然環境の問題点とその対策について考察し、まとめる。
・課題論文をまとめることにより、論文を理解する力をつける。
・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、気象学・気候学の理解度を確認する。
2	東日本大震災と自然環境問題	甚大な被害をもたらした東日本大震災と自然環境問題の相互作用について考察する。
3	オゾンホール	成層圏の気候からオゾン層の役割について説明し、オゾンホール生成のメカニズムと今後の対策について検討する。
4	紫外線	オゾン層の減少に関連して、紫外線全般について説明するとともに、人体や動植物に与える影響についても検討する。
5	越境汚染１（酸性雨）	酸性雨の成因、影響について説明する。
6	越境汚染２（黄砂）	黄砂の飛来から日本における影響を検討し、予測と対策ついて説明する。
7	人為による気候の改変１（ヒートアイランド）	都市化によるヒートアイランドの成因と現状を説明し、その対応について議論する。

8	人為による気候の改変２（光化学スモッグ）	大気汚染物質が影響する光化学スモッグの原因と予測について説明する。
9	人為による気候の改変３（観光鍾乳洞の気候変化）	鍾乳洞が入場者数の増大によって受ける影響について考察する。
10	異常気象１（エルニーニョ現象の成因）	世界的な異常気象をもたらすエルニーニョ現象の成因と観測体制について説明する。
11	異常気象２（エルニーニョ・ラニーニャ現象の影響と予測）	エルニーニョ・ラニーニャ現象が及ぼす影響と予測について解説する。
12	異常気象３（副振動）	急激な気圧変化によって発生するとされる潮位の変動について解説し、その原因を考察する。
13	異常気象４（竜巻・突風・雷）	竜巻・突風・雷について説明し、近年の状況について解説する。
14	南極の環境保全 まとめ	地球環境のバロメーターである南極を説明し、環境保全対策を解説する。また、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業の全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。また、「オゾン層の保護」、「エルニーニュの成因と影響」について、レポートの作成を行う。更に、「ヒートアイランド」、「観光鍾乳洞」に関して課題論文のまとめを実施する。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】
・異常気象を知りつくす本．佐藤典人著．インデックス・コミュニケーションズ
・異常気象と人類の選択．江守正多著．角川 SSC 新書
・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－．吉野正敏著．古今書院
・新百万人の天気教室．白木正規著．成山堂書店

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、昨年度は学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、本年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
本講義は自然環境のしくみを理解し、その上で人間活動が与えた自然環境の変化について検討することを目的とする。そのため、春学期では自然環境変化と異常気象について説明し、秋学期では地球温暖化について考察する。人間活動による環境変化において、これらは密接に関連してため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。
なお講義では、気象庁での実務経験をもとして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline and objectives】
Understanding the mechanism of the natural environment that is closely related to our daily life, students will consider the artificial changes in the environment like the destruction of the ozone layer and the heat island phenomenon etc... and the solutions. Then students will be able to discuss changes in the natural environment created by human activities.

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌Ｂ

2017 年度以降入学者

加藤　美雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類が直面している危機である地球温暖化について理解し、現状を把握する。その上で地球温暖化に対する緩和策と適応策について論ずることができる。

【到達目標】
・気象学、気候学の知識により地球温暖化を理解する。
・地球温暖化への人為のかかわりについて検討する。
・地球温暖化の予測を考察する。
・人為によって改変した地球温暖化の問題点とその対策について考察し、まとめる。
・地球温暖化の緩和策と適応策について把握し、検討することができる。
・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業の進め方は、地球温暖化の実態・予測などを講義し、最後に受講者全員が地球温暖化の緩和策と適応策を発表し、集団討論を実施して各自の考えや意見により議論する。
授業の方法は、気象学、気候学により地球温暖化に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストまたは作図を実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。
なお、リアクションペーパーの質問には、必ず回答するとともに、記載された事項により授業内容を変更することがある。
第 1 回目の授業の際に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。この試験を受けないと受講は認めないので、受講希望者は必ず第 1 回目の授業に出席し、試験を受けること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに 地球温暖化の概要	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、地球温暖化の基礎的な知識と対応について解説する。更に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。
2	長い時間スケールの気候変化	地球の誕生から現在までの気候の変化を説明する。
3	地球温暖化のしくみと気温・温室効果ガスの実態	温室効果、日傘効果から地球温暖化のしくみを説明する。また温室効果ガスとその変化について説明し、気温の長期変動を解説する。
4	高層大気への影響	高層気象観測を解説するとともに、温室効果ガスによる対流圏、成層圏への影響について説明する。

5	地球温暖化の実態（降水・積雪・氷河・海氷）	降水・積雪の長期変動、および氷河の衰退、海氷の減少について説明する。特に、現在、温暖化が最も進んでいる北極について詳細に解説する。
6	海洋の役割と影響	地球温暖化による海洋の役割と海面水位の上昇を説明する。また、海洋汚染についても解説する。
7	生態系への影響	地球温暖化により動物、植物がどのような影響を受けているかを説明する。
8	緩和策１（国際的な取り組み）	IPCC、COP などによる国際的な取り組みを説明する。また、現状の課題について、検討する。
9	緩和策２（日本の取り組み）	国際情勢にかんがみ、日本の取り組みを説明する。特に、温室効果ガス削減の実施状況、問題点について考察する。
10	適応策１（産業分野）	地球温暖化に対する世界と日本の適応への取り組みを紹介する。特に、農業、漁業分野について検討する。
11	適応策２（災害対応）	集中豪雨、豪雪、洪水、干ばつ、熱中症などに関する適応策の現状を解説する。
12	懐疑論への対応	地球温暖化懐疑論に対する説明と対応策を検討する。
13	地球温暖化の予測（気温、CO2、生態系へのリスク）	気温、CO2 の予測と課題を説明する。また、生態系の変化とリスク、人間への影響について、解説する。
14	地球温暖化への対応（地球温暖化の緩和策と適応策の発表と集団討論）とまとめ	地球温暖化の緩和策と適応策について各自で検討してまとめる。また、全員が発表して意見交換を行う。 更に、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
授業の全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。また、「海洋汚染」及び「地球温暖化の緩和策と適応策」についてレポートを作成する。なお、自然環境変化への対応における発表では、報告者は発表内容のレジュメを作成し、事前に提出する。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】
・地球温暖化時代の異常気象．吉野正敏著．成山堂書店
・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－．吉野正敏著．古今書院
・異常気象と地球温暖化．鬼頭昭雄著．岩波新書
・地球温暖化－そのメカニズムと不確実性－．日本気象学会 地球環境問題委員会編．朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
評価の配分は以下の通りである。
・平常点：３０％
・小テスト・作図：２０％
・レポート：１０％
・試験：４０％

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、昨年度は学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、本年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
本講義は地球温暖化を理解し、その対策を検討することを目的としている。春学期では自然環境の変化と異常気象について説明し、これは地球温暖化と密接に関連している。そのため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline and objectives】
Students will understand that global warming is the crisis we are facing now, and grasp the current situation. In addition, students will be able to discuss mitigation and adaptation measures.

MAT300LA

計算と言語のしくみ

2017 年度以降入学者

倉田　俊彦

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで，コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され，我々の生活に深く関わっている．その一方で，多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり，その動作原理を身近に触れる機会が十分あるとは思われない．こうした背景を踏まえて，魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組に焦点を当て，「コンピュータの箱の中がどのようになっているか？」「そうした機械的な仕組の上で，形式言語の命令を処理したり，自然言語の意味を分析できるのは何故か？」など数学的な視点を通して解説・実験する．

【到達目標】
本講義では「コンピュータの仕組の概要を理解すること」を目標としている．（例えば，電卓と PC の本質的な違いを尋ねられた時，皆さんは直ちに説明できるでしょうか？）その上で，実験を通して「コンピュータ上で言語を処理する幾つかの手法を体験して，その有用性を理解すること」をもう一つの目標としている．（例えば，コンピュータに膨大な量の文章を学習させるだけで「東京− 日本＋フランス」の計算結果として「パリ」と答えるようになります．同様に「法政大学− 東京＋大阪」の計算結果としてコンピュータは何を答えるでしょうか？）こうした「処理系の違いに依存しない普遍的な原理」を理解することは，実際にコンピュータを使用する上でも様々な場面で恩恵をもたらすこととなる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し，状況によっては，より簡単な方向に修正する可能性がある．
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日（概要資料のアップロード）は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	PC 上でプログラムが動作する様子を観察する．
第 02 回	計算機の歴史	汎用コンピュータの開発の歴史を解説する．
第 03 回	機械と形式言語 (1)	正規言語を処理する機械的な仕組について解説する．
第 04 回	機械と形式言語 (2)	文書編集で正規言語の選択構文が活用される事例を学ぶ．
第 05 回	機械と形式言語 (3)	文書編集で正規言語の繰返し構文が活用される事例を学ぶ．
第 06 回	計算機の理論 (1)	チューリング機械の仕組とその上で動作する計算を解説する．
第 07 回	計算機の理論 (2)	万能チューリング機械と現代計算機の関係について解説する．
第 08 回	現代計算機の構造 (1)	コンピュータの演算装置等の構造を説明する．
第 09 回	現代計算機の構造 (2)	2 進数，10 進数，16 進数による正整数の表現方法を説明する．
第 10 回	現代計算機の構造 (3)	2 の補数表現による負整数の表現方法を説明する．
第 11 回	機械学習と自然言語 (1)	Google Colab 上で Python プログラムを実行する方法を学ぶ．
第 12 回	機械学習と自然言語 (2)	日本語の文章を品詞に分解する処理（分かち書き）を学ぶ．
第 13 回	機械学習と自然言語 (3)	青空文庫の小説を使って機械学習の方法を学ぶ．
第 14 回	機械学習と自然言語 (4)	既存の学習済みモデルを利用して大学シラバスの文章を分析する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外の予習・復習（各 2 時間程度）で完成させる必要がある．

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない．

【参考書】
テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である．

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。（この授業では試験は行いません。）具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
的を得た質問・要望を多く頂いていて，少しずつ内容・難易度の調整に反映していく予定である．

【その他の重要事項】
受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない．（これまでに余り触れたことがない内容だと思うので，高度で細かな部分には踏み込まずに，文系の学生にとって負担なく概要の理解・体験ができれば十分と思っています．実験についても，PC の電源を入れるところから確認しながら気軽に進める予定です．）

【Outline and objectives】
We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation for computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.

MAT300LA

コンピュータと数理の活用

2017 年度以降入学者

倉田　俊彦

開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 曜日・時限：**木 2/Thu.2**
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数学で習得する様々な計算の原理自体は万能なものであるが，それらを実際に活用する段階になると手間がかかることが多い．（例えば，平均値を計算する方法自体は分かっていても，実際に 1000 人分のデータの平均値を手で計算する機会はない．）その一方で，身の回りにある問題はむしろ大規模になりがちであり，大きな問題こそ答を知りたいという現状がある．こうしたジレンマに対して，コンピュータによって人間の計算力を補い，実生活で直面するような大規模な問題の答を求める技術は重要である．そこで，講義では，様々な分野の中で「数学の原理」と「コンピュータの計算力」を同時に活用する経験を積むことを主な目的としている．

【到達目標】
講義では「プログラムの全てを自分で設計・作成すること」までは想定せず，あくまでも用意したプログラムを活用して「出来るだけ多くの事例に基づいて，コンピュータと数理を組み合わせた活用の勘を養うこと」を目標としている．各々の課題で扱う数学やアルゴリズムの内容は独立していて，利用するシステムも様々なものがある．（1 つの課題が理解できなくても，次の課題に影響を与えることが少ないことになります．）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し，状況によっては，扱う事例数を少なくする可能性がある．また「具体的な問題を通して内容を確認する時間」「個別に質問・相談を受ける時間」を十分とりたいと考えているので，授業は実験・実習の割合が 6 〜 7 割程になる予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入と準備	プログラムを用いた問題解決をデモンストレーションする．
第 02 回	計算機による数学 (1)	整数の理論を利用して，素数の分布を計算してみる．
第 03 回	計算機による数学 (2)	級数などを利用して，円周率を計算してみる．
第 04 回	計算機による数学 (3)	コンピュータを利用した統計的解析の応用事例を学ぶ．
第 05 回	行列計算の応用 (1)	基礎となる数学として，様々な行列の計算を学ぶ．
第 06 回	行列計算の応用 (2)	今後 100 年間の日本の世代人口の推移を予測する．
第 07 回	行列計算の応用 (3)	ランダムウォークに基づくシミュレーションを行う．
第 08 回	行列計算の応用 (4)	ディープラーニングへの応用事例を学ぶ．
第 09 回	線形計画法 (1)	線形計画法の例と図形的な解法を学ぶ．
第 10 回	線形計画法 (2)	シンプレックス法と呼ばれる解法とそのプログラムを紹介する．
第 11 回	線形計画法 (3)	プログラムを利用して経営計画の最適化を行う．
第 12 回	暗号の数理 (1)	基礎となる数学として，Euclid 互除法などの計算を学ぶ．
第 13 回	暗号の数理 (2)	公開鍵暗号の特徴とその計算原理を学ぶ．
第 14 回	暗号の数理 (3)	実際にプログラムを通して暗号通信の実験を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外の予習・復習（各 2 時間程度）で完成させる必要がある．

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない．

【参考書】
テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である．

【成績評価の方法と基準】
平常点 (20%)，練習問題（30%），コンピュータを使った実験 (50%)

【学生の意見等からの気づき】
的を得た質問・要望を多く頂いていて，少しずつ内容・難易度の調整に反映していく予定である．

【その他の重要事項】
受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない．（これまでに余り触れたことがない内容だと思うので，高度で細かな部分には踏み込まずに，文系の学生にとって負担なく概要の理解・体験ができれば十分と思っています．実験についても，PC の電源を入れるところから確認しながら気軽に進める予定です．）

【Outline and objectives】
We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, a method to use computer programs is explained in this course. More specifically, the effectiveness of computer programs is observed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography.

MAT300LA

確率の世界 A

2017 年度以降入学者

池田　宏一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】
春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し，代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味のもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例でイメージを作りながら定理の内容を理解するという方法で授業を進めていく。また演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月２７日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	確率の基礎 1	確率とは
第 3 回	確率の基礎 2	確率の性質
第 4 回	確率の基礎 3	確率空間とは
第 5 回	確率の基礎 4	事象の独立性
第 6 回	確率の基礎 5	確率変数の使い方
第 7 回	確率の基礎 6	期待値とは
第 8 回	確率の基礎 7	期待値の性質
第 9 回	確率の基礎 8	分散とは
第 10 回	確率分布 1	分散の性質
第 11 回	確率分布 2	二項分布とは
第 12 回	確率分布 3	二項分布の性質
第 13 回	確率分布 4	二項分布の期待値と分散
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】
This course deals with basic concepts and methods in probability.

MAT300LA

確率の世界 B

2017 年度以降入学者

池田　宏一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月 2**/Mon.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】
秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学習する。授業内で興味のもてるような題材に数多く接することで、より具体的な統計学の理解を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例でイメージを作りながら定理の内容を理解するという方法で授業を進めていく。また演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	様々な分布 1	離散分布とは
第 3 回	様々な分布 2	ポアソン分布とは
第 4 回	様々な分布 3	ポアソン分布の性質
第 5 回	様々な分布 4	ポアソン分布と二項分布
第 6 回	様々な分布 5	正規分布とは
第 7 回	様々な分布 6	正規分布の性質
第 8 回	様々な分布 7	正規分布と二項分布
第 9 回	推定と検定 1	標本の定義
第 10 回	推定と検定 2	標本平均と標本分散
第 11 回	推定と検定 3	点推定
第 12 回	推定と検定 4	区間推定
第 13 回	推定と検定 5	仮説と棄却
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】
この科目を履修するためには、「確率の世界 A」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが望ましい。

【Outline and objectives】
This course deals with basic concepts and methods in statistics.

MAT300LA

集合論 A

2017 年度以降入学者

安東　祐希

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
無限集合についての数学を学ぶ。特に、無限の「大きさ」について考察し、それらの比較方法を理解する。

【到達目標】
次のような疑問に対して答えることができる。
・無限集合が持つ、有限集合とは異なる性質とは？
・無限にも大小はあるか。１個、２個、…の先は？
具体例を一つ以下に挙げよう。
〜〜〜
普通のサッカーは１チーム 11 人であり、反則により退場者が出た側は不利になるが、自然数と同じ数だけ選手のいる２つのチームが試合をした場合はどうであろうか。赤組と白組それぞれ背番号１、２、３、…の選手全員で試合をしていたところ、赤組は奇数番号の選手が皆退場してしまい、背番号２、４、６、…の選手だけ残った。そのとき赤組の選手が自分と同じ背番号の白組の選手に付けば、白組の奇数番号の選手が動き回るので大変不利である。しかし赤組の選手が自分の半分の番号をつけた白組の選手に付けば、つまり赤２が白１、赤４が白２という具合に対応したら、互角に戦うことができる。さらにこの考えを進めれば、赤組のほうが逆に有利になる戦略を見つけ出すことさえ可能である。どのようにすればよいか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。
（4 月 20 日追記）
教室使用ができない期間については、学習支援システムを通じた授業となり、その開始日は 4 月 28 日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	無限の不思議	概要説明
第 2 回	集合の表記	外延と内包
第 3 回	部分の全体	冪集合
第 4 回	対応関係	写像の定義
第 5 回	特別な対応	全射と単射
第 6 回	「3」とは	全単射
第 7 回	無限の大きさ	濃度の定義
第 8 回	最小の無限	可算集合
第 9 回	真に大きい？	有理数全体
第 10 回	色々な単語	可算な文字列
第 11 回	真に大きい！	対角線論法
第 12 回	小数表記	実数全体
第 13 回	無限に大きく	冪集合再考
第 14 回	半期のまとめ	総復習の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。（なお、この科目は「講義及び演習」に分類されます。講義及び演習 1 回の準備・復習時間は各 2 時間が標準となります。）

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】
・志賀浩二『集合への 30 講』（朝倉書店）1988 年
・上江洲忠弘『集合論・入門』（遊星社）2004 年、増訂版 2013 年
・松坂和夫『集合・位相入門』（岩波書店）1968 年

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】
（1）秋期科目「集合論Ｂ」の予備知識となる内容を含む。
（2）文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理３（集合論）Ａ」。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts of set theory, especially infinite cardinal numbers.

MAT300LA

集合論Ｂ

2017 年度以降入学者

安東　祐希

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
無限集合についての数学を学ぶ。特に、無限列の「長さ」について考察し、それらの比較方法を理解する。

【到達目標】
次のような疑問に対して答えることができる。
・物を並べる、つまり物の間に順番を与える、とは？
・無限の物を並べられるか。１番、２番、…の先は？
具体例を一つ以下に挙げよう。
〜〜〜
長男一郎、次男二郎、三男三郎の三人兄弟を一列に並べるとき、並べ方は全部で６通りある。そこで、先頭になった者を改めて長男、中央を次男、末尾を三男と呼ぶことにすると、６通りのいずれも、長男、次男、三男という兄弟構成ができることに変わりはない。さて、同じような並べ替えを、長男一郎、次男二郎、三男三郎、…と、各自然数ｎに対してｎ男のｎ郎がいるような無限の兄弟で行うとどういうことが起こり得るであろうか。例えば、長男を二郎、次男を三郎、三男を四郎、…とし、さらに一郎は他の誰と比べても弟として全員を並べてみよう。このとき、元々の長男、次男、三男、…よりも「長く」伸びた兄弟構成ができる。人の集合としては同じであるが。では、もっと長い構成とするには、どうすればよいか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	二種類の数	基数と序数
第 2 回	派閥分け	同値関係
第 3 回	順序とは	順序集合
第 4 回	順序の練習	有限順序集合
第 5 回	順序の形	同型写像
第 6 回	比較可能性	線形順序
第 7 回	無限に降下？	整列順序
第 8 回	順序の順序	順序数
第 9 回	直線上の表現	実数の部分順序
第 10 回	順序をつなぐ	順序数の和
第 11 回	順序上の順序	順序数の積
第 12 回	順序と写像	順序数の冪
第 13 回	日常の順序	順序数の実例
第 14 回	半期のまとめ	総復習の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。（なお、この科目は「講義及び演習」に分類されます。講義及び演習 1 回の準備・復習時間は各 2 時間が標準となります。）

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】
・志賀浩二『集合への 30 講』（朝倉書店）1988 年
・上江洲忠弘『集合論・入門』（遊星社）2004 年、増訂版 2013 年
・松坂和夫『集合・位相入門』（岩波書店）1968 年

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】
（1）春期科目「集合論Ａ」で扱う内容を既知として授業を進める。
（2）文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理３（集合論）Ｂ」。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts of set theory, especially infinite ordinal numbers.

PHY300LA

相対性理論と宇宙 A

2017 年度以降入学者

石川　壮一

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中は相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、特殊相対性理論の基本的な考え方を学び、現実の世界で何が起こっているのか科学的な理解を深める。

【到達目標】
・特殊相対性理論の論理的な理解の習得。
・特殊相対性理論の効果が顕著になるような光のスピードに近い速さで運動したりすることを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
・現実の我々が感じる常識的な理解の元になっている古典物理学の基礎から出発して、アインシュタインンが特殊相対性理論の着想を得るに至った光の性質を説明し、特殊相対性理論の基礎を説明する。
・数学の利用は出来るだけ最小限にとどめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	光に関する考察	光の速さや光で情報が伝わることについて学ぶ。 エーテルとは何か理解する。
[3]	動いている？	自分の乗った乗り物（地球も含む）が動いているとどうしたらわかるか考える。
[4]	相対性原理 (1)	ガリレオの意味での相対性原理について学ぶ。 天動説から地動説、ニュートンの運動法則について学ぶ。
[5]	相対性原理 (2)	アインシュタインの考えた相対性原理について学ぶ。
[6]	同時性について	思考実験を通じて、同時であるということの意味を考える。
[7]	時間の遅れ	時間の遅れについて定性的に考える。
[8]	速さの足し算	動いている観測者から見た物体の速さがどうなるのか考える。
[9]	ローレンツ短縮	空間が縮むとはどういうことか考える。
[10]	質量	質量の意味について考える。
[11]	質量とエネルギー	公式 $E=mc^2$ の意味について考える。
[12]	恒星の一生と元素合成	我々を作っているものは何かについて学ぶ。
[13]	相対性理論の応用	GPS や核融合と相対論との関係について学ぶ。
[14]	まとめ	特殊相対性理論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。
相対性理論は論理的に難しくない。ただ結論が日常経験とすごく離れているので、納得するには時間がかかる。すべて自分で反芻して考える習慣が必要である。納得するまで簡単な宿題などを課すから反芻する習慣をつけること。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】
一般向けの相対性理論の解説書として：
・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著
(ブルーバックス ; B-2087)、（講談社、2019.2）
・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論
(ニュートン別冊)、（ニュートンプレス、2019.2）
（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布のために授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】
This course introduces basics of special theory of relativity, which becomes evident when one moves as fast as the speed of light.

PHY300LA

相対性理論と宇宙Ｂ

2017 年度以降入学者

石川　壮一

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 4/Wed.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中は相対性理論が応用されているものもある。
　相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、一般相対性理論の基本的な考え方を学び、我々の住んでいる宇宙に関する理解を深める。

【到達目標】
・一般相対性理論の論理的な理解の習得。
・一般相対性理論の効果が顕著になるような非常に重力の強い場所に行くことなどを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・現実の我々が感じる常識的な理解の元になっている古典物理学の基礎から出発して、アインシュタインンが一般相対性理論の着想を得るに至った重力の性質を説明し、一般相対性理論の基礎を説明する。
・数学の利用は出来るだけ最小限にとどめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	ニュートンのリンゴと月	万有引力の法則はどのように導かれたのか理解する。
[3]	加速度運動と慣性力	加速度運動をしている観測系における物体の運動について考える。
[4]	重力と空間、時間	重力が作用しているときの光の進み方について考える。
[5]	重力と空間	空間が歪んでいるとはどういうことか、空間の幾何学について考える。
[6]	重力レンズ効果	重力レンズ効果を利用した天体の観測について学ぶ。
[7]	宇宙の広がりの理解	我々は宇宙をどのように理解してきたか
[8]	宇宙膨張の発見と相対論	膨張宇宙の発見とビッグバン宇宙論について学ぶ
[9]	ビッグバンと元素合成	宇宙が誕生した時の元素合成について学ぶ。
[10]	星の進化と相対論	ブラックホールとは何か、その観測方法について学ぶ。
[11]	双子のパラドックス	時間の進み方に対する重力の影響について考える。
[12]	重力波	重力波とは何か、重力波の観測について学ぶ。
[13]	宇宙の理解と相対論	我々の住んでいる宇宙はどうなっているのか、そしてどうなっていくのか考える。
[14]	まとめ	一般相対性理論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。
相対性理論は論理的に難しくない。ただ結論が日常経験とすごく離れているので、納得するには時間がかかる。すべて自分で反芻して考える習慣が必要である。納得するまで簡単な宿題などを課すから反芻する習慣をつけること。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】
一般向けの相対性理論の解説書として：
・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著
　(ブルーバックス ; B-2087)、（講談社、2019.2）
・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論
　(ニュートン別冊)、（ニュートンプレス、2019.2）
（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は小テスト（40%）、授業参加（20%）、レポート（40 %）を基本とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布のために授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】
This course introduces basics of general theory of relativity, which becomes evident when one is close to a place of very strong gravity field.

PHY300LA

現代の錬金術 A

2017 年度以降入学者

井坂　政裕

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展 (失敗) によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。
本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】
・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・我々を構成している物質の成り立ちについて科学的な理解を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
スライドを使用した講義形式で行う。授業の資料として、毎回プリントを配布する。高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。
本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第 2 回	古代の物質観	四元素説を中心とした古代の物質観・自然観や、中世の錬金術の試みについて
第 3 回	原子は存在するのか？（1）	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第 4 回	原子は存在するのか？（2）	気体の法則と分子運動論について
第 5 回	原子は存在するのか？（3）	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第 6 回	原子は構造を持つのか？（1）	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第 7 回	原子は構造を持つのか？（2）	第 6 回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する
第 8 回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について
第 9 回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第 10 回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第 11 回	原子構造（1）	主にボーアの原子模型について
第 12 回	原子構造（2）	主に電子配置について
第 13 回	原子核と放射線	原子核の性質や放射線について
第 14 回	まとめと期末試験	春学期授業のまとめを行う。期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート (約 50 %) と期末試験 (約 50 %) により評価する。期末試験は、配布プリントなどの資料を参照可として実施し、授業で扱った知識やその理解度を見る。期末レポートは、授業内容に関する身近な例や具体例に関した課題を出題する。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
This course deals with the basis of the fundamental modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter. By the end of the course, participants should be able to do the following:
· Explain attempts of the alchemy in the ancient and middle ages
· Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
· Discuss the evidences that indicates the existence of atoms in scientific laws
·Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
· Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit

PHY300LA

現代の錬金術 B

2017 年度以降入学者

井坂　政裕

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展 (失敗) によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金 (元素) を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。
本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素と、元素の歴史や宇宙の歴史などの最先端の現代物理学のテーマとがどのように関連するのかを学ぶ。

【到達目標】
・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・我々を構成している物質の成り立ちについて科学的な理解を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
スライドを使用した講義形式で行う。授業の資料として、毎回プリントを配布する。高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	20 世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第 2 回	核力	原子核を結び付けている力（核力）とそのしくみについて
第 3 回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第 4 回	原子核の反応	原子核の反応について
第 5 回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第 6 回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第 7 回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する
第 8 回	標準模型	第 7 回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する
第 9 回	加速器	加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験について解説する
第 10 回	宇宙における元素合成（1）	元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり（ビッグバン）と元素合成についても解説する。
第 11 回	宇宙における元素合成（2）	恒星の一生と恒星内部での元素合成について
第 12 回	宇宙における元素合成（3）	恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について
第 13 回	現代の錬金術	人工的に元素を生成する方法について
第 14 回	まとめと期末試験	秋学期のまとめを行う。期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート (約 50 %) と期末試験 (約 50 %) により評価する。期末試験は、配布プリントなどの資料を参照可として実施し、授業で扱った知識やその理解度を見る。期末レポートは、授業内容に関する身近な例や具体例に関した課題を出題する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
This course deals with the basis of the fundamental modern physics. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter. By the end of the course, participants should be able to do the following:
・Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
・Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
・Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
・Describe the importance of accelerators in modern physics
・Explain the nucleosynthesis in the universe
・Discuss the method to produce gold from the other elements based on the knowledge of the modern physics

PHY300LA

原子核と素粒子 A

2017 年度以降入学者

吉田　智

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が “アトム” に相当している。この宇宙において元素はどのようにして誕生したのか、ということを理解するために、この授業では、この宇宙には（最近命名された原子番号 113 番ニホニウムなどを含めて）どのような元素がどれくらいの割合で存在するのかということからスタートし、元素の物理学的な実体である原子についての理解を深める。

【到達目標】
この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。また元素の存在比や原子の構造を理解することによって、「原子核と素粒子 B」での原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。
それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
本授業の開始日は 4 月 21 日（火）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義の全体的な紹介する。
第 2 回	元素の周期律表	周期律表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第 3 回	元素の存在比〈地球〉	地球上の生物は、どのような元素からできているのか。
第 4 回	元素の存在比〈宇宙〉	地球以外の天体は、どのような元素からできているのか（最新研究も含めて）
第 5 回	結晶構造	物体は 3 次元的に規則正しい立体構造をもっている。それはなぜなのか。
第 6 回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質の研究について、解説する。
第 7 回	原子のスペクトル	原子からはどのような光（電磁波）が放出されるのか、解説する。
第 8 回	原子の構造〈電子の発見〉	電子はどのようにして発見されたのか、紹介する。
第 9 回	原子の構造〈原子核の発見〉	原子核発見に関する研究について、紹介する。
第 10 回	原子の構造〈前期量子論〉	ボーアによる原子構造研究について、紹介する。
第 11 回	原子の構造〈電子配置〉	第 5 回の内容に関して、物体が立体構造をもつメカニズムについて、解説する。
第 12 回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象について解説する。
第 13 回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第 14 回	まとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要である。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
授業内で適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
レポートと期末試験 70%と授業への積極的な貢献度 30%で評価する。なお、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムにて提示します。

【学生の意見等からの気づき】
高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline and objectives】
This course teaches the elementary particle physics, such as the abundance ratio of elements in the universe and the structure of atom and so on. It is the aim of this course to help students understand the element and atom.

PHY300LA

原子核と素粒子 B

2017 年度以降入学者

吉田　智

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が “アトム” に相当している。この授業では、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深める。

【到達目標】
この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はいったいどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
スライドと共に、配付プリントを使用した講義形式で行う。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義全体の説明と共に、20 世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第 2 回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第 3 回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊等に伴うエネルギーについて、解説する。
第 4 回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について解説する。
第 5 回	核分裂反応の応用	原子炉等について紹介する。
第 6 回	核融合反応の応用	熱核融合炉等について紹介する。
第 7 回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について、解説する。
第 8 回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて、解説する。
第 9 回	太陽ニュートリノ問題、ニュートリノ振動	スーパーカミオカンデ等で行われている、ニュートリノ研究について紹介する。
第 10 回	素粒子〈クオークとレプトン〉	現在までに判明している素粒子の種類や分類について、紹介する。
第 11 回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について、紹介する。
第 12 回	宇宙の進化	ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について、解説する。
第 13 回	宇宙の大規模構造と宇宙論	最新の研究について紹介する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要である。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
授業内で適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
レポートと期末試験 70%と授業への積極的な貢献度 30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline and objectives】
This course teaches the elementary particle physics, such as the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei, the evolution of star, the elementary particle and the universe and so on. It is the aim of this course to help students understand not only elementary particle and the universe but also the nucleosynthesis in the universe.

BIO300LA

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**自然史 ～沖縄本島北部ヤンバル地域の自然と文化～**

島野　智之

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**
2～4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域を訪れ，とびきりの自然に触れ，実際に様々な調査，実習を通して，自然と私達の関係を見つめ直す．生物としての人間の生活も考える．地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か．生命とは何か。自然と人間との関係は，水産業，農業，林業などの産業によって結びついている．現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える．

【到達目標】
命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
事前に討議、授業およびゼミ形式で行う。夏休みに沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域の現地に訪れ，3 泊 4 日での現地調査，あるいは実習，ディスカッション等をおこなう．再び，事後には討議、授業およびゼミ形式で論文形式にまとめる．年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を「論文」にまとめ，論文集を作成する。
※　4 月 21 日からの週の授業は練習（=ガイダンス）として，授業開始は来週（4 月 28 日からの週）を予定しています．システムが少し不安定な面が残されているためです．来週には落ち着くとおもいますので，それから始めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域で行うフィールドワークについて: パソコンの使い方: 調査の進め方
第 2 回	南西諸島の自然	南西諸島の自然について
第 3 回	南西諸島の歴史	南西諸島の歴史について
第 4 回	生物地理学とは	生物地理学概論
第 5 回	博物学・学名	博物学について，生物の名前の付け方.
第 6 回	グループワーク（1）	沖縄県の抱える問題（1）
第 7 回	グループワーク（2）	沖縄県の抱える問題（2）
第 8 回	グループワーク（3）	沖縄県の抱える問題（3）
第 9 回	グループ調査 (1)	討議、調査，事前調査に基づく、発表準備
第 10 回	グループ調査（2）	討議、調査，事前調査に基づく、発表準備
第 11 回	グループ調査（3）	討議、調査，事前調査に基づく、発表準備
第 12 回	発表（1）	事前調査の発表（1）
第 13 回	発表 (2)	事前調査の発表（2）
第 14 回	まとめ.	各自の発表に基づいたまとめ. フィールドワークのガイダンス.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。
また、レポートを課すので、授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能ですので行わないように.

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】
必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
毎回行う実験についてのレポート　（50%）　および授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（50%）を主たる評価とします。試験は行いません。
※春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切です。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント資料の作成をおこなってもらいます．適宜パソコンを使用できるようにしておいて下さい.

【その他の重要事項】
1) 現地調査のための，交通費宿泊代が必要です（約 70,000 円ガイド料宿泊料交通量など+保険料　金額は前後することがあります.）．ガイダンスに必ず出席して下さい.
2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また，受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合にも、再度，選抜を行います.
3) 2017 年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミ II」として履修する学生] 半期のみの履修登録が可能となる方．教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミ II「自然史」を両方とも履修すること.
※どちらか一方だけの授業は履修できません.
4) 2016 年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学４（自然史）」として履修する方．年間科目として履修する方は、9 月または 2 月のフィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行う
5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、１０分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード２枚で１回欠席となります。
6) 9 月の初・中旬に沖縄でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、翌年 2 月に再スケジュールとする。

【Outline and objectives】
We consider the relationship between the biodiversity and culture of human being in Okinawa region, Southern Japan.

BIO300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**自然史 ～沖縄本島北部ヤンバル地域の自然と文化～**

島野　智之

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**
2～4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域を訪れ，とびきりの自然に触れ，実際に様々な調査，実習を通して，自然と私達の関係を見つめ直す．生物としての人間の生活も考える．地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か．生命とは何か。自然と人間との関係は，水産業，農業，林業などの産業によって結びついている．現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える．

【到達目標】
命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス，フィードワーク（1）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域で行うフィールドワークについて:
第 2 回	ガイダンス，フィードワーク（2）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域概説
第 3 回	ガイダンス，フィードワーク（3）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域概説
第 4 回	ガイダンス，フィードワーク（4）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	森林ツアー．森林の生物多様性
第 5 回	ガイダンス，フィードワーク（5）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	森林ツアー．湿地の生物多様性
第 6 回	ガイダンス，フィードワーク（6）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	森林ツアー．夜の森林の生物多様性
第 7 回	ガイダンス，フィードワーク（7）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	奥集落での共同体とは
第 8 回	ガイダンス，フィードワーク（8）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	奥集落での共同体とは
第 9 回	ガイダンス，フィードワーク（9）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	イノーの生物多様性
第 10 回	ガイダンス，フィードワーク（10）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	ヤンバルの森林保護
第 11 回	討議（1）【現地フィールドワーク】	世界遺産指定について．
第 12 回	討議（2）【現地フィールドワーク】	エコツーリズムについて
第 13 回	発表【現地フィールドワーク】	各自で調べたテーマについて発表と討議をおこなう．
第 14 回	まとめとガイダンス【現地フィールドワーク】	発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。
また、レポートを課すので、授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能です．

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】
必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
毎回行う実験についてのレポート　（50%）　および授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（50%）を主たる評価とします。試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
言われたことだけを行うのではなく，積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切です。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント資料の作成をおこなってもらいます．適宜パソコンを使用できるようにしておいて下さい．

【その他の重要事項】
1) 現地調査のための，交通費宿泊代が必要です（約 70,000 円ガイド料宿泊料交通量など+保険料　金額は前後することがあります．）．ガイダンスに必ず出席して下さい．

2) 受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合には、選抜を行いますので、最初の授業には必ず出席して下さい。
3) [半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミ II」として履修する学生] 半期のみの履修登録が可能となる方.
教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミ II「自然史」を両方とも履修すること.　※どちらか一方だけの授業は履修できません.
4) 年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学４（自然史）」として履修する方.
年間科目として履修する方は、9 月または 2 月のフィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行う
5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、１０分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード２枚で１回欠席となります。
6) 9 月の初・中旬に沖縄でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、翌年 2 月に再スケジュールとする。

【Outline and objectives】
We consider the relationship between the biodiversity and culture of human being in Okinawa region, Southern Japan.

BIO300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**生き物研究会**

木原　章

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、一言で言うと、「アマチュア科学者養成講座」です。授業では、生き物のしくみを実際に生き物を使って実験・観察しながら研究し、それを発表するまでの生物学的研究法を１から学びます。そのために使う生き物は、粘菌・ソバ・ヒマワリ・プラナリア・テントウムシ・ダンゴムシ・アリ等です。基礎知識は必要ありませんが、これらの生き物の名前を聞いただけで萎縮するようなタイプの方はご遠慮下さい。作業は全て班単位で行いますので、グループとしての問題解決法を学んで頂けます。

【到達目標】
１.「生き方」撮影技術の修得
　生きている様子を記録に残すために、拡大マクロ撮影・高速スローモーション撮影・インターバル撮影の方法を学びます。きれいに撮影するための、照明法なども同時に学んで頂きます。
２．基本的「生き方」観察
　①植物の種子（ソバやヒマワリ）の発芽、②粘菌の移動と成長，③アリの歩行、④ダンゴムシの歩行パターン、⑤テントウムシの飛翔.⑥プラナリアの再生，等の観察法を習得します。
３．班単位の共同作業の進め方を学びます、
４．授業中に行った事をどれだけ判りやすくノートに要約できるかを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
4 月 22 日 (水) からＺＯＯＭを使った授業を行います。
学習支援システムのお知らせに書かれた、ＺＯＯＭ会議へのアクセス法を参照して下さい。
全ての班が同じ約 6 種類の基礎的観察を行います。
①植物の種子（ソバやヒマワリ）の発芽、②粘菌の移動と成長，③アリの歩行、④ダンゴムシの歩行パターン、⑤テントウムシの飛翔.⑥プラナリアの再生
順番は材料調達のタイミングを見ながら約２週間単位で実施します。各課題のまとめでは、班ごとの結果発表と全体ディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	バイオイメージングの基礎	授業の概略を説明します。
②	ソバの発芽の観察①	インターバル撮影の基礎を学びます。
③	ソバの発芽の観察②	撮影データの回収法と、画像ハンドリングを学びます。
④	粘菌の成長①	粘菌の成長と移動の関係を、様々な条件で観察します。
⑤	粘菌の成長②	観察結果の解析をします。

⑥	アリの歩行①	ハイスピードカメラを使って、動き回る生き物をどの様に記録に残すか学びます。
⑦	アリの歩行②	昆虫の６本足歩行について、画像解析します。
⑧	ダンゴムシの歩行パターン①	ダンゴムシのレーストラックを作成します。
⑨	ダンゴムシの歩行パターン②	作成したレーストラックを使って、実際のダンゴムシの歩行パターンを解析します。
⑩	テントウムシの飛翔①	高速撮影によって、速い動きを観察する方法を学びます。
⑪	テントウムシの飛翔②	アリの６本足歩行の様子をハイスピード記録して解析します。
⑫	プラナリアの再生①	プラナリアを様々な条件で切断して、再生を試みます。
⑬	プラナリアの再生②	プラナリアの再生結果の解析を行います。
⑭	班活動の総括・発表	班活動について、総括反省します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間では、実験・観察を行います。そのための事前調査や、事後のプレゼン準備などは自宅で行う事になります。各時限について、最低 2 時間以上の復習と、それに伴うノート整理を行って下さい。また、事前調査を毎回 2 時間以上かけて行って来て下さい。

【テキスト（教科書）】
テキストは有りません。

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
出席は当然ですが、遅刻は他の班員に迷惑をかけるので、厳しく対応します。
成績は、授業内の活動と、最後に授業ノートを提出して頂いて採点します。
評価の基準は、授業内の活動の評価が 50 %、ノートの充実度が 50 % になります。。
単なる板書の写しを提出されても成績に加算されませんので、授業の説明に従った作業記録ノートを作成して下さい。
なお、ルーズリーフのノートは認めません。

【学生の意見等からの気づき】
概ね好評を得ているようです。パソコンについての不満が何件かありましたが、現在使っている Macintosh は画像解析には必須なので、慣れるようにして下さい。プレゼン等は、個人・大学貸し出しのパソコンを使って頂いてかまいません。

【学生が準備すべき機器他】
教室内のパソコンを多用します。パソコンの機種に対する要望が有りますが、当面は画像解析ソフトを使う目的でマッキントッシュを利用します。プレゼンなどは、ご自分の或いは、大学貸与のパソコンを利用して頂いて構いません。

【その他の重要事項】
必ず専用のノートを一冊用意して下さい。ルーズリーフのノートは認めません。

【Outline and objectives】
In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomenas.Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion.Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

BIO300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**生き物研究会**

木原　章

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、一言で言うと、「アマチュア科学者養成講座」です。授業では、教養ゼミⅠ「生き物研究会」で学んだ知識を元に、生き物のしくみを実験・観察しながら研究し、それを発表するまでの生物学的研究法を学びます。教養ゼミⅠ「生き物研究会」を既に履修していることを前提に授業を進めますので、注意して下さい。
　本授業では、班ごとに独自のテーマを設定して、その問題を解決するための計画立案、実験観察、データ解析、結果発表までの全ての研究過程を体験し学んで頂きます。
【これまでの実績】
ヒマワリの人工光栽培と太陽に対する反応の観察、メダカの体色変化の観察、ダンゴムシの交替性転向反応、様々な液体による植物の発芽、夜行性のダンゴムシ、光・温度がプラナリアに及ぼす影響及び刺激に対する反応、プラナリアの成長　＜奇形プラナリアの作成＞、プラナリアの行動解析、アリとダンゴムシの歩行から見る規則性について、植物の根はどのように伸びるのか、ダンゴムシの　壁認識実験、光の色による光屈性の有無 等

【到達目標】
生き物の不思議を、体験的に学ぶと同時に、以下の能力を取得することを目標とします。
１．実験の計画立案とその企画書の作成能力
２．計画実施能力
３．完遂力
４．プレゼン・発表力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
班ごとに独自のテーマで、計画立案・実験実施・データ解析・結果発表までを行います。
全体討論では、①計画立案の妥当性、②中間発表、③最終発表　についてそれぞれプレゼンとディスカッションを行います。
最後に、研究結果を示すポスターを作成して廊下に展示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	テーマ設定	班ごとにテーマを何にするか話し合い、複数の候補を挙げて発表します。
②	テーマの実施可能性の検討	テーマを更に具体的に絞り込んで、何を、どの様に、どこまで明らかにするかを検討します。
③	実験準備	実験に必要な機材や生物試料、その他材料を調達します。
④	実験日①	班ごとに、実験観察を行います。
⑤	実験日②	班ごとに、実験観察を行います。
⑥	実験日③	班ごとに、実験観察を行います。
⑦	データ整理・中間発表準備	ここまでのデータをまとめ、中間発表のプレゼンを作成します。

⑧	中間発表	各班による中間発表と討論を行います。
⑨	実験日④	班ごとに、実験観察を行います。
⑩	実験日⑤	班ごとに、実験観察を行います。
⑪	データ整理・画像処理	主として画像関係のデータの解析を行います。
⑫	ポスター作成	研究結果をポスターとして発表します。
⑬	プレゼン準備	最終プレゼンの準備をします。
⑭	班活動の総括・発表	最終プレゼンを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間では、実験・観察を行います。そのための事前調査や、事後のプレゼン準備などは自宅で行う事になります。各時限について、最低２時間以上の復習と、それに伴うノート整理を行って下さい。また、事前調査を毎回 2 時間以上かけて行って来て下さい。

【テキスト（教科書）】
テキストは有りません。

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
出席は当然ですが、遅刻は他の班員に迷惑をかけるので、厳しく対応します。
成績は、授業内の活動 (50%) と、最後に提出するレポート（50 %）で評価します。。

【学生の意見等からの気づき】
概ね好評を得ているようです。パソコンについての不満が何件かありましたが、現在使っている Macintosh は画像解析には必須なので、慣れるようにして下さい。プレゼン等は、個人・大学貸し出しのパソコンを使って頂いてかまいません。

【学生が準備すべき機器他】
教室内のパソコンを多用します。パソコンの機種に対する要望が有りますが、当面は画像解析ソフトを使う目的でマッキントッシュを利用します。プレゼンなどは、ご自分の或いは、大学貸与のパソコンを利用して頂いて構いません。

【その他の重要事項】
必ず専用のノートを一冊用意して下さい。

【Outline and objectives】
In this class, students will work on their own subject, which they have found in the previous class. The lecture starts from the basic outline of scientific research work, then detail instructions of each research step from the planing to the final presentation.In those precess, students will learn how to accomplish the scientific project from the beginning.

CHM300LA

イオンの科学 A

2017 年度以降入学者

向井　知大

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】
イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は５月１１日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	原子の構造	原子の構造と性質
第 3 回	砂糖と塩	イオンと有機化合物の違いについて
第 4 回	塩の溶解	水に溶けやすい塩と溶けにくい塩について
第 5 回	電子の配置	イオンになりやすい原子について
第 6 回	炎色反応	各種原子固有の光について
第 7 回	ホウ砂球反応	各種イオンを含む水溶液の色について
第 8 回	3d 遷移金属	電子の軌道について
第 9 回	水と酸塩基	水中のイオンの構造について
第 10 回	イオンの化学反応	イオンと化学物質の結びつきについて
第 11 回	金属イオンの分離 1	イオンの沈殿反応について
第 12 回	金属イオンの分離 2	沈殿生成によるイオンの分離
第 13 回	金属イオンの定性分析	未知試料に含まれる金属イオンの検出
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】
使用しません。

【成績評価の方法と基準】
実験回に課すレポート (配分 70%) と学期末試験 (配分 30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
この授業は化学実験室で行われます。
席に限りがあることや、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。
受講希望者が 20 名以上の場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行います。
2018 年度は抽選を実施しましたが、2019 年度は抽選を実施しませんでした。

【Outline and objectives】
This course introduces the fundamental principles of ions. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM300LA

イオンの科学 B

2017 年度以降入学者

向井　知大

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】
イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業では、講義と実験を行います。授業ごとに簡単な実験を行い、ミニレポートを課します。高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	溶液の濃度	溶液中に含まれる分子、イオンの数について
第 3 回	中和反応と pH の変化	中和反応における pH 変化の測定
第 4 回	弱酸と解離定数	物質としての酸、塩基の強弱を表す指標について
第 5 回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて
第 6 回	ボルタの電池と標準電位	電池における電解質の役割について
第 7 回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験
第 8 回	亜鉛めっきと合金	金属銅への亜鉛めっきとその合金の作成
第 9 回	無電解めっき	めっきの歴史と電気を使わないめっきについて
第 10 回	自己触媒型無電解めっき	めっきされた金属が触媒となって進行するめっき反応について
第 11 回	フォトレジスト	光化学反応による構造変化によって溶解度が変わる仕組みについて
第 12 回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止するための方法について
第 13 回	イオン液体	イオンのみからなる液体とその応用について
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】
使用しません。

【成績評価の方法と基準】
実験回に課すレポート (配分 70%) と学期末試験 (配分 30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
この授業は化学実験室で行います。
席に限りがあることや、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。
受講希望者が 20 名以上の場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行います。
ただし、「イオンの科学 A,B」通年履修者を優先しているため、抽選を行わず、履修を受け付けない場合があります。

【Outline and objectives】
This course introduces the fundamental principles of ions. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM300LA

光と色の科学 A

2017 年度以降入学者

中島　弘一

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月 4**/Mon.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょう？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】
人間の目がどうやって色を認識するのかが理解できます。
ろうそくの炎、電球、蛍光灯が光る仕組みと違いを学ぶ。
自然界にある色、あるいは人工的に作り出された色と光の関係を科学的に理解する。
分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
（授業は 4 月 27 日から、学習支援システムを使って始めます。初日に、授業内容や当分の間の授業の進め方、履修予定の皆さんの学習環境のアンケートを取るつもりですので、27 日にまずは学習支援システムにアクセス願います。）春学期は主に視覚の仕組みと光に関する現象を取り上げ、基本的には講義主体で解説を行います。当初は、いくつか小道具を使って実際に目で確かめたり、簡単な実験を行う予定でしたが、今年は少なくとも春は無理なようです。2 年生の学生は来年度の履修で考えてみてください。来年度もこの科目は開講します。講義の最後に、毎回、簡単な小テストを行い、理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	1 年間（A・B）の講義内容の説明を行います。
第 2 回	光と色の混色	光を混ぜ合わせた時と色素を混ぜ合わせた時の違いについて学びます。
第 3 回	視覚と色覚	目の構造と色覚についてその仕組みを学びます。
第 4 回	色覚異常、昆虫の色覚	色覚異常の仕組みについて解説します。
第 5 回	光の種類とその利用	光は電磁波の一種です。大きな範疇の電磁波について学びます。
第 6 回	電波の利用	身の回りにある電波の利用について解説します。
第 7 回	光源の種類と発光の仕組み（電球、放電管、蛍光灯）	電気で光るのに異なる原理が利用されています、その仕組みを学びます。

第 8 回	光源の種類と発光の仕組み（LED と LASER）	LED や LASER の発光原理とこれらを利用した事例を紹介します。
第 9 回	オーロラ	オーロラの発光原理を学びます。
第 10 回	生物発光	ホタルや夜光虫、オワンクラゲの発光原理とその応用を学びます。
第 11 回	化学発光	ルミノール発光は血痕鑑定という犯罪捜査に利用されていますが、その仕組みを実験を通じて学びます。
第 12 回	屈折と散乱	屈折や散乱の仕組みを学び、虹や空の色を理解する。
第 13 回	干渉と偏光	干渉や偏光の仕組みを学び関連する身の回りの現象や応用例を理解する。
第 14 回	まとめ	春学期の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日ごろから身の回りの光や色について感心をもち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】
中原勝儼著「色の科学　改訂版」，培風館，1999.
江森康文他著「色　その科学と文化」，朝倉書店，1984.

【成績評価の方法と基準】
毎回、講義の最後に小テストを実施し、その結果（20 %）と期末試験の結果（80 %）を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】
授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっており、理科が不得手な人にはちょっと難しい内容となっているようです。基本的なところから解説していますが、同じことを繰り返し説明する時間的余裕はありません。欠席しがちな人は履修しても理解できずに終わるものと思いますので、確実に出席できる方の履修を希望します。

【その他の重要事項】
いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員（30 名）を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず初回の授業に出席してください。定員を超えた場合はその中から選抜を行います。A と B、両方の受講が望ましいので、秋学期の B についても春学期の初回で選抜を行います。

【Outline and objectives】
The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course “A” deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception.

CHM300LA

光と色の科学 B

2017 年度以降入学者

中島　弘一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月 4**/Mon.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょう？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】
人間の目がどうやって色を認識するのかが理解できます。
ろうそくの炎、電球、蛍光灯が光る仕組みと違いを学ぶ。
自然界にある色、あるいは人工的に作り出された色と光の関係を科学的に理解する。
分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
秋学期のこの科目では色に関する内容を基本的に講義主体で解説を行います。ただし、いくつか小道具を使って実際に目で確かめたり、簡単な実験も行います。講義の最後に、毎回、簡単な小テストを行い、理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	光と色の関係	光の 3 原色と色素の 3 原色の関係を人間の視覚と関係して解説します。
第 2 回	古代の色素	高松塚古墳の壁画や、古代に使用された染色材料など、古代の人々が利用した色材について解説します。
第 3 回	顔料と染料	顔料と染料の違いを学びます。
第 4 回	遷移金属イオンの色	電子配置と色の関係を金属イオンをもとに解説します。
第 5 回	宝石の色	宝石を題材に、顔料が光を吸収する仕組みを学びます。
第 6 回	染料分子の構造	化学結合の仕組みを解説した後、染料分子の光吸収の仕組みを解説します。
第 7 回	植物の色	植物が利用する色素の種類と構造を学びます。
第 8 回	色覚の仕組み	オプシンタンパクの違いで吸収波長に違いが出る仕組みを学びます。
第 9 回	伝統色名と表色系	基本色や伝統色名の語源や、色を伝える方法を学びます。
第 10 回	染色の方法と種類	伝統的な染色の技法を学びます。

第 11 回　染色実験	草木染を実際に行います。
第 12 回　染色	食品などにみられる発酵や酸化による色の変化について学びます。
第 13 回　身の回りの色	銀塩写真やポラロイド、温度で色の変わるグッズの仕組みについて学びます。
第 14 回　まとめ	授業の内容の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日ごろから身の回りの光や色について感心をもち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】
中原勝儼著「色の科学　改訂版」，培風館，1999.
江森康文他著「色　その科学と文化」，朝倉書店，1984.

【成績評価の方法と基準】
毎回、講義の最後に小テストを実施し、その結果（20 %）と期末試験の結果（80 %）を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】
授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっており、理科が不得手な人にはちょっと難しい内容となっているようです。基本的なところから解説していますが、同じことを繰り返し説明する時間的余裕はありません。欠席しがちな人は履修しても理解できずに終わるものと思いますので、確実に出席できる方の履修を希望します。できるだけ授業内容に関するプリントを配布したいと思っています。

【その他の重要事項】
いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員（30 名）を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず春学期の「光と色の科学 A」の初回の授業に出席してください。定員を超えた場合はその中から選抜を行います。A と B、両方の受講が望ましいので、秋学期の B についても春学期の初回で選抜を行います。

【Outline and objectives】
The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course “B” deals with characteristic of pigment and dye, correlation between color and molecular structure, how to dye cloth, and color coordination system.

CHM300LA

物質の科学 A

2017 年度以降入学者

中田　和秀

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に化学物質の耐久性も増したことで、人々が化学に関心を持つ機会が減少してきたように思えます。本授業では、これまでの化学の歴史を学習し、物質の性質や反応を探求する学問すなわち化学に関する理解を深めることを目的とします。

【到達目標】
化学の歴史を、化学史の記述法、概念史、人物史、ジェンダー、技術と環境問題、日本化学史といった種々の切り口を通して学習し、化学について多様な観点から理解を深めることが本授業の目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
学習支援システムを通して各回の課題をお知らせします。履修者は、毎回、各回の教科書割当て部分を読みます。その内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、レジュメにまとめます。春学期中に何度かレポート課題を課しますので、指示にしたがってレポートを提出します。
.
なお、本授業の開始日は 5 月 6 日（水）とし、この日までに第 1 回「イントロダクション」の資料などを学習支援システムからダウンロードできるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的と概要を解説します。
第 2 回	化学史研究の現在 (1)	「酸・塩基・塩の歴史」について学習する。
第 3 回	化学史研究の現在 (2)	「ロバート・ボイルの化学研究の現場」について学習する。
第 4 回	化学史研究の現在 (3)	「18 世紀化学史研究の現在」について学習する。
第 5 回	化学史研究の現在 (4)	「再発見・ニッポニウムの真実」について学習する。
第 6 回	化学史研究の現在 (5)	「カローザースとナイロン」について学習する。
第 7 回	化学革命の現在 (1)	「ベッヒャーとシュタール」について学習する。
第 8 回	化学革命の現在 (2)	「プリーストリ」について学習する。
第 9 回	化学革命の現在 (3)	「カール・ウィルヘルム・シェーレ」について学習する。
第 10 回	化学革命の現在 (4)	「ラヴォアジエ」について学習する。
第 11 回	化学革命の現在 (5)	「ラヴォアジエと質量保存の原理」について学習する。
第 12 回	人物化学史の現在	人物化学史について学習する。
第 13 回	該当なし	該当なし

第 14 回　該当なし　　該当なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成やレポート作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】
下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。
書籍名：化学史への招待
著者名：化学史学会
出版社名：オーム社

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、レポート（100%）によって決定されます。レポート課題の詳細については、授業内でお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】
本授業形態は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って初めて行われるものなので、必然的に気付きを与えてくれる学生の意見等はありません。

【学生が準備すべき機器他】
PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】
新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、法政大学でも、当面の間、授業形態が大きく変わることになり、オンライン授業を行うことになりました。本授業は（昨年度まで私の他の授業を履修していただいた皆さんには授業内でご案内しましたが）、当初は、実際に各種実験を行っていただき、化学の理解を深めるという形態で行う予定でした。しかしながら、オンライン授業に切り替えることにより（必然的に）実験を体験していただくことができなくなりました。そこで、大変申し訳ないのですが、内容を大幅に変更して授業を行うことになりました。今回変更したシラバスをお読みいただいておわかりいただけるように、化学に関する教科書を学習していく形式といたします。履修者の皆さんは、教科書を各自購入し、各回の割当て部分を読むと共に発展的な学習を他の図書やネット資料を活用して行ってください。質問等は学習支援システムを通してお答えします。成績評価については、レポート課題を提出していただくことによって行います。このような授業形態に変更したため、本授業の定員制限は行いません。（希望者全員が履修できます。）
なお、シラバスは今後状況に合わせて変更することがありますので、時々チェックしてください。
また、どうしても当初予定していた実験授業に参加したいという学生の皆様は、今回は本授業を登録せず、現在の感染状況が好転して対面授業（実験教室で行う授業）が可能になった後（現段階では、それが、秋学期からになるのか、来年度からになるのかわかりませんが）での履修をご検討ください。

【Outline and objectives】
Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and its technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, we will learn the history of chemistry through various aspects. The purpose of this lecture is to aquire deeper understanding about chemistry that investigates property and reactivities of chemical substances.

CHM300LA

物質の科学 B

2017 年度以降入学者

中田　和秀

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】
本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各テーマごとに実験を取り入れた授業を行います。一つのテーマが複数回にわたるときは、講義や演習だけの日もあります。実験日は、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。
ノートをきちんとまとめることは重要です。漫然と板書や実験結果をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第 2 回	水の硬度	石けんの泡立ちに関係する水の硬度について概要と測定方法を解説します。
第 3 回	定量分析 (1)	水道水や天然水のカルシウムイオン濃度を測定します。
第 4 回	定量分析 (2)	水道水や天然水の硬度を測定します。
第 5 回	油脂の構造と種類	石けんの原料である油脂について分子構造と種類を学習します。
第 6 回	けん化価 (1)	中和滴定によりけん化価を測定します。２回にわたって測定し精度を確保します。（第１回）
第 7 回	けん化価の測定 (1)	物質の基本単位である分子について概要を講義します。
第 8 回	けん化価の測定 (2)	中和滴定によりけん化価を測定します。２回にわたって測定し精度を確保します。（第２回）

第 9 回	けん化価 (2)	測定したけん化価から、石けんを合成する際に必要な水酸化ナトリウムの量がどのように計算されるか学習します。
第 10 回	オリーブ油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、オリーブ油石けんを合成します。
第 11 回	やし油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、やし油石けんを合成します。
第 12 回	透明石けんの合成	測定したけん化価を利用して、透明石けんを合成します。
第 13 回	蒸留・比重	蒸留・比重など物質に関する基本概念を学習し実験方法を解説します。
第 14 回	アルコール濃度の測定	蒸留前・蒸留後の酒類のアルコール濃度を比重測定を通して決定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行ってレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】
授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験は実施しません。成績は、平常点（50 %）、および、各テーマ毎に提出するレポート（50 %）によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】
実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【その他の重要事項】
受講希望者が定員（30 名）を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は第 1 回目の授業に必ず出席してください。
なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴って、春学期（物質の科学Ａ）は授業内容が大幅に変更されました。秋学期の本授業（物質の科学Ｂ）についても、今後の状況次第では、内容が変更される可能性があることをお含み置きください。その場合は、学習支援システムでお知らせします。

【Outline and objectives】
Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and its technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, we experience chemical analyses as well as syntheses. Understanding chemical substances in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture.

PRI300LA

ＩＴリテラシー

2017 年度以降入学者

児玉　靖司

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報通信技術（Information Communication Technology）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】
講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期は、コンピュータの基礎（ソフトウェア・ハードウェア）からネットワーク、プログラミング言語等、コンピュータ科学に関する話題について学ぶ。
〔補足〕
春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムと Google Classroom でその都度提示する。2020 年 4 月 24 日（金）を第一回目とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第 3 回	2 進数、8 進数、16 進数（1）	2 進数について基礎的な概念を学び、応用である 8 進数、16 進数について学ぶ。
第 4 回	2 進数、8 進数、16 進数（2）	2 進数の計算から、8 進数、16 進数の計算について学ぶ。
第 5 回	2 進数、8 進数、16 進数（3）	2 進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第 6 回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第 7 回	情報システム（1）	CMS（Contents Management System）を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第 8 回	情報システム（2）	LMS、SNS を中心とした情報システムについて学ぶ。
第 9 回	情報セキュリティ（1）	ウィルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。

第 10 回	情報セキュリティ（2）	ウィルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第 11 回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。
第 12 回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第 13 回	インダストリー 4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
基本的にパワーポイントの資料（PDF）をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】
開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】
春学期期末試験（レポート）と平常点において合計が 50%、出席点が 50%で評価する。
〔補足〕
オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合がある。具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
基本的に PC の画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers.

PRI300LA

コンピュータ科学

2017 年度以降入学者

児玉　靖司

開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 曜日・時限：**金 1/Fri.1**
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】
講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
秋学期は情報学を中心に応用事例について学ぶ。 具体的には、システム開発における要求分析、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。その他、オペレーティングシステム、言語処理系についても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	ネットワーク（1）	ネットワークの基礎について学ぶ。
第 3 回	ネットワーク（2）	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第 4 回	ネットワーク（3）	ネットワークの応用について学ぶ。
第 5 回	オペレーティング・システム（1）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 6 回	オペレーティング・システム（2）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 7 回	データベース	データベースについて学ぶ。
第 8 回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第 9 回	ソフトウェア工学（2）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第 10 回	人工知能（1）	人工知能の基礎について学ぶ。
第 11 回	人工知能（2）	人工知能の応用について学ぶ。
第 12 回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。
第 13 回	コンパイラ（2）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】
開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】
秋学期期末試験と平常点の合計が60%、出席点が40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
基本的に PC の画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
Learning the basics about Computer Science. Learning a wide range of theoretical and engineering aspects of computers, including basics and science as well as applied technologies.

BIO300LA

人間と地球環境

2017 年度以降入学者

宇野　真介

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月 3**/Mon.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、国連の持続可能な開発目標（SDGs）が注目され日本も含め、世界各地で様々な取り組みがされています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワード、人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎だけでなく、社会的要素も含め、広い視野から学習していきます。

【到達目標】
本授業では以下の３点を最終的到達目標とします。１）種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。２）環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。３）各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題の全体像を把握すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教室のでの授業ができない間は Zoom をつかった遠隔授業を行います。4 月 20 日（月）現在、授業開始は 4 月 27 日（月）です。
本講座では「持続可能性」の観点から様々な話題にふれますが、大まかに二部に分けられます。第一に、私たちの暮らしの場をつくり様々な資源の供給源となる自然環境について、生態系・生物多様性の基本的特徴について学習します。第二に、私たちの生活に欠かせない食糧供給や自然資源の利用に目を向け、農業や資源管理に関連する環境問題や社会的問題について学習します。基本的には講義形式で解説していきますが、映像資料やグループワークも取り入れていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境科学と持続可能性	導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。
第 2 回	大気の変化と生態系	地球環境における大気の組成、その変化にともなう影響を考えます。
第 3 回	水の循環と水資源利用	生態系や生命の維持に重要な物質である水の観点から物質の循環や資源の問題を考えます。
第 4 回	エネルギーの供給	生態系におけるエネルギーの供給と人間社会におけるエネルギーの供給について考えます。
第 5 回	「土」というもの	日頃目を向けない「足元の世界」に目を向け、土の成り立ちや関連する環境問題について考えます。
第 6 回	生物多様性はなぜ重要か？	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。

第 7 回	持続可能な資源利用のための応用生態学	これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決へ応用を目的としたグループワークを行います。
第 8 回	近代農業の功罪	近代農業の成果と環境負荷について解説します。
第 9 回	食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。
第 10 回	資源開発は持続可能か？	鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。
第 11 回	「望まれぬ開発」という問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。
第 12 回	多角的問題解決への挑戦	異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。
第 13 回	持続可能な社会へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。
第 14 回	地球環境の現状とこれから	学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の通読、各回の学習内容の確認や他の回との関連性の考察など、本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
欠席時には学習支援システム掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】
教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】
授業中に適宜提示。

【成績評価の方法と基準】
「成績評価は小テスト＝ 40 %、授業参加（授業内活動や映画鑑賞の感想共有など）＝ 20 %、期末レポート＝ 40 %を基本とします。」という予定でしたが、遠隔授業の実施期間に各種課題を活用することが想定されますので、暫定的に「成績評価は小テスト＝ 20 %、授業参加（授業内外の活動・課題や映画鑑賞の感想共有など）＝ 40 %、期末レポート＝ 40 %を基本とします。」今後の状況次第で変更される可能性がありますので、随時通知します。

【学生の意見等からの気づき】
映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。今後も参加型の授業形態について検討していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスの確保。遠隔授業を受ける手段の確保

【Outline and objectives】
The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective. relationships. In order to do so, students will learn the basic aspects of environmental and social problems.

BIO300LA
Human Impact on the Global Environment
2017 年度以降入学者

BIO200LA
Natural Science A
2017 年度以降入学者

宇野　真介

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

【到達目標】
This course is designed to teach about ecological and social issues . Therefore, the course objectives are 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems, 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course, and 3) to understand interrelated nature of these problems to grasp the big picture of the current state of human society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Although this course deals with various topics from the perspective of "sustainability", the course is divided roughly into two parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem and biodiversity, that is to say, natural world that surrounds us and provides us with various essential resources. The second part will focus on environmental and social problems related to agriculture (food production) and use of other natural resources in order to explore our personal involvement in these issues. The course will be taught entirely in English, and, although the course material will be presented in a series of lectures, videos, group activities, and discussions will also be utilized in combination when appropriate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.

Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.
Week 3	Water cycle and the use of water resource	Water will be focused as an essential matter for sustaining life and ecosystem, and the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is resource development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】
None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】
To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】
Student performance will be graded based on quizzes (40 %), in-class participation (30 %), and writing assignments (30 %).

【学生の意見等からの気づき】
It has been a challenge to more actively involve students in the learning process. However, group activities appear to be effective in addressing such an issue, and additional efforts to provide such opportunities will be made.

【Outline and objectives】
The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

BIO300LA

ボルボックス生物論 A

2017 年度以降入学者

植木　紀子

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物プランクトンであるボルボックスは、生物の進化、特に単細胞生物から多細胞生物への進化を研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】
各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた観察・実験とその検討までを体験します。それを通じて、対象物を正確に観察する能力、問題解決能力、実験の結果や考察を記述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は、板書を基本とする講義と、毎回のテーマに沿った観察・実験を行いながら進めていきます。
→ 当面の間、Zoom を用いたオンライン授業に変更します。本授業の開始日は 4 月 27 日（月）とします。学習支援システムをこまめにチェックするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	進化のモデル生物としてのボルボックス	授業の概略を説明します。
第 2 回	ボルボックスの観察①	レーウェンフック顕微鏡と同じ原理でボルボックスを観察してみましょう。
第 3 回	ボルボックスの観察②	光学顕微鏡の原理と基本操作を学びます。
第 4 回	淡水産プランクトンの観察①	顕微鏡を使ってプランクトンを観察し、形態や運動性の多様性を理解します。
第 5 回	淡水産プランクトンの観察②	一週間培養した後のプランクトンサンプルを観察します。
第 6 回	生物の多細胞化進化	進化の歴史で複数回起きた多細胞化について学び、多細胞化進化の痕跡を残す生き物を観察します。
第 7 回	環境応答行動①	ボルボックスが光に集まる性質（走光性）を利用した実験を行います。
第 8 回	環境応答行動②	走光性行動に必要なファクターを調べます。
第 9 回	繊毛のはたらき①	生き物が普遍的にもつ繊毛について学びます。
第 10 回	繊毛のはたらき②	繊毛の動きと、それが作り出す水流を観察します。
第 11 回	光受容①	生き物が光を感知するしくみとその多様性を学びます。
第 12 回	光受容②	ボルボックスが光を感知する眼点と呼ばれる構造を観察します。
第 13 回	多細胞化と機能進化	生物の多細胞化進化の過程で起きた変化について考察します。
第 14 回	まとめ	13 回の授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。
成績は、出席（20%）、平常点（40%）、授業ノート（40%）をもとに評価します。
授業ノートは、授業の説明に従って記録し、最後に提出していただきます。

【学生の意見等からの気づき】
本年度から始める授業になります。

【その他の重要事項】
・必ず専用のノートを一冊用意して下さい。ルーズリーフのノートは認めません。
・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
・授業日の生物材料の準備状況によっては、予定を変更する場合があります。

【Outline and objectives】
The green alga Volvox is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using Volvox and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.

BIO300LA

ボルボックス生物論Ｂ

2017 年度以降入学者

植木　紀子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物プランクトンであるボルボックスは、生物の進化、特に単細胞生物から多細胞生物への進化を研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】
各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた観察・実験とその検討までを体験します。それを通じて、対象物を正確に観察する能力、問題解決能力、実験の結果や考察を記述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は、板書を基本とする講義と、毎回のテーマに沿った観察・実験を行いながら進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	進化における多細胞化	授業の概略を説明します。
第 2 回	単細胞生物と多細胞生物	単細胞生物と多細胞生物の比較をしながら顕微鏡の扱いに慣れましょう。
第 3 回	生活環と形態形成	ボルボックスの丸い形の形成過程から、生き物の形づくりを学びます。
第 4 回	有性生殖とその進化①	ボルボックスに近縁の単細胞生物クラミドモナスの有性生殖を観察します。
第 5 回	有性生殖とその進化②	生物の有性生殖が同形配偶から異形配偶を経て卵生殖へと進化してきた道筋を学びます。
第 6 回	繊毛の役割①	ボルボックスの表面にも私たちの体のいたるところにも存在する「繊毛」の役割を学びます。
第 7 回	繊毛の役割②	繊毛を脱離させ、再生させる実験を行います。
第 8 回	運動性①	繊毛運動を再活性化する実験、通称「ゾンビ実験」を行います。
第 9 回	運動性②	繊毛運動を生み出すファクターについて考察します。
第 10 回	粘菌の観察①	アメーバ状単細胞生物である真性粘菌の採餌行動を調べる実験を行います。
第 11 回	粘菌の観察②	粘菌の採餌行動について考察します。また、粘菌の原形質流動を観察します。
第 12 回	突然変異体の研究への利用①	突然変異体を利用した生物の研究方法について学びます。
第 13 回	突然変異体の研究への利用②	様々な突然変異体の特徴を調べていきます。それにより、変異体解析という研究手法を理解します。
第 14 回	まとめ	13 回の授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。
授業の説明に従って観察結果・実験結果・考察などを授業ノートに記録し、最後に授業ノートを提出していただきます。
成績は、授業における活動（50%）、授業ノート（50%）をもとに評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度から始める授業になります。

【その他の重要事項】
・必ず専用のノートを一冊用意して下さい。ルーズリーフのノートは認めません。
・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
・授業日の生物材料の準備状況によっては、予定を変更する場合があります。

【Outline and objectives】
The green alga Volvox is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using Volvox and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.

CHM300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**持続可能社会のための化学**

中田　和秀

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】
持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかがわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための化学を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
学習支援システムを通して各回の課題をお知らせします。履修者は、毎回、各回の教科書割当て部分を読みます。その内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、レジュメにまとめます。春学期中に何度かレポート課題を課しますので、指示にしたがってレポートを提出します。
【追記】本授業の開始日は 4 月 23 日（木）とし、この日までに第 1 回「イントロダクション」の資料などを学習支援システムからダウンロードできるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第 2 回	第一章_異なる世界観のはざまで	「異なる世界観のはざまで」を学習する。
第 3 回	第二章_ハバートのベルカーブを滑り落ちる (1)	「数字のまやかし」〜「実際の数字は？」を学習する。
第 4 回	第二章_ハバートのベルカーブを滑り落ちる (2)	「悲観論 VS 楽観論」〜「最後の石油」を学習する。
第 5 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (1)	「文化の発展とエネルギー」〜「熱力学の法則」を学習する。
第 6 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (2)	「経済発展の再考」〜「大文明が崩壊する理由」を学習する。
第 7 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (3)	「ローマ帝国の熱力学」を学習する。
第 8 回	第四章_化石燃料時代 (1)	「歴史の真相」〜「石油時代の幕開け」を学習する。
第 9 回	第四章_化石燃料時代 (2)	「新たな機動性」〜「商業の再構築」を学習する。
第 10 回	第五章_イスラム教という波乱の要素 (1)	「ムハンマドの描いたビジョン」〜「西洋の影響」を学習する。
第 11 回	第五章_イスラム教という波乱の要素 (2)	「イスラム化」〜「サウジアラビア」を学習する。
第 12 回	第五章_イスラム教という波乱の要素 (3)	「民主主義はいずこへ」〜「石油を政治の道具に」を学習する。
第 13 回	該当なし	該当なし
第 14 回	該当なし	該当なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成やレポート作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】
下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。
書籍名：水素エコノミー ―― エネルギー・ウェブの時代
著者名：ジェレミー・リフキン
訳者名：柴田裕之
出版社： NHK 出版

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、レポート（100%）によって決定されます。レポート課題の詳細については、授業内でお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】
今年度より開設される授業のため、コメントはありません。

【学生が準備すべき機器他】
PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】
教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミⅠ」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミ II」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員（30 名）を超える場合は抽選をおこないます。
新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、法政大学では、当面の間、オンライン授業が行われることになりました。本授業も、当初はゼミ形式でおこなう予定でしたが、大学の方針にしたがって授業形態を大幅に変更することにいたしました。履修者の皆さんは、教科書を各自購入し、各回の割当て部分を読むと共に発展的な学習を他の図書やネット資料を活用して行ってください。質問等は学習支援システムを通して受付ます。成績評価については、レポート課題を提出していただくことによって行います。
各回の学習範囲やレポート課題については、学習支援システムによって指示いたしますので、よろしくお願いいたします。

【Outline and objectives】
Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as row materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. Such the fossil fuels are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, we will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry.

CHM300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**持続可能社会のための化学**

中田　和秀

開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 曜日・時限：**木 5/Thu.5**
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】
持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかがわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための化学を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式で授業を行います。各受講生には教科書の一部分を割り当てます。各自の割当て部分についてレジュメおよびプレゼンテーション資料を作成し、授業内で発表していただきます。その後、全員でディスカッションを行って理解を深めます。調査・発表内容は、受講生の希望を取り入れて決定しますが、一例を授業計画のテーマ欄に記載しましたので、参考にしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第六章_世界の破綻 (1)	「天然ガスでしのぐ」〜「重油と気温上昇」を学習する。
第 2 回	第六章_世界の破綻 (2)	「工業化時代のエントロピーのつけ」〜「もっと悪いシナリオ」を学習する。
第 3 回	第七章_現代社会の弱点 (1)	「バイオテロリズム」〜「弱点」を学習する。
第 4 回	第七章_現代社会の弱点 (2)	「石油あっての食料生産」を学習する。
第 5 回	第七章_現代社会の弱点 (3)	「電気が停まったとき」〜「危地にたつ国家」を学習する。
第 6 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (1)	「脱炭素化」〜「エネルギーの錬金術」を学習する。
第 7 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (2)	「水素エネルギーの生産」〜「燃料電池−− ミニ発電所」を学習する。
第 8 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (3)	「分散型電源」〜「水素エネルギー・ウェブ（HEW）」を学習する。
第 9 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (4)	「車を発電所に」を学習する。
第 10 回	第九章_ボトムアップによる新しいグローバル化 (1)	「ワールド・ワイド・ウェブの教訓」〜「共有財産としての水素」を学習する。
第 11 回	第九章_ボトムアップによる新しいグローバル化 (2)	「エネルギーの民主化」〜「理論から実践へ」を学習する。
第 12 回	第九章_ボトムアップによる新しいグローバル化 (3)	「貧しい人びとにパワーを」〜「「安心」を見直す」を学習する。
第 13 回	第九章_ボトムアップによる新しいグローバル化 (4)	「地政学に基づく政治から生物圏に基づく政治へ」を学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読し、自分が担当する箇所についてプレゼンテーション資料やレジュメを丁寧に作成して下さい。また、授業内容の復習、各自の興味関心に基づいた発展的な読書をお勧めします。

【テキスト（教科書）】
下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。
書籍名：水素エコノミー −− エネルギー・ウェブの時代
著者名：ジェレミー・リフキン
訳者名：柴田裕之
出版社： NHK 出版

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度、ディスカッションへの参加度等を考慮した平常点 (50%)、出席点（50 %）を総合的に勘案して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
今年度より開設される授業のため、コメントはありません。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーションのため、パソコンが必要です。自分のパソコンを持ってくることが望ましいが、大学の貸し出しパソコンを利用しても結構です。

【その他の重要事項】
教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミⅠ」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミ II」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員（30 名）を超える場合は抽選をおこないます。
なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴って、春学期（教養ゼミⅠ）は授業形態が大幅に変更されました。秋学期の本授業（教養ゼミ II）についても、今後の状況次第では、授業形態が変更される可能性があることをお含み置きください。その場合は、学習支援システムでお知らせします。

【Outline and objectives】
Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as row materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. Such the fossil fuels are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, we will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 A　2017 年度以降入学者

笠原　賢介

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
はじめてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。
発音の基礎から始め、ドイツ語での表現の基本を学んでゆきます。ドイツ語は単語や仕組みが英語とも近く、学びやすい言語です。簡単な練習をとおして一歩一歩確認しながら進めます。ドイツとヨーロッパについての基礎的な情報も適宜伝えてゆきます。

【到達目標】
ドイツ語による表現のための基礎的な文法事項を習得し、場面に応じたドイツ語の基礎的な表現と語彙を身につける。ドイツとヨーロッパの現在についての基礎的な情報をえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
アルファベット・発音の基礎から始め、ドイツ語の基本的な、しかし必要十分な文法と基本的表現を学びます。初めて学ぶ言語なので、わかりやすい、丁寧な説明をしていきます。受講者の理解によって進度も適宜、対応させていきたい。
＊ 4 月 22 日（水）より、学習支援システムで授業を開始します。
＊ 4 月 21 日（火）より教科書の通信販売（法大生協）が可能になります。すみやかに教科書を注文してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス アルファベット	授業の進め方。 ドイツ語の基本的な特徴とアルファベット。以下の進度はおおよその目安です。
第 2 回	Lektion0 ドイツ語の発音	前回の復習。 ドイツ語の発音の仕方を学びます。
第 3 回	Lektion1 出会いと自己紹介－動詞の現在人称変化（1）	ドイツ語の人称代名詞と現在人称変化の基本を学びます。
第 4 回	Lektion1 出会いと自己紹介－動詞の現在人称変化（2）	前回学習した内容を踏まえて、自己紹介の基本表現を学びます。
第 5 回	Lektion2 家族について尋ねる－名詞の性/冠詞の格変化（1）	ドイツ語の名詞の性と冠詞の格変化を学びます。
第 6 回	Lektion2 家族について尋ねる－名詞の性/冠詞の格変化（2）	前回学習した内容を踏まえて、会話の基本表現を学びます。
第 7 回	Lektion3 明日の予定を尋ねる－不規則変化動詞/命令形（1）	不規則変化動詞と命令形を学びます。
第 8 回	Lektion3 明日の予定を尋ねる－不規則変化動詞/命令形（2）	前回学習した内容を踏まえて、会話の基本表現を学びます。
第 9 回	Lektion4 買い物に行く〈1〉－定冠詞類・不定冠詞類（1）	定冠詞類と不定冠詞類を学びます。
第 10 回	Lektion4 買い物に行く〈1〉－定冠詞類・不定冠詞類（2）	前回学習した内容を踏まえて、会話の基本表現を学びます。
第 11 回	Lektion5 買い物に行く〈2〉－複数形/人称代名詞（1）	ドイツ語の名詞の複数形と人称代名詞の格変化を学びます。
第 12 回	Lektion5 買い物に行く〈2〉－複数形/人称代名詞（2）	前回学習した内容を踏まえて、会話の基本表現を学びます。
第 13 回	Lektion6 週末の予定を尋ねる－前置詞の格支配（1）	ドイツ語の前置詞の用法を学びます。
第 14 回	Lektion6 週末の予定を尋ねる－前置詞の格支配（2）	前回の復習。春学期のまとめとして基礎の確認の試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容を確実に身につけるために復習は必要です。また、課題にもかならず取り組みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
上野成利・本田雅也『パノラマ　初級ドイツ語ゼミナール』白水社。

【参考書】
とくに必要ありません。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席と参加を重視します。春学期の終わりにまとめの試験をします。平常点・課題への取り組み 50 %、まとめの試験 50 %で評価します。
＊授業内容・方法の変更にともなう成績評価の方法と基準の変更は、今後、学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
丁寧な説明、学習内容の復習と進度とのバランスを取りながら進めてゆく。

【その他の重要事項】
ドイツ語の既修者、および 1 年次にドイツ語を選択必修言語として学んでいる学生は履修できません。

【Outline and objectives】
German as third foreign language. Key words: grasping grammatical structure of the German language; basic vocabulary and speaking skill; basic knowledge of Germany and Europe today.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語Ｂ　2017 年度以降入学者

笠原　賢介

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
はじめてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。春学期に学んだことを復習しながら、後半の基礎的な文法事項を学び、ドイツ語の基本的な表現を身につけます。簡単な練習をとおして一歩一歩確認しながら進めます。ドイツとヨーロッパについての基礎的な情報も適宜伝えてゆきます。

【到達目標】
春学期に学んだことを復習しながら、ドイツ語の基本的な文法と表現の仕方の習得を目指す。ドイツとヨーロッパの現在についての基礎的な情報をえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期に引き続いて、ドイツ語の仕組みや表現をわかりやすく、丁寧に説明していきます。練習問題も丁寧に学びます。
＊授業方法の変更が生じた場合は、今後、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Lektion7 趣味について尋ねる－形容詞の格変化（1）	春学期の内容の復習。形容詞の格変化を学びます。以下の進度はおおよその目安です。
第 2 回	Lektion7 趣味について尋ねる－形容詞の格変化（2）	前回学習した内容を踏まえて、会話の基本表現を学びます。
第 3 回	Lektion8 昼食を食べに行く－話法の助動詞/未来形（1）	話法の助動詞と未来形の基本を学びます。
第 4 回	Lektion8 昼食を食べに行く－話法の助動詞/未来形（2）	前回学習した内容を踏まえて、会話の基本表現を学びます。
第 5 回	Lektion9 駅の窓口で尋ねる－分離動詞/接続詞と複文（1）	分離動詞と接続詞の用法の基本を学びます。
第 6 回	Lektion9 駅の窓口で尋ねる－分離動詞/接続詞と複文（2）	前回学習した内容を踏まえて、会話の基本表現を学びます。
第 7 回	Lektion10 休暇の計画を尋ねる－zu 不定詞/再帰代名詞（1）	zu 不定詞と再帰代名詞を学びます。
第 8 回	Lektion10 休暇の計画を尋ねる－zu 不定詞/再帰代名詞（2）	前回学習した内容を踏まえて、会話の基本表現を学びます。
第 9 回	Lektion11 旅の体験を語る〈1〉-動詞の三基本形/過去形（1）	動詞の三基本形と過去形を学びます。
第 10 回	Lektion11 旅の体験を語る〈1〉-動詞の三基本形/過去形（2）	前回学習した内容を踏まえて、会話の基本表現を学びます。
第 11 回	Lektion12 旅の体験を語る〈2〉-現在完了形/非人称表現（1）	現在完了形と非人称表現を学びます。
第 12 回	Lektion12 旅の体験を語る〈2〉-現在完了形/非人称表現（2）	前回学習した内容を踏まえて、会話の基本表現を学びます。
第 13 回	Lektion13 意見を交換する－受動態/比較表現（1）	受動態と比較表現を学びます。
第 14 回	Lektion13 意見を交換する－受動態/比較表現（2） まとめの試験	前回の学習内容を復習します。秋学期のまとめとして確認の試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容を確実に身につけるために復習は必要です。また、課題にもかならず取り組みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
上野成利・本田雅也『パノラマ　初級ドイツ語ゼミナール』白水社。

【参考書】
とくに必要ありません。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席と参加を重視します。秋学期の終わりにまとめの試験をします。平常点・課題への取り組み 50 %、まとめの試験 50 %で評価します。
＊授業方法の変更にともなう成績評価の方法と基準については、今後、学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
丁寧な説明、学習内容の復習と進度とのバランスを取りながら進めてゆく。

【その他の重要事項】
ドイツ語の既修者、および 1 年次にドイツ語を選択必修言語として学んでいる学生は履修できません。

【Outline and objectives】
German as third foreign language. Key words: grasping grammatical structure of the German language; basic vocabulary and speaking skill; basic knowledge of Germany and Europe today.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 A

2017 年度以降入学者

アネッテ・グルーバー

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】
当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
4 月 27 日（月）から授業開始。
想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。
コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	erste kommunikative Phrasen
2	Begruessung, Befinden 1	sich begruessen/ verabschieden
3	Begruessung, Befinden 2	nach dem Befinden fragen, sich und andere vorstellen
4	Angaben zur Person	ueber den Beruf und Persoenliches sprechen
5	Berufe	Verbkonjugation Singular/ Plural Negation
6	Familie 1	Ja/ Nein-Fragen Possessivartikel
7	Familie 2	Verben mit Vokalwechsel
8	Einkaufen	Beratungsgespraeche, Hilfe anbieten
9	Moebel	Artikel, Personalpronomen
10	Gegenstaende, Produkte 1	um Wiederholung bitten, etwas beschreiben
11	Gegenstaende, Produkte 2	sich bedanken, ein Formular ausfuellen
12	Buero	Telefongespraeche
13	Technik 1	Singular/ Plural
14	Technik 2	E-Mail/ SMS

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習復習を必ず行う。宿題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント配付。

【参考書】
自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】
Reports, online performance

【学生の意見等からの気づき】
学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【学生が準備すべき機器他】
CD/DVD player

【Outline and objectives】
In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 B

2017 年度以降入学者

アネッテ・グルーバー

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】
当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。
コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Wiederholung
2	Freizeit 1	ueber Hobbys, Faehigkeiten sprechen
3	Freizeit 2	Modalverb koennen
4	Komplimente	Komplimente machen, um etwas bitten, sich bedanken
5	Verabredungen 1	einen Vorschlag machen und darauf reagieren
6	Verabredungen 2	temporale Praepositionen: am, um
7	Essen 1	ueber Essgewohnheiten sprechen
8	Essen 2	Konversationen beim Essen
9	Einladung zu Hause	Konjugation moegen, Wortbildung Nomen + Nomen
10	Reisen	sich informieren, ein Telefonat beenden
11	Verkehrsmittel	trennbare Verben
12	Tagesablauf	temporale Praepositionen: von ... bis, ab
13	Vergangenes	Perfekt mit haben
14	Feste, Vergangenes	Perfekt mit sein temporale Praeposition: im

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習復習を必ず行う。宿題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント配付。

【参考書】
自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】
各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。６０％
この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。４０％
遅刻はしないこと。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【学生が準備すべき機器他】
CD/DVD player

【Outline and objectives】
In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**独仏文化論**

辻　英史、竹本　研史

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ・フランス文化交流史
　ドイツとフランスはヨーロッパ大陸の中央に位置する隣国同士であり、古くから影響を与えあい、ときには競合したり、激しく対立する関係にあった。このような歴史的経緯から、両国の文化はある部分は共通の要素をもっている一方で、別のある部分はいたって対照的な要素をもっている。
　この二国のように共通点と差異を同時にもつ多様な文化が地域のなかに共存していることは、現代ヨーロッパの特徴でもある。この授業では、ドイツとフランスの交流関係の長い歴史の里程標をたどることで、ヨーロッパの文化的な豊かさを知ることを目的とする。ドイツとフランスの歴史や文化に興味があり、訪問の予定がある人には最適の授業である。
　なお、ここで言うドイツにはドイツ語圏のオーストリア、スイスの一部などが、フランスにはその海外領や旧植民地だった地域が、それぞれ含まれる。

【到達目標】
　文化や芸術作品を通じて、ドイツとフランスの相互の文化的な影響関係を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日（木）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
　毎回テーマを設定し、ドイツとフランスを専門とする 2 名の教員（辻英史・竹本研史）が、それぞれの国の文化や芸術作品を取りあげて紹介する。画像や映像のほか、音楽や文学作品などを取り扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ　ドイツとフランス――「宿敵」か？「盟友」か？	ドイツとフランスの歴史概説。
第 2 回	ドイツとフランスのできるまで	ローマ帝国のアルプス以北地域への影響。
第 3 回	中世キリスト教文化にみるドイツとフランス	「ロマネスク」芸術と「ゴシック」芸術の両国での普及と発展。
第 4 回	ルネサンスと宗教改革	中世から近世への移行期のドイツとフランス。
第 5 回	ブルボン対ハプスブルク	16 世紀から 18 世紀まで、ヨーロッパ外交関係の中軸となった対立関係から生まれた芸術作品について。
第 6 回	絶対王政とバロック芸術	フランス宮廷文化のドイツにおける模倣と換骨奪胎。
第 7 回	フランス革命・ナポレオン戦争と民族意識の覚醒	19 世紀初頭のフランス革命からナポレオンのドイツ占領とナショナリズムの勃興。
第 8 回	ドイツ帝国の成立とフランス第三共和制	独仏のあいだで争奪の対象となった国境地帯・アルザス地方について。
第 9 回	ワーグナーと「バイロイト詣で」	19 世紀ドイツ文化のフランスへの影響。
第 10 回	「印象主義」と「表現主義」	19 世紀フランス文化のドイツへの影響。
第 11 回	1920 年代のドイツ・フランス	第一次世界大戦から戦間期における両国の文化。
第 12 回	ナチ・ドイツの侵略とレジスタンス神話	第二次大戦中ドイツはいかにフランスを支配したのか。フランス人はいかに「抵抗」・「協力」」したのか。
第 13 回	戦後の独仏関係と EU	対立から和解・協調への変化。
第 14 回	まとめ	独仏関係からヨーロッパを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
　授業の内容にもとづき、リアクションペーパーを作成して次回授業の際に提出すること。

【テキスト（教科書）】
　授業中にプリントを配布する。

【参考書】
　授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
※当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
　授業への参加（15 %）、リアクションペーパー（25 %）、レポート（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
　出席皆無の場合、たとえレポートを提出しても単位は認めない。

【Outline and objectives】
History of the cultural transfer between France and Germany

LANd300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**独仏文化論**

辻　英史、竹本　研史

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の中のドイツとフランス､ドイツとフランスの中の世界
　ドイツとフランスは、相互に交流や対立の関係を結んできたばかりでなく、ヨーロッパ内の他の国や地域と長期にわたって密接な関係をむすんできた。とくに近代以降には両国の活動はヨーロッパを越えて世界のさまざまな地域に広がり、そのなかには日本も含まれている。これらの交渉の過程を通じて両国の文化には外部からの影響が深く刻み込まれることになり、その一方でいわゆる「ドイツらしさ」「フランスらしさ」と呼ばれるような、世界中である程度共通する両国のイメージもまた作り上げられてきた。
　この授業では、ドイツとフランスがどのような文化をヨーロッパと世界に向けて発信し、どのような影響を外部から受けてきたのかを、いくつかの事例を取りあげて検討する。ドイツとフランスについて、またヨーロッパと世界の関係について、より深く、より広い視点から学びたい人に最適の授業である。
　なお、ここで言うドイツにはドイツ語圏のオーストリア、スイスの一部などが、フランスにはその海外領や旧植民地だった地域が、それぞれ含まれる。

【到達目標】
　文化や芸術作品を通じて、ヨーロッパや世界に対してドイツとフランスの与えてきた影響や、また受け取ってきた刺激がどのようなものであったかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　毎回テーマを設定し、ドイツとフランスを専門とする 2 名の教員（辻英史・竹本研史）が、それぞれの国の文化や芸術作品を取りあげて紹介する。画像や映像のほか、音楽や文学作品などを取り扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「ドイツらしさ」と「フランスらしさ」とは何か。
第 2 回	自然と環境	両国の地理や風景が文化におよぼした影響。
第 3 回	ギリシア・ローマ世界との関係	古典主義の受容と新古典主義について。
第 4 回	イタリアとの関係	ルネサンスに代表される芸術先進地域への憧憬。
第 5 回	イギリスとの関係	資本主義の祖国・「商人の国」イギリスを独仏はどのように見てきたか。
第 6 回	ロシア・ソヴィエトとの関係	社会主義・共産主義の独仏両国への影響について。
第 7 回	東欧諸国との関係	20 世紀初頭の新独立国家ポーランドやチェコなどとドイツ・フランスの関係。
第 8 回	アメリカとの関係	独仏両国の芸術作品にみるアメリカのイメージを点検する。
第 9 回	ドイツ・フランスとキリスト教会の関係	独仏両国における政教分離確立までの道のり。
第 10 回	ドイツ・フランスにおけるユダヤ人問題	共生と迫害の歴史から生まれた芸術作品を紹介する。
第 11 回	ドイツ・フランスとその植民地	両国における「オリエンタリズム」の展開と人種差別について。
第 12 回	現代のドイツ・フランスにおける移民・外国人問題	20 世紀後半から 21 世紀にかけて繰り返されてきた多文化社会構築の試みについて。
第 13 回	日本の独仏受容	明治から現代までの日本に対するドイツ・フランスの影響を考える。
第 14 回	まとめ	ドイツとフランスから世界を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
　授業の内容にもとづき、リアクションペーパーを作成して次回授業の際に提出すること。

【テキスト（教科書）】
　授業中にプリントを配布する。

【参考書】
　授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
　授業への参加（15 %）、リアクションペーパー（25 %）、レポート（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
　出席皆無の場合、たとえレポートを提出しても単位は認めない。

【Outline and objectives】
This course deals with the cultural interaction between France/Germany and other countries of the world from the Late Antiquity to the present day.

PHL300LA

ドイツの思想 A

2017 年度以降入学者

笠原　賢介

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 3**/Tue.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ニーチェ入門をテーマとする授業です。
不確実な現代を生き、考えてゆくうえで見落とすことのできない思想家ニーチェを取り上げ、基礎的な知識を押さえながら、彼の思想世界をとらえてゆきます。また、現代思想・哲学、芸術に与えた影響にもふれてゆきます。
毎回、導入的なレクチャーをおこなった後、ニーチェの作品から読みやすい箇所を選んで、その言葉に直接ふれながら進めます。
受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。
春学期の内容は、初期のニーチェを中心としますが、中期・後期ニーチェも視野に入れます。
授業を通して、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点にふれ、捉えることを目指します。

【到達目標】
初期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテクストにふれることによって、ニーチェ思想への理解を深める。現代思想・哲学、芸術に与えた影響を捉える。概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれながら進めてゆきます。一方通行にならないよう、質問やリアクション・ペーパーに示された感想や見方に応答しながら進めます。毎時間、テーマごとのレクチャー 50 %、言葉にふれること 40 %、質疑応答 10 %の割合で進めてゆきます。
受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。
＊授業内容・方法の変更は、今後、学習支援システムを通じてお知らせします。授業は、4 月 21 日（火）から始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方。授業のねらい。ニーチェはどのような哲学者か。以下の進度はおおよその目安です。
第 2 回	ニーチェの生涯と思想。	ニーチェの生涯と代表作について、導入的なレクチャーをおこないます。
第 3 回	『悲劇の誕生』（1）	初期ニーチェの代表作『悲劇の誕生』について、基本的な事柄をとらえます。
第 4 回	『悲劇の誕生』（2）	『悲劇の誕生』の中心概念である「ディオニュソス的なもの」と「アポロ的なもの」をとらえます。
第 5 回	『悲劇の誕生』（3）	ギリシア悲劇とはどのようなものか、その特徴をとらえ、ニーチェとの関係を考えます。
第 6 回	『悲劇の誕生』（4）	『悲劇の誕生』におけるソクラテス批判をとらえ、その意義を考えます。
第 7 回	ニーチェとショーペンハウアー	『悲劇の誕生』執筆の際に影響を受けたショーペンハウアーに焦点を当て、ニーチェとの接点と違いについて考えます。
第 8 回	ニーチェとワーグナー	『悲劇の誕生』執筆の際に影響を受けたワーグナーに焦点を当て、若きニーチェがなぜワーグナーに傾倒したのかを作品にふれながら考えます。
第 9 回	ニーチェと芸術	『悲劇の誕生』の背景にあるニーチェの芸術と音楽についての考え方を紹介し、その意義を考えます。
第 10 回	『反時代的考察』	『悲劇の誕生』とならぶ初期ニーチェの代表作である『反時代的考察』をとりあげ、基本的な論点と特徴をとらえます。
第 11 回	初期ニーチェと現代哲学・思想	初期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響をドイツ系の哲学者・思想家を中心にして要点をとらえます。
第 12 回	初期ニーチェから中期・後期のニーチェへ	ニーチェがワーグナーとショーペンハウアーを批判するに至る経緯をたどり、中期・後期ニーチェ思想の展開の方向性を展望します。
第 13 回	まとめ	春学期の授業の内容をまとめ、質疑応答をおこないます。
第 14 回	春学期の試験	春学期のまとめの試験をおこないます。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プリントとノートによって授業の内容の整理と復習をおこなってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントでそのつど配布します。

【参考書】
『ニーチェ全集』ちくま学芸文庫。ニーチェ（秋山英夫訳）『悲劇の誕生』岩波文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』世界思想社。柏原啓一『総合人間学』日本放送出版協会。高辻知義『ワーグナー』岩波新書。ピヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』法政大学出版局。

【成績評価の方法と基準】
出席とリアクションペーパーを重視します。授業最終日に内容確認の試験をおこないます。到達目標を基準にして、平常点と試験を総合して評価します（平常点 40 %、試験 60 %）。
＊授業内容・方法の変更にともなう成績評価の方法と基準の変更は、今後、学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
ノートを正確にとってほしい。リアクション・ペーパーへの記入を心掛けてほしい。

【Outline and objectives】
Introduction to the philosophy of the early Nietzsche. Key words: The Birth of Tragedy, Nietzsche as classical philologist, the music of Richard Wagner, Schopenhauer's philosophy, Nietzsche's confrontation with the Platonic tradition, Nietzsche's influence to modern thoughts.

PHL300LA

ドイツの思想Ｂ

2017 年度以降入学者

笠原　賢介

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ニーチェ入門をテーマとする授業です。
ニーチェの中期・後期思想を中心としますが、春学期に取り上げた初期のニーチェ思想も視野に入れてゆきます。
毎回、テーマに関連したレクチャーをおこない、ニーチェの作品から重要な箇所を選んで、ニーチェの言葉に直接ふれてゆきます。ニーチェが現代哲学・思想、芸術に与えた影響についてもふれてゆきます。
受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。
授業を通して、図式的、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を取り出し、考えることを目指します。

【到達目標】
中期および後期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテクストにふれることによって、ニーチェ思想への理解を深める。現代哲学・思想、芸術への影響をとらえる。ニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれてゆきます。一方通行にならないよう、質問やリアクション・ペーパーに示された意見や感想に応答しながら進めます。毎時間、テーマごとのレクチャー 50 %、言葉にふれること 40 %、質疑応答 10 %の割合で進めてゆきます。
受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。
＊授業内容・方法の変更が生じた場合は、今後、学習支援システムを通じて告知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、ねらい。ニーチェはどのような哲学者か。以下の進度はおおよその目安です。
第 2 回	初期ニーチェ思想と中期・後期ニーチェ思想の違いと連続性	春学期の内容と中・後期ニーチェの著作を概観しながら、初期ニーチェ思想と中・後期ニーチェ思想の違いと連続性を捉え、全体的な見通しを立てます。
第 3 回	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』―アフォリズム的思考	中期の作品『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』によってニーチェのアフォリズム的な思考の特徴をとらえます。
第 4 回	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』―〈形而上学〉への批判	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』によって〈形而上学（従来の哲学）〉へのニーチェの批判の意味を考えます。
第 5 回	『悦ばしき知恵』―〈神の死〉	『悦ばしき知恵』によって〈神の死〉をめぐるニーチェの思索を取り出します。
第 6 回	『ツァラトゥストラ』（1）―〈身体〉と〈心〉をめぐって	『ツァラトゥストラ』によって〈身体〉と〈心〉をめぐるニーチェの思索を捉え、考えます。
第 7 回	『ツァラトゥストラ』（2）―〈力への意志〉をめぐって	『ツァラトゥストラ』とニーチェの遺稿によって〈力への意志〉をめぐるニーチェの思索を捉え、考えます。
第 8 回	『ツァラトゥストラ』（3）―〈時間〉をめぐる思索	『ツァラトゥストラ』によってニーチェの「永遠回帰」の思想を捉え、考えます。
第 9 回	『道徳の系譜』―〈道徳〉への批判	『道徳の系譜』によって、ニーチェがなぜ道徳を批判したのか、その論点を解きほぐして考えます。
第 10 回	ニーチェと西洋哲学の伝統	これまでの授業の内容を踏まえて、ニーチェと彼以前の哲学者との違いと接点を捉えます。
第 11 回	ニーチェと現代の哲学・思想、芸術（1）	中・後期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響について、ドイツ系の哲学者・思想家を中心にして要点を捉えます。
第 12 回	ニーチェと現代の哲学・思想、芸術（2）	ニーチェの現代芸術への影響をヨーロッパの世紀末芸術について、絵画・音楽を中心に紹介します。
第 13 回	まとめ	秋学期の授業の内容をまとめ、質疑応答をおこないます。
第 14 回	秋学期の試験	秋学期のまとめの試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プリントとノートによって授業の内容の整理と復習をおこなってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントでそのつど配布します。

【参考書】
『ニーチェ全集』ちくま学芸文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』世界思想社。柏原啓一『総合人間学』日本放送出版協会。渡邊二郎他編『ニーチェを知る事典』ちくま学芸文庫。ピヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』法政大学出版局。

【成績評価の方法と基準】
出席とリアクションペーパーを重視します。授業最終日に内容確認の試験をおこないます。到達目標を基準にして、平常点と試験を総合して評価をおこないます（平常点 40 %、試験 60 %）。
＊授業内容・方法の変更が生じた場合の成績評価の基準と方法は、今後、学習支援システムを通じて告知します。

【学生の意見等からの気づき】
正確にノートを取ってほしい。リアクション・ペーパーへの記入を心掛けてほしい。

【Outline and objectives】
Introduction to Nietzsche's Philosophy. Key words: Human- all too Human, Daybreak, The Gay Science, Thus Spoke Zarathustra, On the Genealogy of Morals, Nietzsche's confrontation with the western philosophical tadition, Nietzsche and the art of fin de siecle, Nietzsche's influence to modern thoughts.

LIT300LA

ドイツ語圏の文学A

2017 年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【「私探し」の源流を求めて】近代ドイツは、明治期以降の日本に「唯一無二の私」という思考の枠組みを与えました。中でもドイツ語で書かれた文学は、日本の近代化とその人材育成に非常に大きな影響を与えています。現在の日本のクリエイターについても、カフカがいなければ「作家・村上春樹」は今とは一風違っていたでしょうし、ドイツ文学なくして「スタジオ・ジブリ」は決して存在しえなかったでしょう。あるいは明治期の日本があんなに深く「ドイツ」と付き合わなければ、「学園もの」のマンガやラノベも今ほど当たり前のものではなく、ついでに「私の個性」や「私が大学で成し遂げたこと」を語らせる日本の「就活」も、今とはちょっと違っていたかもしれません。
この授業ではドイツ語圏文学の魅力を、王道と王道ではないもの、大人向けと子ども向けのもの、長編と短編を取り混ぜつつ、皆さんと楽しみたいと思います。なぜフィクションが真実を表現しうるのか、言語テクストが表現できること、さらにはそこから浮かび上がる人間社会の困難や喜びについて、ご一緒に考えていきましょう。

【到達目標】
第１の目標は、テクストの内容を理解する読解能力と、反省的思考能力の獲得です。テクストを読み、「内容が理解できる」「考えている」と感じられる経験こそが、真の「コミュニケーション能力」の訓練であることをしっかり認識してください。
第２の目標は、自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得です。意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化する社会のニーズであるばかりでなく、社会の不正や自己疎外（「自分は必要とされていない」と思う気持ち）と向かい合う手立てにもなってくれるでしょう。
第３の目標は、社会に対する批判的な眼差しを獲得し、遠く離れた場所の出来事を、自身の問題として理解する感受性を磨くことです。19 〜 20 世紀のドイツ語圏の話が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
（4 月 20 日修正）
授業開始日： 4 月 24 日
*今般の世相に鑑み、5 月 8 日、5 月 15 日の 2 回分を「明治期日本の知識人がドイツで学びもたらした衛生学と細菌学」（日本の西洋医学受容史）にそった内容に変更します。扱う作品は、森鴎外『衛生學大意』『舞姫』、北里柴三郎『医道論』、カント『啓蒙とは何か』などを予定しています。
*毎回、原則として非同期型オンライン授業（講義資料を読む＋動画ないし音声メモ視聴）の形式で行います。履修者は各回指定された時間までに課題を提出します。
*履修者の状況次第で、初回ないし２回目で一度、同期型オンライン授業（双方向型ビデオオンラインミーティング）の機会を 30 〜 40 分程度設けるつもりです。
*扱う作品の数は、用意する資料の負担を考えて少し減らす予定です（希望は伺い参考にさせてもらいます）。
*以後、授業内容・方法変更は全て Hoppii 上ないし履修者の法政 G メール宛周知します。
*5 月以降、Google Classroom をツールとして使用する可能性が高いです。
*****

主に 19 世紀〜 20 世紀のドイツ・オーストリア・スイスで成立した、ドイツ語で書かれた文学作品を、時系列的に扱います。
授業では毎回、担当者が講義形式で作品や作家の概要を説明してから各テクストの抜粋を読みます。その後は参加者同士でお互いの理解を確認する作業です。授業の最後には各自が一定量の小レポート（リアクションペーパー）を記述し提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション	ドイツ語圏文学って？「ドイツ語圏」ってどこ？
2	「カッコいい俺」の生き方？	ゲーテ『若きヴェルターの悩み』（1774 年）その１
3	「私の心」という大切なもの	ゲーテ『若きヴェルターの悩み』（1774 年）その２
4	みんなが何と言おうと私はこれがいいの！	E.T.A. ホフマン『くるみ割り人形とねずみの王様』（1816 年）その１
5	なぜみんなにはこれが見えないの？	E.T.A. ホフマン『くるみ割り人形とねずみの王様』（1816 年）その２
6	この世界の片隅で	ビューヒナー『ヴォイツェック』（1835 年）その１
7	僕にはあの人しかいないのに	ビューヒナー『ヴォイツェック』（1835 年）その２
8	「スイスは自然がいっぱいでみんなお金持ち」？	シュピリ『ハイジ』（1880-81 年）
9	元祖 BL？ 満たされない空虚な気持ち	ムージル『寄宿生テルレスの混乱』（1906 年）
10	「私」はもういない	カフカ『掟の前で』（1914/15 年）、『家父の気がかり』（1917/19 年）
11	「生きること」を感じさせてくれるもの	Th. マン『魔の山』（1924 年）
12	私はあなたのことを決して忘れない	ツヴァイク『書痴メンデル』（1929 年）
13	「正義」の真実？！	ケストナー『飛ぶ教室』（1933 年）
14	絶対に伝えたい	ツェラン「死のフーガ」（1945 年）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・活字に触れる作業は全て、予習・復習に該当します。あらゆる大学の授業に関わること、スマホや SNS をいじりながら考えること、思わず呟いてしまうこともそうです。
・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。
・人と会って話す時間はすべて人文学の基本です。大学の中で、サークルや部活、バイト、家族や友人と過ごすひとときの言葉を振り返ることができればいいですね。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎授業、コピー資料を配布します。

【参考書】
・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003 年）
・手塚富雄・神品芳夫（著）『（増補）ドイツ文学案内』（岩波書店、1993 年）
・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研）2017 年
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015 年
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007 年
その他は講義内資料などで指示します。

【成績評価の方法と基準】
（4 月 20 日修正）

授業視聴後に提出する小レポートの内容（50%）、学期末レポート（50%）
*****
授業への積極的な参加と貢献度・小レポート（リアクションペーパー）の内容（50%）、学期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
必ず筆記用具を用意してください。携帯電話等のデジタルガジェットをメモがわりに利用することは認めません。

【その他の重要事項】
・ドイツ語の知識は必須ではありません。
・扱う作品・内容や順序は変更される場合があります。

【Outline and objectives】
(Roots of "self-awareness" and a "self discovery" journey) This course introduces literature from the era of german "Strum und Drang"/Weimar classicism to the german modernism (Berliner Moderne/Wiener Moderne). In the course, we also focus on the sense of "self-identity" and "Bildung" that was developed intensively by Germany or German speaking areas like Habsburg Monarchy as well as by entire German modern literature and culture influences modernization of Japan since Meiji-era definitely. We combine texts of German-language literature with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

LIT300LA

ドイツ語圏の文学Ｂ

2017 年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【ベルリンの物語】二度の大戦と都市の分断・再統一を経験したドイツの首都ベルリンは、世界中で、圧倒的な強度で描かれ続けているメトロポール（メトロポリス／大都会）です。この授業では、ベルリンを舞台とする文学作品とその二次創作（映画）を通して、19 世紀後半から現代までのベルリンとその表象の様相を確認するとともに、変化し続けるメトロポールの姿から、その社会の内実に迫ります。作品の舞台は 19 世紀後半からほぼ時系列的に進みます。そして扱われる文学作品と映画は、いわゆる「ドイツ文学史」「名作」の類にとどまりません。扱う作品の中には原文がドイツ語でない、あるいはドイツ語ネイティブではない作家がドイツ語で書いている作品も含まれます。また春学期開講の「ドイツ語圏の文学 A」と比べると、格段に「女性」「弱者」「マイノリティ」がクローズアップされる内容になります。多様性とマージナルなものに対する眼差しの中にこそ、メトロポールとしてのベルリンの魅力が潜んでいると言えるかもしれません。

【到達目標】
第１の目標は、テクストの内容を理解する読解能力と、反省的思考能力の獲得です。テクストを読み、「内容が理解できる」「考えている」と感じられる経験こそが、真の「コミュニケーション能力」の訓練であることをしっかり認識してください。
第２の目標は、自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得です。意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化する社会のニーズであるばかりでなく、社会の不正や自己疎外（「自分は必要とされていない」と思う気持ち）と向かい合う手立てにもなってくれるでしょう。
第３の目標は、社会に対する批判的な眼差しを獲得し、遠く離れた場所の出来事を、自身の問題として理解する感受性を磨くことです。19 〜 20 世紀のドイツ語圏の話が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
19 世紀後半〜 20 世紀、および現代の文学作品や映画（文学作品の二次創作）を時系列的に扱います。
授業では毎回、担当者が講義形式で作品や作家の概要を説明してから、各テクストの抜粋を読みます。映画を扱う回はおなじく抜粋された一部分を教室内のスクリーンで観ます。その後は参加者同士でお互いの理解を確認する作業です。授業の最後には各自が一定量の小レポート（リアクションペーパー）を記述し提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション	ドイツ語圏文学って？「ドイツ語圏」ってどこ？
2	エリートが闊歩する官庁街で	森鴎外『舞姫』（1890 年）／『衛生學大意』（1907 年）
3	身分違いの恋？	テオドーア・フォンターネ『謎誤あれば』（1888 年）その 1

4	オワコン下級貴族の本音？	テオドーア・フォンターネ『謎誤あれば』（1888 年）その２
5	「黄金の 20 年代」の徒花？	A. デーブリン『ベルリン・アレクサンダー広場』（1927 年）／ R.W. ファースビンダー監督『ベルリン・アレクサンダー広場』（1980 年、西独）
6	都会の「キラキラ」に憧れて	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932 年）その１
7	「本当の」私を見て好きになってほしい	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932 年）その２
8	がれきと焦土の街で	A. ビーバー／ H.-M. エンツェンスベルガー『ベルリン終戦日記 ― ある女性の記録』（1945 年）、深緑野分『ベルリンは晴れているか』（2018 年）
9	「あっちでひと仕事してきて欲しいんだけど」？	L. デイトン『ベルリンの葬送』（1964 年）／ G. ハミルトン監督『パーマーの危機脱出』（1966 年、英国）
10	忘却の彼方へ・私の真実の記憶	トーマス・ブルスィヒ『太陽通り』（1999 年）
11	ドイツ語コースは一応やりましたけど？！	W. カミナー『シェーンハウザー・アレー』（2001 年）、多和田葉子『百年の散歩』（2017 年）
12	大都会ってとっても危険？！	E. ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929 年）、A. シュタインヘーフェル『リーコとオスカーともっと深い影』（2008 年）
13	まだ見ぬベルリンへ	W. ヘルンドルフ『14 歳、僕らの疾走』（2010 年）／ F. アキン監督『50 年後のボクたちは』（2016 年、ドイツ）その１
14	私はあなたのことをいつだって見てるから	W. ヘルンドルフ『14 歳、僕らの疾走』（2010 年）／ F. アキン監督『50 年後のボクたちは』（2016 年、ドイツ）その２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・活字に触れる作業は全て、予習・復習に該当します。あらゆる大学の授業に関わること、スマホや SNS をいじりながら考えること、思わず呟いてしまうこともそうです。
・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。
・人と会って話す時間はすべて人文学の基本です。大学の中で、サークルや部活、バイト、家族や友人と過ごすひとときの言葉を振り返ることができればいいですね。

【テキスト（教科書）】
毎授業、コピー資料を配布します。

【参考書】
・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003 年）
・手塚富雄・神品芳夫（著）『（増補）ドイツ文学案内』（岩波書店、1993 年）
・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研）2017 年
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015 年
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007 年
その他は講義内資料などで指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加と貢献度・小レポート（リアクションペーパー）の内容（50%）、学期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
必ず筆記用具を用意してください。携帯電話等のデジタルガジェットをメモがわりに利用することは認めません。

【その他の重要事項】
・ドイツ語の知識は必須ではありません。
・扱う作品・内容や順序は変更される場合があります。

【Outline and objectives】
(Berlin Story) This course introduces literature from the era of german modernism (Berliner Moderne) and contemporary works, especially deal with "Berlin" as metropole. In the course, we also focus on the sense of big city (Großstadt) and its people that has been developed intensively by Weimar classics as well as by entire German modernism and culture. We combine texts of German-language literature with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

ARSk300LA

比較文化Ａ

2017 年度以降入学者

Ｄ．ハイデンライヒ

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
食、メディアと現代文化
「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。
＊＊＊授業内容・方法の変更は、今後、学習支援システムを通じて告知します。＊＊＊

【到達目標】
◦異文化理解を深めること。
◦固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
入門的な講義、日本語のテキストを購読、全員での討議によって授業を構成する。補足的に様々なメディアを鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	予備考察（１）	「人間とは食べるところのものである」とは？ 食文化と人間 団体主義社会と個人主義社会
②	予備考察（２）	「ステレオタイプ」、「偏見」とは？ 良い比較の例、悪い比較の例
③	日本の「食の思想」の特色	和食と「イデオロギー」
④	西洋の「食の思想」の特色	キリスト教の食の思想、 近代ヨーロッパの食の思想
⑤	食物タブーと文化	日本のタブーと西洋のタブー
⑥	食と性差	性差と食の嗜好
⑦	国際化の中の食文化（１）	現代日本の食の状況
⑧	国際化の中の食文化（２）	現代ヨーロッパの食の状況
⑨	食とコミュニケーション	食と人間関係
⑩	文学と映画における食文化（１）	*Foodfilm* とは何か
⑪	文学と映画における食文化（２）	伊丹十三『タンポポ』などについて
⑫	文学と映画における食文化（３）	小説『バベットの晩餐会』について
⑬	文学と映画における食文化（４）	映画『バベットの晩餐会』について
⑭	総復習	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布するのに適さない長文テキストは自分でダウンロードし、授業の前に読むという宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
川上睦子：『いま、なぜ食の思想か』社会評論社 2015 年。
Ｉ．ディーネセン：『バベットの晩餐会』ちくま文庫 1992 年。

【成績評価の方法と基準】
数回提出してもらう課題と、授業での練習問題に取り組む態度（平常点）を総合して評価する。
課題提出等：６０％
　　平常点：４０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布のために授業支援システムを利用する。
普段使用しているメールアドレスを登録してください。

【その他の重要事項】
授業中にスマホ操作不可。

【Outline and objectives】
Food, Media and Contemporary Culture
Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly japanese and european representations of food in various visual and printed media.

ARSk300LA

比較文化Ｂ

2017 年度以降入学者

Ｄ．ハイデンライヒ

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「神話とメルヘンにおけるシンボル動物」をテーマに、
この授業では諸文化間の動物観とそれらのシンボル的意味を比べ、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高める。

【到達目標】
◦人間と動物の関係についての異文化理解を深めること。
◦固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
入門的な講義、日本語のテキストを購読、全員での討議、5 回の課題とフィードバックによって授業を構成する。補足的に様々なメディアを鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは？	授業の内容と進め方の説明
②	日本の狐と西欧の狐（1）	女性のイメージ対悪魔のイメージ
③	日本の狐と西欧の狐（2）	民話『狐ラインケ』からゲーテ『きつねのライネッケ』へ、課題、ディスカッション
④	日本の変身童話と西欧の変身童話（1）	『日本の昔ばなし』と『グリム童話』の比較
⑤	日本の変身童話と西欧の変身童話（2）	課題、ディスカッション
⑥	宗教と動物（1）	キリスト教のシンボル動物について
⑦	宗教と動物（2）	仏教のシンボル動物について、課題、ディスカッション
⑧	ギリシャ・ローマ神話と動物（1）	イルカ、馬について 動物の犠牲について
⑨	ギリシャ・ローマ神話と動物（2）	課題、ディスカッション
⑩	北欧神話と動物（1）	カラス、オオカミについて
⑪	北欧神話と動物（2）	課題、ディスカッション
⑫	詩人と白鳥（1）	「レダと白鳥」について
⑬	詩人と白鳥（2）	ワグナー『ローエングリン』について
⑭	総復習	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布するのに適さない長文テキストは自分でダウンロードし、授業の前に読むという宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
数回提出してもらう課題と、授業での練習問題に取り組む態度（平常点）を総合して評価する。
課題提出等：６０％
　平常点：４０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布のために授業支援システムを利用する。
普段使用しているメールアドレスを登録してください。

【その他の重要事項】
授業中にスマホ操作不可。

【Outline and objectives】
What similarities and differences exist in the concept of animals and their symbols among cultures? This course is designed to allow students to explore the relationship between humans and animals with an emphasis on mythology, religious tradition and literature.

ART300LA

ドイツ語圏の芸術A

2017年度以降入学者

辻　英史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今さら人にきけないドイツ芸術（再）入門

【到達目標】
ドイツの芸術を理解するために必要な基礎知識を整理し、時代背景とともに有名な作品を紹介します。どこかで聞いたことがあるけど、今さら人に訊けないような芸術家やその作品について学ぶことで、ドイツとその文化に対する理解を深めることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日（月）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
絵画、音楽、建築の 3 分野を中心として、ドイツ芸術における巨匠や有名な作品を紹介し、鑑賞のポイントになる基本的な知識や、作品の作られた時代背景を解説します。
参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいですが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも、日本語または英語の翻訳を用意します。授業では積極的な参加を要求します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	ドイツ芸術の特徴とは？
第 2 回	絵画編 1　中世の美術	ルネサンスって何だろう？　取り上げる芸術家：デューラー
第 3 回	絵画編 2　風景画の世界	絵画に表現された自然と人間の関係について。　取り上げる芸術家：C・D・フリードリヒほか
第 4 回	絵画編 3　風俗画の世界	絵画に浮かび上がる人々の日常の暮らしと変わりゆく世界。　取り上げる芸術家：F・G・ヴァルトミュラーほか
第 5 回	絵画編 4　表現主義って何だろう？	絵画の革命はどのようにして始まったのか。　取り上げる芸術家：「青い騎士」など
第 6 回	音楽編 1　キリスト教と音楽	切っても切れない関係にある宗教と音楽の関係について。　取り上げる芸術家：バッハ
第 7 回	音楽編 2　音楽と宮廷社会	華やかな宮廷を盛り上げる音楽の数々。　取り上げる芸術家：モーツァルト
第 8 回	音楽編 3　職業作曲家の誕生	音楽が儀式の伴奏や社交のためのものから鑑賞の対象になるまで。　取り上げる芸術家：ベートーヴェン
第 9 回	音楽編 4　ドイツ・ロマン派の栄光	19 世紀のドイツ市民社会の発展と音楽の関係。　取り上げる芸術家：シューマン、ブラームス
第 10 回	音楽編 5　後期ロマン主義、無調から十二音音楽へ	19 世紀末から 20 世紀初めの新しい音楽の世界。　取り上げる芸術家：マーラー、シェーンベルク
第 11 回	建築編 1　教会建築にみる様式の発展	ロマネスク、ゴシック様式からバロック・ロココ様式まで
第 12 回	建築編 2　ブランデンブルク門と新古典主義	ドイツ芸術におけるギリシア・ローマへの憧れについて。
第 13 回	建築編 3　ノイシュヴァンシュタイン城と歴史主義	「メルヘン王」ルートヴィヒ 2 世の道楽が観光資源になるまで。
第 14 回	建築編 4　ユーゲントシュティルから表現主義建築へ	19 世紀末から 20 世紀初めに出現した新しい建築の潮流

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
※当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
授業への参加 (10%)、リアクションペーパー (30%)、レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターにより画像・映像を見せるほか、音楽・朗読などの録音素材を使用する。

【Outline and objectives】
introductory course for the history of Art in Germany from the middle age to the 20th century. This course deals with distinguished art works in various fields such as painting, music and architecture.

ART300LA

ドイツ語圏の芸術Ｂ

2017 年度以降入学者

辻　英史

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「芸術と政治」―近代ドイツにおける芸術と政治の関係

【到達目標】
芸術は政治と関係ない？ ―とんでもない！ ドイツの歴史のなかで政治と芸術は深く関わってきた。歴史的事件や人物を題材にした作品は多く存在するし、芸術作品の誕生には、その時の政治体制や支配勢力が少なからず影響している。この授業では、近現代のドイツ芸術を題材として、政治的な状況や事件がどのような芸術作品を生み出してきたのか、また芸術作品のなかで歴史的な事件や人物はどのように扱われてきたのかを、とりわけ政治と芸術が密接に関わったナチ時代（1933-45 年）を中心に、さまざまな事例から検証する。
中心となるのは、演説や選挙戦、党大会といった政治行為が芸術作品として演出される「政治の美学化」と、芸術家自身が政治に深く関わらざるを得なくなっていく「美学の政治化」という二つの現象である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
19 世紀から 20 世紀のドイツの歴史のなかから重要な局面を選び、それぞれについて関連する芸術家および芸術作品を紹介し、その両者の関係を分析する。
参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも、日本語または英語の翻訳を用意する。授業中は積極的な参加が要求される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	ドイツの歴史の大まかな流れを概観する。
第 2 回	ナショナリズムと芸術	ドイツ国民意識の覚醒に対して芸術の果たした役割について。
第 3 回	階級対立と芸術	工業化と都市化の結果、貧富の差が広がり、階級対立が強まった．このことを題材とする芸術作品を扱う。
第 4 回	第一次大戦と芸術	戦争を題材とする芸術作品を紹介し、戦争が芸術家にもたらした影響について論じる。
第 5 回	ユダヤ人と芸術	中東欧に居住するユダヤ人は、差別や迫害と共存の交錯する長い年月のなかで、みずから芸術を作り出したり、その題材になったリした。ユダヤ人と芸術の関係を考える。
第 6 回	大衆文化と芸術	第一次世界大戦後には、新しく出現した大衆に支持された新しい芸術運動の方向性が出現した。そのヴァイマル文化と呼ばれる運動を紹介する。
第 7 回	ナチズムと芸術	ナチ体制の確立と、芸術に対する干渉と支配の実際を明らかにする。
第 8 回	ナチズムのもとでの芸術家たち	沈黙、迎合、抵抗、亡命から利用まで、芸術家たちのナチ体制に対する態度を分析する。
第 9 回	第二次世界大戦と芸術	国民の戦意高揚と戦争への動員に芸術が果たした役割を分析する。
第 10 回	ホロコーストと芸術	ユダヤ人の大虐殺はどのようにおこなわれたのか。芸術家はそれに対しどのような態度を取ったのか。
第 11 回	復興・経済成長と芸術	悲惨な敗戦、そしてそれに続く戦後の復興と高度経済成長から生まれた芸術作品について。
第 12 回	「過去の克服」と芸術	ナチ時代の犯罪的行為への反省がドイツ社会に広まるにあたって、芸術はどのように貢献したのか。
第 13 回	「ベルリンの壁」の建設（1961 年）	冷戦期の東西ドイツの分断は、どのような芸術作品を生み出したのか。
第 14 回	「ベルリンの壁」の崩壊（1989-90 年）	東欧の民主化とドイツ再統一に、芸術はどのように関与したのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加 (10%)、リアクションペーパー (30%)、レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターにより画像・映像を見せるほか、音楽・朗読などの録音素材を使用する。

【Outline and objectives】
This course deals with the relationship between politics and art in Germany from the beginning of the modern nation state to the post cold war period.

LANd300LA

留学ドイツ語 A

2017 年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ドイツ語圏で学びたい・生活してみたい」と考えている方の準備コースです。夏期ヴィーン大学短期語学研修（グローバル教育センター主催）や、法政大学派遣留学（協定校への派遣留学）、あるいはドイツへのワーキングホリデーなど、これからドイツ語圏での留学や滞在を検討・予定している方のため、ドイツ語とドイツ語圏の多様性に触れながら、ドイツ語圏での快適な滞在に最低限必要なドイツ語運用能力の獲得と、コミュニケーションの心がまえを学びます。

【到達目標】
第一の目標は、ドイツ語文法の初歩（週 2 回/2 セメスター程度学修済）の理解を徹底し、簡単なドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。
第二の目標は、ドイツ語が「言語」だということ、そして「言語」が構築物だということを理解できる学習者になることです。文法はただのお飾りやテストのための決まりごとなどではなく、何かを表現するために備わった機能的なしくみです。「言いたいこと」のさまざまな場面を想定しながら、ドイツ語のしくみとそのリアリティを実感してください。
第三の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省できる学習者になることです。ドイツ（語圏）へ行ってみたい」あなたに、外国語学習を通じて得た思考・感情の言語化能力、他者対応能力が身についているなら、それは鬼に金棒といったところではないでしょうか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
（4 月 20 日修正）
授業開始日： 5 月 8 日
*今般の世相に鑑み、新たにドイツ（語圏）の新型コロナウイルス感染症対策とその報道についてとりあげます。資料としてドイツ政府広報資料、ローベルト・コッホ・インスティテュート（ドイツの国立感染症研究所）発表資料、各種報道メディアなどを使用する予定です。
*基本的に、毎回、同期型オンライン授業（双方向型ビデオオンラインミーティング/Zoom）形式で行います。接続時間は 1 時間〜 100 分程度ですが入退場はそれぞれの状況次第で、その時々で接続が難しかったりできなかった場合には別途課題を用意します。
*授業の履修者以外にも、「ドイツ語カフェ」参加者ほか、ざっくばらんにドイツ語を話す時間が欲しい方の参加を歓迎します。希望者は担当者宛てメールで連絡をください。
*What's app. を使用するかどうかは未定です。
*以後、授業内容・方法変更は全て Hoppii 上ないし履修者の法政 G メール宛周知します。
*5 月以降、Google Classroom をツールとして使用する可能性が高いです。
*****
毎授業、導入部分では、公共の場にあるドイツ語の掲示文を読み解く作業をします（グループワーク）。次に例文とモデル会話の発音練習・会話練習を行った後、各種 Web サイトの入力や SNS での発信を想定したドイツ語での作文、短いテクストの読解を行います。
SNS アプリや各種ウェブサイトを使ったグループワーク、マルチメディア教材・資料を多用しつつ、活気ある授業と参加者のより良い理解にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ドイツ語で自己紹介・Whats'App. でチャットの練習をしてみよう
2	乗り物に乗って：その 1	（話法の助動詞を使った表現・前置詞）まずは大学／学校へ行かないと！
3	乗り物に乗って：その 2	（möchte を活用する表現・前置詞）DB（Deutsche Bahn）アプリで切符を買ってみよう
4	時々は観光もしたいな：その 1	（公共空間で使える・必要な表現）自分の住む街を、訪ねてきてくれた親や友だちに案内してあげたい！
5	時々は観光もしたいな：その 2	（イベントの予約やコンサートチケットの手配）ベルリンを朝も昼も夜も堪能するよ！
6	来たら食べて寝なくちゃね：その 1	（食べ物を注文する時の表現）食べ物の語彙・レストランやカフェでの注文と支払いの表現
7	来たら食べて寝なくちゃね：その 2	（予約やキャンセル、ホテルの中での表現）宿泊先を予約してみよう、ホテルで使う表現
8	道に迷うかもしれないよね：その 1	（道先案内の表現）道に迷ったら？！ 市内交通をフル活用するために
9	道に迷うかもしれないよね：その 2	（今の状況と要望を伝える）タクシーに乗るには？ 電車を乗り間違えちゃったら？ 急遽お金／両替が必要になったら？
10	とりあえずお天気次第？ ：その 1	（天候の表現・屋内の活動に関する表現）天気を説明する・屋内でできること？
11	とりあえずお天気次第？ ：その 2	（従属接続詞と副文）「天気が悪いから」を言い訳にするために…？！
12	なんか調子悪いかも…でも大丈夫！ ：その 1	（身体の部位・体調の表現・再帰表現）「具合が悪い」のいろいろ・街の薬局で買えるものは何？
13	なんか調子悪いかも…でも大丈夫！ ：その 2	（身体の部位・体調の表現・再帰表現）・病院にかかる・既往症を説明する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・授業ごと予習・復習の課題を出します。
・ドイツ語の文・テクストはどれも必ず音読をし、授業外でも積極的にドイツ語に触れられるようチャレンジして下さい。SNS のニュースフィードなどを使うのもいいと思います。

【テキスト（教科書）】
佐藤修子ほか著『スツェーネン 2（Szenen 2 integriert)』（三修社、2007 年）

【参考書】
・中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
・清野智昭『ドイツ語のしくみ＜新版＞』（白水社、2014 年）
・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研、2017 年）
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015 年）
その他、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
（4 月 20 日修正）

授業（双方向型ビデオオンラインミーティング）の積極的な参加（60~70 %）、授業ごとの課題（30~40 %）を合わせ、総合的に判断します。
*****
授業への積極的な参加（35 %）、宿題等の課題（30 %）、学期末試験（35 %）を合わせ、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典は必携です。スマートフォン用の辞書アプリ（有料のもの）でも構いません。
・スマートフォンないしタブレット・PC 類を準備し、法政大学内の Wifi を使える状態にしてください。
・ご自分のお手元で使えるデジタル端末で、各種端末用"Whats'App."をダウンロードしてもらいます。

【その他の重要事項】
・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。
・この授業では、SNS アプリを操作するだけでなく、授業担当者と（も）アプリで相互に連絡が取れる状態になります。この点に対し拒否感を感じる方、あるいは「SNS でつながるのは嫌だけど授業は履修したい」という方は事前にぜひ担当者に相談してください。
・この授業はこれからドイツ語圏へ留学・滞在を目指す方を対象にしています。ごく最近にドイツ語圏の留学や滞在を経験されている方には、市ヶ谷リベラルアーツ（ILAC）開講の「ドイツ語コミュニケーション A/B」「ドイツ語コミュニケーション中級 A/B」や「時事ドイツ語」その他の ILAC 総合科目、あるいは国際文化学部開講の「ドイツ語アプリケーション I/II/II」等の履修を推奨します。
・受講者には、毎週 G ラウンジで実施している「ドイツ語カフェ」への参加を推奨します。積極的に参加できる方や、運営に積極的に参加できる方については別途その点を評価します（全て「授業への積極的な参加」に対し）。

【Outline and objectives】
This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German over 3 Semester: Target groups are student who want to participate in short language course in Vienna (by Hosei University-Global Education Center), exchange program of Hosei University as well as Working Holiday experiences in any German speaking society. In the course, students try to get ability for basic, minimal skills for communication in German and combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

LANd300LA

留学ドイツ語 B

2017 年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ドイツ語圏で学びたい・生活してみたい」という方、短期語学研修やドイツ語圏のワーキングホリデーなどを目指す方の準備と、「行ってきた」ばかりの方のための復習を兼ねた授業です。ドイツ語とドイツ語圏の多様性に触れながら、ドイツ語圏での快適な滞在に最低限必要なドイツ語運用能力の獲得と、コミュニケーションの心がまえを学びます。ドイツ語の読む、書く、聴く、話す楽しみを存分に味わいましょう。

【到達目標】
第一の目標は、ドイツ語文法の初歩（週 2 回/3 セメスター程度学修済）の理解を徹底し、簡単なドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。
第二の目標は、ドイツ語が「言語」だということ、そして「言語」が構築物だということを理解できる学習者になることです。文法はただのお飾りやテストのための決まりごとなどではなく、何かを表現するために備わった機能的なしくみです。「言いたいこと」のさまざまな場面を想定しながら、ドイツ語のしくみとそのリアリティを実感してください。
第三の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省できる学習者になることです。ドイツ（語圏）へ行ってみたい」あなたに、外国語学習を通じて得た思考・感情の言語化能力、他者対応能力が身についているなら、それは鬼に金棒といったところではないでしょうか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎授業、導入部分では、公共の場にあるドイツ語の掲示文を読み解く作業をします（グループワーク）。次に例文とモデル会話の発音練習・会話練習を行った後、各種 Web サイトの入力や SNS での発信を想定したドイツ語での作文、短いテクストの読解を行います。
SNS アプリや各種ウェブサイトを使ったグループワーク、マルチメディア教材・資料を多用しつつ、活気ある授業と参加者のより良い理解にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ドイツ語で自己紹介・Whats'App. でチャットの練習をしてみよう
2	「友だちのお家に泊めてもらえる」ってなったら？ ：その 1	（身体の表現）朝と夜寝る前にすること
3	「友だちのお家に泊めてもらえる」ってなったら？ ：その 2	（身体の表現・再帰表現）朝と夜寝る前にすること・「清潔」の概念
4	誕生日が大事！ ：その 1	（過去の表現・趣味の表現）「家が社交の場」ということの意味
5	誕生日が大事！ ：その 2	（過去の表現・趣味の表現）あなたが好きなもの、興味のあることは？ 私ならではの贈り物ってなんだろう？

6	見た目って大事？！：その１	（形容詞の語彙・形容詞の付加語的用法）今日は何を着ていこうか？
7	見た目って大事？！：その２	（形容詞の語彙・形容詞の付加語的用法）ショッピングあるある
8	「噂話」「世間話」？！：その１	（振る舞いの表現、形容詞の語彙）「～さんってどんな人？ 誰だっけ？」と聞かれた時にどう説明する？
9	「噂話」「世間話」？！：その２	（振る舞いの表現、形容詞の語彙、過去の表現）あの時…さんと～へ行ったよ／～したよ」と言うために
10	「環境に配慮」は当たり前？！ ：その１	（命令法、前置詞）「ゴミの分別」と「ゴミの出し方」
11	「環境に配慮」は当たり前？！ ：その２	（命令法、前置詞、um ～ zu... の練習）日常生活の中の家事と掃除
12	「ペットは家族」のリアル：その１	（禁止の表現・ペットに関する語彙）犬や猫と一緒にできることって何？
13	「ペットは家族」のリアル：その２	（禁止の表現・マナーに関する語彙）公共施設でのマナーについて説明する
14	まとめ	学期末最終評価試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・授業ごと予習・復習の課題を出します。
・ドイツ語の文・テクストはどれも必ず音読をし、授業外でも積極的にドイツ語に触れられるようチャレンジして下さい。SNS のニュースフィードなどを使うのもいいと思います。

【テキスト（教科書）】
佐藤修子ほか著『スツェーネン２（Szenen 2 integriert)』（三修社、2007 年）

【参考書】
・中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
・清野智昭『ドイツ語のしくみ＜新版＞』（白水社、2014 年）
・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研、2017 年）
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015 年）
その他、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加 35 %、宿題等の課題 30 %、学期末試験 35 % を合わせ、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典は必携です。スマートフォン用の辞書アプリ（有料のもの）でも構いません。
・スマートフォンないしタブレット・PC 類を準備し、法政大学内の Wifi を使える状態にしてください。
・ご自分のお手元で使えるデジタル端末で、各種端末用"Whats'App." をダウンロードしてもらいます。

【その他の重要事項】
・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。
・この授業では、SNS アプリを操作するだけでなく、授業担当者と（も）アプリで相互に連絡が取れる状態になります。この点に対し拒否感を感じる方、あるいは「SNS でつながるのは嫌だけど授業は履修したい」という方は事前にぜひ担当者に相談してください。
・この授業はこれからドイツ語圏へ留学・滞在を目指す方と、経験者のどちらも履修対象にしていますが、どちらかというと「これから留学・滞在を予定している」「ヴィーン大学（例えば）で語学研修を終えてきたばかり」というレベルの方に射程を合わせています。でも派遣留学や SA などの長期留学経験者や長期滞在経験者、あるいはドイツ語圏からの留学生の方にはぜひ、チューターとして履修・参加していただきたいです。
・受講者には、毎週 G ラウンジで実施している「ドイツ語カフェ」への参加を推奨します。積極的に参加できる方や、運営に積極的に参加できる方については別途その点を評価します（全て「授業への積極的な参加」に対し）。

【Outline and objectives】
This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German over 3 Semester: Target groups are student who want to participate in short language course in Vienna (by Hosei University-Global Education Center) and its previous participants,who try to participate in exchange program of Hosei University as well as Working Holiday experiences in any German speaking society, In the course, students try to get ability for basic, minimal skills for communication in German and combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

西村　一帆

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更について
は、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月２７ 日とし、こ
の日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	ボールゲーム	さまざまなボールゲームを行う (講義と実習)。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える (講義)。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いた運動を行う (講義と実習)。
5	インディアカ、ソフトバレー	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う (講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う (講義と実習)。
7	卓球シングルス	ネットスポーツとして卓球のシングルスを行う (講義と実習)。
8	卓球ダブルス	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う (講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う (講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う (講義と実習)。
11	バレーボール変則ルール	ネットスポーツとして簡易ルールにてバレーボールを行う (講義と実習)。
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う (講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う (講義と実習)。
14	スポーツ分析	スポーツを数字から見る分析についての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %、期末レポート 20 %、授業への参画状況 20 % の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は，単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】
This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
therefore,students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical,
mental and social health necessary throughout the students future of life.Concretely,we will educate to maintain and promote their own health,to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

西村　一帆

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目で週 1 回、半期にわたって開講される。学科を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	ボールゲーム	さまざまなボールゲームを行う (講義と実習)。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える (講義)。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いた運動を行う (講義と実習)。
5	インディアカ、ソフトバレーボール	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う (講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う (講義と実習)。
7	卓球シングルス	ネットスポーツとして卓球のシングルスを行う (講義と実習)。
8	卓球ダブルス	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う (講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う (講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う (講義と実習)。
11	バレーボール変則ルール	ネットスポーツとして簡易ルールにてバレーボールを行う (講義と実習)。
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う (講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う (講義と実習)。
14	スポーツ分析	スポーツを数字から見る分析についての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を確認し十分な出席がされていれば以下のように評価する。
授業の取組み平常点 40 点
授業内課題 40 点
レポート課題 20 点
以上 100 点満点で、総合的に判断して授業担当教員が評価する。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】
This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
therefore,students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students future of life.Concretely,we will educate to maintain and promote their own health,to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

落合　久夫

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】
本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくてきとする。
実技においては、最終的に歴史とルールを理解して、ダブルス・シングルスのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業の開始を 4 月 23 日とします。春学期・・・基本となるフットワーク・ストローク技術の習得を中心にバドミントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。
実技においては、最終的にダブルス、シングルスのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。
バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましく、秋学期の授業に関しては、春学期の授業を受講した者のみ受講を認めることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講希望理由を記入し決定する。
2	歴史とルール	バドミントンの概要（講義&実技）
3	基本練習（フットワーク・ラケットワーク・ショット）	フットワーク・ラケットワークの説明と使い方（講義・実技）打って慣れる
4	基本練習（動きながらショット練習）	シャトルを使ってのストローク（講義・実技）（ドロップ・ネット・ドロップ交互等）
5	基本練習（相手を動かす）	シャトルを使って（講義・実技）（ドロップ・ネット・クリア等）
6	実戦練習	半面シングルスリーグ戦
7	反省練習	ゲームを反省して、苦手なショット・練習したいショットの練習
8	実戦練習シングルスゲーム	前面のシングルスゲーム
9	反省練習大きく動かすには	相手を大きく動かすための練習
10	ダブルスのための練習	サービス・サーブレシーブ・スマッシュのコース・レシーブの練習
11	実戦練習（ダブルスゲーム）①	ダブルスゲーム（トランプにより 1 試合ずつペアを変える
12	実戦練習ダブルスゲーム②	みんなでペアを決めて、リーグ戦を行う
13	ゲームフリー	シングルスとダブルスを自由に選び、相手も自由にきめて行う
14	実技試験	基本ストローク実技試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
バドミントン技術習得方法として重要な、予習と復習の反復練習は大切な要素です。授業内だけではなく、授業外で地域のスポーツセンター等を活用して、予習・復習とする。（各 2 時間）

【テキスト（教科書）】
資料はその都度配布します。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
個人競技であるため春学期は平均点（６０点）と技術習得点（２０点）とジャッジメント習得点（２０点）の実技試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】
初めての授業なので特になし

【学生が準備すべき機器他】
運動ができる服装・運動靴。

【その他の重要事項】
怪我の内容に、各自でトレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】
Outline and Objectives
This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学Ｂ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

落合　久夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業説明
2	バドミントン基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本ストロークと基本練習（サーブ・ドロップ・スマッシュ・レシーブ等)）
3	バドミントン基本練習とシングルスゲーム	全面シングルス（トランプによりはんを決めて、班長を中心に運営を考えて行う）
4	バドミントン基本練習とダブルスゲーム	ダブルスゲーム（ペア等はトランプで決め、1 試合ごとにペアを変更して行う）
5	バスケットボール基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本練習（ドリブル・シュート・パス等）
6	バスケットボールゲーム	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
7	バレーボール基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本練習（パス対人・円陣、サーブ、アタック等）
8	バレーボールゲーム	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
9	ユニホック基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本練習（いろいろなパス・対人・シュート等）
10	ユニホックゲーム	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
11	フットサル基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本練習（パス・ドリブルシュート・ランニングパス等）
12	フットサルゲーム	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
13	卓球基本練習とゲーム	歴史とルールのレポート提出。基本練習（サーブとレシーブ・ラリー）シングルスゲームリーグ戦
14	レポート	レポートと反省・感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に各種目の「歴史とルール」をレポート提出（Ａ４手書き）を書かせて提出。これを予習・復習各 2 時間とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
「１」授業中の活動に対する参画状況６０％。
「２」課題・レポート４０％の配分として総合評価する。
この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
初めての授業なので特になし。

【学生が準備すべき機器他】
運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】
怪我予防のために、トレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】
Outline and Objectives
This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

磯辺　薫

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身に付け、自律的にスポーツを自分のライフワークに取り入れる一つのきっかけになる様心がける。
講義と体験的学習を通じて各種目に関する理解を深めていく。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本授業の開始日は 4 月 29 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システム提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等。
2	食事と健康について	生活習慣病とは BMI 値 五大栄養素について
3	飲酒、喫煙、薬物と健康	それぞれによる身体への影響
4	筋の構造と特性について	筋の収縮メカニズム 筋の分類
5	トレーニングの原理について	過負荷の原理 超回復とは
6	骨と関節、筋肉の名称	標本を使い骨、関節、筋肉の名称を知る
7	ストレッチ動画配信	個々人が自宅で実践しそれぞれどの部位を意識しているかレポートにまとめる
8	トレーニング動画配信	個々人が自宅で実践し回数、意識する部位等レポートにまとめる
9	近代オリンピックについて	オリンピズムとは
10	パラリンピックの歴史	障碍者スポーツの一例を紹介
11	近代オリンピックをめぐる諸問題について	ボイコット、商業主義、環境問題、ドーピング、ジェンダー等
12	スポーツイベントの経済効果について	オリンピック、ワールドカップ等開催することの意義
13	なし	なし
14	なし	なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に活動、意見交換出来るように促す。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。
スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出しはありません。

【その他の重要事項】
初回授業時に受講者を決定する。その際、教場の関係から受講者数は 35 名程度とする。
第一回目の授業に必ず出席のこと。
春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
Pay attention to how to enjoy according to your skills and try to become a trigger to incorporate sports autonomously into your own life work.
We will deepen our understanding of various eyes through lectures and experiential lerning.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

磯辺　薫

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身に付け、自律的にスポーツを自分のライフワークに取り入れる一つのきっかけになる様心がける。
講義と体験的学習を通じて各種目に関する理解を深めていく。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。
　授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判断して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス＋実技（フットサル）	授業内容の説明、受講者の決定等 フットサルの競技特性・ルールの理解、ゲーム
2	フットサル応用	フットサルの基本的技術の習得、ゲーム
3	スポーツ心理学	メンタルトレーニングについて
4	スポーツ経営学	スポーツイベント、クラブの運営について
5	アルティメットの基礎とルール	アルティメットの競技特性・ルールの理解、ゲーム
6	アルティメット応用	アルティメットの基本的技術の習得、ゲーム
7	卓球の基礎とルール	卓球の競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	卓球応用	卓球の基本的技術の取得、ゲーム
9	バレーボールの基礎とルール	バレーボールの競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バレーボール応用	バレーボールの基本的技術の習得、ゲーム
11	運動生理学	体の仕組みを学ぶ
12	ドッジボール	ドッジボールの競技特性・ルールの理解、ゲーム
13	インディアカ	インディアカの競技特性・ルールの理解、ゲーム
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画状況 60 %：各授業で取り組むリアクションペーパー及び最終授業時に課すレポート課題 40 %
授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、授業に対する主体的・積極的な取り組み状況を評価の対象とするという意味である。

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に活動したり、意見交換出来るよう促す。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。
スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出しはありません。

【その他の重要事項】
初回授業時に受講者を決定する。その際、教場の関係から受講者数は 35 名程度とする。
第 1 回目の授業に必ず出席のこと。
春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
Pay attention to how to enjoy according to your skills and try to become a trigger to incorporate sports autonomously into your own life work.
We will deepen our understanding of various eyes through lectures and experiential lerning.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**スポーツウォーキング、ヨガストレッチング**

朝比奈　茂

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】
1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツ・ウォーキングについて説明できる。
3. スポーツ・ウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツ・ウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8.Meditation（瞑想）について概要し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本授業の開始日は４月２７日（月）２時限目とし、この日までに具体的はオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス （講義）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 （講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 （講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	スポーツ・ウォーキングの概要 （講義および実習）	スポーツ・ウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。
5	スポーツ・ウォーキングの基本姿勢 （講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクス的特徴と正確な歩行を実践する。
6	ヨガの起源とアーサナー （講義および実習）	ヨガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。 単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
7	ヨガの哲学とアーサナー （講義および実習）	ヨガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
8	スポーツ・ウォーキングと基本技術 （講義および実習）	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツ・ウォーキングの身体に及ぼす効果 （講義および実習）	スポーツ・ウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。 走り型にならないように注意する。
10	ヨガと呼吸 （講義および実習）	ヨガの呼吸法を身に付ける。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
11	スポーツ・ウォーキングと健康 （講義および実習））	スポーツ・ウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨガと Meditation （瞑想） （講義および実習）	Meditation について概説し、ヨガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨガと健康 （講義および実習）	ヨガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。 基本ポーズを組み合わせて、連続した一連のヨガとして実践する。
14	まとめ	スポーツ・ウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。
心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。
なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【その他の重要事項】
1. 本講義は活動に対する参画状況を重視する。
2. 体力測定に関するレポートおよび授業時に課したレポートの提出を単位認定条件とする。
3. 受講者数、男女比、天候などにより授業計画の変更もある。

【Outline and objectives】
Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

HSS300LA

スポーツ科学Ｂ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**スポーツウォーキング、ヨガストレッチング**

朝比奈　茂

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】
1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツ・ウォーキングについて説明できる。
3. スポーツ・ウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツ・ウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8.Meditation（瞑想）について概要し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
スポーツ・ウォーキングは、携帯アプリケーションを活用して授業を展開する。いくつかのグループに分け、大学周辺をコースとして実践する。雨天の場合は室内で実施する場合もある。
ヨガは、筋肉の解剖を意識して、ヨガのポーズを実践する。また呼吸を意識しながら瞑想状態に近づく様、心身のリラクゼーションを図る。
教室で行う講義は、DVD やプロジェクターを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定（講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康（講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	スポーツ・ウォーキングの概要（講義および実習）	スポーツ・ウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。

5	スポーツ・ウォーキングの基本姿勢 （講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクス的特徴と正確な歩行を実践する。
6	ヨガの起源とアーサナー （講義および実習）	ヨガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。 単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
7	ヨガの哲学とアーサナー （講義および実習）	ヨガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
8	スポーツ・ウォーキングと基本技術 （講義および実習）	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツ・ウォーキングの身体に及ぼす効果 （講義および実習）	スポーツ・ウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。 走り型にならないように注意する。
10	ヨガと呼吸 （講義および実習）	ヨガの呼吸法を身に付ける。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
11	スポーツ・ウォーキングと健康 （講義および実習））	スポーツ・ウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨガと Meditation（瞑想） （講義および実習）	Meditation について概説し、ヨガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨガと健康 （講義および実習）	ヨガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。 基本ポーズを組み合わせて、連続した一連のヨガとして実践する。
14	まとめ	スポーツ・ウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。
心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。
なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %　2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【その他の重要事項】
1. 本講義は活動に対する参画状況を重視する。
2. 体力測定に関するレポートおよび授業時に課したレポートの提出を単位認定条件とする。
3. 受講者数、男女比、天候などにより授業計画の変更もある。

【Outline and objectives】
Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

HSS300LA

スポーツ科学Ａ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

落合　久夫

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】
本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくてきとする。
実技においては、最終的に歴史とルールを理解して、ダブルス・シングルスのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業の開始を 4 月 23 日からとします。春学期・・・基本となるフットワーク・ストローク技術の習得を中心にバドミントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。
実技においては、最終的にダブルス、シングルスのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。
バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましく、秋学期の授業に関しては、春学期の授業を受講した者のみ受講を認めることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講希望理由を記入し決定する。
2	歴史とルール	バドミントンの概要（講義&実技）
3	基本練習（フットワーク・ラケットワーク・ショット）	フットワーク・ラケットワークの説明と使い方（講義・実技）打って慣れる
4	基本練習（動きながらショット練習）	シャトルを使ってのストローク（講義・実技）（ドロップ・ネット・ドロップ交互等）
5	基本練習（相手を動かす）	シャトルを使って（講義・実技）（ドロップ・ネット・クリア等）
6	実戦練習	半面シングルスリーグ戦
7	反省練習	ゲームを反省して、苦手なショット・練習したいショットの練習
8	実戦練習シングルスゲーム	前面のシングルスゲーム
9	反省練習大きく動かすには	相手を大きく動かすための練習
10	ダブルスのための練習	サービス・サーブレシーブ・スマッシュのコース・レシーブの練習
11	実戦練習（ダブルスゲーム）①	ダブルスゲーム（トランプにより 1 試合ずつペアを変える
12	実戦練習ダブルスゲーム②	みんなでペアを決めて、リーグ戦を行う
13	ゲームフリー	シングルスとダブルスを自由に選び、相手も自由にきめて行う
14	実技試験	基本ストローク実技試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
バドミントン技術習得方法として重要な、予習と復習の反復練習は大切な要素です。授業内だけではなく、授業外で地域のスポーツセンター等を活用して、予習・復習する。（各 2 時間とする）

【テキスト（教科書）】
資料はその都度配布します。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
個人競技であるため春学期は平均点（６０点）と技術習得点（２０点）とジャッジメント習得点（２０点）の実技試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】
初めての授業なので特になし

【学生が準備すべき機器他】
運動ができる服装・運動靴。

【その他の重要事項】
怪我の内容に、各自でトレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】
Outline and Objectives
This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学Ｂ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

落合　久夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**
2～4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業説明
2	バドミントン基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本ストロークと基本練習（サーブ・ドロップ・スマッシュ・レシーブ等)）
3	バドミントン基本練習とシングルスゲーム	全面シングルス（トランプによりはんを決めて、班長を中心に運営を考えて行う）
4	バドミントン基本練習とダブルスゲーム	ダブルスゲーム（ペア等はトランプで決め、1 試合ごとにペアを変更して行う）
5	バスケットボール基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本練習（ドリブル・シュート・パス等）
6	バスケットボールゲーム	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
7	バレーボール基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本練習（パス対人・円陣、サーブ、アタック等）
8	バレーボールゲーム	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
9	ユニホック基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本練習（いろいろなパス・対人・シュート等）
10	ユニホックゲーム	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
11	フットサル基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本練習（パス・ドリブルシュート・ランニングパス等）
12	フットサルゲーム	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
13	卓球基本練習とゲーム	歴史とルールのレポート提出。基本練習（サーブとレシーブ・ラリー）シングルスゲームリーグ戦
14	レポート	レポートと反省・感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に各種目の「歴史とルール」をレポート提出（Ａ４手書き）を書かせて提出。これを予習・復習 2 時間とする。。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
「１」授業中の活動に対する参画状況６０％。
「２」課題・レポート４０％の配分として総合評価する。
この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
初めての授業なので特になし。

【学生が準備すべき機器他】
運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】
怪我予防のために、トレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】
Outline and Objectives
This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**バレーボール演習**

吉田　康伸

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】
①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は 4 月 23 日から学習支援システム内で開始します。
バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。
なお、本授業は 2 年生以上を対象としており、A・B 連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、ルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて（実習&講義）	コートの位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	集団的技術・レシーブのフォーメーションについて（実習&講義）	レシーブのフォーメーションについて理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 10 回	集団的技術（チーム分け）・ゲーム（実習&講義）	チーム分けをし、各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第 11 回	集団的技術（三段攻撃使用）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（三段攻撃を用いる）を立ててゲームを行う。
第 12 回	集団的技術（チームコミュニケーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（チームコミュニケーション）を立ててゲームを行う。
第 13 回	集団的技術（総合）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。
第 14 回	授業総括と筆記試験	授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
授業への参画状況（60 %）を主な基準として、筆記試験（40%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】
・対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。
・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline and objectives】
Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports.In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

HSS300LA

スポーツ科学Ｂ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**バレーボール演習**

吉田　康伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】
①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
実習では、春学期 A で習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。
なお、本授業（B）は 2 年生以上を対象としており、A を受講した学生の連続受講が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	バレーボールのトレーニングについて（実習&講義）	バレーボールに必要な体力要素を理解し、トレーニング実習を行う。
第 2 回	ビーチバレーの紹介（講義）	ビーチバレーのルールやインドアバレーとの違いについて理解する。
第 3 回	基本技術、集団技術の復習（実習&講義）	A で行った基本的技術や集団的技術を復習する。
第 4 回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第 5 回	集団的技術・基礎（実習&講義）	A とは違うチーム分けをし、チームごとにポジション決定させてゲームを行う。
第 6 回	集団的技術・応用（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。A よりも質の高いプレーを目指し、ゲームでの反省点も理解する。
第 7 回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 8 回	集団的技術（レセプション戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レセプション）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 9 回	集団的技術（ディグ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ディグ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 10 回	集団的技術（セットアップ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（セットアップ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 11 回	集団的技術（スパイク戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（スパイク）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 12 回	集団的技術（ブロック戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ブロック）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 13 回	実技試験（実習&講義）	授業で行ってきた各技術の要点を振り返り、実技試験を行う。
第 14 回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い、競技に必要な体力要素などを調べる、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画状況（70%）を主な基準として、レポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】
・対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。
・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline and objectives】
Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports.Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

秋本　成晴

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パラスポーツ（障害者スポーツ）について、理論と実践を通して、その社会的意義並びに役割を学ぶ

【到達目標】
①障害、またスポーツとは何かについての理解を深める
②パラスポーツ（障害者スポーツ）について理解を深め、実践的な動きを身につける
③パラスポーツ（障害者スポーツ）実践を通して、他者とのより良いコミュニケーション能力の育成を図る
④パラスポーツ（障害者スポーツ）やアダプテーションの必要性と役割について学び、これからの社会づくりに生かせる考え方を培う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月２７日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	視覚障害のある人とスポーツ（講義）	視覚障害のある人を中心に行われているスポーツについて、その概要を理解する。
3	ゴールボール・ブラインドサッカー（講義および実習）	ゴールボール・ブラインドサッカー等を実際に行い、視覚障害のある人を中心に行われているスポーツについて学ぶ。
4	肢体不自由のある人とスポーツ（講義）	肢体不自由のある人を中心に行われているスポーツについて、その概要を理解する。
5	シッティングバレーボール（講義および実習）	シッティングバレーボール等を実際に行い、肢体不自由のある人を中心に行われているスポーツについて学ぶ。
6	障害とは何か（講義）	ここまでの授業を踏まえ、障害とは何かについて考える。
7	障害者スポーツとアダプテーション・アクセシビリティ評価（講義）	1. 障害者スポーツにおけるアダプテーションという考え方について考える。 2. アクセシビリティについて学び、評価する。
8	サウンドテーブルテニス（講義および実習）	サウンドテーブルテニス等を実際に行い、視覚障害のある人を中心に行われているスポーツについて学ぶ。
9	ボッチャ（講義および実習）	ボッチャ等を実際に行い、肢体不自由のある人を中心に行われているスポーツについて学ぶ。
10	聴覚障害のある人とスポーツ（講義および実習）	聴覚障害ならびに聴覚障害のある人を中心に行われているスポーツについて学び、その概要を理解する。
11	障害者スポーツの歴史／その他の障害種とスポーツ（講義）	1. 障害者スポーツの歴史について学ぶ 2. その他の障害種を有する人とスポーツのあり方について学ぶ
12	障害者スポーツの現状と課題（講義）	ここまでの授業を通して学んできた障害者スポーツについて振り返り、現在の障害者スポーツの現状とその課題について考える。
13	アダプテッド・スポーツを作る（講義および実習）	ここまでの授業を通して学んだ知識と経験を踏まえ、新たなスポーツを考える。
14	総括（講義）	授業全体を振り返り、互いに意見交換を行い、授業全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %、期末レポート 20 %、授業への参画状況 20 % の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は，単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】
・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。
・教場並びに受講者数等の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】
Learning about Para-sports (disability sports) and its significance in society as well as learning its theoretical frameworks and practical activities.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

秋本　成晴

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パラスポーツ（障害者スポーツ）について、理論と実践を通して、その社会的意義並びに役割を学ぶ

【到達目標】
①障害、またスポーツとは何かについての理解を深める
②パラスポーツ（障害者スポーツ）について理解を深め、実践的な動きを身につける
③パラスポーツ（障害者スポーツ）実践を通して、他者とのより良いコミュニケーション能力の育成を図る
④パラスポーツ（障害者スポーツ）やアダプテーションの必要性と役割について学び、これからの社会づくりに生かせる考え方を培う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
全体として講義と実技の両方で構成されており、各種理論について講義を通して学び、実技授業を通してパラスポーツ（障害者スポーツ）の理解を深めることを図る。なお、授業内容については、受講生の数や受講者の様子などを考慮し変更を行うことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	視覚障害のある人とスポーツ（講義）	視覚障害のある人を中心に行われているスポーツについて、その概要を理解する。
3	ゴールボール・ブラインドサッカー（講義および実習）	ゴールボール・ブラインドサッカー等を実際に行い、視覚障害のある人を中心に行われているスポーツについて学ぶ。
4	肢体不自由のある人とスポーツ（講義）	肢体不自由のある人を中心に行われているスポーツについて、その概要を理解する。
5	シッティングバレーボール（講義および実習）	シッティングバレーボール等を実際に行い、肢体不自由のある人を中心に行われているスポーツについて学ぶ。
6	障害とは何か（講義）	ここまでの授業を踏まえ、障害とは何かについて考える。
7	障害者スポーツとアダプテーション・アクセシビリティ評価（講義）	1. 障害者スポーツにおけるアダプテーションという考え方について考える。 2. アクセシビリティについて学び、評価する。
8	サウンドテーブルテニス（講義および実習）	サウンドテーブルテニス等を実際に行い、視覚障害のある人を中心に行われているスポーツについて学ぶ。
9	ボッチャ（講義および実習）	ボッチャ等を実際に行い、肢体不自由のある人を中心に行われているスポーツについて学ぶ。
10	聴覚障害のある人とスポーツ（講義および実習）	聴覚障害ならびに聴覚障害のある人を中心に行われているスポーツについて学び、その概要を理解する。
11	障害者スポーツの歴史／その他の障害種とスポーツ（講義）	1. 障害者スポーツの歴史について学ぶ 2. その他の障害種を有する人とスポーツのあり方について学ぶ
12	障害者スポーツの現状と課題（講義）	ここまでの授業を通して学んできた障害者スポーツについて振り返り、現在の障害者スポーツの現状とその課題について考える。
13	アダプテッド・スポーツを作る（講義および実習）	ここまでの授業を通して学んだ知識と経験を踏まえ、新たなスポーツを考える。
14	総括（講義）	授業全体を振り返り、互いに意見交換を行い、授業全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%
2）課題レポート 40%
の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】
・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。
・教場並びに受講者数等の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】
Learning about Para-sports (disability sports) and its significance in society as well as learning its theoretical frameworks and practical activities.

HSS300LA

スポーツ科学Ａ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

笠井　淳

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③卒業後の実社会において活躍する上で、重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業はコロナウイルスの影響によりオンライン授業となります。
授業の開始日は 4 月 28 日です。
この授業は選択科目で、週１回、半期にわたって開講される。
学部を問わず２年生以上が履修可能であるが、受講者数に制限があるため、第 1 回目のガイダンスにおいて履修可能者が決定される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についてのガイダンス及び履修者確定
2	ウオーミングアップ	ウオーミングアップの重要性について講義及び実習
3	リーダーシップとバレーボール	リーダーの資質について講義及びバレーボールゲームの実習
4	リーダーシップとバスケットボール	リーダーの役割について講義及びバスケットボールゲームの実習
5	チームワークとソフトバレーボール	チームワークについて講義及びソフトバレーボールゲームの実習
6	コミュニケーションと身体活動	コミュニケーションについて講義及び実習
7	筋力トレーニング	トレーニングについて講義及び実習
8	トレーニングと健康	トレーニングと健康について講義
9	有酸素運動と身体活動	有酸素運動について講義及び有酸素運動の実習
10	フィットネス	フィットネスについて講義及び実習
11	コミュニケーションとボールゲーム	コミュニケーションについて講義及び実習
12	レクレーションと身体活動	レクレーションと身体活動について講義及び実習
13	生涯スポーツとボールゲーム	生涯スポーツについて講義及び実習 レポート課題
14	授業の総括	授業の総括及びレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いように、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、その都度指示をする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①授業の活動に対する参画状況６０％
②課題・レポート４０％の配分として総合評価する。
この成績評価は原則的なものであり、特別な理由がある場合、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の主体性を考慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】
教場等、場合により変更の可能性もあります。

【Outline and objectives】
This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore,students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical,mental and social heaith necessary throughout the students'future of life.

HSS300LA

スポーツ科学Ｂ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

笠井　淳

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**
2～4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目で、週１回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合、授業１回目のガイダンス時に決定する。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容等についてのガイダンス 受講者確定
2	ウオーミングアップ	ウオーミングアップの講義及び実践
3	体力測定	体力測定の意義及び実践
4	バドミントン	スポーツと健康について講義 バドミントンの基礎技術の習得及びゲーム
5	バレーボール	スポーツと健康について講義 バレーボールの基礎技術の習得及びゲーム
6	コアトレーニング	コアトレーニングについて講義及び実践
7	トレーニング演習	トレーニング理論の講義及び実践
8	運動と健康	運動の効果について講義
9	卓球	スポーツと健康について講義 卓球の基礎技術の習得及びゲーム
10	有酸素運動	有酸素運動について講義及び実践
11	筋力トレーニング	筋力トレーニングについて講義及び実践
12	バスケットボール	スポーツと健康について講義 バスケットボールの基礎技術習得及びゲーム
13	フットサル	スポーツと健康について講義フットサルの基礎技術習得及びゲーム レポート課題
14	総括	授業の総括 健康についてのディスカッション レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします
授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１）授業中の活動に対する参画状況６０％、２）課題・レポート４０％の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生のニーズに沿った内容の提供に心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
自分の健康管理を十分に行い、常に良好な状態で履修することが望ましい。
教場等、計画通りに進行できないこともある。

【Outline and objectives】
This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore,students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical,mental and social health necessary throughout the students'future of life.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

笠井　淳

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
身体活動の意義や役割について理解を深める。
豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業はコロナウイルスの影響によりオンライン授業となります。
授業の開始日は 4 月 24 日です。
この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、希望者多数の場合、 1 回目の授業ガイダンスにおいて履修者を決定する。
授業はトレーニング実習が主となる他、幾つかのスポーツも実践する。PDCA 理論にのっとり、各自のトレーニング計画を立て、それに沿った内容で実習を行う。毎回トレーニング内容とリアクションペーパーを作成し提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容についてガイダンスを行う 履修者を決定する
2	ウオーミングアップの意義	ウオーミングアップの意義についての講義及び実践
3	トレーニングの基礎	トレーニングの基礎理論につて講義
4	コアトレーニング	コアトレーニングについて講義及び実践
5	講義及び卓球	スポーツと健康について講義 卓球の基礎技術の習得及びゲーム
6	有酸素運動	有酸素運動について講義及び実践
7	PDCA 理論と筋肥大トレーニング	PDCA 理論の講義及び筋肥大トレーニングの実習
8	計画立案とパワーアップトレーニング	計画立案について講義及びパワーアップトレーニングの実習
9	筋持久力トレーニング	筋持久力についての講義及び実習
10	最大筋力のトレーニング	最大筋力についての講義及び実習
11	トレーニング演習のチェック	PDCA 理論に沿ったトレーニングのチェック 講義及び実習
12	全身持久力のトレーニング	全身持久力についての講義及び実習
13	ディスカッション	トレーニング内容についてディスカッションを実施 レポート課題
14	授業総括	授業を総括する レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします
授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で臨むこと。
授業後の課題や次の授業への準備等は、その都度の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況６０％、2）課題・レポート４０％の配分として総合評価する。この成績評価は方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生のニーズに即した内容の提供を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
日頃より各自の健康状態をチェエクし、常に良好な状態での履修が望ましい
教場等、計画通りに進行しない場合もある。

【Outline and objectives】
This course will conduvted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore,students who take this cour are learnable to improve properly learning and attitude about physical,mental and social health necessary throughout the students'future of life.

HSS300LA

スポーツ科学Ｂ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

笠井　淳

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目で、週１回、半期にわたりって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合１回目のガイダンス時に履修者決定を行う
各自の計画に基づくトレーニング及び数種目のスポーツ実践を行う。PDCA 理論に沿ったトレーニングの立案、実施、評価、見直しを行う。毎時間トレーニング内容及び反省を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容のガイダンス 受講者の決定
2	PDCA 理論	PDCA 理論について講義する
3	トレーニング理論	トレーニング理論について講義する
4	コアトレーニング	コアトレーニングについて講義及び実践
5	講義及び卓球	スポーツと健康について講義。卓球の基礎技術習得及びゲーム 講義及び実習
6	有酸素運動	有酸素運動について講義及び実践
7	筋肥大のトレーニング	筋肥大のトレーニングについて講義及び実習
8	計画立案とパワーアップトレーニング	計画立案について講義及びパワーアップトレーニングの実習
9	筋持久力のトレーニング	筋持久力についての講義及び実習
10	最大筋力のトレーニング	最大筋力のトレーニングについて講義及び実習
11	トレーニング内容のチェック	トレーニング内容をチェックし、必要に応じて見直しをする。 講義
12	全身持久力のトレーニング	全身持久力のトレーニングについて講義及び実習
13	ディスカッション	トレーニング内夜についてディスカッションを行う 講義及び実習 レポート課題
14	授業の総括	授業の総括を行う レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします
授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１）授業中の活動に対する参画状況６０％、２）課題・レポート４０％の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生のニーズに沿った内容の提供を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
各自の健康管理を十分行い、常に良好な状態で参加することが望ましい。
教場等、計画通りに施行しない場合もある。

【Outline and objectives】
This course will conducted to make students to understnd the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore,students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical,mental and social health necessary throughout the students'future of life.

HSS300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**トレーニングを科学する・Basic course**

伊藤　マモル

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【概要】
この授業は２年生以上が対象です。
トレーニング理論を包括したコンディショニングの一環であるストレングス（筋力）トレーニングについて、**各自の目的**に応じた**トレーニング方法**に着目した**研究を計画**し、その**効果を検証**していくゼミナールです。
履修者自ら作成したトレーニング・プログラムを実践していくアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。

【到達目標】
1 ：トレーニング器材を安全に使用できる
2 ：トレーニング器材を応用した各種測定方法を利用できる
3 ：測定結果からトレーニング効果を評価できる
4 ：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
5 ：トレーニングの結果を正しく記録できる
6 ：トレーニング効果を検証した学修過程を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本授業の開始日は 5 月 11 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	＜教室＞ ①シラバスの確認（授業概要と到達目標の説明） ②授業の進め方およびルールと評価方法 ③授業計画 ④受講者の決定 ⑤使用する施設・器材についての解説 ⑥授業支援システムへのメールアドレス登録と Google フォームの実施
2	課題検討期Ⅰ・測定	＜トレセン＞ ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定し、その分析・評価を行う ②筋力を把握するための測定と分析・評価を行う
3	課題検討期Ⅱ・測定結果の評価	＜教室＞ ①グループワークを行う ②前回の測定結果を分析する ③テーマのヒントを探る
4	課題検討期Ⅲ・トレーニング方法	＜教室＞ ①グループワークを行う ②トレーニングの方法と効果を整理する ③テーマに適したトレーニング方法を検討する
5	課題決定期	＜教室＞ ①ゼミで取り組む課題を明確にする ②トレーニング記録方法を確認する
6	計画立案期Ⅰ・トレーニングマシーンの基本操作	＜トレセン＞ ①トレーニングマシンの操作方法の確認 ②効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に大きな筋を刺激する種目）を検討する ③検討したトレーニング方法を記録する
7	計画立案期Ⅱ・トレーニングプログラム作成	＜トレセン＞ ①効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に小さな筋を刺激する種目）を検討する ②決定したトレーニング方法を記録する ③トレーニングプログラムを作成する
8	計画実行期Ⅰ・トレーニング種目の仮決定	＜トレセン＞ ①決定したトレーニング種目のプログラム一覧を提出 ②作成したトレーニングプログラムの実践と見直し（主に運動種目の配置・組み合わせ） ③実施したトレーニングを記録する
9	計画実行期Ⅱ・トレーニングプログラム種目の再検討	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムの実践（時間内に達成できる種目の順序を考える） ②実施したトレーニングを記録する
10	計画実行期Ⅲ・トレーニング強度の再検討	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムの実践（適切な運動強度の決定） ②実施したトレーニングを記録する
11	計画実行期Ⅳ・トレーニング方法の再検討	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムの実践（セット法またはピラミッド法の検討） ②実施したトレーニングを記録する
12	計画実行期Ⅳ・トレーニング方法の決定	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムの方法を決定し実践する ②実施したトレーニングを記録する
13	計画実行・効果検証期	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する

14	反省改善期・発表・総括	＜教室＞ ①春学期に取り組んだ学修過程を発表する ②秋学期の課題を検討する ③春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。
トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。
特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。
1．伊藤マモル著，若さを伸ばすストレッチ，平凡社新書
2．伊藤マモル監，ひとりで巻けるテーピング，日本文芸社
3．伊藤マモル監，基本のストレッチ，主婦の友社
4．斎藤真嗣著，体温を上げると健康になる，サンマーク出版
5．山本ケイイチ著，仕事ができる人はなぜ筋トレをするか，幻冬舎新書
6．山本利春著，疲れたときは、からだを動かす，岩波書店
7．吉江和彦著，エグゼクティブが身体を鍛えるワケ，グラフ社

【成績評価の方法と基準】
当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始後、授業運営が落ち着いた時点で学習支援システムを利用して周知します。

【学生の意見等からの気づき】
小人数制の授業であるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になったようです。履修者の多くが先輩や知人から紹介されて受講したようで、2017 年度および 2018 年度の履修者は 25 名以上となり、授業中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。
そこで、2019 年度の授業においては、少人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的な授業にしていく予定です。そのため、もし、ガイダンスにおいて履修受入れ予定の 10 人を超えた場合は、「その他の重要事項」に書かれた方法などによって履修制限を行うことを理解してください。

【学生が準備すべき機器他】
トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウエアやシューズ

【その他の重要事項】
1. 授業 1 回目のガイダンスにおいて、履修希望者が 10 名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。
具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。
2. 1 を踏まえ、教養ゼミⅡまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。
3. 教養ゼミⅠの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期の教養ゼミⅡの受講を認めません。
4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。
5. 授業を担当する教員はＪＯＣ医科学スタッフであるため、国際大会への帯同などの出張によって授業計画が変更される場合があります。ただし、その場合はトレセンでの自主的なゼミ活動または補講などによって休講になった授業を補うなどの対応をします。

【Outline and objectives】
The subject is over 2nd grade.
In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.
Students must create their own training programs and verify their effectiveness.
Students have to take active acts in class.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**トレーニングを科学する・Advanced course**

伊藤　マモル

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教養ゼミⅡは、「教養ゼミⅠ・トレーニングを科学する（Basic course）：月曜日 3 限」の応用科目です。そのため、本ゼミの基礎科目である**教養ゼミⅠの単位取得者**が履修できます。
基本的な授業形式は教養ゼミⅠと同様ですが、**各自のトレーニング方法に着目したトレーニング・プログラムを積極的に実践して検証する**ことを主とします。授業は履修者が主体となり能動的に進め、その検証結果を総括しゼミ内で共有します。

【到達目標】
1 ：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
2 ：目標達成に資する段階的な計画表を作成できる
3 ：段階的な計画を実行できる
4 ：一定期間実践したトレーニング効果を検証できる
5 ：検証したトレーニング効果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ゼミ活動の 1 回目は体育館Ｂ１Ｆトレーニングセンター（以下、トレセン）です。
教養ゼミⅡでは、**教養ゼミⅠの反省改善期**に検討した課題を解決するためのトレーニングプログラムを作成し、トレーニングを積極的に行う（**履修者は授業に自主的・能動的に参加**）ことを目指します。そのため、ゼミの 1 回目からトレセンを使用し、秋学期を以下のように**３期**に分けて進めていきます。
1. 課題・計画を決める期間
自分自身の筋力測定と分析・評価を通じて、「夏季休暇前後の比較」を行った上で、教養ゼミⅡで取り組む課題を明確にします。
2. 実行と検証の期間
計画したトレーニングを実行する期間であり、実施した内容を正確に記録するとともに、随時その結果を自己分析し次回のゼミ活動に活かします。
3. 発表・共有の期間
トレーニング効果を総括した結果を発表し、ゼミ内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 課題・計画の検討期 Ⅰ・測定	＜トレセン＞ ①シラバスの確認（授業概要と目標の説明） ② Inbody による身体組成の分析（春学期との比較） ③教養ゼミⅠで作成したプログラムの実践 ④リアクションペーパー作成

2	課題・計画の検討期Ⅱ・教養ゼミⅠで検証した項目の測定	＜トレセン＞ ①教養ゼミⅠで検証した項目の測定 ②測定結果について、夏季休暇の前後で比較し、新たなトレーニングプログラムを模索する
3	課題・計画の検討期Ⅲ・測定結果の評価	＜教室＞ ①グループワーク ②授業の 1 回目および 2 回目の測定結果を分析し、共有する ③教養ゼミⅡで取り組む課題を検討する ④リアクションペーパー作成
4	課題・計画の決定期Ⅰ・測定結果の共有	＜教室＞ ①グループワーク ②前回授業の分析内容を発表する ③リアクションペーパー作成
5	課題・計画の決定期Ⅱ・トレーニング方法の再検討	＜教室＞ ①グループワーク ②取り組む課題解決により有効なトレーニングプログラムを再考する ③リアクションペーパー作成
6	実行期Ⅰ・新トレーニングプログラムの試作	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを試作するために、トレーニング種目を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
7	実行期Ⅱ・新トレーニングプログラム強度の再検討	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムを実行し運動強度を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
8	実行期Ⅲ・新トレーニングプログラムの仮決定	＜トレセン＞ ①トレーニング法を決め、プログラムを確定する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
9	実行期Ⅳ・新トレーニングプログラムの種目の改修	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを実行し運動強度を調整する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
10	実行期Ⅴ・新トレーニングプログラムの強度の改修	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
11	実行期Ⅵ・新トレーニングプログラムの決定	＜トレセン＞ ①レーニングプログラムを実行するとともに効果を検証する方法を検討する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
12	実行期Ⅶ・新トレーニングプログラムの実践と効果検証	＜トレセン＞ ①グループワーク ②作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ③測定結果を分析・評価する ④リアクションペーパー作成
13	発表・共有期Ⅰ・新トレーニングプログラムの効果検証と分析	＜トレセン＞ ①グループワーク ②測定結果を考察し、ゼミ内で共有するためのレポートを作成する ③リアクションペーパー作成
14	発表・共有期Ⅱ、総括	＜教室＞ ①グループワーク ②トレーニング効果の検証結果を発表する ③リアクションペーパー作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1．伊藤マモル著，若さを伸ばすストレッチ，平凡社新書
2．伊藤マモル監，ひとりで巻けるテーピング，日本文芸社
3．伊藤マモル監，基本のストレッチ，主婦の友社
4．斎藤真嗣著，体温を上げると健康になる，サンマーク出版
5．山本ケイイチ著，仕事ができる人はなぜ筋トレをするか，幻冬舎新書
6．山本利春著，疲れたときは、からだを動かす，岩波書店
7．吉江和彦著，エグゼクティブが身体を鍛えるワケ，グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は**到達目標**に示した**5項目**に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1．授業で提示した課題のレポート： **30 %**
2．授業におけるリアクションペーパー： **30 %**
3．成果発表（作成した資料、発表態度など）： **40 %**

【学生の意見等からの気づき】

小人数制の授業であるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になったようです。履修者の多くが先輩や知人から紹介されて受講したようで、2017 年度および 2018 年度の履修者は 25 名以上となり、授業中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。

そこで、2019 年度の授業においては、少人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的な授業にしていく予定です。そのため、もし、ガイダンスにおいて履修受入れ予定の 15 人を超えてた場合は、「その他の重要事項」に書かれた方法などによって履修制限を行う場合があることを理解してください。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウエアやシューズ

【その他の重要事項】

1．教養ゼミⅠを履修せずに、教養ゼミⅡのみを履修することは認めません。

基本的に教養ゼミⅠの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、教養ゼミⅠの単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。

2．授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline and objectives】

The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester.

In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must to make a more sophisticated training program compared with class 1 and verify the effect.
Students have to take active acts in class.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**シェイプアップ・ベーシックコース**

伊藤　マモル

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は２年生以上が対象です。
履修者自らが**積極的にシェイプアップする**授業です。**無理せず自分のペースで**シェイプアップを行い、**隠れ肥満**や**運動不足**によって低下した身体機能をリフレッシュします。シェイプアップは健康づくりの３本柱（ストレッチング・ジョギング・ストレングス）を組み合わせたプログラムを指導します。主に市ヶ谷総合体育館 B1F のトレーニングセンターを使用するアクティブラーニング型の授業です。
本授業を通じて、心身のコンディションを整えるために必要な知識と実践力を身につけます。

【到達目標】
1 ：トレーニングの原理・原則を理解している
2 ：スマートホンのアプリケーションを使用して必要な測定ができる
3 ：ストレッチングを正しく行える
4 ：ジョギングまたはウォーキングを正しく行える
5 ：ストレングストレーニングを安全に行える
6 ：実践した運動の結果を正しく記録できる
7 ：スポーツや運動の功罪を説明できる
8 ：実践した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本授業の開始日は 5 月 7 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	＜教室＞ ①シラバスの確認（授業概要と到達目標の説明） ②授業の進め方およびルールと評価方法 ③授業計画 ④受講者の決定 ⑤使用する施設・器材についての解説 ⑥授業支援システムへのメールアドレス登録と Google フォームの実施
2	身体組成と柔軟性の測定	＜トレセンおよび教室＞ ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定し、評価を行う ②柔軟性の測定と評価 ③リアクションペーパー作成

3	ストレングスマシンの操作方法	＜トレセン＞ ①ストレングスマシンの使用方法と諸注意 ②マシン操作の練習 ③リアクションペーパー作成
4	ランニングマシンおよびバイクの操作方法	＜トレセン＞ ①ランニングマシンの使用方法と諸注意 ②バイクの使用方法と諸注意 ③各マシン操作の練習 ④リアクションペーパー作成
5	マシン各種操作方法	＜トレセンまたは４ F 卓球場＞ ①グループワーク ②各種マシンの使用方法と諸注意 ③リアクションペーパー作成
6	ストレングスマシンによるサーキットトレーニングの紹介	＜トレセン＞ ①サーキットトレーニング法の解説 ②ストレングスマシンを用いた統一負荷によるサーキットトレーニングを実践する ③実施した運動を記録する ④リアクションペーパー作成
7	ストレングスマシン・最大筋力の推定	＜トレセン＞ ①最大筋力の推定法 ②ストレングスマシンの最大筋力を推定する ③実施した運動を記録する ④リアクションペーパー作成
8	ストレングスマシン・サーキットトレーニングの最高反復回数を測定する	＜トレセンまたは４ F 卓球場＞ ①次のいずれかの最大筋力に対する負荷で１分間最高反復回数を測定する ②負荷の選択 1/4、1/3、1/2 のいずれか ③パートナーを決め、最大反復回数測定を行う ④リアクションペーパー作成
9	ストレングスマシン・サーキットトレーニング負荷 1/4 回	＜トレセン＞ ①最高反復回数の 1/4 回でサーキットトレーニングを行う ②３周終了時の脈拍数を測定する ③実施した運動を記録する ④リアクションペーパー作成
10	ストレングスマシン・サーキットトレーニング負荷 1/3 回	＜トレセン＞ ①最高反復回数の 1/3 回でサーキットトレーニングを行う ②３周終了時の脈拍数を測定する ③実施した運動を記録する ④リアクションペーパー作成
11	ストレングスマシン・サーキットトレーニング負荷 1/2 回	＜トレセンまたは４ F 卓球場＞ ①最高反復回数の 1/2 回でサーキットトレーニングを行う ②３周終了時の脈拍数を測定する ③実施した運動を記録する ④リアクションペーパー作成
12	ストレングスマシン・サーキットトレーニング負荷 2/3 回	＜トレセン＞ ①最高反復回数の 2/3 回でサーキットトレーニングを行う ②３周終了時の脈拍数を測定する ③実施した運動を記録する ④リアクションペーパー作成
13	ストレングスマシン・サーキットトレーニングの最高反復回数による効果判定	＜トレセン＞ ①第８回授業で用いた重量で１分間最高反復回数を測定する ②パートナーを決め、最大反復回数測定を行う ③第 8 回授業時の結果と比較し分析する ④リアクションペーパー作成
14	測定・総括・レポート作成	＜トレセン＞ ①グループワーク ② Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定と評価を行う ③柔軟性の測定と評価 ④春学期に取り組んだ学修過程の記録をもとに振り返りを行う ⑤レポートの書式などの説明と提出日時の指定 ②春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。

授業ではシェイプアップを目的としたトレーニングを実践していくため、各自で体調を整え授業に参加してください。そのためにも、トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行った前後のバイタルチェックを行ったり、授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

１．伊藤マモル著，若さを伸ばすストレッチ，平凡社新書

２．伊藤マモル監，ひとりで巻けるテーピング，日本文芸社

３．伊藤マモル監，基本のストレッチ，主婦の友社

４．斎藤真嗣著，体温を上げると健康になる，サンマーク出版

５．山本ケイイチ著，仕事ができる人はなぜ筋トレをするか，幻冬舎新書

６．山本利春著，疲れたときは、からだを動かす，岩波書店

７．吉江和彦著，エグゼクティブが身体を鍛えるワケ，グラフ社

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始後、授業運営が落ち着いた時点で学習支援システムを利用して周知します。

【学生の意見等からの気づき】

日ごろの運動不足解消に役立ち、実際に体脂肪の減少や一定のシェイプアップ効果が得られたのどの声がリアクションペーパーや授業改善アンケートに見られたことから、授業内容は大変好評であったと理解した。そのため、今年度も同様な授業展開を行うとともに、自宅で行える自重トレーニングなどを積極的に紹介したい。

【学生が準備すべき機器他】

１）運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ

２）活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能なスマートホン

【その他の重要事項】

1. 授業１回目のガイダンスにおいて、**履修希望者が 30 名**を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 1 を踏まえ、**スポーツ科学Ｂ**までの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. **スポーツ科学Ａ**の単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期の**スポーツ科学Ｂ**の受講を認めません。

4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

5. 授業を担当する教員はＪＯＣ医科学スタッフであるため、国際大会への帯同などの出張によって授業計画が変更される場合があります。ただし、その場合はトレセンでの自主的なゼミ活動または補講などによって休講になった授業を補うなどの対応をします。

【Outline and objectives】

The subject is over 2nd grade.

This class is active learning type.

In this class we practice stretching, jogging and strength training.
Your body that has decayed will be shape up if you participate in this class.
Through this class, you can acquire the necessary knowledge and practical skills to prepare the mind and body condition.

HSS300LA

スポーツ科学Ｂ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**シェイプアップ・アドバンスコース**

伊藤　マモル

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
2～4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は２年生以上が対象です。基本的にスポーツ科学Ａ（シェイプアップ・ベーシックコース）の単位認定を受けた人が履修できます。
　履修者自らが**積極的にシェイプアップする**授業です。**無理せず自分のペースで**シェイプアップを行い、**隠れ肥満**や**運動不足**によって低下した身体機能をリフレッシュします。シェイプアップは健康づくりの３本柱（ストレッチング・ジョギング・ストレングス）を組み合わせたプログラムを指導します。主に市ヶ谷総合体育館 B1F のトレーニングセンターを使用するアクティブラーニング型の授業です。
　本授業を通じて、心身のコンディションを整えるために必要な知識と実践力を身につけます。

【到達目標】
1 ：ストレングスマシンを用いた筋力測定ができる
2 ：運強度を意識したウォーキングまたはジョギングができる
3 ：ストレッチングを効果を説明できる
4 ：ジョギングまたはウォーキングの注意点を述べることができる
5 ：ストレングストレーニングの負荷を適切に設定できる
6 ：実践した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　授業の１回目はガイダンス（教室）です。
以下に示した内容を**授業のルーチン**として行います。
　１）運動開始前の身体組成を測定し、記録する
　２）シェイプアップにかかわる運動科学の知識と実践に関するショートレクチャーを行う
　３）ウォームアップ時に自宅で実践可能な自重トレーニングを行う
　４）授業のテーマに取り組む：運動中に脈拍数を計測する場合がある
　５）ストレッチングを主としたウォームダウンを行う
　６）運動終了後の身体組成を測定し、記録する
　７）リアクションペーパーを提出する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・測定	＜トレセン＞ ①シラバスの確認（授業概要と目標の説明） ② Inbody による身体組成の分析 ③柔軟性および筋力測定 ④各測定の評価を行い正確に記録する ⑤リアクションペーパー作成

2	測定結果の分析と共有	＜教室＞ ①グループワーク ②測定結果を「夏季休暇の前後」で比較する ③グループ内で情報共有 ④新たな運動プログラムを模索する ⑤リアクションペーパー作成
3	有酸素運動とストレッチング	＜トレセン＞ ①ランニングマシンを用いたカルボーネン法の実践 ②ストレッチングの理論と実践 ③リアクションペーパー作成
4	最大筋力測定	＜トレセン＞ ①指定されたトレーニングマシンによる最大筋力を推定法によって算出する ②リアクションペーパー作成
5	各自の目的別運動プログラムの試作	＜教室＞ ①グループワーク ②運動プログラムを試作する ③リアクションペーパー作成
6	試作プログラムの確認	＜トレセン＞ ①試作した運動プログラムの実践と確認および改修を行う ②実施した運動を記録する ③リアクションペーパー作成
7	試作プログラムの種目の改修	＜トレセン＞ ①作成した運動プログラムの種目を修正する ②実施した運動を記録する ③リアクションペーパー作成
8	カルボーネン法による有酸素運動	＜皇居周辺または４ F 卓球場＞ ①ジョギングを行い、走行時間および距離から運動量を検討する ②カルボーネン法を用いた適切な運動強度を意識する ③雨天時は、屋内施設で自重トレーニングまたはサーキットトレーニングを行う ④リアクションペーパー作成
9	試作プログラムの強度の改修	①作成した運動プログラムの運動強度とセット数を修正する ②実施した運動を記録する ③リアクションペーパー作成
10	プログラムの実践	＜トレセン＞ ①運動プログラムの実践 ②実施した運動を記録する ③リアクションペーパー作成
11	ボルグの運動強度を用いた有酸素運動	＜皇居周辺または４ F 卓球場＞ ①ジョギングを行い、走行時間および距離から運動量を検討する ②ボルグの主観的運動強度を意識して有酸素運動の強度を調整する ③雨天時は、屋内施設で自重トレーニングまたはサーキットトレーニングを行う ④リアクションペーパー作成
12	最大筋力の測定およびシェイプアップ・トレーニングの実践	＜トレセン＞ ①グループワーク ②最大筋力の測定 ③作成したプログラムによりシェイプアップを実践する ④測定結果および実施した運動を記録する ⑤リアクションペーパー作成
13	シェイプアップの効果検証	＜トレセン＞ ①グループワーク ② Inbody による身体組成の分析、柔軟性の測定 ③各測定の評価を行い正確に記録する ④運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
14	シェイプアップの評価・総括・レポート作成	＜トレセン＞ ①グループワーク ②測定結果を共有し、考察する ③これまでの学修過程の整理 ④秋学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートの書式など ⑤秋学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。

授業ではシェイプアップを目的としたトレーニングを実践していくため、各自で体調を整え授業に参加してください。そのためにも、トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行った前後のバイタルチェックを行ったり、授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1．伊藤マモル著，若さを伸ばすストレッチ，平凡社新書
2．伊藤マモル監，ひとりで巻けるテーピング，日本文芸社
3．伊藤マモル監，基本のストレッチ，主婦の友社
4．斎藤真嗣著，体温を上げると健康になる，サンマーク出版
5．山本ケイイチ著，仕事ができる人はなぜ筋トレをするか，幻冬舎新書
6．山本利春著，疲れたときは、からだを動かす，岩波書店
7．吉江和彦著，エグゼクティブが身体を鍛えるワケ，グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は**到達目標に示した８項目**に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1．授業中のトレーニングへの参画状況： **30 %**
2．リアクションペーパー： **30 %**
3．秋学期の学修過程をまとめたレポート： **40 %**

※　以上の成績評価基準は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により本授業におけるトレーニングが困難である履修者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

日ごろの運動不足解消に役立ち、実際に体脂肪の減少や一定のシェイプアップ効果が得られたのどの声がリアクションペーパーや授業改善アンケートに見られたことから、授業内容は大変好評であったと理解した。そのため、今年度も同様な授業展開を行うとともに、自宅で行える自重トレーニングなどを積極的に紹介したい。

【学生が準備すべき機器他】

1）運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
2）活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能なスマートホン

【その他の重要事項】

1．**スポーツ科学Ａ**を履修せずに、**スポーツ科学Ｂ**のみを履修することは認めません。

基本的に**スポーツ科学Ａ**の単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、**スポーツ科学Ａ**の単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。

2．授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline and objectives】

The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester.

This class is active learning type.
In this class we practice stretching, jogging and strength training.
Your body that has decayed will be shape up if you participate in this class.
Through this class, you can acquire the necessary knowledge and practical skills to prepare the mind and body condition.

HSS300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**脱運動不足と健康づくり・ベーシックコース**

伊藤　マモル

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【概要】
この授業は２年生以上が対象です。
運動不足で衰えた身体機能を健康づくりの３本柱（ストレッチング・ジョギング・ストレングス）で改善していくためのゼミナールです。健康の保持増進に必要な運動プログラムを作成し、その効果を検証するアクティブラーニング型の授業であり、**履修者が主体となり能動的に**進めます。

【到達目標】
1 ：トレーニングの原理・原則を理解している
2 ：スマートホンのアプリケーションを使用して必要な測定ができる
3 ：ストレッチングを正しく行える
4 ：ジョギングまたはウォーキングを正しく行える
5 ：ストレングストレーニングを安全に行える
6 ：実践した運動の結果を正しく記録できる
7 ：スポーツや運動の功罪を説明できる
8 ：実践した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本授業の開始日は 5 月 7 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	＜教室＞ ①シラバスの確認（授業概要と到達目標の説明） ②授業の進め方およびルールと評価方法 ③授業計画 ④受講者の決定 ⑤使用する施設・器材についての解説 ⑥授業支援システムへのメールアドレス登録と Google フォームの実施
2	課題検討期Ⅰ・講義	＜教室＞ ①トレーニングの基礎理論 ②トレーニングの効果 ③さまざまなトレーニング方法 ④リアクションペーパー作成

3	課題検討期Ⅱ・測定と評価	＜トレセン＞ ① Inbody による身体組成分析 ②柔軟性および筋力測定 ③測定結果の評価 ④測定の分析レポートについて ⑤リアクションペーパー作成
4	課題検討期Ⅲ・有酸素運動とストレッチング	＜トレセン＞ ①ランニングマシンを用いたカルボーネン法の実践 ②ストレッチングの理論と実践 ③リアクションペーパー作成
5	課題検討期Ⅳ・摂取エネルギー量調査	＜教室＞ ①食事調査からカロリー計算による食事（摂取）・運動（消費）のバランスを考える ②リアクションペーパー作成
6	課題検討期Ⅴ・トレーニングマシンの基本操作	＜トレセン＞ ①トレーニングマシンの操作方法確認 ②リアクションペーパー作成
7	計画立案期Ⅰ・最大筋力測定	＜トレセン＞ ①指定されたトレーニングマシンによる最大筋力を推定法によって算出する ②リアクションペーパー作成
8	計画立案期Ⅱ・運動プログラム試作	＜教室＞ ①グループワーク ②運動プログラムを試作する ③リアクションペーパー作成
9	計画実行期Ⅰ・試作プログラムの確認	＜トレセン＞ ①試作した運動プログラムの実践と確認および改修を行う ②実施した運動を記録する ③リアクションペーパー作成
10	計画実行期Ⅱ・試作プログラムの種目の改修	＜トレセン＞ ①作成した運動プログラムの運動種目を修正する ②実施した運動を記録する ③リアクションペーパー作成
11	計画実行期Ⅲ・試作プログラムの強度の改修	＜トレセンまたは教室＞ ①作成した運動プログラムの運動強度とセット数を修正する ②実施した運動を記録する ③リアクションペーパー作成
12	計画実行期Ⅳ・プログラムの実践	＜トレセン＞ ①運動プログラムの実践 ②実施した運動を記録する ③リアクションペーパー作成
13	計画実行・効果検証期	＜トレセン＞ ①実践してきた運動の効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
14	反省改善期・総括	＜トレセン＞ ①春学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前日までに、可能な限り、シラバスに記載されている授業内容についての情報収集を行い（インターネットや図書館などで）、授業に参加してください。特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

授業後は積極的にクラスメートと情報交換を行い、その結果を踏まえ Google フォームでの振り返りを作成し、次回の授業に活かしてください。また、トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を復習してください。なお，これらの予習・復習のために要する時間は，それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1．伊藤マモル著，若さを伸ばすストレッチ，平凡社新書
2．伊藤マモル監，ひとりで巻けるテーピング，日本文芸社
3．伊藤マモル監，基本のストレッチ，主婦の友社
4．斎藤真嗣著，体温を上げると健康になる，サンマーク出版
5．山本ケイイチ著，仕事ができる人はなぜ筋トレをするか，幻冬舎新書
6．山本利春著，疲れたときは、からだを動かす，岩波書店
7．吉江和彦著，エグゼクティブが身体を鍛えるワケ，グラフ社

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始後、授業運営が落ち着いた時点で学習支援システムを利用して周知します。

【学生の意見等からの気づき】

履修者自身が自らトレーニング内容を決め、自由に実践して、効果を検証できることについて、大変好評であったため、今年度も同様な授業展開を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

1）運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
2）活動量や心拍数を計測できるアプリケーションがダウンロードできるスマートホン

【その他の重要事項】

1. 授業 1 回目のガイダンスにおいて、履修希望者が 20 名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 1 を踏まえ、教養ゼミⅡまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 教養ゼミⅠの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期の教養ゼミⅡの受講を認めません。

4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

5. 授業を担当する教員はＪＯＣ医科学スタッフであるため、国際大会への帯同などの出張によって授業計画が変更される場合があります。ただし、その場合はトレセンでの自主的なゼミ活動または補講などによって休講になった授業を補うなどの対応をします。

【Outline and objectives】

The subject is over 2nd grade.
In this class we practice stretching, jogging and strength training.
It is an active learning type to realize the effect of exercise to solve the lack of exercise.
Students must create their own training programs and verify their effectiveness.
Students have to act positively in class.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**脱運動不足と健康づくり・アドバンスコース**

伊藤　マモル

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教養ゼミⅡは、「教養ゼミⅠ・脱運動不足と健康づくり（ベーシックコース）：木曜日 2 限」の応用科目です。そのため、本ゼミの基礎科目である**教養ゼミⅠの単位取得者**が履修できます。
基本的な授業形式は教養ゼミⅠと同様ですが、教養ゼミⅠよりも**体験や実習に多くの時間を割く**ことで、「よくわかっていること」を「できること」に変えていくという応用的な実践力を養い、その成果をレポートとしてまとめます。

【到達目標】
1 ：目的に応じた運動方法を実践できる
2 ：目標達成に資する段階的な計画表を作成できる
3 ：段階的な計画を実行できる
4 ：一定期間実践した運動の効果を検証できる
5 ：検証した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ゼミ活動の１回目は体育館Ｂ１Ｆトレーニングセンター（以下、トレセン）です。
教養ゼミⅡでは、**教養ゼミⅠの反省改善期**に検討した課題を解決するためのトレーニングプログラムを作成し、トレーニングを積極的に行う（**履修者は授業に自主的・能動的に参加**）ことを目指します。そのため、ゼミの１回目からトレセンを使用し、秋学期を以下のように**３期**に分けて進めていきます。

1. 課題・計画を決める期間
自分自身の筋力測定と分析・評価を通じて、「夏季休暇前後の比較」を行った上で、教養ゼミⅡで取り組む課題を明確にします。

2. 実行と検証の期間
計画した運動を実行する期間であり、実施した内容を正確に記録するとともに、随時その結果を自己分析し次回のゼミ活動に活かします。

3. 総括・共有の期間
運動の効果を総括した結果をレポートにまとめ、ゼミ内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 課題・計画の検討期Ⅰ・測定	＜トレセン＞ ①シラバスの確認（授業概要と目標の説明） ② Inbody による身体組成の分析 ③柔軟性および筋力測定 ④各測定の評価を行い正確に記録する ⑤リアクションペーパー作成
2	課題・計画の検討期Ⅱ・測定結果の共有	＜教室＞ ①グループワーク ②測定結果を「夏季休暇の前後」で比較する ③グループ内で情報共有 ④新たな運動プログラムを模索する ⑤リアクションペーパー作成
3	課題・計画の検討期Ⅲ・教養ゼミⅠで作成したプログラムの実践	＜トレセン＞ ①教養ゼミⅡで取り組む課題を検討する ②教養ゼミⅠで作成したプログラムを再考する ③リアクションペーパー作成
4	課題・計画の決定期Ⅰ・トレーニングプログラムの再検討	＜トレセン＞ ①前回に引き続き運動プログラムを検証する ②プログラムに必要な主性を加える ③実施した内容を正確に記録する ④リアクションペーパー作成
5	課題・計画の決定期Ⅱ・トレーニングプログラムの確定	＜トレセン及び教室＞ ①取り組む課題を決定する ②トレーニングプログラムを実践する ③リアクションペーパー作成
6	実行期Ⅰ・トレーニングプログラムの見直し	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムを確認し見直す ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
7	実行期Ⅱ・トレーニングプログラムの強度とセット数の調整	＜トレセン＞ ①作成した運動プログラムの強度とセット数を調整する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
8	実行期Ⅲ・トレーニングプログラム条件の決定	＜トレセン及び教室＞ ①運動プログラムを実行し、強度とセット数を決定する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
9	実行期Ⅳ・トレーニングプログラムの実践	＜トレセン＞ ①運動プログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
10	実行期Ⅴ・トレーニングプログラムの種目の入れ替え	＜トレセン＞ ①運動プログラムの種目を見直し入れ替える ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
11	実行期Ⅵ・新トレーニングプログラムの仮決定	＜トレセン及び教室＞ ①種目を入れ替えた運動プログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
12	実行期Ⅶ・新トレーニングプログラムの効果検証	＜トレセン＞ ①グループワーク ②柔軟性および筋力測定 ③各測定の評価を行い正確に記録する ④運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する

13	総括・共有期Ⅰ・測定と分析	＜トレセン＞ ①グループワーク ②実践してきた運動の効果を検証するために Inbody の分析を行う ③測定結果を共有し、考察する ④これまでの学修過程の整理 ⑤リアクションペーパー作成
14	総括・共有期Ⅱ・レポート作成	＜トレセン＞ ①教養ゼミⅡにおいて取り組んだ学修過程と成果をまとめたレポートを提出する ②秋学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前日までに、可能な限り、シラバスに記載されている授業内容についての情報収集を行い（インターネットや図書館などで）、授業に参加してください。特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。
授業後は積極的にクラスメートと情報交換を行い、その結果を踏まえ Google フォームでの振り返りを作成し、次回の授業に活かしてください。また、トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を復習してください。なお，これらの予習・復習のために要する時間は，それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。
1．伊藤マモル著，若さを伸ばすストレッチ，平凡社新書
2．伊藤マモル監，ひとりで巻けるテーピング，日本文芸社
3．伊藤マモル監，基本のストレッチ，主婦の友社
4．斎藤真嗣著，体温を上げると健康になる，サンマーク出版
5．山本ケイイチ著，仕事ができる人はなぜ筋トレをするか，幻冬舎新書
6．山本利春著，疲れたときは、からだを動かす，岩波書店
7．吉江和彦著，エグゼクティブが身体を鍛えるワケ，グラフ社

【成績評価の方法と基準】
単位認定は**到達目標**に示した**5項目**に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。
1．授業で提示した課題のレポート： **30 %**
2．授業におけるリアクションペーパー： **30 %**
3．秋学期の学修過程をまとめたレポート： **40 %**

【学生の意見等からの気づき】
履修者自身が自らトレーニング内容を決め、自由に実践して、効果を検証できることについて、大変好評であったため、今年度も同様な授業展開を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
1）運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
2）活動量や心拍数を計測できるアプリケーションがダウンロードできるスマートホン

【その他の重要事項】
1．教養ゼミⅠを履修せずに、教養ゼミⅡのみを履修することは認めません。
基本的に教養ゼミⅠの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、教養ゼミⅠの単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。
2．授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline and objectives】
The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester.
In this class we practice stretching, jogging and strength training.
It is an active learning type to realize the effect of exercise to solve the lack of exercise.
Students must to make a more sophisticated training program compared with class 1 and verify the effect.
Students have to act positively in class.

HSS300LA

スポーツ科学Ａ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

西村　一帆

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更について
は、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月２７ 日とし、こ
の日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	ボールゲーム	さまざまなボールゲームを行う (講義と実習)。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える (講義)。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いた運動を行う (講義と実習)。
5	インディアカ、ソフトバレーボール	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う (講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う (講義と実習)。
7	卓球シングルス	ネットスポーツとして卓球のシングルスを行う (講義と実習)。
8	卓球ダブルス	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う (講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う (講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う (講義と実習)。

11	バレーボール変則ルール	ネットスポーツとして簡易ルールにてバレーボールを行う (講義と実習)。
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う (講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う (講義と実習)。
14	スポーツ分析	スポーツを数字から見る分析についての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %、期末レポート 20 %、授業への参画状況 20 % の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は，単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】
This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
therefore,students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical,
mental and social health necessary throughout the students future of life.Concretely,we will educate to maintain and promote their own health,to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

西村　一帆

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目で週 1 回、半期にわたって開講される。学科を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	ボールゲーム	さまざまなボールゲームを行う (講義と実習)。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える (講義)。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いた運動を行う (講義と実習)。
5	インディアカ、ソフトバレーボール	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う (講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う (講義と実習)。
7	卓球シングルス	ネットスポーツとして卓球のシングルスを行う (講義と実習)。
8	卓球ダブルス	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う (講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う (講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う (講義と実習)。

11	バレーボール変則ルール	ネットスポーツとして簡易ルールにてバレーボールを行う (講義と実習)。
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う (講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う (講義と実習)。
14	スポーツ分析	スポーツを数字から見る分析についての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を確認し十分な出席がされていれば以下のように評価する。
授業の取組み平常点 40 点
授業内課題 40 点
レポート課題 20 点
以上 100 点満点で、総合的に判断して授業担当教員が評価する。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】
This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
therefore,students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students future of life.Concretely,we will educate to maintain and promote their own health,to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**身体活動による心身の変化と健康（1）**

林　容市

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では「身体活動による生理学的効果」,「身体活動の心理的効果」,「健康関連情報の取捨選択」,「身体活動と健康」の 4 つをテーマに学習を進めて行きます。

【到達目標】
・身体活動による生理的および心理的効果についてエビデンスに基づく知識・情報を学ぶ
・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。
・現在の自らの身体状態や運動を含む生活習慣を適切に把握・評価できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業の目的の達成には，いかにその課題を解決するかを「考え，実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ，身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。
その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し，授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また，授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお，身体活動の実践に向けた計画や，個人の考え・意見をまとめたプレゼンテーションを求め，評価の一部とします。
なお，春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示しますので注意してください。本授業の開始日は 4 月 21 日を予定していますので、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認，身体活動によって得られる効果のエビデンスを学ぶ
第 2 回	身体活動に対する先行研究のまとめと活動内容の発表	自身が探索したい身体活動による効果（筋量の増大，筋パワーの向上，減量等）について報告する（プレゼンテーション）
第 3 回	身体活動によって変化する生理的要因 1	身体活動によって生じる体脂肪や骨格筋の変化について学ぶ
第 4 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 1	身体組成（体脂肪量・骨格筋量）の測定方法とその原理を学ぶ（演習）
第 5 回	身体活動によって変化する生理的要因 2	骨格筋の役割とトレーニングによる変化について学ぶ
第 6 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 2	骨格筋の増大に向けたトレーニング法の実際について学ぶ（演習）
第 7 回	身体活動によって変化する生理的要因 3	有酸素性運動時の生理的状態と効果について学ぶ
第 8 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 3	有酸素性運動時の循環器系機能の実際および自覚的運動強度について学ぶ（演習）
第 9 回	身体活動によって変化する生理的要因 4	身体活動時の運動強度・種目に依存したエネルギー消費について学ぶ
第 10 回	身体活動に影響するエネルギー摂取の影響	身体の変化に影響を及ぼす栄養学的要因（食事）について学ぶ
第 11 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 1	学んだ知識や情報に基づき，グループで脂肪量減少に向けた身体活動案を提案する（プレゼンテーション）

第 12 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 2	学んだ知識や情報に基づき，グループで骨格筋量増大に向けた身体活動案を提案する（プレゼンテーション）
第 13 回	身体活動に関する心理要因 1	健康行動を発生・継続させるための心理要因を各自で調べ，グループで討論する。
第 14 回	身体活動に関する心理要因 2	健康行動を発生・継続させるための心理要因について学び，自らの生活に照らして達成を目指した計画を提案する（プレゼンテーション）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として，シラバスに記載されている授業内容に関し，事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で，毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また，授業ごとに内容を復習し，個人の考え・意見をまとめてから次回の授業に出席することを求めます。なお，これらの予習・復習のために要する時間は，それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて，または授業中に資料を配付します。

【参考書】
健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】
1）授業参画の状況と理解度（授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価）：80%，2）各回のプレゼンテーションの内容：20%，の配分で総合評価する。
※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため，「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。
なお，当面の間，オンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更します。
具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
新規開講科目のため，特になし。

【学生が準備すべき機器他】
種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので，必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には，事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】
本授業は，授業目的を達成する活動に際して教場等の制限があるため，履修者を最大 20 名とします。第 1 回目の授業時において履修希望者が 20 名を超えた場合には，履修人数の制限を行います。そのため，第 1 回目の授業には必ず出席してください。体調不良等でどうしても出席できない場合には，事前に市ヶ谷保健体育センターに履修希望を届け出た学生のみ履修の可能性を有することとします。
なお，本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず，他者への助言も可能になる知識や情報，さらにはその解釈について学習することを目的にしています。そのため，授業を通じて運動やトレーニングの実践のみを希望する者の履修は認めません。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to understand the physiological and psychological benefits accompany physical activity, sift through the evidence the health-related information, and the understanding of the relationship between physical activity and health.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**身体活動による心身の変化と健康（2）**

林　容市

開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 曜日・時限：**火 4/Tue.4**
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は，目的や対象に合わせた身体活動が実践できるようになることを目的に内容を構成しています。単に体重の減量・体脂肪の減少，骨格筋の増大のための方法を学ぶだけでなく，健康や QoL の本質を理解した上で受講者自身が身体活動を実践でき，他者へも適切な助言ができるための知識や情報を学び，それらを取捨選択できる能力の獲得を目指します。

【到達目標】
・目的に応じて身体活動の内容を適切に構築することができる。
・対象者に合わせた身体活動実践の助言ができる。
・適切な分析方法や表現を用いて身体活動に関するエビデンスを報告できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業の目的の達成には，いかにその課題を解決するかを「考え，実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ，身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。
その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し，授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また，授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお，授業後半においては，受講者自身が行う身体活動の実践状況の報告を行い，最終的な結果の報告や実践を通じた感想，考え・意見などのプレゼンテーションを求め評価の一部とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認，情報選択の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンスを学ぶ
第 2 回	様々な対象における健康の考え方 1	肥満や痩せに関連する生理的・心理的要因について学ぶ
第 3 回	様々な対象における健康の考え方 2	青年期の健康と身体活動について学ぶ
第 4 回	身体活動のプログラム作成の実際 1	目的に応じて身体活動プログラムを作成して討論し，実践する（演習）
第 5 回	身体活動のプログラム作成の実際 2	前回作成した内容の実践結果を踏まえて身体活動プログラムを修正し，実践する（演習）
第 6 回	健康関連情報の取捨選択 1	日本人の健康状態と新たな健康づくりを学ぶ
第 7 回	健康関連情報の取捨選択 2	今日の健康における様々な社会問題の関与を学ぶ
第 8 回	身体活動と心身の健康	生活習慣病の成因と身体活動との関係を学ぶ

第 9 回	身体活動と心身の健康 2	痩身志向の要因と過度な痩身による生理的状態を学ぶ
第 10 回	身体活動や健康に関する情報のアウトプット	関連分野におけるエビデンスとして必要となる情報や表現・表記方法を学ぶ（演習）
第 11 回	身体活動の効果を測定・評価するための手法 1	身体活動の効果を測定するために必要な生理的・心理的手法を学ぶ（演習）
第 12 回	身体活動の効果を測定・評価するための手法 2	身体活動の効果を評価するために必要な分析方法を学ぶ（演習）
第 13 回	身体活動実践結果の報告	実践した身体活動の効果について客観的情報を踏まえて報告する（プレゼンテーション）
第 14 回	各自の身体活動に関する論議と授業のまとめ	各自が実践した内容を論議し，対象者目的に応じた身体活動に必要な知識や情報を学ぶ（演習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として，シラバスに記載されている授業内容に関し，事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で，毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また，授業ごとに内容を復習して個人の考え・意見をまとめた上で次回の授業に出席することを求めます。さらに，第 6 ～ 12 回においては，各自の身体活動の状況や結果の報告を求めますので，これらの回においては関連のデータをまとめる作業を行ってください。なお，これらの予習・復習のために要する時間は，それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて，または授業中に資料を配付します。

【参考書】
健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】
1）授業参画の状況と理解度（授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価）：60%，2）身体活動実践状況の報告内容：20%，3）最終プレゼンテーションの内容：20%，の配分で総合評価する。
※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため，「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】
新規開講科目のため，特になし。

【学生が準備すべき機器他】
種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので，必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には，事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】
本授業は，同一副題の教養ゼミⅠの単位を取得していることを履修の条件とします。
ただし，第 1 回目の授業において，履修希望者が定員（20 名）を下回っている条件下においてのみ，担当教員との面談により教養ゼミⅠの単位取得者と同等の知識・情報を有していると判断された場合には履修を認めます。
なお，本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず，他者への助言も可能になる知識や情報，さらにはその解釈について学習することを目的にしています。そのため，授業を通じて運動やトレーニングの実践のみを希望する者の履修は認めません。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to make it become able to practice physical activities tailored to targets for achievements and physical and mental individuality of the subjects. Besides, students aim at learning knowledge and information about the nature of health and QoL and acquire the ability to be able to provide appropriate advice to others about exercise, not simply learning the methods of how to weight and body-fat loss and skeletal muscle reinforcing.

LANf300LA

第三外国語としてのフランス語 A　2017 年度以降入学者

廣松　勲

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水 3**/Wed.3
単位数：**2 単位**
2～4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業開始日は、4 月 22 日（水）となります。】
フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】
実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級～5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎に加えて、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベの読み方 ・挨拶表現 ・数字 1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞 être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER 動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞 avoir ・否定の de ・疑問文 ・数字 11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方
8	中間試験	筆記試験または課題提出

9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞（aller, venir, vouloir）
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞 pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞 prendre, attendre
13	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞 devoir
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子，西部由里子著，『Vas-y !：初級フランス語　会話・文法そして文化』，駿河台出版社，2014 年.

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズのものでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。

宮原信他著，『ディコ仏和辞典』，白水社，2003 年.

西村牧夫他編訳，『ロベール・クレ　仏和辞典』，駿河台出版社，2011 年.

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

【当面の間、オンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更することになります。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に「学習支援システム」上で公開しますので、ご確認ください。

なお、以下の評価は、対面授業の実施を前提とした従来の評価方法であるので、ご注意ください。】

平常点 10 %、中間試験 30 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話部分）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third langage. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

LANf300LA

第三外国語としてのフランス語 B　2017 年度以降入学者

廣松　勲

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期のフランス語初級 I と継続して授業を進める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級〜5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎だけでなく、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 6 つづき Leçon 7	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・命令形 ・時の表現 人・ものを描写する ・IR 動詞（つづき） ・形容詞 ・動詞 savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・数量表現 ・名詞＋ à ＋不定詞 ・動詞 mettre
3	Leçon 8	時刻・天気を言う ・目的補語人称代名詞 ・非人称構文 ・動詞 connaître
4	Leçon 8	時刻・天気を言う ・数字 21〜69 ・動詞 faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞 ・日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・日常の活動を表す表現（つづき）
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・直説法単純未来 ・形容詞・副詞の比較級
8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・形容詞・副詞の最上級 ・特殊な優等比較級・優等最上級 ・指示代名詞

9	中間試験	筆記試験
10	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・数字 70～100 ・直説法複合過去 ・目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・代名動詞を含む複合過去 ・中性代名詞 en
12	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・直説法半過去 ・直説法複合過去と直説法半過去の違い
13	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・直接法大過去 ・中性代名詞 y と le ・様々な否定表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子，西部由里子著，『Vas-y !：初級フランス語　会話・文法そして文化』，駿河台出版社，2014 年.

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズのものでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著，『ディコ仏和辞典』，白水社，2003 年

西村牧夫他編訳，『ロベール・クレ　仏和辞典』，駿河台出版社，2011 年

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 %、中間試験 30 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話部分）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third langage. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

ARSa300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**移民社会とポピュリズム**

大中　一彌

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
2～4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界規模における経済的な相互依存が進むなかで、グローバル化への反発をその構成要素として含むポピュリズムが世界各国の政治をゆるがせています。このゼミでは、西ヨーロッパを中心に、東ヨーロッパや南北アメリカ、オセアニアを含む、いわゆる欧米地域における移民社会への反発と、「多数派」とされる有権者によるポピュリズム支持に焦点をあてながら、21 世紀の国際社会について考察します。

【到達目標】

必ずしも現代の西ヨーロッパについて専門的に学んだことのない方をふくめ、これからの時代を生きていく人びとに必要な民主主義にかんする教養（市民性の意味における citizenship）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

1．毎週の授業で簡単な話題提供（1 人５～10 分程度、大学配布の Gmail アカウントに付属する Google スライドを使う）

2．教科書や資料の輪読、映像の分析

3．1や2を踏まえた、授業支援システム「掲示板」へのコメント書き込み（教員 → 学生の一方通行ではなく、学生がお互いに刺激を与えあうため）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	参考書などからの話題提供（教員）→ 討論	学生はとくに準備の必要なし → 掲示板への書き込み
3	ポピュリズムとは何か①	学生による話題提供（の開始）→ 教科書 7-23 頁の講読 → 掲示板への書き込み
4	ポピュリズムとは何か②	学生による話題提供 → 教科書 23-35 頁の講読 → 掲示板への書き込み
5	世界中のポピュリズム①	学生による話題提供 → 教科書 37-53 頁の講読 → 掲示板への書き込み
6	世界中のポピュリズム②	学生による話題提供 → 教科書 53-65 頁の講読 → 掲示板への書き込み
7	ポピュリズムと動員①	学生による話題提供 → 教科書 67-79 頁の講読 → 掲示板への書き込み
8	ポピュリズムと動員②	学生による話題提供 → 教科書 79-93 頁の講読 → 掲示板への書き込み
9	ポピュリズムの指導者①	学生による話題提供 → 教科書 95-107 頁の講読 → 掲示板への書き込み

10	ポピュリズムの指導者②	学生による話題提供 → 教科書 107-119 頁の講読 → 掲示板への書き込み
11	ポピュリズムとデモクラシー①	学生による話題提供 → 教科書 121-132 頁の講読 → 掲示板への書き込み
12	ポピュリズムとデモクラシー②	学生による話題提供 → 教科書 132-143 頁の講読 → 掲示板への書き込み
13	原因と対応	学生による話題提供 → 教科書 145-176 頁の講読 → 掲示板への書き込み
14	まとめ	シラバス第 13 回までの内容がこなせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（ア）教科書の次回の範囲を予習してきてください。
（イ）指定するネット上の場所に、話題提供用のリンクを授業前に貼り付けてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
カス・ミュデ&クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム　デモクラシーの友と敵』永井大輔&髙山裕二訳、白水社、2018 年。
　この教科書は法政大学図書館に所蔵があるが、山手線コンソーシアムに参加する近隣の他大学図書館にも複数の所蔵がある。Cf. http://opac.lib.hosei.ac.jp/hybrid/
　また、都道府県や市区町村が運営する公立図書館にも所蔵がある。どの公立図書館にこの教科書が所蔵されているかについては、日本図書館協会のサイトなどを利用することにより都道府県ごとに横断検索できる。Cf. http://www.jla.or.jp/link/link/tabid/167/Default.aspx#sogo

【参考書】
Dominique Reynié, Populismes : la pente fatale, Plon, 2011.
Raphaël Doan, Quand Rome inventait le populisme, Les éditions du Cerf, 2019.

【成績評価の方法と基準】
（ア）期末試験：実施しない（0%）
（イ）期末レポート：実施しない（0%）
（ウ）授業への参加 - 平常点（15%）
（エ）授業への参加 - 掲示板への書き込み（15%）
（オ）学生による話題提供 - スライドなどの準備（15%）
（カ）学生による話題提供 - 授業での発表（15%）
（キ）教科書の予習 (15%)
（ク）授業での集中度、討論などへの取り組み姿勢（15%)
（ケ）その他 - 運営協力や講師のミスの指摘（10%）

【学生の意見等からの気づき】
いわゆる「滑舌」が悪いので、学生の皆さんが聞きやすいように留意する。

【学生が準備すべき機器他】
※新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた、日本政府の緊急事態宣言を受け、法政大学ではキャンパスへの入構が禁止になっています。そのため、この授業では Google Hangouts Meet を利用した遠隔授業を当面のあいだ実施します。詳しいことは Hoppii を参照してください。
※ Google Classroom を使用します。クラスコードは njritwu です。法政大学から配られたメールアドレスを使ってログインしてください。
①連絡は、基本的にすべてウェブ上（授業支援システムと電子メール）で行ないます。
②パソコン、タブレット等を用いたプレゼンテーションを歓迎しています。
③学外から法政大学図書館のオンラインデータベースが利用できるよう、VPN 接続の使い方をマスターしてください。
④法政大学が提供している VPN 接続については「全学ネットワークシステムユーザ支援 WEB サイト／ VPN サービス」を検索、参照してください。

【その他の重要事項】
①市ヶ谷キャンパスの法政大学各学部の学生だけでなく、社会学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、各種コンソーシアムの他大学の学生の履修を歓迎します。
②学外の方でこの科目のみの聴講を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。
③参考書にはフランス語の文献があげてありますが、履修にあたりフランス語の能力は要求していません。

【Outline and objectives】
This seminar is an introduction to the multiple facets of French culture, history, and society. Open to students with little or no previous instruction in French, this seminar will enable students to attain a basic understanding of Mainland France and its terroirs.

ARSa300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**移民社会とポピュリズム**

大中　一彌

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界規模における経済的な相互依存が進むなかで、グローバル化への反発をその構成要素として含むポピュリズムが世界各国の政治をゆるがせています。このゼミでは、西ヨーロッパを中心に、東ヨーロッパや南北アメリカ、オセアニアを含む、いわゆる欧米地域における移民社会への反発と、「多数派」とされる有権者によるポピュリズム支持に焦点をあてながら、21 世紀の国際社会について考察します。

【到達目標】
必ずしも現代の西ヨーロッパについて専門的に学んだことのない方をふくめ、これからの時代を生きていく人びとに必要な民主主義にかんする教養（市民性の意味における citizenship）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1．毎週の授業で簡単な話題提供（1 人５〜10 分程度、大学配布の Gmail アカウントに付属する Google スライドを使う）
2．教科書や資料の輪読、映像の分析
3．1や2を踏まえた、授業支援システム「掲示板」へのコメント書き込み（教員 → 学生の一方通行ではなく、学生がお互いに刺激を与えあうため）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	参考書などからの話題提供（教員）→ 討論	学生はとくに準備の必要なし → 掲示板への書き込み
3	現代政治の歴史的文脈　列柱社会／オランダにおける「保守主義型福祉国家」の成立	学生による話題提供（の開始）→ 教科書 1-27 頁の講読 → 掲示板への書き込み
4	中間団体政治の形成と展開／大陸型福祉国家の隘路	学生による話題提供 → 教科書 28-57 頁の講読 → 掲示板への書き込み
5	福祉国家改革の開始／パートタイム社会オランダ	学生による話題提供 → 教科書 57-100 頁の講読 → 掲示板への書き込み
6	ポスト近代社会の到来とオランダモデル	学生による話題提供 → 教科書 100-111 頁の講読 → 掲示板への書き込み
7	移民問題とフォルタイン	学生による話題提供 → 教科書 113-139 頁の講読 → 掲示板への書き込み
8	フォルタイン党の躍進とフォルタイン殺害	学生による話題提供 → 教科書 139-165 頁の講読 → 掲示板への書き込み
9	パルケネンデ政権と政策転換	学生による話題提供 → 教科書 165-182 頁の講読 → 掲示板への書き込み
10	ファン・ゴッホ殺害事件	学生による話題提供 → 教科書 182-193 頁の講読 → 掲示板への書き込み
11	ウィンデルス自由党の躍進	学生による話題提供 → 教科書 193-212 頁の講読 → 掲示板への書き込み
12	福祉国家改革と移民	学生による話題提供 → 教科書 214-227 頁の講読 → 掲示板への書き込み
13	脱工業社会における言語・文化とシティズンシップ	学生による話題提供 → 教科書 227-243 頁の講読 → 掲示板への書き込み
14	まとめ	シラバス第 13 回までの内容がこなせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（ア）教科書の次回の範囲を予習してきてください。
（イ）指定するネット上の場所に、話題提供用のリンクを授業前に貼り付けてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
水島治郎『反転する福祉国家　オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019 年。
　この教科書は法政大学図書館に所蔵があるが、山手線コンソーシアムに参加する近隣の他大学図書館にも複数の所蔵がある。Cf. http://opac.lib.hosei.ac.jp/hybrid/
　また、都道府県や市区町村が運営する公立図書館にも所蔵がある。どの公立図書館にこの教科書が所蔵されているかについては、日本図書館協会のサイトなどを利用することにより都道府県ごとに横断検索できる。Cf. http://www.jla.or.jp/link/link/tabid/167/Default.aspx#sogo

【参考書】
ギュスターヴ・ル・ボン『群衆心理』櫻井成夫訳、講談社学術文庫、1993 年。
エリアス・カネッティ『群衆と権力』（上・下）岩田行一訳、法政大学出版局、1971 年。

【成績評価の方法と基準】
（ア）期末試験：実施しない（0%）
（イ）期末レポート：実施しない（0%）
（ウ）授業への参加 - 平常点（15%）
（エ）授業への参加 - 掲示板への書き込み（15%）
（オ）学生による話題提供 - スライドなどの準備（15%）
（カ）学生による話題提供 - 授業での発表（15%）
（キ）教科書の予習 (15%)
（ク）授業での集中度、討論などへの取り組み姿勢（15%)
（ケ）その他 - 運営協力や講師のミスの指摘（10%）

【学生の意見等からの気づき】
いわゆる「滑舌」が悪いので、学生の皆さんが聞きやすいように留意する。

【学生が準備すべき機器他】
①連絡は、基本的にすべてウェブ上（授業支援システムと電子メール）で行ないます。
②パソコン、タブレット等を用いたプレゼンテーションを歓迎しています。
③学外から法政大学図書館のオンラインデータベースが利用できるよう、VPN 接続の使い方をマスターしてください。
④法政大学が提供している VPN 接続については「全学ネットワークシステムユーザ支援 WEB サイト／ VPN サービス」を検索、参照してください。

【その他の重要事項】
①市ヶ谷キャンパスの法政大学各学部の学生だけでなく、社会学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、各種コンソーシアムの他大学の学生の履修を歓迎します。
②学外の方でこの科目のみの聴講を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。

【Outline and objectives】
This seminar is an introduction to the multiple facets of French culture, history, and society. Open to students with little or no previous instruction in French, this seminar will enable students to attain a basic understanding of Mainland France and its terroirs.

ARSa300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**フランス語圏文化への招待**

ジョルディ・フィリップ

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Pendant ce premier semestre, les étudiants, individuellement ou en petits groupes, présentent un thème social, culturel ou historique sur un ou plusieurs pays de la francophonie. Chaque thème continue ensuite d'être étudié pendant plusieurs séances pour permettre une recherche commune et un débat constructif entre tous les étudiants.
Quelques exemples de thèmes possibles : aires francophones (Europe francophone, Amérique francophone, Afrique francophone, France d'outre-mer, etc.); colonisation ; immigration ; identité nationale et langue ; cultures populaires francophones ; cinéma ou chanson francophone ; etc.

【到達目標】
Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Ce cours prépare directement à un séjour en université francophone (cf. la méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau B1+) ou "kentei-shiken". (この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業開始日：２０２０年４月２４日（金）
Ce séminaire se déroule en français même si, parfois, le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis.
Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue ensuite l'étude de ce thème pendant deux ou trois séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites, grâce à la pratique des moyens de recherche suivants :
- résumé écrit ou oral.
- note de synthèse.
- commentaire de texte.
- dissertation (technique de plan, développement, rédaction), etc.

Nous pourrons aussi prolonger la discussion en dehors du cours : événements culturels divers (film, exposition, concert), visite ou excursion...

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes - attribution des premiers exposés
②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales
⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	Dissertation personnelle rendue à ce dernier cours

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.
(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は２～４時間を標準とします。)

【テキスト（教科書）】

Il n'y a pas de manuel mais des polycopiés, souvent distribués.
(プリント配布)

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.
(仏仏辞典の持参が望ましい)
Des ouvrages de référence pourront être proposés selon les thèmes abordés.

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、
成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faudra apprendre, retenir et réemployer les expressions et mots nouveaux (mini-tests de contrôle possibles).

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL ; mais les étudiants sont libres d'enregistrer son et images s'ils le désirent.

【Prerequisite】

Un niveau A2/B1 est absolument nécessaire pour suivre ce cours de type séminaire.

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline and objectives】

During this first semester, students present - individually or in small groups - a social, cultural or historical theme on one or more countries of the French-speaking world. Each theme then continues to be studied over several sessions to allow for joint research and constructive debate among all students.
Some examples of possible themes: French-speaking areas (French-speaking Europe, French-speaking America, French-speaking Africa, overseas France, etc.); colonization; immigration; national identity and language; French-speaking popular cultures; French-speaking cinema or songs; etc.

ARSa300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**フランスの現代社会**

ジョルディ・フィリップ

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Pendant ce second semestre, les étudiants, individuellement ou en petits groupes, présentent un thème social, culturel ou historique sur la France. Chaque thème continue ensuite d'être étudié pendant plusieurs séances pour permettre une recherche commune et un débat constructif entre tous les étudiants.
Quelques exemples de thèmes possibles : la crise sociale (les oppositions populaires aux "réformes"); histoire de la Ve République ; l'immigration ; la France dans l'Union Européenne ; les atouts de la France ; etc.

【到達目標】
Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Ce cours prépare directement à un séjour en université francophone (cf. la méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau B1+) ou "kentei-shiken"(à partir du niveau 2). (この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Ce séminaire se déroule en français même si, parfois, le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis.
Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue ensuite l'étude de ce thème pendant deux ou trois séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites, grâce à la pratique des moyens de recherche suivants :
- résumé écrit ou oral.
- compte-rendu de lecture ou de débat.
- commentaire de texte.
- dissertation (technique de plan, développement, rédaction), etc.

Nous pourrons aussi prolonger la discussion en dehors du cours : événements culturels divers (film, exposition, concert), visite voire excursion...

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes portant sur la France contemporaine - attribution des premiers exposés
②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales
⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	Dissertation individuelle rendue à ce dernier cours

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Ce cours demande une présence, une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.
(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は２〜４時間を標準とします。)

【テキスト（教科書）】
Des polycopiés seront distribués (プリント配布).
Une liste d'ouvrages, adaptés aux thèmes retenus, sera aussi distribuée pour des lectures recommandées.

【参考書】
Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】
40% = participation (prise de parole, résumés, mini-tests, etc.) (積極性)
30% = exposé personnel de présentation (個人発表)
30% = devoir final (dissertation ou compte-rendu de lecture) (リポート)

【学生の意見等からの気づき】
Avant et après chaque séance, il faudra apprendre et réemployer les expressions et mots nouveaux (mini-tests de contrôle possibles).

【学生が準備すべき機器他】
Ce cours se déroule dans une classe LL. Les étudiants sont libres d'enregistrer son et images.

【Prerequisite】
Un niveau A2/B1 est absolument nécessaire pour suivre ce cours de type séminaire.

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【Outline and objectives】
During this second semester, students, individually or in small groups, will present a social, cultural or historical theme about France. Each theme then continues to be studied over several sessions to allow for joint research and constructive debate among all students.
Some examples of possible themes: the social crisis (popular oppositions to "reforms"); history of the Fifth Republic; immigration; France in the European Union; the assets of France; etc.
This is a seminar aimed at developing academic skills.
Intermediate and advanced level in French (B1/B2).

LANf300LA
フランス語コミュニケーション (中・上級) A
2017 年度以降入学者

ジョルディ・フィリップ

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Dans ce cours, nous étudierons quelques textes de la littérature française ou francophone des XXe et XXIe siècles. Avec le plaisir de leur lecture, nous découvrirons leurs auteurs et le contexte culturel de leur production (histoire, localisation, genre et effets littéraires). Autant que possible, le visionnage de scènes de films ou de documentaires correspondants viendront compléter ces études.

【到達目標】
Ce cours s'adresse à des étudiants relativement confirmés (niveau A2), notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Il prépare aussi aux examens de type DELF ou "Kentei-shiken". Le plaisir de la lecture se doublera d'une meilleure compréhension et production de l'écrit, sans oublier l'oral.
(この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業開始日：２０２０年４月２３日（木）
L'étude porte sur la lecture, la compréhension et la reproduction de textes écrits. Divers exercices, faciles d'accès et gradués, seront proposés. Périodiquement, un ou plusieurs élèves présenteront un travail plus important (fiche ou compte-rendu de lecture, explication de texte, résumé-analyse, exposé). Des activités orales (jeu de rôle, théâtre), ainsi que le visionnage d'extraits de films ou de documentaires, compléteront ce travail sur l'écrit.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours et de la méthode.
②	Le Petit Prince, d'Antoine de Saint-Exupéry	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
③	L'oeuvre de Saint-Exupéry	Critique du Petit Prince. Présentation d'autres oeuvres de Saint-Exupéry.
④	Désert, de J-M-G Le Clézio	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑤	L'oeuvre de Le Clézio	Critique de Désert. Présentation d'autres oeuvres de Le Clézio.
⑥	Les Soleils des indépendances, d'Ahmadou Kourouma	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑦	Les écrivains francophones d'Afrique	Critique des Soleils des indépendances. Présentation d'autres oeuvres de la littérature africaine francophone.
⑧	Une enfance créole, de Patrick Chamoiseau	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑨	Les écrivains francophones de la Caraïbe.	Critique d'une Enfance créole. Présentation d'autres oeuvres francophones des Amériques.
⑩	L'Amant, de Marguerite Duras	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑪	L'oeuvre de Marguerite Duras	Critique de l'Amant. Présentation d'autres oeuvres de Duras.
⑫	La Condition humaine, d'André Malraux	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑬	L'oeuvre d'André Malraux. Les écrivains "engagés".	Critique de La Condition humaine. Panorama de quelques auteurs engagés.

⑭	Cannibale, de Didier Daeninckx	L'oeuvre de Didier Daeninckx. L'essor de la littérature policière en France.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Ce cours demande une présence, une préparation et une participation très régulières. Des exercices sont donnés en fin de cours, qui seront corrigés au début du cours suivant.
(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は２時間以上を標準とします。)

【テキスト（教科書）】
Pas de manuel, mais des polycopiés souvent distribués. (プリント配布)

【参考書】
Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant doit déjà posséder.
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、
成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
L'accent sera mis sur les techniques de présentation à l'oral (débats et exposés) comme à l'écrit (compte-rendu, résumé, technique de plan, dissertation).

【学生が準備すべき機器他】
Dans ce labo de langues (LL 教室), les étudiants peuvent enregistrer le son du cours et des supports de cours (録音機の持ち込み可）.

【Prerequisite】
Un niveau A2, au minimum, est recommandé pour s'inscrire à ce cours

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【Outline and objectives】
We will study, through some extracts, texts of French or French literature of the 20th and 21st centuries. Whenever possible, corresponding films or documentaries will complete these studies.
French Intermediate Level (A2/B1).

LANf300LA
フランス語コミュニケーション (中・上級) B
2017 年度以降入学者

ジョルディ・フィリップ

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Dans ce second semestre, les étudiants, individuellement ou en petit groupe, présentent un film francophone, dont ils analysent quelques scènes en détail. Chaque film choisi appartient à un genre cinématographique particulier.
D'autres types d'oeuvres pourront aussi être étudiés (chansons, textes, bandes dessinées, etc.)

【到達目標】
Ce cours continue, au second semestre, de s'adresser à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller.
Il prépare aussi aux examens de type DELF (niveau A2, B1...) ou "kentei-shiken". (この授業は中上級者向きです)
Par ailleurs, les étudiants donneront eux-mêmes leurs objectifs au premier cours d'orientation. Le programme de ce cours pourra alors être modifié selon leurs besoins.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Après la présentation d'un film francophone par un ou plusieurs étudiants, 3 scènes importantes de ce film seront choisies pour le travail de toute la classe. L'étude de ces scènes sélectionnées permettra d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites. Puis des exercices seront effectués en relation avec les scènes étudiées : technique du résumé écrit ou oral, substitution de dialogues, jeux de rôles, analyse stylistique ou cinématographique, révision des points de grammaire, expression des nuances, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation de ce cours de second semestre - attribution des premiers exposés (présentation d'un film)
②	FILM 1 (1)	Présentation critique du film 1, étude en commun d'une première scène
③	FILM 1 (2)	Étude d'une ou plusieurs scènes intermédiaires
④	FILM 1 (3)	Étude d'une ou plusieurs scènes finales
⑤	FILM 2 (1)	Mini-test sur film 1. Présentation critique du film 2, étude d'une première scène
⑥	FILM 2 (2)	Étude d'une ou plusieurs scènes intermédiaires
⑦	FILM 2 (3)	Étude d'une ou plusieurs scènes finales

⑧	FILM 3 (1)	Mini-test sur film 2. Présentation critique du film 3, étude d'une première scène
⑨	FILM 3 (2)	Étude d'une ou plusieurs scènes intermédiaires
⑩	FILM 3 (3)	Étude d'une ou plusieurs scènes finales
⑪	FILM 4 (1)	Mini-test sur film 3. Présentation critique du film 4, étude d'une première scène
⑫	FILM 4 (2)	Étude d'une ou plusieurs scènes intermédiaires
⑬	FILM 4 (3)	Étude d'une ou plusieurs scènes finales
⑭	Récapitulatif du cours	Mini-test sur film 4. Discussion sur les caractéristiques des films présentés : la notion de genre cinématographique ; rendu des derniers devoirs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Ce cours demande une préparation et une participation très régulières.
(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は２時間以上を標準とします。)

【テキスト（教科書）】
Pas de manuel mais des polycopiés, souvent distribués.
(プリント配布)

【参考書】
Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】
60% = participation (prise de parole, exercices, résumés, jeux de rôles, mini-tests) (積極性)
40% = exposé(s) personnel(s) de présentation (発表)

【学生の意見等からの気づき】
Avant et après chaque séance, il faudra apprendre puis réemployer les expressions ou mots nouveaux (mini-tests après l'étude de chaque film).

【学生が準備すべき機器他】
Le cours a lieu en salle LL mais les étudiants peuvent y amener tout instrument d'enregistrement du son.

【Prerequisite】
Un niveau A2 en français est nécessaire pour s'inscrire à ce cours

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【Outline and objectives】
Students, either individually or in small groups, present and analyse a french-language film. Each selected film belongs to a particular genre. A few scenes are then selected to be studied in depth by all the class. Intermediate level in French (A2/B1).

LANf300LA

フランス語講読 A

2017 年度以降入学者

竹本　研史

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「フランスの都市文化についてのフランス語文献を読む」
２年生の必修外国語より少し上のレベルのフランス語圏の都市文化に関するフランス語の文章を読むことで、フランス語の文法知識の確認と読解力の向上、そしてフランス語圏の都市文化についての理解の深化を目的とする。
自身の研究のためにフランス語文献が読める基礎を作りたい人、大学院進学を考えていてフランス語力向上の足場固めをしたい人、SA や派遣留学を予定していている人、必修外国語よりもう少し骨のある文章を読みたい人、仏検 3 級以上の取得を考えている人、そして何よりもフランス語の文章を読むこと、フランス語を勉強することそのものに快楽と悦びを感じる人。この授業はそんな皆さんのために開かれる荘厳な祝祭空間である。

【到達目標】
辞書や参考書で必死に時間をかけて調べながら、自力でフランス語の文章が読めるようになること。フランスの都市文化についての理解を深めること。それがすべてである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
【本授業は、4/24 金曜日 5 限から開始する。大学の方針により、当面は文字情報と音声を中心とした「学習支援システム」による授業を行うが、受講者のネット環境次第でビデオ会議ツールを用いた方式も取り入れる可能性がある。】
＊学習支援システムのほか、グーグル・クラスルームも使用するので、登録しておくこと。
教室コードは、l35ynbd である。
毎回、全員が当たるように指名し、当てられた学生が訳し、その一文の言わんとする内容を解釈する。教員が誤りをただし補足を入れながら、背景に存在する文法的・文化的知識を解説する。きわめて古典的な人文系大学教育の方法である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と進め方の紹介
第 2 回	文献の精読（1）	都市文化についての訳読と内容解説（1）
第 3 回	文献の精読（2）	都市文化についての訳読と内容解説（2）
第 4 回	文献の精読（3）	都市文化についての訳読と内容解説（3）
第 5 回	文献の精読（4）	都市文化についての訳読と内容解説（4）
第 6 回	文献の精読（5）	都市文化についての訳読と内容解説（5）
第 7 回	文献の精読（6）	都市文化についての訳読と内容解説（6）
第 8 回	文献の精読（7）	都市文化についての訳読と内容解説（7）

第 9 回	文献の精読（8）	都市文化についての訳読と内容解説（8）
第 10 階	文献の精読（9）	都市文化についての訳読と内容解説（9）
第 11 回	文献の精読（10）	都市文化についての訳読と内容解説（10）
第 12 回	文献の精読（11）	都市文化についての訳読と内容解説（11）
第 13 階	文献の精読（12）	都市文化についての訳読と内容解説（12）
第 14 回	文献の精読（13）	都市文化についての訳読と内容解説（13）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習： 1 年生で用いた教科書をよく復習しつつ、テクストの全訳、テクストに出てくるわからない文法・語法、単語・熟語などの確認、そして内容や背景に関する調べ物。以上で、各 2 時間は最低でも必要であろう。
復習：予習時に間違えた文法、語法、構文などの再確認。以上で 1 時間は見込まれる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
コピーを配布する。

【参考書】
教場にて指示する。

【成績評価の方法と基準】
【平常点［100 %］。授業時に当てた際の訳の質と文法・語法事項の理解度に基づく。また、課題に取り組んだ際の内容も含む。】
←4/19 変更

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of the French Reading Practice and of the French urban culture.

LANf300LA

フランス語講読 B

2017 年度以降入学者

竹本　研史

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「フランスの都市文化についてのフランス語文献を読む」
春学期に引き続き、2 年生の必修外国語より少し上のレベルのフランス語圏の都市文化に関するフランス語の文章を読むことで、フランス語の文法知識の確認と読解力の向上、そしてフランス語圏の都市文化についての理解の深化を目的とする。秋学期は春学期よりもややレベルを上げる。
自身の研究のためにフランス語文献が読める基礎を作りたい人、大学院進学を考えていてフランス語力向上の足場固めをしたい人、SA や派遣留学を予定していている人、必修外国語よりもう少し骨のある文章を読みたい人、仏検 3 級以上の取得を考えている人、そして何よりもフランス語の文章を読むこと、フランス語を勉強することそのものに快楽と悦びを感じる人。この授業はそんな皆さんのために開かれる荘厳な祝祭空間である。

【到達目標】
辞書や参考書で必死に時間をかけて調べながら、自力でフランス語の文章が読めるようになること。フランスの都市文化についての理解を深めること。それがすべてである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回、全員が当たるように指名し、当てられた学生が訳し、その一文の言わんとする内容を解釈する。教員が誤りをただし補足を入れながら、背景に存在する文法的・文化的知識を解説する。きわめて古典的な人文系大学教育の方法である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と進め方の紹介
第 2 回	文献の精読（1）	都市文化についての訳読と内容解説（1）
第 3 回	文献の精読（2）	都市文化についての訳読と内容解説（2）
第 4 回	文献の精読（3）	都市文化についての訳読と内容解説（3）
第 5 回	文献の精読（4）	都市文化についての訳読と内容解説（4）
第 6 回	文献の精読（5）	都市文化についての訳読と内容解説（5）
第 7 回	文献の精読（6）	都市文化についての訳読と内容解説（6）
第 8 回	文献の精読（7）	都市文化についての訳読と内容解説（7）
第 9 回	文献の精読（8）	都市文化についての訳読と内容解説（8）
第 10 階	文献の精読（9）	都市文化についての訳読と内容解説（9）
第 11 回	文献の精読（10）	都市文化についての訳読と内容解説（10）

第 12 回　文献の精読（11）	都市文化についての訳読と内容解説（11）
第 13 階　文献の精読（12）	都市文化についての訳読と内容解説（12）
第 14 回　文献の精読（13）	都市文化についての訳読と内容解説（13）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習： 1 年生で用いた教科書をよく復習しつつ、テクストの全訳、テクストに出てくるわからない文法・語法、単語・熟語などの確認、そして内容や背景に関する調べ物。以上で、2 時間は最低でも必要であろう。
復習：予習時に間違えた文法、語法、構文などの再確認。以上で 1 時間は見込まれる。

【テキスト（教科書）】
コピーを配布する。

【参考書】
教場にて指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点［100 %］。授業時に当てた際の訳の質と文法・語法事項の理解度に基づく。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of the French Reading Practice and of the French urban culture.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 A　2017 年度以降入学者

木部　敬

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語入門（前篇）。文字と発音、名詞の性と数、動詞の現在形、名詞の（単数形）対格。

【到達目標】
ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。ロシア語の最も基本的な表現（「〜は〜を〜する」）を理解し作り出すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期はオンラインでの開講となります。これにともなう授業計画の変更については、学習支援システムで順次提示するので、同システムの情報を常に確認するようにしてください。本授業の開始日は 5 月 6 日水曜とします。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。
初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。「第三外国語としてのロシア語Ｂ」とセットになっています。二つを合わせた授業全体のポイントは以下の 4 点です。1）文字と発音、2）名詞の性・数・格、3）動詞の現在形・過去形・未来形、4）動詞の不完了体と完了体。「第三外国語としてのロシア語Ａ」では、文字と発音の練習に十分時間をかけます。第 1 回から第 5 回までがこれにあてられますが、その後も継続します。その上で、最も初歩的な文法のみ（名詞の性・数、動詞の現在形、名詞の対格）を学習します。これらの文法を習得すれば、それだけで十分、ロシア語の最も基本的な表現を理解することができるようになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音 1	硬母音字、子音字、アクセント
第 2 回	文字と発音 2	軟母音字、半母音字、子音字、
第 3 回	文字と発音 3	硬子音と軟子音、軟音記号
第 4 回	文字と発音 4	発音の規則、子音字
第 5 回	文字と発音 5	無声子音と有声子音子音字、発音の規則、硬音記号
第 6 回	「これは誰ですか」	疑問文と平叙文、名詞の性
第 7 回	「彼はロシア人です」	名詞の性と形容詞の変化
第 8 回	「私の家族」	名詞の性と所有代名詞の変化
第 9 回	「私の両親」	名詞の複数形と所有代名詞の変化
第 10 回	「私は散歩しています」	人称代名詞、動詞の現在形（第 1 変化）
第 11 回	「私は話します」	動詞の現在形（第 2 変化）
第 12 回	「私は好きです」	動詞の現在形（不規則変化）
第 13 回	「私は魚が好きです」	名詞の対格
第 14 回	期末試験、まとめと解説	文法問題、露文和訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。復習では、単語や例文の暗記に積極的に取り組むようにしてください。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を配布する予定。教科書も辞書も急ぎ購入する必要はないので、とりあえず初回の授業に出席の上、オリエンテーションを聞くこと。

【参考書】
黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社。2009 年、東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】
春学期がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、5 月 6 日の授業開始以降、学習支援システムで提示します。以下は変更前の方法と基準です。参考にしてください。
期末試験 100 %。ロシア語は、文法学習の積み上げが大事な言語です。一歩一歩確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】
難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするよう努める。

【Outline and objectives】
Elementary Russian Part 1. The aim of this course is to learn the Cyrillic alphabet and pronunciation, and the most introductory grammar (the gender of nouns, nouns in singular and plural, the present tense of verbs, nouns in the accusative singular).

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 B　2017 年度以降入学者

木部　敬

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語入門（後編）。名詞の格、動詞の未来形と過去形、移動の動詞、動詞の体など。

【到達目標】
簡単な会話をロシア語で行える。必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またロシア語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。「第三外国語としてのロシア語Ａ」とセットになっています。二つを合わせた授業全体のポイントは以下の 4 点です。1）文字と発音、2）名詞の性・数・格、3）動詞の現在形・過去形・未来形、4）動詞の不完了体と完了体。「第三外国語としてのロシア語Ｂ」では、やや進んだ文法（名詞の格、動詞の未来形と過去形、動詞の不完了体と完了体）を学び、より複雑な表現を理解できるようになることを目指します。学期の最後には、必ず学ぶべき初級文法を一通りすべて学習し、ロシア語の全体像が見えるようになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「教えてください」	動詞の命令形
第 2 回	「私は話したいです」	動詞の現在形（不規則変化）
第 3 回	「どこへ行くのですか」	移動の動詞
第 4 回	「モスクワの地図」	名詞の生格
第 5 回	「私は持っています」	所有の表現
第 6 回	「何曜日ですか」	曜日の表現、数詞
第 7 回	「私は散歩するつもりです」	動詞の未来形
第 8 回	「モスクワで」	名詞の前置格と場所の表現
第 9 回	「あなたは何をしましたか」	動詞の過去形
第 10 回	「誰に書きますか」	名詞の与格
第 11 回	「アントンと」	名詞の造格
第 12 回	「あなたは解いてしまいましたか」	動詞の体と動詞の過去形
第 13 回	「私は解いてしまいます」	動詞の体と動詞の現在形および未来形
第 14 回	期末試験、まとめと解説	文法問題、露文和訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間時間を標準とします。復習では、単語や例文の暗記に積極的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を配布の予定。教科書も辞書も急ぎ購入する必要はないので、とりあえず授業に出席の上、オリエンテーションを聞くこと。

【参考書】
黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社。2009 年、東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %。ロシア語は、文法学習の積み上げが大事な言語です。一歩一歩確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】
難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするよう努める。

【Outline and objectives】
Elementary Russian Part 2. The aim of this course is to learn introductory grammar (the cases of nouns, the future and past tenses of verbs, verbs of motion, verb aspects, etc.) and to practice elementary conversation, reading and writing.

LANr300LA
第三外国語としてのロシア語中級 A
2017 年度以降入学者

三神　エレーナ

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月 3**/Mon.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語初級文法を終えた学生を対象とする読解・文法中心の授業です。 ロシアの社会・文化に関するテクストを読み、初級文法を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・ 会話能力も伸ばします。
この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 A2-B1 レベルの受験勉強にお役に立ちます。

【到達目標】
社会・文化に関する文書の朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシアの日常生活や文化についてのテクストや 現代文学のテクストの解読し、単語・文法練習、文章作成の練習、会話練習を行います。【更新事項】春学期の少なくとも前半はオンラインで゛の開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで゛その都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とする。具体的なオンライン授業の方法など゛を、学習支援システムで゛提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「自己紹介」(1)	テクストの読解、質疑応答、文法復習
2	「自己紹介」(2)	文法練習、作文練習
3	「家族」(1)	テクストの読解、質疑応答、文法復習
4	「家族」(2)	文法練習、作文練習
5	「家」(1)	テクストの読解、質疑応答、文法復習
6	「家」(2)	文法練習、作文練習
7	「大学生」(1)	テクストの読解、質疑応答、文法復習
8	「大学生」(2)	文法練習、作文練習
9	「マリーナさんの一日」(1)	テクストの読解、質疑応答、文法復習
10	「マリーナさんの一日」(1) (2)	文法練習、作文練習
11	「マリーナさんの通勤」(1)	テクストの読解、質疑応答、文法復習
12	「マリーナさんの通勤」(2)	文法練習、作文練習
13	復習	文法練習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】
『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】
期末試験　50 %、出席および宿題・授業への取り組み　50 %
【更新事項】 春学期の少なくとも前半が゛オンラインで゛の開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで゛提示する。

【学生の意見等からの気づき】
成績評価の基準をはっきりします。

【その他の重要事項】
履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline and objectives】
The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language.

LANr300LA
第三外国語としてのロシア語中級 B
2017 年度以降入学者

三神　エレーナ

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続きロシア語の解読と文法中心の授業です。 ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・ 会話能力も伸ばします。
この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験（ＴＲＫＩ）A2-B1 レベルの受験勉強にも役立ちます。

【到達目標】
授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシアの日常生活や文化についてのテキストや 現代文学のテキストを解読し、単語・文法練習、文章作成の練習、会話練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「電話」(1)	テキストの読解、会話練習
2	「電話」(2)	文法練習、作文
3	「買い物・食料品」(1)	テキストの読解、会話練習
4	「買い物・食料品」(2)	文法練習、作文
5	「プレゼントを買う」(1)	テキストの読解、会話練習
6	「プレゼントを買う」(2)	文法練習、作文
7	「ドライブ」(1)	テキストの読解、会話練習
8	「ドライブ」(2)	文法練習、作文
9	「ホテル」(1)	テキストの読解、会話練習
10	「ホテル」(2)	文法練習、作文
11	「病院」(1)	テキストの読解、会話練習
12	「病院」(2)	文法練習、作文
13	復習	文法の復習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】
期末試験　50 %、出席および宿題・授業への取り組み　50 %

【学生の意見等からの気づき】
学期末試験の範囲をはっきりします。

【その他の重要事項】
履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline and objectives】
The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language.

LANr300LA

実用ロシア語 A

2017 年度以降入学者

三神　エレーナ

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月 4**/Mon.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。
ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 1（ＴＲＫИ-1、B1）を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】
授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験 1 級（ＴＲＫИ-1）受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。 音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。
【更新事項】春学期の少なくとも前半はオンラインで゛の開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで゛その都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とする。具体的なオンライン授業の方法など゛を、学習支援システムで゛提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介	自己紹介、学生のプロフィール
2	留学- 1	入学手続き、学生課に相談
3	留学- 2	大学の時間割、授業で使う表現
4	学生寮-1	入寮申請、入寮手続き
5	学生寮-2	寮でのトラブル
6	街を歩く	道の尋ね方、道の案内
7	交通手段-1	モスクワ地下鉄の乗り方、ルートの案
8	交通手段-2	バスや路面電車で使う表
9	買い物-1	食料品の買い方
10	買い物-2	市場で使う表現
11	病院-1	予約、病院の受付にて
12	病院-2	診察で使う表現
13	総合復習	1〜13 の復習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】
「大学のロシア語Ⅰ・基礎力養成テキスト」沼野恭子他（著）　東京外国語大学出版会

【成績評価の方法と基準】
筆記試験　50 %、出席率・宿題・授業への取り組み　50 %
【更新事項】 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
期末試験の難易度を調整しました。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムにアクセスできる PC 又はスマートフォン。

【その他の重要事項】
学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容は多少変更されます。

【Outline and objectives】
The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr300LA

実用ロシア語Ｂ

2017 年度以降入学者

三神　エレーナ

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月 4**/Mon.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。
ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 1（ＴＲＫИ-1、B1）を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】
授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験 1 級（ＴＲＫИ-1）受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。 音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	前期総合復習	リスニング練習、会話練習
2	郵便局	手紙、小包を送る。書留、ファックスなどを送る
3	電話-1	電話をかける、電話にでる表現
4	電話-2	必要な情報を電話で聞く、チケットを予約する； 電話で打ち合わせをする
5	天気予報-1	天気予報をラジオで聞く
6	天気予報-2	国の気候の話をする
7	暇な時間	友達が開いたのホームパーティーに行く
8	劇所や映画-1	劇所等のチケットの買い方や劇・映画の種類
9	劇所や映画-2	映画の話をする
10	美術館	美術展に誘う、チケットを買う；美術展に関する印象を述べる
11	インターネット-1	パソコン・インターネット利用に関する表現
12	インターネット-2	コンピューターゲーム、ソーシャルネットワークに関する表現
13	総合復習	1〜12 の復習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
「大学のロシア語 I・基礎力養成テキスト」沼野恭子他（著）　東京外国語大学出版会

【成績評価の方法と基準】
筆記試験　50 %、出席率・宿題・授業への取り組み　50 %

【学生の意見等からの気づき】
学期末試験の難易度を調整しました。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムにアクセスできる PC 又はスマートフォン。

【その他の重要事項】
学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容は多少変更されます。

【Outline and objectives】
The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr300LA

ロシア語講読 A

2017 年度以降入学者

土岐　康子

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月 2**/Mon.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級文法を修了した学生が対象の授業です。様々な文章を読んでいくことで、ロシア語の文章に慣れることを目的とします。授業ではロシア語テキストの日本語への訳出、内容の読解や文法の練習問題も行います。

【到達目標】
辞書を用いてロシア語の文章を日本語に訳すことができる、ロシア語での質問に的確に答えることができる。テキストの内容を自分の言葉（ロシア語、日本語）で表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となるため、各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 27 日とします。授業は基本的に課題提示 → 課題提出 → 添削、返却となります。個別対応となるため、各々の力が伸びていくことを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	既習文法事項の確認	既習文法事項の復習
2	ロシア語構文の特徴	ロシア語構文の説明と練習
3	複文講読 (1)	関係代名詞を含む文を読む
4	複文講読 (2)	副動詞を含む文を読む
5	複文講読 (3)	能動形動詞を含む文を読む
6	複文講読 (4)	被動形動詞を含む文を読む
7	文章講読 (1)	文学作品に触れる
8	文章講読 (2)	歴史を読む（数詞を含む表現）
9	文章講読 (3)	歴史を読む（年月日の表現）
10	文章講読 (4)	文化を読む（再帰動詞）
11	文章講読 (5)	社会を読む（運動動詞）
12	文章講読 (6)	社会を読む（様々な慣用表現）
13	文章講読 (7)	昔話を読む（音読練習）
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語を調べテキストを読解するなど、事前学習を欠かさないこと。本授業の予習・復習は 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
適宜ロシア語テキストのプリントを配布します。辞書や格変化表などは持参すること。

【参考書】
『入門ロシア語文法』改訂版　和久利誓一著　白水社

【成績評価の方法と基準】
春学期の当分の間オンラインでの開講になったことに伴い、成績評価の方法を変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
学生ひとりひとりに対する指導を心がけたいと考えています。

【Outline and objectives】
This is an intermediate course for students who want to improve their reading skills. Students will read texts written with various themes.

LANr300LA

ロシア語講読Ｂ

2017 年度以降入学者

土岐　康子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なテーマの文章を読むことで読解力を養い、視聴覚教材（映画）を用いることでリスニングを含むロシア語会話に慣れることを目的とします。また、様々な角度からロシアをとらえることもこの授業の目的です。

【到達目標】
辞書を使ってロシア語の文章を読解することができる、ロシア語の質問を理解し、的確に答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストの音読、日本語への訳出、内容に関する質疑応答が授業の基本となります。なお、授業の予定やテーマは状況に応じて変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文章講読（1）	歴史を読む（現代①）
2	文章講読（2）	歴史を読む（現代②）
3	文章講読（3）	政治を読む
4	ロシア映画（1）	リスニング・会話練習
5	ロシア映画（2）	一場面の音読練習
6	文学作品（1）	昔話を読む
7	文学作品（2）	文学作品を読む
8	ロシア映画（3）	内容を文章にする試み
9	ロシア映画（4）	内容を言葉にする試み
10	文章講読（4）	政治家の演説を読む①
11	文章講読（5）	政治家の演説を読む②
12	文章講読（6）	政治家の演説を読む③
13	文章講読（7）	新年に関する文章を読む
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語は辞書で確認し、格変化形、動詞の活用は覚える努力をすること。本授業の予習・復習は 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
適宜ロシア語テキストのプリントを配布します。
辞書と『入門ロシア語文法（改訂版）』は持参すること。

【参考書】
『入門ロシア語文法』改訂版　和久利誓一著　白水社

【成績評価の方法と基準】
平常点（予習、授業参加態度、課題提出なども含む）50 %、学期末試験 50 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生ひとりひとりにあわせた指導を心がけたいと考えています。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand texts written on various themes. It also enhances listening and conversation skills of students using materials such as movies.

LANr300LA

時事ロシア語Ａ

2017 年度以降入学者

佐藤　裕子

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業で、ロシアでのビジネスやコミュニケーションに知識としても必要な現代の時事ロシア語を学ぶことで、ロシア語のスキル向上とロシアの社会や文化への理解を深めることを目指す。ロシア語の新聞、テレビやインターネットのニュースなどから多様な最新のトピックを取り上げ、既習の文法でその構成を解読し、時事用語を習得、同時に生きた教材でリスニング、リーディングにも挑戦し、総合的な語学運用能力を高める。

【到達目標】
・新聞やネットニュースなどの構文を文法を使い読み解ける。
・時事ロシア語に必要な語彙や表現を習得する。
・ネット上のニュース映像や音源に慣れ、聞き取りや復唱が出来る。
・時事ロシア語を学ぶことでロシアの社会や文化への理解が深まる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインで゛の開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムて゛その都度提示します。本授業の開始日は４月２３日（木４）とします。その際に今後の授業形態についてご相談しましょう。授業支援システムにアンケートを添付します。ご記入ください。（旧シラバス；学習書やテキストに沿って、重要なトピックニュースの文章を解読していく。中級の文法力を固め、時事問題に使われる用語や構文のスタイルを習得していく。同時に、ネット上のニュース映像や音源を視聴し、その速さや抑揚などに慣れ内容が聞き取れ要約できる、また、ある程度の速さで復唱できるよう練習する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学生の興味関心や要望を聞く。既習文法事項の確認
2	近年のニュース	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
3	ロシアの内政	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
4	外交・国際関係	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
5	経済・産業	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
6	軍事・国防	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
7	犯罪・司法	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
8	事故	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
9	気象・自然災害	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
10	市民生活	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング

11	文化	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
12	最新ニュースから①	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
13	最新ニュースから②	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
14	期末試験	期末試験（辞書持ち込みでの和訳）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・教科書や配布テキストの予習・復習（和訳、用語の確認、音読など）を行う。
・［参考書］に提示されたネットニュースなどを視聴し、速さや抑揚、内容の理解と要約の練習をする。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・加藤栄一著『新版 時事ロシア語』（東洋書店新社、2016 年、￥3080）
・その他テキストは適時配布します。

【参考書】
・モスクヴィーチナ『ニュースの世界で』第 1_3 部（ズラトウスト、2009-2011 年）（Москвитина Л. И.“В мире новостей. Часть 1-3.” Златоуст、2009-2011）
・ニュースサイト< NHK WORLD-JAPAN > , <Вести .Ru > , <Голос России> , < BBC Russian.com > など

【成績評価の方法と基準】
オンライン授業の場合、テストではなく、平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み姿勢、課題の提出）で評価します。課題は、練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声を提出してもらい、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更（春学期のみ）によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
初級ロシア語既修者が対象です。学生の習熟度により授業計画は変更される可能性があります。

【Outline and objectives】
In this course, students will study current affairs-related knowledge necessary for carrying out business and communication in Russia with the aim of improving their Russian language skills and deepening their understanding of the society and culture surrounding Russia. It also takes up the latest topics in Russian newspapers, TV, Internet news, and so on. Students will decipher the composition using the grammar that they have learned, learn current vocabulary, and also try to listen and read with live teaching materials in order to improve their overall language proficiency.

LANr300LA

時事ロシア語 B

2017 年度以降入学者

油本　真理

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事など、「生」のロシア語の文章や映像に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済・ビジネス、外交・国際関係、社会について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】
(1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
(2) 現在のロシアにおける政治・経済・外交に関わる様々なテーマについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語の時事的な文章の訳読・要約に主眼を置く。必要に応じて映像・音声の視聴も取り入れる。読む文章は受講者の関心に合わせて選択する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	政治①	ロシアの内政に関する記事の講読
3	政治②	ロシアの内政に関する記事の講読
4	政治③	ロシアの内政に関する記事の講読
5	経済・ビジネス①	ロシアの経済・ビジネスに関する記事の講読
6	経済・ビジネス②	ロシアの経済・ビジネスに関する記事の講読
7	経済・ビジネス③	ロシアの経済・ビジネスに関する記事の講読
8	外交・国際関係①	ロシア外交・国際関係に関する記事の講読
9	外交・国際関係②	ロシア外交・国際関係に関する記事の講読
10	外交・国際関係③	ロシア外交・国際関係に関する記事の講読
11	社会①	ロシア社会に関する記事の講読
12	社会②	ロシア社会に関する記事の講読
13	社会③	ロシア社会に関する記事の講読
14	まとめ	半期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題の文章については授業の前に和訳を準備する。また、文法事項の復習や重要語彙の確認も必須である。したがって、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】
特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）、期末レポート（40 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【Outline and objectives】
This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian. The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, and society in present Russia.

LANc300LA

第三外国語としての中国語 A

2017 年度以降入学者

廣野　行雄

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
すでに第一、第二外国語を履修した学生が、それ以外に中国語を学ぶためのクラスです。中国語を母語としない人が、中国語を学習するために必要な知識を学び、学習を継続し発展させていくための学力を養成を目指します。

【到達目標】
まず中国語の漢字音を正しく発音し聞き取れるようにピンインというローマ字字母を習得します。中国語は、声調によって語の意味を識別をするという独特な性格があります。正しく声調を発音し聞き分けられるようになることを目指します。次に基本的な語彙と文型を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストの課をおって講義を進めていきます。しかし、いうまでもないことですが、語学学習、特に初習の語学には、学習者の主体的な実践が欠かせません。練習問題による予習など積極的な取り組みが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容、到達目標の確認などを行う。
第 2 回	発音編　第１課、第２課	単母音、二重母音、三重母音の発音　子音
第 3 回	発音編　第２課、第３課	母音学習のまとめ、尾音 n,ng をもつ複合母音、
第 4 回	発音編　第３課、第４課	声調をつけての発音
第 5 回	本編　第１課	発音事項の確認、人称代詞、判断文
第 6 回	第２課	発音練習、指示代詞、疑問文のいろいろ
第 7 回	第３課、第４課	発音練習、叙述文 (形容詞述語)、連体修飾語
第 8 回	第５課、第６課	前置詞としての在、是〜的の文、疑問詞疑問文、数詞
第 9 回	第７課、第８課	量詞、存現文
第 10 回	第９課	原因、理由の表現
第 11 回	第１０課	動作相 (進行態)、前置詞のいろいろ、助動詞
第 12 回	第１１課	連動文、兼語文
第 13 回	第１２課、まとめ	否定文、様態補語、これまでのまとめ
第 14 回	学期末試験	学力検測のための試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学学習にとって予習復習は必要不可欠なものです。週に一回しかない授業ですので、授業が復習の場になるような十分な予習を期待します。「学習のポイント」で取りあげられているは、必ずおぼえましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
相原　茂、玄　宜青著「中国語入門ルール６６」朝日出版社刊

【参考書】
「中日辞典」小学館などの辞書。紙の辞書には及ばないが電子辞書も可。辞書をもつことは、単に学習に役立つだけではなく、自分自身に学習を続ける自覚を促す意味もある。

【成績評価の方法と基準】
学習態度（授業への参加度、予習復習、積極的な質問）５０％。期末試験５０％で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
一方的な講義にならないように、双方向的な授業を目指す。

【その他の重要事項】
Ａ（前期）においては、発音の習得が主なテーマになりますので、主要な文法的知識の習得はＢにおいてなされるので、できうるかぎりＡＢを通じての履修が望ましい。
学ぶこと、特に語学学習は、履修者の主体的・実践的な授業参加が欠かせません。その自覚を高めるためにも、途中の休憩時間以外に飲食は遠慮してください。但し、熱中症その他の発症時は、この限りではありません。

【Outline and objectives】
This course is for students who want to study Chinese as a third foreign language. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc300LA

第三外国語としての中国語Ｂ

2017 年度以降入学者

廣野　行雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前学期のＡに引き続き、中国語の基礎的な語彙、文法等を学ぶ。

【到達目標】
正確な発音の定着と必須語彙、文法事項を身につけ、中国語の学習を続けていく力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
前期にひきつづいて、テキストの記述にしたがって、内容の説明を講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	前期Ａのふりかえり	前期試験問題の解説 復習
第 2 回	第１３課	助動詞のいろいろ、実行態
第 3 回	第１４課	中国語のアスペクト、持続態
第 4 回	第１５課	実行態、経験態
第 5 回	第１６課	比較の表現、将然態
第 6 回	第１７課	結果補語
第 7 回	第１８課	方向補語
第 8 回	第１８課	可能補語
第 9 回	第１９課	方向補語
第 10 回	第１９課	結果補語
第 11 回	第２０課	疑問詞の呼応文型、複文の意味関係
第 12 回	第２０課	離合詞
第 13 回	まとめ	重要文法事項再確認
第 14 回	期末試験	学力検測のために試験を行う。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前期 A 同様、予習に重点を置き、授業で疑問点を解消するよう努める。自分の学力の向上を確認するため、テレビ、ラジオの中国語講座を利用したり、図書館などで中国語の新聞、雑誌の解読に挑戦してみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
相原　茂、玄　宜青著「中国語入門ルール６６」朝日出版社刊

【参考書】
「中日辞典」小学館などを購入することを強く勧める。

【成績評価の方法と基準】
受講態度（授業参加姿勢、予復習、質問）50 %と期末試験 50 %で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
一方的な講義にならぬよう、質問のやりとりを通じて双方向的な授業を目指す。

【その他の重要事項】
読解力、会話力いずれにせよ文法的知識がなければ、その効果的な向上は望めません。A、Bを通した通年履修を強く勧めます。
A同様、途中に設ける休憩時間を除いて、飲食は遠慮してください。但し、熱中症その他の発症時は、この限りではありません。

【Outline and objectives】
This course is for students who want to study Chinese as a third foreign language. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級A　2017 年度以降入学者

周　重雷

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 3**/Tue.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。
中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】
1、文法をきちんと把握する。
2、発音を綺麗にする。
3、日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
文法を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。
*4 月 21 日よりオンライン授業が始まります。学習支援システムを使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第 2 回	発音練習	ピンインの復習 発音をチェックする
第 3 回	日常用語	あいさつなどの日常会話を復習する
第 4 回	会話（1）	自己紹介
第 5 回	授業内発表（1）	自己紹介を各自に発表する
第 6 回	文法（1）	中国語の基本構文と品詞
第 7 回	文法（2）	連体修飾語と連用修飾語
第 8 回	文法（3）	補語
第 9 回	文法（4）	「着」「了」「過」
第 10 回	読解（1）	文法の問題を解く
第 11 回	読解（2）	長文読解をする
第 12 回	会話（2）	買い物する時の会話パターンを作る
第 13 回	授業内発表（2）	買い物のシミュレーションをする
第 14 回	総復習・口頭試験	全体の復習及び総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員によるプリント配布

【参考書】
必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100%）の成績で評価される。
＊オンライン授業の場合は、課題の完成度によって期末の最終成績から減点されることもある。

【学生の意見等からの気づき】
自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline and objectives】
This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級Ｂ 2017 年度以降入学者

周　重雷

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 曜日・時限：火 3/Tue.3
単位数：2 単位
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。
中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】
１、文法をきちんと把握する。
２、作文能力を高める。
３、日常会話をできるようにする。
４、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	復習	春学期の授業内容を復習する
第 2 回	文法（５）	接続詞と複文
第 3 回	作文（１）	長文作文のイロハ
第 4 回	作文（２）	作文を添削する
第 5 回	会話（３）	レストランでの会話パターン
第 6 回	授業内発表（３）	レストランにて
第 7 回	会話（４）	道を尋ねる/教える
第 8 回	授業内発表（４）	道を尋ねる/教える
第 9 回	会話（５）	スピーチ/ものを語る
第 10 回	授業内発表（５）	スピーチ/ものを語る
第 11 回	ヒアリング（１）	映像教材を使って聞き取りをする
第 12 回	ヒアリング（２）	映像教材の聞き取り
第 13 回	復習	文法と作文の復習
第 14 回	まとめ・口頭試験	口頭発表と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員によるプリント配布

【参考書】
必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）の成績で評価される。

【学生の意見等からの気づき】
自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline and objectives】
This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc300LA

中国語翻訳･通訳 A

2017 年度以降入学者

薬　進

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、参加者が中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけることです。特に日本語から中国語への訳に重点が置かれます。

【到達目標】
参加者が簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面での日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへの到達すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ネットで取得可能なニュース、観光案内、ビジネス文書の翻訳練習、テーマ別に設定した、日常生活の場面での通訳練習を行い、簡単な内容から入り、次第に深化していくようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方などに関する説明
2	図書館の紹介	翻訳・通訳練習
3	バイト先の紹介	翻訳・通訳練習
4	食堂の紹介	翻訳・通訳練習
5	交通案内	翻訳・通訳練習
6	高速道路の紹介	翻訳・通訳練習
7	お正月の紹介	翻訳・通訳練習
8	空港と航空会社	翻訳・通訳練習
9	ネット事情の紹介	翻訳・通訳練習
10	携帯電話の紹介	翻訳・通訳練習
11	法政大学の紹介	翻訳・通訳練習
12	音楽の紹介	翻訳・通訳練習
13	日本の温泉の紹介	翻訳・通訳練習
14	主な翻訳・通訳技法の定着と応用	総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々起こる出来事に注目し、中国文化への関心を持つことが、「訳す力」の基礎になりますので、とにかく日常的に意欲的に中国情報に接すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用しない。プリント配布。

【参考書】
辞書類

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、下記基準で行う。期末試験 70 %、小テスト 20 %、平常点 10 %（授業への参加度 10 %）

【学生の意見等からの気づき】
基礎的な作文練習をより多く取り入れます。

【Outline and objectives】
This lesson will conduct basic translation of Chinese and interpretation training. The aim is to acquire elementary translation and interpreting abilities corresponding to scenes related to sightseeing, business and everyday life. Especially emphasis is placed on translation from Japanese to Chinese.

LANc300LA

中国語翻訳･通訳Ｂ

2017 年度以降入学者

薬　進

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、参加者が中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけることです。特に日本語から中国語への訳に重点が置かれます。

【到達目標】
簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面での日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへ到達すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ネットで取得可能なニュース、観光案内、ビジネス文書の翻訳練習、テーマ別に設定した、日常生活の場面での通訳練習を行い、簡単な内容から入り、次第に深化していくようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コンビニの紹介	翻訳・通訳練習
2	スーパーと百貨店の紹介	翻訳・通訳練習
3	新聞とテレビの紹介	翻訳・通訳練習
4	東京の名所の紹介	翻訳・通訳練習
5	京都の名所の紹介	翻訳・通訳練習
6	家電製品の話	翻訳・通訳練習
7	留学生との交流	翻訳・通訳練習
8	日本の会社について	翻訳・通訳練習
9	和食の紹介	翻訳・通訳練習
10	居酒屋の紹介	翻訳・通訳練習
11	日本の政治について	翻訳・通訳練習
12	日本の経済状況について	翻訳・通訳練習
13	日中関係について	翻訳・通訳練習
14	主な翻訳・通訳技法の定着と応用	総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々起こる出来事に注目し、中国文化への関心を持つことが、「訳す力」の基礎になりますので、とにかく日常的に意欲的に中国情報に接すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用しない。プリント配布。

【参考書】
辞書類

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、下記基準で行う。期末試験 70 %、小テスト 20 %、平常点 10 %（授業への参加度 10 %）

【学生の意見等からの気づき】
基礎的な作文練習をより多く取り入れます。

【Outline and objectives】
This lesson will conduct basic translation of Chinese and interpretation training. The aim is to acquire elementary translation and interpreting abilities corresponding to scenes related to sightseeing, business and everyday life. Especially emphasis is placed on translation from Japanese to Chinese.

LANc300LA

中国語翻訳･通訳Ｃ

2017 年度以降入学者

髙田　裕子

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。
通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】
中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。
通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳１　慣用句・略語・背景知識の重要性を学ぶ	L１　北京案内 リプロダクション サイトトランスレーション 音読確認
3	翻訳１　同形語　難訳単語・四字成語・慣用句	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳２　役職名、敬称、ビジネスシーンの通訳心得	L１　逐次通訳演習 L３　企業内通訳 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳２　省略するスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳３　フォーマルな表現、定型文	L３　逐次通訳演習 L４　宴会挨拶 リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳３　文章記号と表記ルール	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
8	通訳３　数字、固有名詞、リサーチ	L４　逐次通訳演習 L５　中国事情 リプロダクション サイトトランスレーション

9	翻訳３　適訳の選択　補って訳すスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
10	通訳４　スピードを求められる通訳、報道の表現、専門用語	Ｌ５　逐次通訳演習 Ｌ７　気象 リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳４　時事翻訳１	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ）
12	通訳５　講演の定型表現、現場での対応	Ｌ７　逐次通訳演習
13	翻訳５　時事翻訳２	最新時事関連の応用翻訳（経済関連テーマ）
14	翻訳・通訳	総復習 既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。
通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
翻訳：プリント教材
通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』

【参考書】
授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %　期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】
翻訳のルール説明と文法説明をより詳細に行う。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書（スマートフォンの辞書アプリも可）

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
In translation learning, we aim to master translation theory and translation technique.
To acquire knowledge about history and culture and society during the day and verification related to comparison languages.
In interpreting learning, lecture based on interpretation theory, interpreter training and exercises.

LANc300LA

中国語翻訳･通訳Ｄ

2017 年度以降入学者

髙田　裕子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。
通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】
中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。
通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳１　日中間の制度の違い、教育関連用語	Ｌ８　教育 リプロダクション サイトトランスレーション
3	翻訳１　日本語表現の工夫　コロケーション	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳２　パブリックスピーキング、敬語	Ｌ８　逐次通訳演習 Ｌ９　友好都市交流 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳２　訳す順序	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳３　目的語の省略、外来語	Ｌ９　逐次通訳演習 Ｌ１０　ファッション リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳３　時事翻訳１	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ〜１）
8	通訳４　要点の把握、聞き手への対応	Ｌ１０　逐次通訳演習 Ｌ１３　対中投資 リプロダクション サイトトランスレーション
9	翻訳４　時事翻訳２	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ〜２）

10	通訳５　司会進行、文語的表現	Ｌ１３　逐次通訳演習 Ｌ１４　環境問題（１） リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳５　時事翻訳３	最新時事関連の応用翻訳（経済関連～１）
12	通訳６ディスカッションの通訳	Ｌ１４　環境問題（２）逐次通訳演習
13	翻訳６　時事翻訳４	最新時事関連の応用翻訳（経済関連～２）
14	翻訳・通訳	総復習既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。
通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
翻訳：プリント教材
通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』

【参考書】
授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %　期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】
翻訳のルール説明や文法説明をより詳細に行う。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書（スマートフォンの辞書アプリも可）

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を合せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
In translation learning, we aim to master translation theory and translation technique.
To acquire knowledge about history and culture and society during the day and verification related to comparison languages.
In interpreting learning, lecture based on interpretation theory, interpreter training and exercises.

LANc300LA

資格中国語中級 A

2017 年度以降入学者

渡辺　昭太

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
2～4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2020.04.18 追記
※オンライン授業開始に伴い、授業計画や成績評価が一部変更になる可能性があります。詳しくは、学習支援システムを確認してください。
本授業は、HSK（漢語水平考試）の 3 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 3 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下の通りである。
（1）過去問題のディクテーションを通じて、HSK3 級合格に必要なリスニング力を身につける。
（2）過去問題を解き、HSK3 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。
■授業前の事前学習
・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。
■授業の進め方と方法
①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）［約 20 分］
②リスニング問題の解説［約 50 分］
③各種練習問題、コミュニケーショントレーニング［約 30 分］

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3 級リスニング対策①	HSK3 級リスニング問題の第一部分（1-5）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK3 級リスニング対策②	HSK3 級リスニング問題の第一部分（6-10）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
4	HSK3 級リスニング対策③	HSK3 級リスニング問題の第二部分（11-15）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

5	HSK3 級リスニング対策④	HSK3 級リスニング問題の第二部分（16-20）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK3 級リスニング対策⑤	HSK3 級リスニング問題の第三部分（21-25）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK3 級リスニング対策⑥	HSK3 級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK3 級リスニング対策⑦	HSK3 級リスニング問題の第四部分（31-35）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK3 級リスニング対策⑧	HSK3 級リスニング問題の第四部分（36-40）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK3 級読解対策①	HSK3 級読解問題の第一部分（41-50）及び第二部分（51-55）の解説
11	HSK3 級読解対策②	HSK3 級読解問題の第二部分（56-60）及び第三部分（61-70）の解説
12	HSK3 級作文対策	HSK3 級作文問題（71-80）の解説
13	HSK3 級模擬試験と解説	HSK3 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に以下の事前学習を行うこと。
・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSK リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。

【参考書】
有用な文法書として以下のものをあげておく。
・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
・守屋宏則（他）2019『やさしく くわしい 中国語文法の基礎［改訂新版］』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】
成績評価は以下の基準によって行う。
①毎回授業の初めに行う小テストの平均点。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる事前学習の実施状況とする。［80 %］
②各種トレーニングの内容（練習問題への取り組み状況、コミュニケーショントレーニングの出来具合などを総合して判断）。［20 %］
以上の①と②を総合して 100 %とし、60 %以上の得点を取った者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】
・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。
・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to pass 3rd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

LANc300LA

資格中国語中級Ｂ

2017 年度以降入学者

渡辺　昭太

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、HSK（漢語水平考試）の 4 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 4 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK4 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下の通りである。
（1）過去問題のディクテーションを通じて、HSK4 級合格に必要なリスニング力を身につける。
（2）過去問題を解き、HSK4 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。
■授業前の事前学習
・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。
■授業の進め方と方法
①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）［約 20 分］
②リスニング問題の解説［約 50 分］
③各種練習問題、コミュニケーショントレーニング［約 30 分］

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4 級リスニング対策①	HSK4 級リスニング問題の第一部分（1-5）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK4 級リスニング対策②	HSK4 級リスニング問題の第一部分（6-10）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
4	HSK4 級リスニング対策③	HSK4 級リスニング問題の第二部分（11-15）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK4 級リスニング対策④	HSK4 級リスニング問題の第二部分（16-20）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK4 級リスニング対策⑤	HSK4 級リスニング問題の第二部分（21-25）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK4 級リスニング対策⑥	HSK4 級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK4 級リスニング対策⑦	HSK4 級リスニング問題の第三部分（31-35）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK4 級リスニング対策⑧	HSK4 級リスニング問題の第三部分（36-40）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK4 級リスニング対策⑨	HSK4 級リスニング問題の第三部分（41-45）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
11	HSK4 級読解対策	HSK4 級読解問題（46-85）の解説
12	HSK4 級作文対策	HSK4 級作文問題（86-100）の解説
13	HSK4 級模擬試験と解説	HSK4 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に以下の事前学習を行うこと。
・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSK リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。

【参考書】
有用な文法書として以下のものをあげておく。
・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
・守屋宏則（他）2019『やさしく くわしい 中国語文法の基礎［改訂新版］』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】
成績評価は以下の基準によって行う。
①毎回授業の初めに行う小テストの平均点。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる事前学習の実施状況とする。［80 %］
②各種トレーニングの内容（練習問題への取り組み状況、コミュニケーショントレーニングの出来具合などを総合して判断）。［20 %］
以上の①と②を総合して 100 %とし、60 %以上の得点を取った者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】
・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。
・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

LANc300LA

資格中国語上級 A

2017 年度以降入学者

康　鴻音

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。そして言葉の使い分け、日本語と中国語の違いを理解してもらいます。

【到達目標】
学校生活や日常生活で必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業方法などを学習支援システムで掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	レベルチェック ＨＳＫ合格の基準 ＨＳＫ 5・6 級に到達する概要
第 2 回	HSK5 級の練習	「的」の使い方のまとめ
第 3 回	HSK5 級の練習	文章記号と原稿用紙の使い方 方向補語など
第 4 回	作文の基礎	作文の練習（400 字） 練習問題など
第 5 回	HSK5 級の練習 翻訳	作文の問題点など 結果補語など
第 6 回	HSK5 級の練習 翻訳	比較の表現 逆接の表現など
第 7 回	HSK5 級の練習 翻訳	二重目的語 動詞述語文のまとめ
第 8 回	HSK5 級の練習	目的語になる動詞句と主述句など 作文の練習（400 字）
第 9 回	HSK5 級の練習 翻訳	作文の問題点など 練習問題
第 10 回	HSK5 級の練習 翻訳	連用修飾語 前置詞など
第 11 回	HSK5 級の練習 翻訳	主語になる動詞句 慣用形など
第 12 回	HSK5 級の練習	絵を見て作文練習（400 字）
第 13 回	HSK5 級の練習 翻訳	作文の問題点 翻訳の練習
第 14 回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回のプリントをちゃんと準備すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】
対面授業が再開された場合には期末試験を実施するが、再開されなかった場合には、毎回の課題の実施状況によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生に高く評価されてました。続けてこのやり方でやります。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

LANc300LA

資格中国語上級Ｂ

2017 年度以降入学者

康　鴻音

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。

【到達目標】
学校生活や日常生活で必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
翻訳の練習。訳す力を高めると同時に、作文の書き方を指導します。事前に用意してもらう訳文を授業中チェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	資格関連の問題 翻訳	形容詞など 練習指導
2 回	資格関連の問題 翻訳	助動詞など
3 回	資格関連の問題 翻訳	伝聞、条件、選択など
4 回	作文など	作文練習（400 字）
5 回	作文など	作文指導など
6 回	資格関連の練習 翻訳	予定・計画、願望・意志など
7 回	資格関連の練習 翻訳	推測、仮定、因果関係など
8 回	作文など	作文練習（400 字）
9 回	作文、翻訳など	作文指導、問題チェック
10 回	資格関連の練習 翻訳	問題チェック
11 回	ＨＳＫ６級	ＨＳＫ６級の練習
12 回	ＨＳＫ６級	ＨＳＫ６級の練習
13 回	資格関連の練習 翻訳	問題指導
14 回	総復習	総まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回のプリントをちゃんと用意すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント配布。

【参考書】
辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します

【学生の意見等からの気づき】
学生が高く評価してくれました。続けてこのやり方でやります。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

ARSe300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**中国の食文化**

岩田　和子

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
2～4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国において地理的な条件、気候風土、生活習慣などが人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国』を教材として用いながら、地域の伝統的な食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】
・映像資料の鑑賞・文献の翻訳を通して、中国語運用能力の向上を目指す。
・中国の地理、地域の特色、食材、調理方法、年中行事、生活習慣などへの調査を通して、多角的に食文化への理解を深める。
・各自で中華料理店を訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「教材」に各回で扱う内容の中国語スクリプト（簡体字ピンイン付き）と単語一覧を配布します。
各自で番組を視聴し、期日までに単語を調べて日本語に翻訳し、word ファイルで提出してもらう予定です。
翌週に日本語の翻訳例と文法事項の解説を掲示します。
フィードバックとして、提出してもらった翻訳を添削して返却する予定です。
日本語訳のほか、適宜課題を出しますので期日までに提出してもらう予定です。
授業の最終回にレポートを提出してもらいます。
授業開始は 4 月 27 日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明
2	中国各地の三食（1）	各地の朝ご飯：天津の「煎☒果子」、重慶の「小面」、蘇州の「大肉面」、武漢の「☒干面」
3	中国各地の三食（2）	天津の「煎☒果子」：紅さんの露店にまつわる物語
4	中国各地の三食（3）	天津の「煎☒果子」：紅さんの露店にまつわる物語（続）
5	中国各地の三食（4）	重慶の「牛肉面」：師匠から弟子に伝わる味
6	中国各地の三食（5）	各地の朝ご飯：広州の「早茶」習慣と働く若者の朝食事情
7	中国各地の三食（6）	深圳の工場で働く若者と社食
8	中国各地の三食（7）	深圳の企業で働く湖南省出身の夫婦と食
9	中国各地の三食（8）	湖南省湘郷の「咸☒蛋」：ある家庭の伝統レシピ

10	中国各地の三食（9）	「高考（大学統一入学試験）」に挑む親子と食：「□椒蒸□□」「嵩子□□」
11	中国各地の三食（10）	「高考（大学統一入学試験）」に挑む親子と食：「干子□肉」
12	中国各地の三食（11）	四川省古蘭に住む龍おじいさんの家族と食：「豌□面」
13	中国各地の三食（12）	四川省古蘭に住む龍おじいさんの家族と食：「□酸菜煮黄腊丁」
14	まとめ	春学期のふりかえり・レポートの発表と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教場で配布します。

【参考書】
中央□□台□□□道□《舌尖上的中国 第二季》中国广播□□出版社, 2014 年

【成績評価の方法と基準】
・平常点 70 %（スクリプトの日本語訳とリアクションペーパーの提出・発表）
・レポート 30 %
※原則として遅刻厳禁です。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
The aim of this seminar is to develop students'understanding of Chinese society and culture.

ARSe300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**中国の食文化**

岩田　和子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国において地理的な条件、気候風土、生活習慣などが人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国』を教材として用いながら、地域の伝統的な食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】
・映像資料の鑑賞・文献の翻訳作業を通して、中国語運用能力の向上を目指す。
・中国の地理、地域の特色、食材、調理方法、年中行事、生活習慣などへの調査を通して、多角的に食文化への理解を深める。
・各自で中華料理店を訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
事前に中国語スクリプト（簡体字・ピンイン付き）を配布しますので、各自で地名・用語について調べてきてください。授業では番組を鑑賞しながらスクリプトの翻訳を行いますが、中国語が不慣れな方も歓迎しますので、とくに読解と解説に重点を置いて進めます。また、毎回の授業の終わりに翻訳文とリアクションペーパーを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明
2	中国各地の特色料理（1）	料理人の包丁技と淮揚料理：冶春茶社の「□干□」「□子□」
3	中国各地の特色料理（2）	広州の点心：「沙琪□」「叉□包」
4	中国各地の特色料理（3）	福建省泉州の「石花膏」と「面□糊」
5	中国各地の特色料理（4）	四川省楽山の周小姐が営む「麻辣□」店
6	中国各地の特色料理（5）	四川省楽山の「麻辣□」と「凉糕」
7	中国各地の特色料理（6）	南方人の保存食「腊味」をつかった「□仔□」
8	中国各地の特色料理（7）	香港のある腊味店の話
9	中国各地の特色料理（8）	「苦」味を代表する「陳皮」
10	中国各地の特色料理（9）	澳門のあるレストランを救った「陳皮鴨」
11	中国各地の特色料理（10）	「酸」味を引き出す調味料：鎮江の黒醋
12	中国各地の特色料理（11）	「辣」味を引き出す調味料：「豆瓣□」

13	中国各地の特色料理（１２）	「麻辣」味の料理：「藤椒□」と重慶の「麻辣火□」
14	まとめ	秋学期のふりかえり・レポートの発表と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教場で配布します。

【参考書】
中央□□台□□□道□《舌尖上的中国 第二季》中国广播□□出版社, 2014 年など

【成績評価の方法と基準】
・平常点 70 %（スクリプトの日本語訳とリアクションペーパーの提出・発表）
・レポート 30 %
※原則として遅刻厳禁です。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
The aim of this seminar is to develop students'understanding of Chinese society and culture.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 A　2017 年度以降入学者

杉下　由紀子

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】
スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。
自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。
スペイン語が話されている国の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講師が文法事項を説明する。履修生はＣＤを聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。
オンライン授業は、Google Classroom を使って 4 月 23 日から開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方、学習方法、スペイン語の特徴、スペイン語圏諸国
2	旅立ち	アルファベット、イントネーション、数詞 0〜10
3	物と言葉	母音、子音、アクセント
4	食事	名詞、冠詞
5	買い物	基数詞 0-100、名詞句
6	看板	動詞、人称、文の種類
7	旅の準備	指示詞、所有詞、動詞 ser
8	スペインの観光名所	動詞 ser, estar, hay、時刻
9	スペインの二大都市	直説法現在規則動詞、前置詞、
10	スペインの自然、歴史、文化	２つの動詞の組み合わせ、疑問詞
11	道順	序数、不定語・否定語
12	スペインの言語	質問と答えの練習
13	復習	応用練習
14	期末試験	春学期に学習した内容を確認するための筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストに出てくる不明な単語は必ずあらかじめ辞書で調べて授業に臨む。音声を何度も聴いて発音練習したり、テレビ・ラジオのスペイン語講座を視聴したり、授業以外でもスペイン語に触れ積極的に学ぶ。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小川雅美『スペイン語と歩こう』朝日出版社、2020 年

【参考書】
岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社

小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）、小テスト・期末試験（40 %）から総合的に評価。
オンライン授業では、課題と授業内掲示板の内容を平常点とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
さまざまな言語を学習している学生が集まるので、スペイン語特有の発音に慣れてもらうため、会話練習に力をいれたいと思います。

【その他の重要事項】
授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお薦めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline and objectives】
This course introduces the basic of Spanish to beginners.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語Ｂ　2017 年度以降入学者

杉下　由紀子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】
簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようにする。
スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講師が文法事項を説明する。履修生はＣＤを聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アクティビティ	春学期の復習
2	イスパノアメリカ	無人称文、比較
3	ペルー料理	gustar 型動詞、間接目的格人称代名詞
4	趣味、体調	感情・感覚の動詞
5	アンデスの自然	目的格人称代名詞
6	日常生活	再帰動詞
7	地域による言語の違い	表記、小数点、従属節、接続法現在
8	旅の手伝い	命令形
9	日本文化	現在進行形、現在完了
10	観光客へインタビュー	日付
11	歴史観光	直説法線過去、点過去
12	旅の継続	直説法未来、過去未来
13	クリスマスと新年	願望、接続法現在
14	期末試験	秋学期に学習した内容を確認するための筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストに出てくる不明な単語は必ずあらかじめ辞書で調べて授業に臨む。音声を何度も聴いて発音練習したり、テレビ・ラジオのスペイン語講座を視聴したり、授業以外でもスペイン語に触れ積極的に学ぶ。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小川雅美『スペイン語と歩こう』朝日出版社、2020 年

【参考書】
岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）、小テスト・期末試験（40 %）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】
さまざまな言語を学習している学生が集まるので、スペイン語特有の発音に慣れてもらうため、会話練習に力を入れたいと思います。

【その他の重要事項】
授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお薦めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline and objectives】
This course introduces the basic of Spanish to beginners.

LANs300LA

スペイン語上級Ａ

2017 年度以降入学者

大西　亮

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペインＳＡ修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語で書かれた多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。

【到達目標】
DELE(B2) 程度のレベルを目指す。
具体的な目標は二つ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は５月１２日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション （時事問題）	教員によるモデル授業。
3	講読 2 ディスカッション （スポーツ）	直説法現在形を中心とした文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション （映画）	直説法現在進行形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション （音楽）	関係代名詞を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション （食文化）	再帰代名詞を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション （時事問題）	過去完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション （ファッション）	直説法点過去形を用いた文章の読解。
9	講読 8 ディスカッション （習慣）	直説法線過去形を用いた文章の読解。

10	講読 9 ディスカッション （文学）	現在分詞を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション （テクノロジー）	時の経過を表す表現を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション （移民）	感嘆文を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション （世界遺産）	直説法未来形を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション （自由テーマ）	春学期授業のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。自分が当たっていないときでも、十分な予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他学生の発表の時の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の積極的な発言を促しながらの授業を展開します。

【Outline and objectives】
This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.
The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

LANs300LA

スペイン語上級Ｂ

2017 年度以降入学者

大西　亮

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペインＳＡ修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語による多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。

【到達目標】
DELE(B2) 程度のレベルを目指す。
具体的な目標は二つ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
当番学生は記事あるいは読み物を選び、それについて主体的に授業を進行する。つまり、解説をし、ほかの学生を当てて解答を要求する。教師はそれについてアドバイス、コメントをする。また、テーマに応じたスペイン語による発表を行う。基本的に授業はスペイン語で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション （時事問題）	教員による授業。 テーマに関するディスカッション。
3	講読 2 ディスカッション （スポーツ）	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション （映画）	直説法過去未来形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション （音楽）	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション （食文化）	分詞構文を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション （時事問題）	直説法過去未来完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション （ファッション）	感覚・使役の動詞を用いた文章の読解。
9	講読 8 ディスカッション （習慣）	接続法現在形を用いた文章の読解。

10	講読 9 ディスカッション （文学）	接続法現在完了形を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション （自由テーマ）	接続法過去形を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション （時事問題）	接続法過去完了形を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション （世界遺産）	願望文を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション （自由テーマ）	秋学期のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。自分が当たっていないときでも、十分な予習をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他学生の発表の時の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【Outline and objectives】
This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.
The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.
Conducted in Spanish.

LANs300LA
スペイン語コミュニケーション中級 A
2017 年度以降入学者

瓜谷　アウロラ

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水 3**/Wed.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行います。

【到達目標】
スペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 13 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペインの結婚式１	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペインの結婚式２	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペインの結婚式３	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペインの結婚式４	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペインの結婚式５	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペインの結婚式６	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	スペインの結婚式７	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペインの結婚式８	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	スペインの結婚式９	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	スペインの結婚式１０	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペインの結婚式１１	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

12	スペインの結婚式１２	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	スペインの結婚式１３	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	スペインの結婚式１４	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業の予習が不用です。授業で学んだモデル文章の語彙表現を覚えてくるのが毎回の自宅課題である。本授業の復習時間は、30 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント教材

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
オンライン授業性に伴ってプリントにした。

【Outline and objectives】
In this course, you will practice communicating yourself to others. Each session will consist of listening to the model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice, and translation training from Japanese to Spanish, followed by writing assignments at home.

LANs300LA
スペイン語コミュニケーション中級Ｂ
2017 年度以降入学者

瓜谷　アウロラ

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行います。

【到達目標】
スペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 13 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペインのクリスマスの祝い方１	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペインのクリスマスの祝い方２	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペインのクリスマスの祝い方３	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペインのクリスマスの祝い方４	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペインのクリスマスの祝い方５	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペインのクリスマスの祝い方６	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	スペインのクリスマスの祝い方７	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	クリスマスの祝い方８	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	スペインのクリスマスの祝い方９	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	スペインのクリスマスの祝い方１０	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペインのクリスマスの祝い方１１	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

12	スペインのクリスマスの祝い方１２	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	スペインのクリスマスの祝い方１３	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	スペインのクリスマスの祝い方１４	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業の予習が不用です。授業で学んだモデル文章の語彙表現を覚えてくるのが毎回の自宅課題である。本授業の復習時間は、30 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント教材

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
オンライン授業性によりプリントにした。

【Outline and objectives】
In this course, you will practice communicating yourself to others. Each session will consist of listening to the model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice, and translation training from Japanese to Spanish, followed by writing assignments at home.

ARSa300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**スペインの歴史**

久木　正雄

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ゼミ形式でスペイン（およびスペイン国家形成以前のイベリア半島）の歴史を学ぶ。春学期は前近代（古代〜近世）の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、文化史や宗教史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】
(1) スペイン前近代史に関する基本的な理解を得る。
(2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
(3) 上述の (1)、(2) に関する各自の考えを、プレゼンテーションとディベート、そして学期末レポートにおいて言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストの輪読と、それに基づく受講生のプレゼンテーションおよびディベートを行う。ただし、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本授業の開始日は 4 月 28 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	先史時代のイベリア半島	先史時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
3	ローマ属州ヒスパニア	ローマ属州の時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
4	西ゴート王国	ローマ支配後のスペイン（イベリア）古代史について学ぶ。
5	スペイン史と三宗教	スペイン史とキリスト教、イスラーム、ユダヤ教との関係について学ぶ。
6	アル・アンダルス	イスラーム治下のスペイン（イベリア）中世史について学ぶ。
7	カスティーリャ王国	カスティーリャ中世史について学ぶ。
8	アラゴン連合王国	アラゴン中世史について学ぶ。
9	地中海世界と大西洋世界	二つの大洋にわたるスペイン史の広がりについて学ぶ。
10	カトリック両王の時代	近世初期のスペイン史について学ぶ。
11	スペイン帝国の「繁栄」と「衰退」	16、17 世紀のスペイン史について学ぶ。

12	絶対王政と啓蒙	18 世紀のスペイン史について学ぶ。
13	スペインの世界遺産	世界遺産を題材として、スペイン史への理解を深める。
14	春学期のまとめ	スペイン（イベリア）前近代史を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、ISBN9784750344157、本体価格 2,000 円。

【参考書】
資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は教場にて適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。
J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史―スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014 年、ISBN 9784750340326、本体価格 5,800 円。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーションでスライドを使用する場合には、接続用の PC とアダプターは各自が用意すること。

【その他の重要事項】
スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline and objectives】
This course is designed to provide the students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading, presentation and discussion.

ARSa300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**スペインの歴史**

久木　正雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ゼミ形式でスペインの歴史を学ぶ。秋学期は近現代の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、思想史や法制史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】
(1) スペイン近現代史に関する基本的な理解を得る。
(2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
(3) 上述の (1)、(2) に関する各自の考えを、プレゼンテーションとディベート、そして学期末レポートにおいて言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストの輪読と、それに基づく受講生のプレゼンテーションおよびディベートを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足固めを行う。
2	旧体制の揺動	18 世紀末から 19 世紀初頭にかけてのスペイン史について学ぶ。
3	自由主義の芽生え	19 世紀前半のスペイン史について学ぶ。
4	第一共和政と王政復古体制	19 世紀後半のスペイン史について学ぶ。
5	近現代の政治思想と社会運動	政治と社会をめぐる思潮のスペインでの展開について学ぶ。
6	プリモ・デ・リベーラ独裁	20 世紀初頭のスペイン史について学ぶ。
7	第二共和政	スペイン第二共和政について学ぶ。
8	内戦	スペイン内戦について学ぶ。
9	二つの世界大戦と国際政治	20 世紀スペインの国際関係史について学ぶ。
10	フランコ体制	フランコ体制の確立と展開について学ぶ。
11	民主化への道	フランコ体制の崩壊と民主化への過程について学ぶ。
12	自治州体制	現行制度でもあるスペインの自治州体制について学ぶ。
13	スペインの憲法	歴史的諸憲法を題材として、スペイン近現代史を総括する。
14	秋学期のまとめ	歴史的理解をもとに、現在のスペインにおける諸問題を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、ISBN9784750344157、本体価格 2,000 円。

【参考書】
資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は教場にて適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。
J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史―スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014 年、ISBN 9784750340326、本体価格 5,800 円。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション： 30 %、ディベートへの参加度： 30 %、学期末レポート： 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーションでスライドを使用する場合には、接続用の PC とアダプターは各自が用意すること。

【その他の重要事項】
スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline and objectives】
This course is designed to provide the students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading, presentation and discussion.

LANs300LA

スペイン語講読 A

2017 年度以降入学者

久木　正雄

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の初級文法を習得済みの学生が、中級文法を学ぶとともにそれらの知識を活かして、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関してスペイン語で記されたテキストの講読を行う。

【到達目標】
初級文法の定着と中級文法の習得により、ある程度の分量と内容を伴ったスペイン語の文章を読めるようになる。また、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関するさまざまなテーマへの理解と関心を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教員による文法説明と背景知識の解説を交えながら、スペイン語のテキストを精読する。ただし、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認する。
2	世界のスペイン語（前半部）	テキスト第１課前半の講読を行う。
3	世界のスペイン語（後半部）	テキスト第１課後半の講読を行う。
4	スペインと日本（前半部）	テキスト第２課前半の講読を行う。
5	スペインと日本（後半部）	テキスト第２課後半の講読を行う。
6	ラテンアメリカと日本（前半部）	テキスト第３課前半の講読を行う。
7	ラテンアメリカと日本（後半部）	テキスト第３課後半の講読を行う。
8	サンティアゴの巡礼路（前半部）	テキスト第４課前半の講読を行う。
9	サンティアゴの巡礼路（後半部）	テキスト第４課後半の講読を行う。
10	メソアメリカの古代文明（前半部）	テキスト第５課前半の講読を行う。
11	メソアメリカの古代文明（後半部）	テキスト第５課後半の講読を行う。
12	フラメンコ（前半部）	テキスト第６課前半の講読を行う。
13	フラメンコ（後半部）	テキスト第６課後半の講読を行う。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
坂東省次、森直香、ダニエル・キンテロ・ガルシア『トピックスで学ぶスペイン語世界《改訂版》』白水社、2017 年、ISBN9784560099513、本体価格 1,900 円。

【参考書】
適宜、教場にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
学習事項の着実な習得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
辞書の使用を怠らないこと。

【Outline and objectives】
In this course, the students develop an understanding of elementary Spanish and obtain a knowledge of intermediate-level Spanish, through reading texts written about the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs300LA

スペイン語講読 B

2017 年度以降入学者

久木　正雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**2 単位**
2〜4 年　※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の初級文法を習得済みの学生が、中級文法を学ぶとともにそれらの知識を活かして、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関してスペイン語で記されたテキストの講読を行う。

【到達目標】
初級文法の定着と中級文法の習得により、ある程度の分量と内容を伴ったスペイン語の文章を読めるようになる。また、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関するさまざまなテーマへの理解と関心を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教員による文法説明と背景知識の解説を交えながら、スペイン語のテキストを精読する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足固めを行う。
2	タンゴ（前半部）	テキスト第 7 課前半の講読を行う。
3	タンゴ（後半部）	テキスト第 7 課後半の講読を行う。
4	スペインの食生活（前半部）	テキスト第 8 課前半の講読を行う。
5	スペインの食生活（後半部）	テキスト第 8 課後半の講読を行う。
6	闘牛（前半部）	テキスト第 9 課前半の講読を行う。
7	闘牛（後半部）	テキスト第 9 課後半の講読を行う。
8	ラテンアメリカのフォルクローレ（前半部）	テキスト第 10 課前半の講読を行う。
9	ラテンアメリカのフォルクローレ（後半部）	テキスト第 10 課後半の講読を行う。
10	「スペインは違う」から観光大国へ（前半部）	テキスト第 11 課前半の講読を行う。
11	「スペインは違う」から観光大国へ（後半部）	テキスト第 11 課後半の講読を行う。
12	スペインのサッカー（前半部）	テキスト第 12 課前半の講読を行う。
13	スペインのサッカー（後半部）	テキスト第 12 課後半の講読を行う。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
坂東省次、森直香、ダニエル・キンテロ・ガルシア『トピックスで学ぶスペイン語世界《改訂版》』白水社、2017 年、ISBN9784560099513、本体価格 1,900 円。

【参考書】
適宜、教場にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 60 %、学期末試験： 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
学習事項の着実な習得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
辞書の使用を怠らないこと。

【Outline and objectives】
In this course, the students develop an understanding of elementary Spanish and obtain a knowledge of intermediate-level Spanish, through reading texts written about the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

法政大学
HOSEI University